

博士学位論文

乳幼児を育てる親の認識・役割と  
支援環境と Quality of Life との  
関連構造

首都大学東京 都市環境科学研究科

高城 智圭

平成 26 年 3 月

博士学位論文

乳幼児を育てる親の認識・役割と  
支援環境と Quality of Life との  
関連構造

指導教授 星 旦二

首都大学東京 都市環境科学研究科

高城 智圭

平成 26 年 3 月

# 学 位 論 文 要 旨

論文題名

乳幼児を育てる親の認識・役割と支援環境と Quality of Life との関連構造

(ふりがな) たかぎ ち か  
学位申請者 高 城 智 圭

(学位論文要旨)

我が国の急速な少子高齢化に伴う社会構造の変化は、家庭や地域の子育て力を低下させたことが指摘され、さまざまな子育て支援施策が行われてきた。近年の子育て支援の特徴は 21 世紀の国民健康運動「健やか親子 21」にもみられるようにヘルスプロモーションの理念が取り入れられ、親子の Quality of Life (以下、QOL とする) の向上を目指し、個人の能力の向上とともに、そのための支援環境整備の重要性が含まれたことである。しかし、乳幼児を育てる親への支援環境と QOL との関連は明らかになっていない。先行研究では、育児ストレスや育児不安といったネガティブな視点に焦点を当てた報告が多くみられ、ここ数年は QOL に関する報告が見られるようになってきた。母親の QOL はソーシャルサポートや社会経済的要因と関連があることが明らかにされてきたが、そのほとんどが単相関であり、構造的には明らかにされていない。また、父親についての研究は国内外とも報告件数が少なく、父親の QOL を含む関連構造については報告されていない。

本研究の目的は、WHO が示した健康状態を環境との関係で捉える国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF) を研究基盤モデルとし、「乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル」を作成し、QOL の関連構造および因果構造を明らかにすることである。QOL と支援環境との関連構造が明らかになることで、QOL 向上をめざした新しい子育て支援につながる科学的エビデンスになり、優先性を考慮した健康支援活動に寄与しうることが期待できる。

本論文は、全 5 章で構成される。

第 I 章では、本研究の概念仮説モデルである「乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル」を先行研究から導出し、研究意義、研究目的、研究方法について言及した。

第Ⅱ章の「乳幼児を育てる母親のサポート認知と認識、QOLとの関連構造」では、6ヶ月から5歳までの乳幼児を育てる母親349名を対象とし、QOLとサポート認知、自己認識及び子育て認識との関連構造を明確にすることを目的とした。その結果、乳幼児を育てる母親のQOLは、サポート認知が基盤となり、自己認識や子育て認識を高めることを経由して規定される関連構造が示された。母親がサポートを受けていると認知できるような支援が重要であるとともに、母親の自己認識や子育て認識がポジティブに捉えられるようなサポートが母親のQOLを高めることに連動する可能性が示唆された。

第Ⅲ章の「乳幼児を育てる母親のSOCとサポート認知、QOLとの因果構造」では、ヘルスプロモーションの基礎理論の一つとされる健康生成論の中核概念であるSense of coherence（以下、SOCとする）とサポート認知との関連を明らかにし、さらに母親の自己認識や子育て認識とQOLとの因果構造を追跡調査により明らかにすることを目的とした。地方都市に在住する6～7ヶ月児健康診査に来所した母親269名のうち、1年後に追跡調査が実施できた112名を対象に、母親のサポート認知とSOCとの因果構造を、交差遅れ効果モデルと同時効果モデルを用いて明らかにした。その結果、SOCは1年後のSOCと有意に関連するだけでなく、1年後のSOCを経由して、1年後のサポート認知を規定することが明らかとなった。さらに、SOCとサポート認知、自己認識及び子育て認識、QOLとの関連を構造的に分析した結果、SOCが基盤となり、1年後の自己認識及び子育て認識、サポート認知を経由して、間接的にQOLを高める因果構造が示された。高いSOCは、自己認識や子育て認識をポジティブに捉え、ポジティブな認識が高まることでサポートを受けていると認知しやすくなり、QOLを高めることにつながる可能性が示唆された。

第Ⅳ章の「夫婦の関係性、父親の家事育児役割とQOLとの関連構造」では、全国の0～5歳の乳幼児を育てる父親290名、母親332名を対象とし、夫婦の関係性と父親の家事育児役割が父親自身や母親のQOLとどのような関連構造であるのかを明らかにした。その結果、父親、母親ともに、夫婦の関係性が基盤となり、夫婦の満足度を経由して間接的にQOLを高める関連構造が示され、父親の家事育児役割は、父親と母親双方のQOLとは直接関連しないことが明らかとなった。さらに、夫婦の関係性から父親の家事育児役割への標準化直接効果は、母親に就労がある群よりも就労がない群が有意に高かったことから性別役割認識の影響がある可能性が示唆された。

以上の研究結果を踏まえ、第Ⅴ章では、『乳幼児を育てる親のQOL関連構造』を提示し、新しい子育て支援の方向性について考察した。『乳幼児を育て

『親の QOL 関連構造』は、夫婦関係、サポート認知からなる支援環境と SOC が基盤となること、支援環境は親の認識・役割を経由して QOL と関連すること、さらに社会経済的要因は支援環境と親の認識・役割との関係性や、親の認識・役割と QOL との関係性に関連する構造であった。このことから、QOL 向上につながる新しい子育て支援の方向性として、以下の 3 点が提案できる。第 1 に親が自己認識や子育て認識、夫婦関係をポジティブに捉えられるような支援環境が求められること、第 2 に、個人、家族、社会環境の 3 つの視点を総合的に捉えた支援環境を整備すること、第 3 に母親の就労の状況に対応した健康支援が求められることである。

今後の研究課題として、本研究結果を他の集団でも検証して外的妥当性を確認するとともに、支援環境の整備による介入研究を行い QOL 向上の成果を実証することである。

# 目次

<b>第 I 章 序論</b> .....	1
1 研究の背景 .....	2
1-1 社会構造の変化 .....	2
1-2 子育て支援の現状と課題 .....	12
1-3 健康生成論と Sense of Coherence .....	22
1-4 Quality of Life とエンパワーメント .....	32
1-5 国際生活機能分類と子育て支援 .....	35
1-6 乳幼児を育てる親の QOL に関する先行研究 .....	37
2 研究の概念枠組み .....	44
3 本論文の目的 .....	45
4 研究の意義 .....	46
5 用語の操作的定義 .....	47
6 研究の全体像 .....	48
参考文献 (第 I 章) .....	49
<b>第 II 章 乳幼児を育てる母親のサポート認知と認識、Quality of Life との関連構造</b> .....	57
1 研究の背景 .....	58
2 研究の目的 .....	60
3 研究の方法 .....	61
3-1 調査対象 .....	61
3-2 調査の方法および時期 .....	61
3-3 調査項目 .....	61
3-4 分析方法 .....	61
3-5 倫理的配慮 .....	62
4 結果 .....	63
4-1 対象者の属性 .....	63
4-2 サポート認知得点 .....	73
4-3 母親の自己認識および子育て認識の分布 .....	78
4-4 母親の自己認識と属性との関連 .....	81
4-5 探索的因子分析の結果 .....	115
4-6 母親の QOL の関連構造分析 .....	116
4-7 多母集団同時分析の結果 .....	117
4-8 本研究のまとめ .....	128
5 考察 .....	129
5-1 母親の QOL 関連構造モデルからの示唆 .....	129
5-2 今後の課題 .....	130
参考文献 (第 II 章) .....	131

<b>第Ⅲ章 乳幼児を育てる母親の Sense of Coherence とサポート 認知、Quality of Life との因果構造</b> .....	133
1 研究の背景 .....	134
1-1 社会構造の変化 .....	134
1-2 健康生成論と SOC .....	134
1-3 社会経済的要因と子育て、SOC .....	135
1-4 本研究の意義 .....	137
2 研究の目的 .....	138
3 研究の方法 .....	139
3-1 調査対象 .....	139
3-2 調査方法 .....	139
3-3 調査時期 .....	139
3-4 調査項目 .....	139
3-5 分析方法 .....	141
3-6 倫理的配慮 .....	142
4 結果 .....	143
4-1 回収数および分析対象者数 .....	143
4-2 対象の属性 .....	143
4-3 サポート認知と SOC 得点の経年変化 .....	145
4-4 自己認識と子育て認識、QOL の経年変化 .....	157
4-5 就労の有無別にみた自己認識、子育て認識、QOL の 経年変化 .....	160
4-6 最終学歴別にみた自己認識、子育て認識、QOL の 経年変化 .....	163
4-7 世帯の収入別にみた自己認識、子育て認識、QOL の 経年変化 .....	166
4-8 自己認識と生活満足感との関連 .....	169
4-9 サポート得点、SOC 得点と生活満足感との関連 .....	181
4-10 社会経済的要因と生活満足感との関連 .....	182
4-11 SOC とサポート認知との因果構造 .....	184
4-12 SOC とサポート認知、自己認識との因果構造 .....	187
4-13 SOC とサポート認知、自己認識、QOL との因果構造 .....	196
4-14 本研究のまとめ .....	198
5 考察 .....	199
5-1 SOC とサポート認知との因果構造について .....	199
5-2 SOC とサポート認知、自己や子育て認識、QOL との 因果構造について .....	200
5-3 今後の研究課題について .....	201
参考文献（第Ⅲ章） .....	203

<b>第Ⅳ章 夫婦の関係性、父親の家事育児役割と Quality of Life との関連構造</b> .....	<b>207</b>
1 研究の背景 .....	208
2 研究の目的 .....	211
3 研究の方法 .....	212
3-1 調査対象 .....	212
3-2 調査方法と調査時期 .....	212
3-3 分析対象 .....	212
3-4 調査項目 .....	212
3-5 分析方法 .....	213
4 結果 .....	214
4-1 分析対象者の属性 .....	214
4-2 夫婦の関係性および満足度について .....	216
4-3 QOL 項目について .....	222
4-4 家事育児役割について .....	224
4-5 生活満足感と各項目との関連 .....	228
4-6 QOL 関連構造モデル .....	236
4-7 本研究のまとめ .....	249
5 考察 .....	251
5-1 父親、母親の QOL 関連構造について .....	251
5-2 今後の研究課題について .....	252
参考文献（第Ⅳ章） .....	254
<b>第Ⅴ章 研究総括</b> .....	<b>257</b>
1 本論文の構成 .....	258
2 本研究における研究目的および結論と考察 .....	259
2-1 研究目的 .....	259
2-2 結論と考察 .....	261
3 本研究結果に基づく提案 .....	265
4 今後の研究課題 .....	268
参考文献（第Ⅴ章） .....	270
<b>Abstract</b> .....	<b>271</b>
<b>謝辞</b> .....	<b>277</b>
<b>資料</b> .....	<b>279</b>



## 図目次

### 第 I 章

図 1-1	出生数及び合計特殊出生率の年次推移 .....	4
図 1-2	主な国の合計特殊出生率の推移 .....	6
図 1-3	世帯構造別、世帯種類別にみた世帯数、構成割合の 年次推移 .....	8
図 1-4	世帯構造別にみた児童のいる世帯数、構成割合の 年次推移 .....	9
図 1-5	「健やか親子 21」の概念図 .....	14
図 1-6	「健やか親子 21」の三段階の指標 .....	15
図 1-7	男女共同参画社会のイメージ図 .....	20
図 1-8	健康生成モデル .....	25
図 1-9	ICF モデル .....	36
図 1-10	本研究の概念枠組み .....	44
図 1-11	論文構成 .....	48

### 第 II 章

図 2-1	第 II 章仮説モデル .....	60
図 2-2	サポート認知と認識、QOL との関連モデル .....	116
図 2-3	子どもの年齢 2 群別多母集団同時分析結果 .....	118
図 2-4	母親の年齢 2 群別多母集団同時分析結果 .....	120
図 2-5	母親の学歴 2 群別多母集団同時分析結果 .....	122
図 2-6	世帯収入 2 群別多母集団同時分析結果 .....	124
図 2-7	就労の有無別多母集団同時分析結果 .....	126
図 2-8	第 II 章研究結果図 .....	128

### 第 III 章

図 3-1	第 III 章仮説モデル .....	138
図 3-2	SOC とサポート認知の因果構造 .....	185
図 3-3	SOC、サポート認知と自己・子育て認識との因果構造 モデル .....	188
図 3-4	年収 2 群多母集団同時分析結果 .....	190
図 3-5	学歴 2 群多母集団同時分析結果 .....	192
図 3-6	母親の年齢 2 群多母集団同時分析結果 .....	194
図 3-7	SOC と QOL 因果構造モデル .....	197
図 3-8	第 III 章結果図 .....	198

### 第 IV 章

図 4-1	第 IV 章仮説モデル .....	211
-------	-------------------	-----

図 4-2	父親の QOL 関連構造モデル .....	237
図 4-3	母親の就労の有無別多母集団同時分析結果 .....	239
図 4-4	学歴別多母集団同時分析結果 .....	242
図 4-5	収入別多母集団同時分析結果 .....	245
図 4-6	母親の QOL 関連構造モデル .....	248
図 4-7	第 IV 章結果図（父親） .....	250
図 4-8	第 IV 章結果図（母親） .....	250

## 第 V 章

図 5-1	乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル[母親] （結果） .....	263
図 5-2	乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル[父親] （結果） .....	263
図 5-3	乳幼児を育てる親の QOL 関連構造 .....	264

## 表目次

### 第 I 章

表 1-1	出生数及び合計特殊出生率の年次推移 .....	3
表 1-2	世帯構造別、世帯種類別にみた世帯数、構成割合の 年次推移 .....	8
表 1-3	世帯構造別にみた児童のいる世帯数、構成割合の 年次推移 .....	9
表 1-4	健康生成論と疾病生成論との比較 .....	23

### 第 II 章

表 2-1	子どもの属性 .....	64
表 2-2	母親の属性 .....	67
表 2-3	父親の属性 .....	70
表 2-4	居住の状況 .....	71
表 2-5	同居者の状況 .....	72
表 2-6	サポート平均得点 .....	73
表 2-7	パートナーのサポート得点 .....	75
表 2-8	親族のサポート得点 .....	76
表 2-9	近隣や友人のサポート得点 .....	77
表 2-10	母親の自己認識に関する項目の分布 .....	78
表 2-11	母親の子育て認識に関する項目の分布 .....	79
表 2-12	母親の生活満足感、主観的健康感に関する項目の 分布 .....	80
表 2-13	母親の自己認識と子どもの年齢 .....	82
表 2-14	母親の自己認識と子どもの順位 .....	83
表 2-15	母親の自己認識と母親の年齢 .....	87
表 2-16	母親の自己認識と母親の就労の有無 .....	88
表 2-17	母親の自己認識と母親の最終学歴 .....	89
表 2-18	母親の自己認識と世帯の年間収入 .....	90
表 2-19	母親の自己認識とサービス利用 .....	91
表 2-20	母親の自己認識と家庭訪問の利用 .....	92
表 2-21	母親の自己認識とつどいの広場利用 .....	93
表 2-22	母親の自己認識と子育てサークルの利用 .....	94
表 2-23	母親の自己認識と父親の年齢 .....	97
表 2-24	母親の自己認識と父親の帰宅時間 A .....	98
表 2-25	母親の自己認識と父親の帰宅時間 B .....	99
表 2-26	母親の自己認識と父親の不規則勤務の有無 .....	100
表 2-27	母親の自己認識と父親の休日数 .....	101

表 2-28	母親の自己認識と居住年数 .....	103
表 2-29	母親の自己認識と居住形態 .....	104
表 2-30	母親の自己認識と父方祖父母同居の有無 .....	106
表 2-31	母親の自己認識と母方祖父母同居の有無 .....	107
表 2-32	母親の自己認識と総サポート得点 .....	111
表 2-33	母親の自己認識とパートナーのサポート得点 .....	112
表 2-34	母親の自己認識と親族のサポート得点 .....	113
表 2-35	母親の自己認識と近隣や友人のサポート得点 .....	114
表 2-36	探索的因子分析結果 .....	115
表 2-37	標準化直接・間接・総合効果 (子どもの年齢別モデル) .....	119
表 2-38	標準化直接・間接・総合効果 (母親の年齢別モデル) .....	121
表 2-39	標準化直接・間接・総合効果 (母親の学歴別モデル) .....	123
表 2-40	標準化直接・間接・総合効果 (世帯収入別モデル) .....	125
表 2-41	標準化直接・間接・総合効果 (就労の有無別モデル) .....	127

### 第 III 章

表 3-1	サポート認知得点質問項目 .....	140
表 3-2	SOC 尺度(短縮版) .....	141
表 3-3	対象の属性 .....	144
表 3-4	サポート認知得点の分布 (パートナー) .....	145
表 3-5	サポート認知得点の分布 (親族) .....	146
表 3-6	サポート認知得点の分布 (近隣や友人) .....	147
表 3-7	サポート認知得点の経年変化 .....	148
表 3-8	サポート認知得点項目別の経年変化 (パートナー) ..	149
表 3-9	サポート認知得点項目別の経年変化 (親族) .....	150
表 3-10	サポート認知得点項目別の経年変化 (近隣や友人) .	151
表 3-11	SOC 尺度項目の分布 .....	152
表 3-12	SOC 得点の経年変化 .....	153
表 3-13	SOC 得点の経年変化 (comprehensibility) .....	154
表 3-14	SOC 得点の経年変化 (manageability) .....	155
表 3-15	SOC 得点の経年変化 (meaningfulness) .....	156
表 3-16	自己認識の経年変化 .....	157
表 3-17	子育て認識の経年変化 .....	158
表 3-18	生活満足感、主観的健康感の経年変化 .....	159

表 3-19	就労の有無別にみた自己認識の経年変化 .....	160
表 3-20	就労の有無別にみた子育て認識の経年変化 .....	161
表 3-21	就労の有無別にみた QOL の経年変化 .....	162
表 3-22	最終学歴別にみた自己認識の経年変化 .....	163
表 3-23	最終学歴別にみた子育て認識の経年変化 .....	164
表 3-24	最終学歴別にみた QOL の経年変化 .....	165
表 3-25	世帯収入別にみた自己認識の経年変化 .....	166
表 3-26	世帯収入別にみた子育て認識の経年変化 .....	167
表 3-27	世帯収入別にみた QOL の経年変化 .....	168
表 3-28	2010 年自己認識と 2010 年生活満足感との関連 .....	170
表 3-29	2010 年子育て認識と 2010 年生活満足感との関連 ...	171
表 3-30	2010 年 QOL と 2010 年生活満足感との関連 .....	172
表 3-31	2010 年自己認識と 2011 年生活満足感との関連 .....	174
表 3-32	2010 年子育て認識と 2011 年生活満足感との関連 ...	175
表 3-33	2010 年 QOL と 2011 年生活満足感との関連 .....	176
表 3-34	2011 年自己認識と 2011 年生活満足感との関連 .....	178
表 3-35	2011 年子育て認識と 2011 年生活満足感との関連 ...	179
表 3-36	2011 年 QOL と 2011 年生活満足感との関連 .....	180
表 3-37	サポート得点、SOC 得点と生活満足感との関連 .....	181
表 3-38	2010 年社会経済的要因と 2010 年生活満足感との 関連 .....	183
表 3-39	2010 年社会経済的要因と 2011 年生活満足感との 関連 .....	183
表 3-40	2011 年社会経済的要因と 2011 年生活満足感との 関連 .....	183
表 3-41	交差遅れ効果・同時効果モデルの標準化推定値 .....	186
表 3-42	探索的因子分析結果 .....	187
表 3-43	標準化直接・間接・総合効果（年収別モデル） .....	191
表 3-44	標準化直接・間接・総合効果（学歴別モデル） .....	193
表 3-45	標準化直接・間接・総合効果（母親の年齢別モデル） .....	195

#### 第 IV 章

表 4-1	調査項目 .....	213
表 4-2	父親の属性 .....	214
表 4-3	母親の属性 .....	215
表 4-4	配偶者との会話時間（父親） .....	216
表 4-5	夫婦の関係性（父親） .....	217
表 4-6	夫婦の満足度（父親） .....	218

表 4-7	配偶者との会話時間（母親）	219
表 4-8	夫婦の関係性（母親）	220
表 4-9	夫婦の満足度（母親）	221
表 4-10	QOL 項目得点分布（父親）	222
表 4-11	QOL 項目得点分布（母親）	223
表 4-12	家事育児役割を担う頻度	225
表 4-13	母親からみた父親が家事育児役割を担う頻度	227
表 4-14	生活満足感と夫婦の関係性、満足度、会話量との 関連（父親）	229
表 4-15	生活満足感と家事育児役割、QOL との関連（父親）	230
表 4-16	生活満足感と社会経済的要因との関連（父親）	231
表 4-17	生活満足感と夫婦の関係性、満足度、会話量との 関連（母親）	233
表 4-18	生活満足感と父親の家事育児役割、QOL との関連 （母親）	234
表 4-19	生活満足感と社会経済的要因との関連（母親）	235
表 4-20	探索的因子分析結果	236
表 4-21	標準化直接・間接・総合効果	240
表 4-22	標準化直接・間接・総合効果（学歴モデル）	243
表 4-23	標準化直接・間接・総合効果（収入モデル）	246

# 第 I 章 序論

---

研究背景・研究意義・研究目的

1 研究の背景

1-1 社会構造の変化

少子化、核家族の増加などの社会構造の変化が子育て家族に与える影響について、諸外国の推移とその背景と合わせて述べる。

1-1-1 我が国における少子化の推移（表 1-1、図 1-1）

少子化をみる指標として、出生数と合計特殊出生率がある。2011年のわが国の年間出生数は105万806人と前年の107万1,304人より減少した。出生数の推移をみると、1947年から1949年の第1次ベビーブーム期には約270万人、1971年から1974年までの第2次ベビーブーム期には約200万人であったが、それ以降毎年減少し続けた。1984年には150万人を割り込み、1991年以降は増加と減少を繰り返しながらも緩やかな減少傾向となっている<sup>1)</sup>。

合計特殊出生率は、第1次ベビーブーム期には4.3を超えていたが、1950年以降急激に低下し、第2次ベビーブーム期を含めて2.1台で推移していた。しかし1989年、それまで最低であった1966年のひのえうまの年の数値を下回る1.57、2003年には当時最低数値の1.29となり、2005年には1.26までさらに低下した。その後は微増傾向で、2011年には1.39となっている<sup>1)</sup>。



第 I 章 序論

表 1-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移

年次 <sup>1)</sup>			出生数	出生率 (人口千対)	合計特殊 <sup>2)</sup> 出生率	年次 <sup>1)</sup>			出生数	出生率 (人口千対)	合計特殊 <sup>2)</sup> 出生率
1947	昭和	22	2 678 792	34.3	4.54	1989	平成	元	1 246 802	10.2	1.57
1948		23	2 681 624	33.5	4.40	1990		2	1 221 585	10.0	1.54
1949		24	2 696 638	33.0	4.32	1991		3	1 223 245	9.9	1.53
1950		25	2 337 507	28.1	3.65	1992		4	1 208 989	9.8	1.50
1951		26	2 137 689	25.3	3.26	1993		5	1 188 282	9.6	1.46
1952		27	2 005 162	23.4	2.98	1994		6	1 238 328	10.0	1.50
1953		28	1 868 040	21.5	2.69	1995		7	1 187 064	9.6	1.42
1954		29	1 769 580	20.0	2.48	1996		8	1 206 555	9.7	1.43
1955		30	1 730 692	19.4	2.37	1997		9	1 191 665	9.5	1.39
1956		31	1 665 278	18.4	2.22	1998		10	1 203 147	9.6	1.38
1957		32	1 566 713	17.2	2.04	1999		11	1 177 669	9.4	1.34
1958		33	1 653 469	18.0	2.11	2000		12	1 190 547	9.5	1.36
1959		34	1 626 088	17.5	2.04	2001		13	1 170 662	9.3	1.33
1960		35	1 606 041	17.2	2.00	2002		14	1 153 855	9.2	1.32
1961		36	1 589 372	16.9	1.96	2003		15	1 123 610	8.9	1.29
1962		37	1 618 616	17.0	1.98	2004		16	1 110 721	8.8	1.29
1963		38	1 659 521	17.3	2.00	2005		17	1 062 530	8.4	1.26
1964		39	1 716 761	17.7	2.05	2006		18	1 092 674	8.7	1.32
1965		40	1 823 697	18.6	2.14	2007		19	1 089 818	8.6	1.34
1966		41	1 360 974	13.7	1.58	2008		20	1 091 156	8.7	1.37
1967		42	1 935 647	19.4	2.23	2009		21	1 070 035	8.5	1.37
1968		43	1 871 839	18.6	2.13	2010		22	1 071 304	8.5	1.39
1969		44	1 889 815	18.5	2.13	2011		23	1 050 806	8.3	1.39
1970		45	1 934 239	18.8	2.13	2012		24	1 033 000	8.2	...
1971		46	2 000 973	19.2	2.16						
1972		47	2 038 682	19.3	2.14						
1973		48	2 091 983	19.4	2.14						
1974		49	2 029 989	18.6	2.05						
1975		50	1 901 440	17.1	1.91						
1976		51	1 832 617	16.3	1.85						
1977		52	1 755 100	15.5	1.80						
1978		53	1 708 643	14.9	1.79						
1979		54	1 642 580	14.2	1.77						
1980		55	1 576 889	13.6	1.75						
1981		56	1 529 455	13.0	1.74						
1982		57	1 515 392	12.8	1.77						
1983		58	1 508 687	12.7	1.80						
1984		59	1 489 780	12.5	1.81						
1985		60	1 431 577	11.9	1.76						
1986		61	1 382 946	11.4	1.72						
1987		62	1 346 658	11.1	1.69						
1988		63	1 314 006	10.8	1.66						

注： 1) 昭和47年以前は沖縄県を含まない。平成23年までは確定値、  
 2) 合計特殊出生率（期間合計特殊出生率）とは、その年次の15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1人の女性が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

（出典：厚生労働省「人口動態統計」）

# 第 I 章 序論

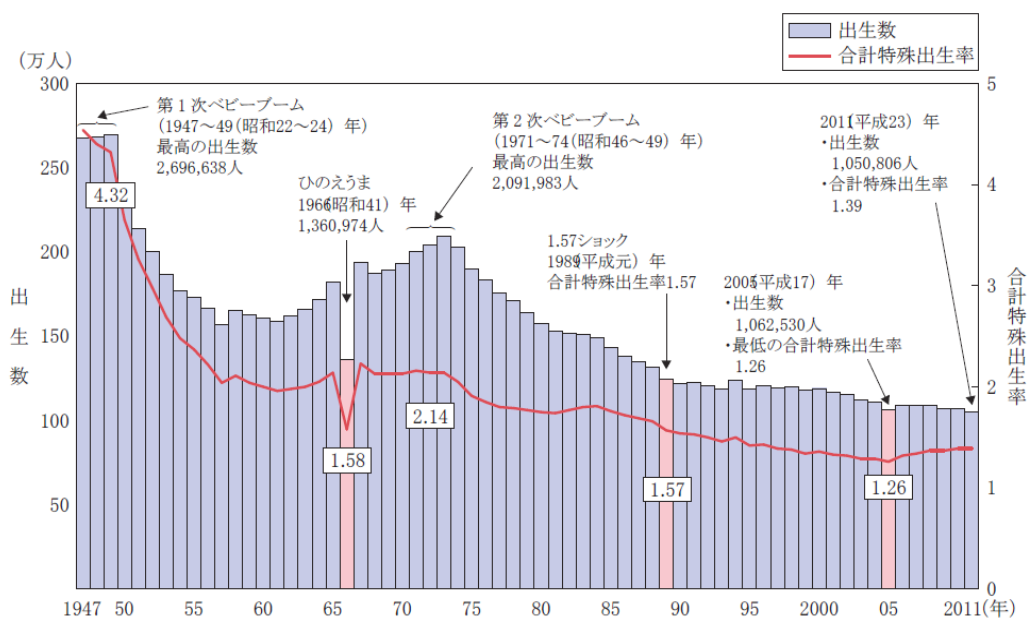


図 1-1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移

(出典：厚生労働省「人口動態統計」)

1-1-2 諸外国における少子化の推移（図 1-2）

アメリカ、フランス、スウェーデン、イギリス、イタリア、ドイツの合計特殊出生率の推移をみると、1960年代まではすべての国で2.0以上の高水準であったが、その後1970年から1980年頃にかけて低下傾向となった。しかし、1990年頃からは合計特殊出生率の動きは国によって特有の動きをみせ、ここ数年では回復する国もみられるようになってきている。特に、フランスやスウェーデンでは、合計特殊出生率が1.6台まで低下した後、回復傾向となり、2011年にはフランスは2.1、スウェーデンは1.9となっている<sup>2)</sup>。これらの国の家族政策の特徴は、フランスでは、かつては家族手当等の経済的支援が中心であったが、1990年以降、保育の充実へシフトし、その後さらに出産・子育てと就労に関して幅広い選択ができるような環境整備、すなわち「両立支援」を強める方向で政策がすすめられている。スウェーデンでは、経済的支援と合わせ、保育や育児休業制度といった「両立支援」の施策が進められてきた。

フランス、スウェーデンから、経済的支援だけでなく、働きながら子育てを希望する親にとっての子育てしやすい環境整備が、少子化対策に有効であることが推察される。また、子育てしやすい環境整備とは少子化対策だけでなく、父親や母親の望む生活環境とも言い換えられ、生活満足感や充実感という Quality of Life の向上につながると考えられる。

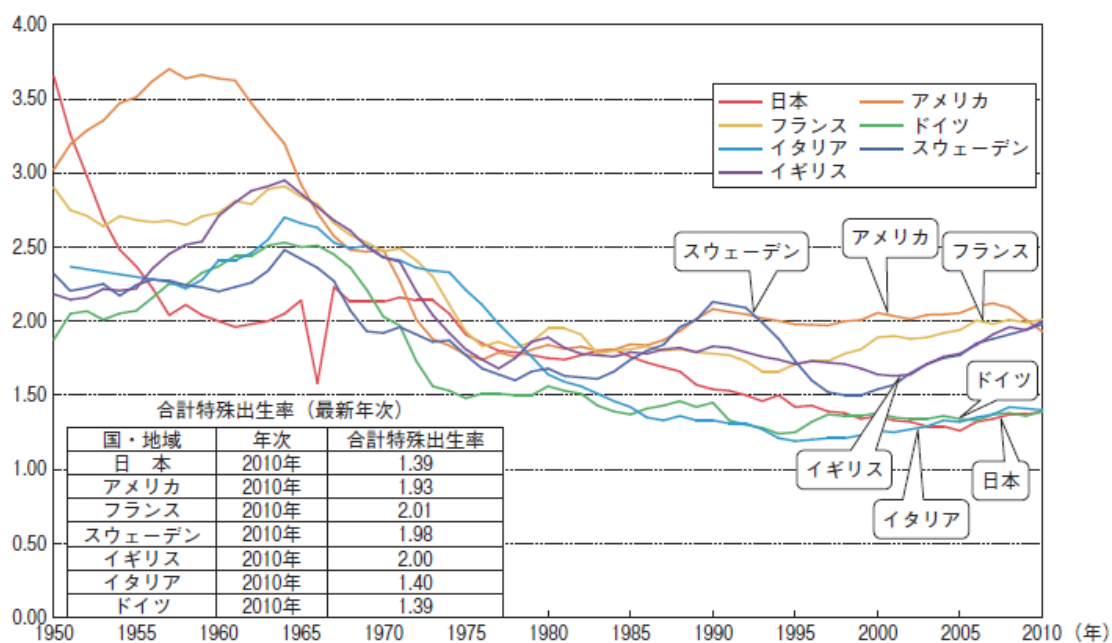


図 1-2 主な国の合計特殊出生率の推移

(出典：子ども子育て白書平成 25 年版)

1-1-3 世帯構成の変化（表 1-2、1-3、図 1-3、1-4）

世帯構成の変化も子育て家族を取り巻く変化をもたらした。三世代世帯は昭和 61 年と平成 24 年を比較すると、15.3%から約半数の 7.6%へと減少した。その一方で単独世帯や夫婦のみ、夫婦と子のみ世帯といった核家族は、79.1%から 85.4%へと増加した。また、児童のいる世帯も昭和 61 年と平成 24 年と比較すると、46.2%から 24.9%へと大幅に減少した。さらに児童のいる世帯のうち、三世代世帯は 18.0%であり、減少傾向である<sup>3)</sup>。

核家族の増加、児童のいる世帯数の減少、三世代世帯の減少は、乳幼児を育てる親にかかる育児負担が増大するだけでなく、周囲に気軽に相談できる存在の少なさを表していると言え、親の精神的健康度を維持させることの困難さがうかがえる。

第 I 章 序論

表 1-2 世帯構造別、世帯種類別にみた世帯数、構成割合の年次推移

年次	総数	世帯構造					
		単独世帯	夫婦のみ の世帯	夫婦と未婚 の子のみの 世帯	ひとり親と 未婚の子 のみの世帯	三世 世帯	その 他の 世帯
推 計 数 (単位:千世帯)							
昭和61年	37 544	6 826	5 401	15 525	1 908	5 757	2 127
平成元年	39 417	7 866	6 322	15 478	1 985	5 599	2 166
4	41 210	8 974	7 071	15 247	1 998	5 390	2 529
7	40 770	9 213	7 488	14 398	2 112	5 082	2 478
10	44 496	10 627	8 781	14 951	2 364	5 125	2 648
13	45 664	11 017	9 403	14 872	2 618	4 844	2 909
16	46 323	10 817	10 161	15 125	2 774	4 512	2 934
19	48 023	11 983	10 636	15 015	3 006	4 045	3 337
22	48 638	12 386	10 994	14 922	3 180	3 835	3 320
23	46 684	11 787	10 575	14 443	3 263	3 436	3 180
24	48 170	12 160	10 977	14 668	3 348	3 648	3 370
構 成 割 合 (単位:%)							
昭和61年	100.0	18.2	14.4	41.4	5.1	15.3	5.7
平成元年	100.0	20.0	16.0	39.3	5.0	14.2	5.5
4	100.0	21.8	17.2	37.0	4.8	13.1	6.1
7	100.0	22.6	18.4	35.3	5.2	12.5	6.1
10	100.0	23.9	19.7	33.6	5.3	11.5	6.0
13	100.0	24.1	20.6	32.6	5.7	10.6	6.4
16	100.0	23.4	21.9	32.7	6.0	9.7	6.3
19	100.0	25.0	22.1	31.3	6.3	8.4	6.9
22	100.0	25.5	22.6	30.7	6.5	7.9	6.8
23	100.0	25.2	22.7	30.9	7.0	7.4	6.8
24	100.0	25.2	22.8	30.5	6.9	7.6	7.0

注：1)平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。  
 2)平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。  
 3)平成24年の数値は、福島県を除いたものである。

(出典：平成24年国民生活基礎調査)

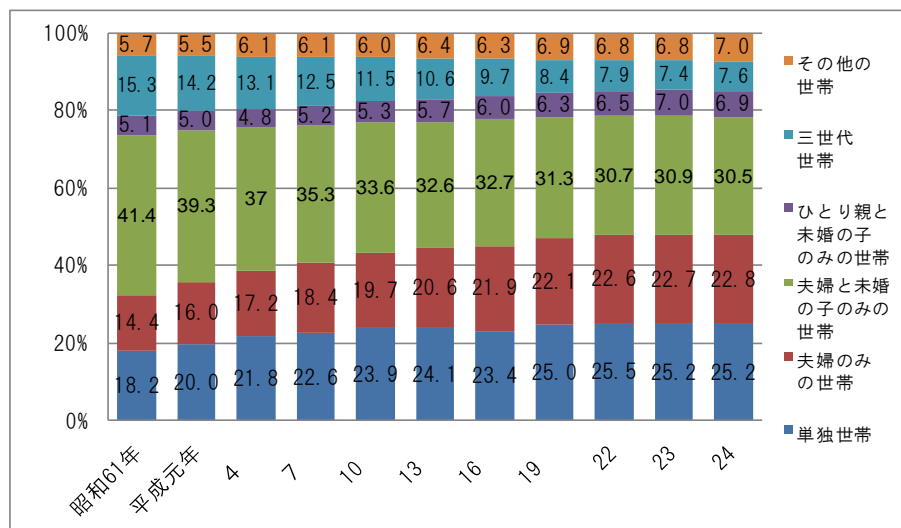


図 1-3 世帯構造別、世帯種類別にみた世帯数、構成割合の年次推移

(出典：平成24年国民生活基礎調査結果より作図)

第I章 序論

表 1-3 世帯構造別にみた児童のいる世帯数、構成割合の年次推移

年次	児童のいる世帯	全世帯に占める割合 (%)	推計数 (単位：千世帯)			三世代世帯	その他の世帯	
			核家族世帯	夫婦と未婚の子のみの世帯	ひとり親と未婚の子のみの世帯			
昭和61年	17 364	(46.2)	12 080	11 359	722	4 688	596	
平成元年	16 426	(41.7)	11 419	10 742	677	4 415	592	
4	15 009	(36.4)	10 371	9 800	571	4 087	551	
7	13 586	(33.3)	9 419	8 840	580	3 658	509	
10	13 453	(30.2)	9 420	8 820	600	3 548	485	
13	13 156	(28.8)	9 368	8 701	667	3 255	534	
16	12 916	(27.9)	9 589	8 851	738	2 902	425	
19	12 499	(26.0)	9 489	8 645	844	2 498	511	
22	12 324	(25.3)	9 483	8 669	813	2 320	521	
23	11 801	(25.3)	9 330	8 459	872	2 032	439	
24	12 003	(24.9)	9 430	8 632	798	2 156	418	
			構成割合 (単位：%)					
昭和61年	100.0	・	69.6	65.4	4.2	27.0	3.4	
平成元年	100.0	・	69.5	65.4	4.1	26.9	3.6	
4	100.0	・	69.1	65.3	3.8	27.2	3.7	
7	100.0	・	69.3	65.1	4.3	26.9	3.8	
10	100.0	・	70.0	65.6	4.5	26.4	3.6	
13	100.0	・	71.2	66.1	5.1	24.7	4.1	
16	100.0	・	74.2	68.5	5.7	22.5	2.6	
19	100.0	・	75.9	69.2	6.8	20.0	4.1	
22	100.0	・	76.9	70.3	6.6	18.8	4.2	
23	100.0	・	79.1	71.7	7.4	17.2	3.7	
24	100.0	・	78.6	71.9	6.6	18.0	3.5	

注：1)平成7年の数値は、兵庫県を除いたものである。  
 2)平成23年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。  
 3)平成24年の数値は、福島県を除いたものである。

(出典：平成24年国民生活基礎調査)

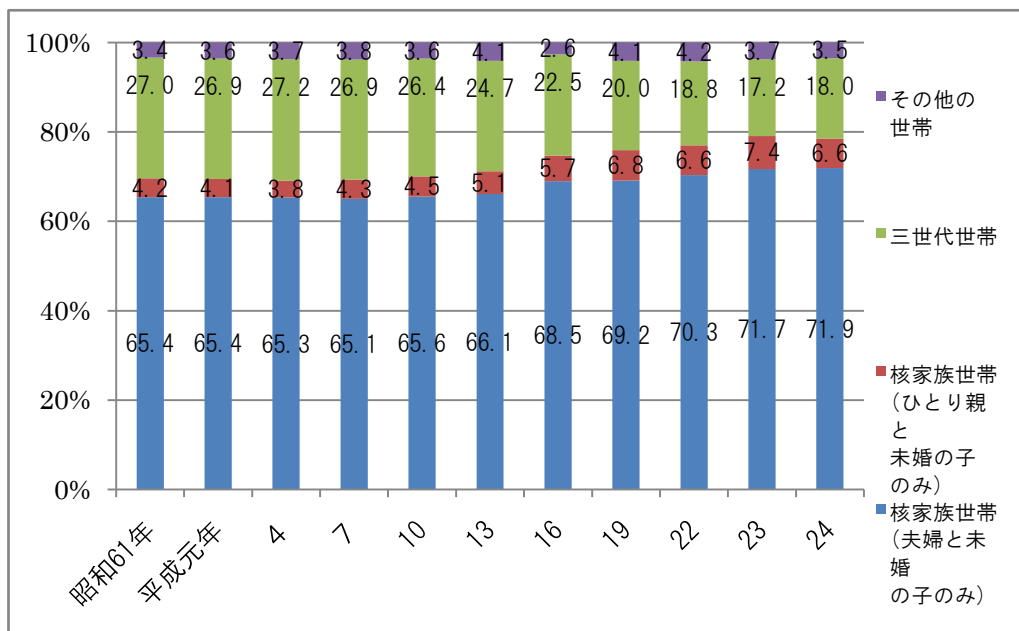


図 1-4 世帯構造別にみた児童のいる世帯数、構成割合の年次推移

(出典：平成24年国民生活基礎調査結果より作成)

1-1-4 社会構造の変化がもたらす影響

前述したように、近年の子育て家族を取り巻く社会環境は、少子化、核家族の増加、さらに都市化による近隣の人間関係の希薄化にも影響を受け、社会環境などにより大きく変わってきている。このような子育て家族を取り巻く社会環境の変化は、親の孤立や、親が子育ての中で生じる問題に対応できずに子育て不安や子育てのしづらさを増大させ、そのことが子どもの虐待を生じる一因となっているとされる<sup>4)</sup>。また、家族形態の変化による核家族の増加は、家庭内における子育ての継承を難しくし、家庭における子育て機能の低下を生じさせているだけでなく、母親自身が自分の判断や育児行動について不安を感じやすいこと、さらに不安を感じた際「大丈夫」の一言が得にくく、自信をなくしたり、ストレスをため込みやすくなる。また、父親も同様に相談相手の不在や育児技術や知識の習得の機会が得られずにストレスを感じていることも明らかになっている<sup>5)</sup>。さらに都市化に伴う近隣の人間関係の希薄化は、地域における子育て機能の低下につながっていることが指摘されてきた。

そのため、子育てサービスは育児不安やストレスの軽減に焦点をあてて行われ、母親への物理的・経済的支援の充実を中心に展開されてきたが、従来の育児不安やストレスに焦点を当てた疾病生成論的な視点の方策は十分とはいえないことは、育児不安や負担感、葛藤を持つ母親が減少していないという報告<sup>6~9)</sup>によって推定される。その一方で、子育てには否定的感情だけでなく、肯定的感情も存在することが報告されている。そこで、視点の転換、すなわち肯定的感情に焦点をあてた健康生成論的な視点で子育て支援を捉えることも求められていると考えられる。「育児ストレスはなぜ生じるのか」ではなく、「子育ての生活はなぜ充実感があるのか」「充実感の要因は何か」を明らかにすることが新しい子育て支援の一つになると考えられる。しかし、子育てをしている親の充実感などの肯定的感情の関連要因は必ずしも明確にはなっているわけではない。その関連要因が明らかになることは、新しい子育て支援の科学的エビデンスにつながると期待できる。

さらに、母親とともに育児を担うはずの父親については、母親の育児不安やストレスの背景要因としてのみ扱われ、父親が子育て支援施策の対象として取り上げられることはほとんどなかったといっても過言ではない。少子化、核家族化が進む現代において、父親が



家庭や地域で担う役割は大きいことは言うまでもない。父親を対象とした支援を促進させることが求められていると言えよう。

## 1-2 子育て支援の現状と課題

近年、さまざまな子育て支援サービスが行われるようになってきているが、その子育て支援に取り入れられるようになった理念が、ヘルスプロモーションである。ここでは、まずヘルスプロモーションとは何かについて述べ、ヘルスプロモーションの理念が子育て支援施策にどのように取り入れられているのか、現状と課題について述べる。さらに、男女共同参画において、子育て支援がどのように位置づけられているのかについて述べる。

### 1-2-1 ヘルスプロモーションの理念

ヘルスプロモーションとは、WHOが1986年オタワ憲章にて提唱したもので、「人々が自分たち自身の健康と健康決定要因をコントロールできるようにするプロセス(『健康決定要因』は2005年バンコク憲章にて追加された)」とされる<sup>10)</sup>。専門家主導ではなく、一人一人の住民が主体的に健康をコントロールすることを目指すものである。住民自身が本来持っている力を引き出しコントロールできるようになるプロセス、すなわちエンパワメントはヘルスプロモーションにおいて重要な理論の一つである。さらに、ヘルスプロモーションの活動は、①健康的な公共政策づくり、②健康を支援する環境づくり、③健康づくりのための個人技術の開発、④地域活動の強化、⑤ヘルスサービスの方向転換の5つの柱からなる。このようにヘルスプロモーションでは、個人の力量だけでなく、健康を支援する環境づくりの重要性が強調されている。そして、子育て支援におけるヘルスプロモーションとは、子育てで遭遇する種々の健康問題に対処しながら親子のQuality of Life(QOL)を高めることを意味し、親子のエンパワメントを支援するものである<sup>11)</sup>。

しかし支援環境の重要性が強調されながら、科学的根拠に基づく支援環境の具体的な内容は必ずしも明確にはなっていない。親子のQOLの向上、そしてエンパワメントにつながるような環境とその関連する要因を明らかにし、よりよい支援の在り方を探るためのエビデンスを構築する必要がある。

## 1-2-2 健やか親子 21 について 4)

2000年、母子保健の国民運動計画である「健やか親子 21」が策定された。我が国の母子保健は、乳児死亡や周産期死亡、妊産婦死亡の指標は世界最高水準を維持できるようになった一方で、思春期における健康問題や親子の心の問題など新たな課題も生じさせ、これらの課題について、21世紀の母子保健の取り組みの方向性と目標や指標を示したものが「健やか親子 21」であり、関係機関・団体が一体となって取り組む国民運動である（図 1-5）。①思春期の保健対策の強化と健康教育の推進、②妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援、③小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備、④子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減の4つの主要課題と61の指標からなる。

健やか親子 21の基本理念は、WHOのヘルスプロモーションにおかれ、ヘルスプロモーションの基本理念に基づいて、健やか親子 21にもQuality of Life(QOL)の視点の重要性が盛り込まれた。その指標には①保健水準の指標－QOLを含む住民の保健水準を示すもの、②住民自らの行動の指標－住民一人ひとりが取り組むべき事項をしめすもの、③行政・関係団体等の取り組みの指標－事業の実施、サービスの提供、施設・設備の整備等、資源・環境の整備に対して行政や関係機関・団体が寄与しうる取り組みの三段階に分けて策定されている（図 1-6）。これら三段階の指標は相互に関連している。目標とする「保健水準やQOLの向上」は「住民の行動」によってもたらされ、その住民の行動を支援する「環境整備」が基盤にあるという目標達成への段階を指標に反映させている。

例えば、課題④「子どもの心の健やかな発達の促進と育児不安の軽減」においては、保健水準の指標として、虐待による死亡数の減少、子育てに自信がもてない母親の割合の減少、子どもを虐待していると思う親の割合の減少が挙げられ、住民の行動の指標として、育児について相談相手がいる母親の割合の増加、育児に参加する父親の割合の増加、子どもと一緒に遊ぶ父親の増加が挙げられる。また行政や関係機関等の取組の指標として、乳幼児の健康診査に満足している者の割合の増加、育児支援に重点をおいた乳幼児健康診査を行っている自治体の割合の増加が挙げられ、それらが相互に関連し、保健水準やQOLの向上をめざすとされる。

しかし、最終目標とするQOLを規定する関連構造は明らかにな

されていない。さらに具体的な指標として前述の「虐待による死亡数の減少」や「10代の自殺率の減少」、「10代の人工妊娠中絶実施率の減少」、「親子の心の問題に対応できる技術をもった小児科医の割合の増加」などの母子保健水準のみに言及しており、いずれもQOLを評価しているものとは言い難い。QOLの関連要因を明らかにすることで、住民の行動や環境整備を推進する具体的内容を検討することにつながると考えられる。

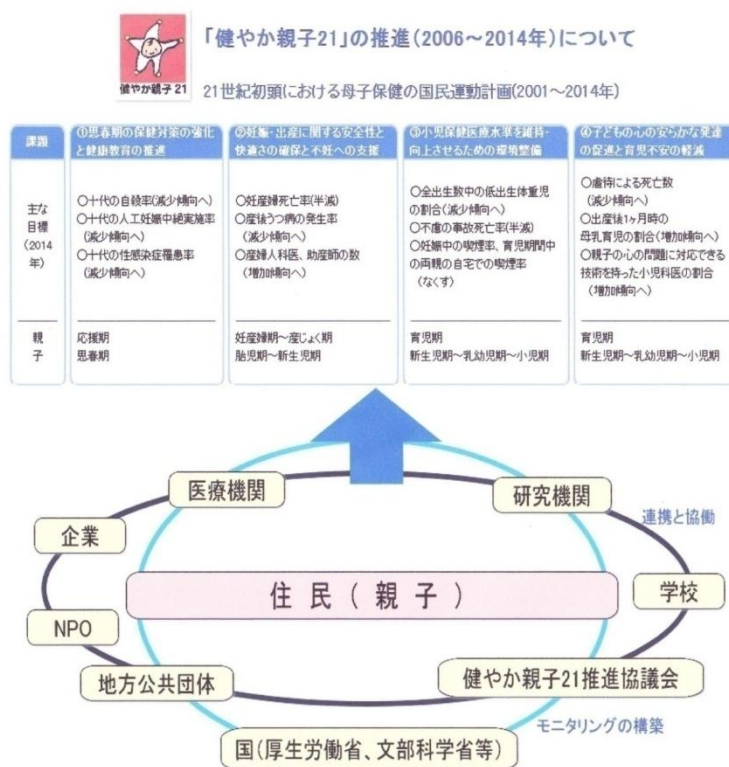


図 1-5 「健やか親子 21」の概念図  
(出典：厚生労働省「健やか親子 21」)

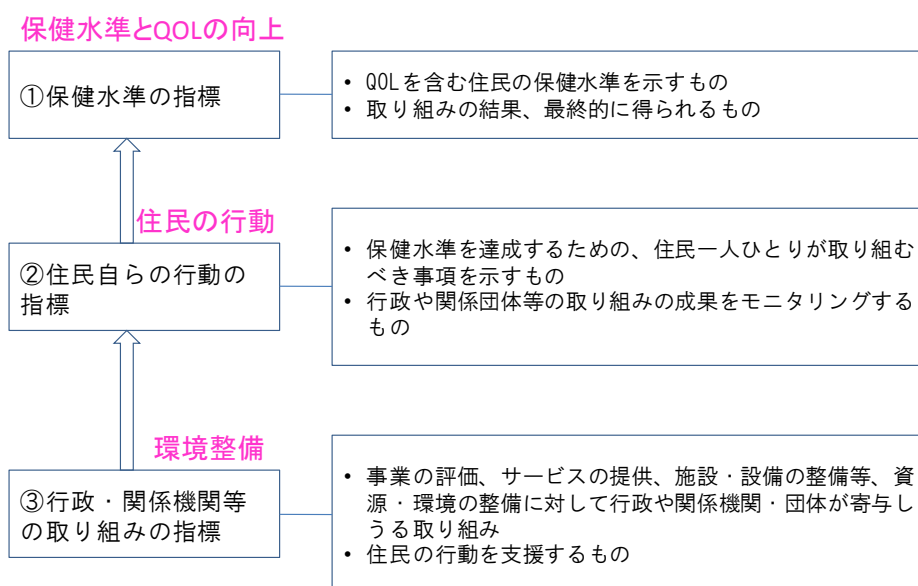


図 1-6 「健やか親子 21」の三段階の指標

(出典：厚生労働省「健やか親子 21」より作図)

1-2-3 子ども・子育てビジョンについて<sup>12)</sup>

「子ども・子育てビジョン」は、これまでの少子化対策から「子ども・子育て支援」へと視点を移し、社会全体で子育てを支えるとともに、「生活と仕事と子育ての調和」を目指しながら、子どもと子育てを全力で応援することを目的としている。「社会全体で子育てを支える」、「『希望』がかなえられる」の二つを基本的な考え方とし、目指すべき社会への政策として①子どもの育ちを支え、若者が安心して成長できる社会へ、②妊娠、出産、子育ての希望が実現できる社会へ、③多様なネットワークで子育て力のある地域社会へ、④男性も女性も仕事と生活が調和する社会へ、の 4 本柱を掲げている。これらの評価指標は、潜在的な保育ニーズに対応した保育所待機児童の解消を目指した「保育サービスの増加(2009 年度 24%→2014 年度 35%へ)」「病児・病後児保育の増加(同 31 万日→200 万日へ)」、地域の子育て力の向上を目指した「地域子育て支援拠点の増加(同 7,100 カ所→10,000 カ所へ)」、安心できる妊娠と出産を目指した「NICU 病床数の増加(2008 年度 21.2 床→2014 年度 25~30 床(出生 1 万人当たり)へ)」、子育てしやすい働き方と企業の取り組みを目指した「第 1 子出産前後の女性の継続就業率の増加(2005 年度 38.0%→2017 年度 55%へ)」など、施設数や保健水準、労働面での改善が数値目標として示されている。

しかし、例えば地域の子育て力の向上を目指し「地域子育て支援拠点の増加」の数値目標が挙げられているが、これらが達成されたとし、家庭や地域の子育て力につながっているのであろうか。ハード面の整備のみで評価するのではなく、利用する母親や担当者の満足度などソフト面での評価も含めることで、より地域や家庭の子育て力の向上につながることを期待されると考えられる。

1-2-4 乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)について(児童福祉法)<sup>13)</sup>

生後4ヶ月までの乳児家庭全戸訪問事業は2007年4月から実施されている。これは、生後4ヶ月までの乳児のいる全ての家庭を訪問し、さまざまな不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供等を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境等の把握や助言を行い、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供につなげる。このようにして、乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ最初の機会とすることにより、乳児家庭の孤立化を防ぎ、乳児の健全な育成環境の確保を図ることを目的としている。従来、新生児訪問は、母子保健法第11条に定められ、希望者や子育て困難家庭に対し、保健師や助産師によって行われていた。しかしその支援は、地域の住民を巻き込んだ子育て支援にはつながりにくい現状であり、そのため、保健師や助産師が直接支援していない時の支援に隙間があることが指摘され、隙間のない継続支援のためには、住民の力を活用することが不可欠となったのである。身近なところに相談相手がいることを目指しているため、乳児家庭全戸訪問の訪問スタッフは、愛育班員、母子保健推進員、児童委員、子育て経験者等とされ、乳児家庭を見守ることができる距離に住むスタッフが求められている。そしてそうすることで、地域の子育て力の向上も狙いとされている。

2010年度の実施率は全国約90%であり、2008年度の58.2%から上昇し、その名称は定着してきたと言えよう。しかし、その内容が当初の目的達成につながっているのか、評価が必要である。さらに、実施率は都道府県、市町村により差がみられ、スタッフの養成の困難さや従来の子生児訪問とのすみ分けを検討する中での混乱、さらに財源不足などから浸透しにくい傾向にある<sup>14)</sup>。今後は、本事業の実施率の増加だけでなく、母親の満足度や子育てに対する思いの変化、地域のつながりができてきたか、などから有効性を示すことが必要である。

1-2-5 地域子育て支援拠点事業(つどいの広場)について<sup>15)</sup>

保育所等において育児不安について専門的な相談ができる地域子育て支援センター事業や子育て親子が気軽につどい、交流ができるつどいの広場事業を子育て支援の拠点と位置づけ、推進されてきた。2007年度からこれらの事業とともに、児童館の活用も図り、新たに地域子育て支援拠点事業として再編された。本事業の目的は、子育て中の親子が気軽につどい、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場を提供することとし、その基本となる考え方は、『地域で子育てを支える』こととされる。事業内容は、①交流の場の提供・交流促進、②子育てに関する相談・援助、③地域の子育て関連情報提供、④子育て・子育て支援に関する講習である。中学校区での設置(全国 10,000 か所)を目標に拡充が図られているが、2012年度の実施は 5,968 か所にとどまる。

本事業の評価指標は、設置数のみであるが、現在、利用者の QOL 向上や、『地域で子育てを支える』ことにつながるための評価指標が求められていると考えられる。



1-2-6 男女共同参画社会のめざすところ

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されている（男女共同参画社会基本法第2条）。この男女共同参画社会を実現するための基本理念の一つに、「家庭生活における活動と他の活動の両立」が含まれ、仕事と家庭の両立、すなわちライフワークバランスの推進が明記されている。さらに、男女共同参画社会のイメージ図には、家庭生活と職場、地域力の3つを合わせた視点が含まれる。この中の「家庭生活の充実」においては、家族のパートナーシップの強化とともに、男性の家庭への参画が挙げられており、男女共同参画の視点からも、男性の家庭内の役割が求められていると言える。

さらに、男女共同参画社会とは、「仕事、家庭、地域生活など多様な活動を自らの希望に沿った形で展開でき、男女がともに夢や希望を実現できる」ことで、『ひとりひとりの豊かな人生』をめざすものである<sup>16)</sup>。「自らの希望に添うこと＝主体性の尊重」であり、「一人ひとりの豊かな人生＝QOLの向上」と言い換えることもでき、ヘルスプロモーションのめざすところと同様であるとも言えるだろう。

男女ともに豊かな人生を送れるよう、男性、女性といった性別に分類して捉えるのではなく、また一家庭のみで捉えるのではなく、地域や職場も含めた社会全体の課題として取り組む必要性が示唆されていると言えよう。

しかし子育て中の父親、母親のQOLの関連構造は明らかになっているとは言えず、QOLの関連構造が明らかになることで、男女共同参画社会がめざしている豊かな人生へつながるような、望ましい支援方法を検討する上でのエビデンスになると考えられる。



図 1-7 男女共同参画社会のイメージ図

(出典:内閣府男女共同参画局 [http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/society/](http://www.gender.go.jp/about_danjo/society/))

1-2-7 子育て支援の現状と課題のまとめ

「健やか親子 21」にも取り入れられているヘルスプロモーションの理念が重要視されるようになったということは、従来の「(専門職による)してあげる支援」から「住民が主体的に行動するための環境整備」への転換を意味しているとも考えられる。また、ヘルスプロモーションの理念を取り入れた「健やか親子 21」だけでなく、男女共同参画社会基本法に含まれる「地域、職場、家庭」の3つの視点や、「子ども・子育てビジョン」に含まれる『子育てを社会全体で支える』視点から、子育てを一家庭で完結させるのではなく、地域社会全体で取り組もうとする意図が読み取れる。子育て支援におけるヘルスプロモーションとは、子育てで遭遇する種々の健康問題に対処しながら親子の QOL を高めることを意味し、親子のエンパワメントを支援するものである。しかし、「健やか親子 21」、「子ども・子育てビジョン」などいずれも評価指標は、施設の整備や保健水準という目に見えるものにとどまっている。今後は、施設数などのハード面だけでなく、ソフト面の評価指標が必要であると考えられる。親の満足度など、子育てをしている親が実際にどう感じているか、QOL の向上やエンパワメントの向上につながっているのか、親の気持ちや認識を大事にすることも評価の一つとして求められている。

### 1-3 健康生成論と Sense of coherence

ストレスは健康にどのような影響を与えるのか。善か悪か。従来、多くの人々がストレスは健康にとって悪なるものであり、それは除去・軽減するものと捉えていた。はたしてそうだろうか。人は誰でも少なからずストレスを受けながら生活している。ストレスにさらされていても、健康に生活している人もいる。そのような人たちはなぜ健康でいられるのか。そのことを問うたのが、ユダヤ系アメリカ人の医療社会学者 Aaron Antonovsky(1923-1994)である。

Antonovsky は、*Health, Stress, and Coping: New Perspective on Mental and Physical Well-being*(1979年)、*Unraveling the Mystery of Health: How people Manage Stress and Stay Well*(1987年)において、健康生成論 (salutogenesis) とその中核概念である Sense of Coherence(SOC)を発表した<sup>17~20)</sup>。

#### 1-3-1 健康生成論について

従来の医学は、疾病を発生させる危険因子(risk factor)に焦点を当て、その軽減と除去の方策について説明しようとする疾病生成論 (pathogenesis) に傾倒していた。それに対して、健康の起源に焦点を当てる健康生成論 (salutogenesis) では、健康因子 (salutary factor) に焦点を当て、健康はいかにして保持・増進されるのかを説明しようとする。疾病生成論では、人はなぜ病気になるのか、人々はなぜ疾病と分類される状態になるのか、を説明しようとする。それに対して、健康生成論は、人々はなぜ健康－健康破綻を両極とする「健康－健康破綻の連続体 (health - ease / dis - ease continuum)」上の望ましい側、すなわち健康の方にいられるのか、あるいは、ある時点でたとえどこに位置していようとも、人々はなぜ健康の方へ移動しうるのかを問うものである。

しかし、健康生成論と疾病生成論は決して相反するものではなく、またどちらかのみが大切というものでもない。Antonovsky は、健康生成論と疾病生成論が相互補完的に、車の両輪のように発展させられなくてはならないと述べている。健康生成論のポイントとして、Antonovsky は疾病生成論と対比させながら表 1-4 のように、6点を挙げた。

そして、最も大切なことは、「何が、健康の方へ移動させたのか」を問い続けることであるとしている。

表 1-4 健康生成論と疾病生成論の対比

	疾病生成論	健康生成論
健康の捉え方	健康か疾病かの二分法	健康 (health-ease) - 健康破綻 (dis-ease) を両極とする連続体上のいずれかに位置する
何をみるか	疾病をみる	人のストーリーをみる
要因の捉え方	例) 587名の重症慢性喘息患者の再入院ケースについて検討 再入院したケースに焦点をあてる。 「なぜ再入院になったのか」	再入院に至らなかったケースに焦点をあてる。「なぜ再入院に至らなかったのか」
ストレスターの捉え方	危険因子 (risk factor)	健康要因 (salutary factor)
治療における関心/焦点	特定の疾病、ハイリスクの個人、集団の予防へと関心を集中させる	ストレスターがある環境に積極的適応を図ること (successful coping) に焦点をあてる。
逸脱ケースへの着眼	例) タイプ A 行動パターンと冠動脈疾患の関連について 因果関係について科学的に明らかにし、解決法を提案し、仮説を確証する。「タイプ A 行動パターンと冠動脈疾患は有意に関連する」	疾病生成論の仮説の重要性を軽視せず、その仮説以外の逸脱ケースに目を向ける。「冠動脈疾患にならないタイプ A 行動パターンの人ほどのような人か」

出典：健康の謎を解く，Antonovsky,1987/山崎・吉井監訳,2001より（高城作表）

### 1-3-2 Sense of Coherence(SOC)について

Antonovsky は、図 1-8 のように健康生成論モデルを表わした。人はストレスの原因となる物や事柄、すなわちストレッサーに直面すれば、処理しなければならない緊張状態に陥る。その結果が、病的なものになるか、中立的なものになるか、健康的なものになるかは、ストレッサーをどう対処するかという、その適切さに依る。この対処を左右する要因が Sense of Coherence(SOC)であり、SOC が健康保持能力やストレス対処能力といわれる所以である。

SOC の形成・強化には 2 種類のルートが示されている。まず第 1 に、SOC は社会文化的・歴史的背景が子育てパターンと社会的役割に影響し、それらが General Resistance Resources(以下 GRRs ; サポート資源やその人や環境が持っている力)を形成し、GRRs によって人生経験の質が高まり、良好な SOC が形成されるということ、第 2 にストレス対処の成功がさらに SOC を高めるということである。

Antonovsky は、Sense of Coherence(SOC)が、健康—健康破綻を両極とする連続体上におけるその人の位置を保ち、かつ健康の方へ移動させるための、主要な決定要因であるとし、次のように SOC を定義した。

「SOC とは、その人に浸みわたった、ダイナミックではあるが持続する確信の感覚によって表現される生活世界規模の志向性 (orientation) のことである。それは、第 1 に、自分の内外で生じる環境刺激は、秩序づけられ、予測と説明が可能なものであるという確信、第 2 に、その刺激がもたらす要求に対応するための資源はいつでも得られるという確信、第 3 に、そうした要求は挑戦であり、心身を投入し関わるに値するという確信からなる」(Antonovsky,1987/山崎・吉井監訳,2001)。

そして、この第 1 から第 3 までの確信を、それぞれ Comprehensibility、Manageability、Meaningfulness とした。それぞれの定義を以下に記し、本論文における SOC の定義と解釈について述べる。

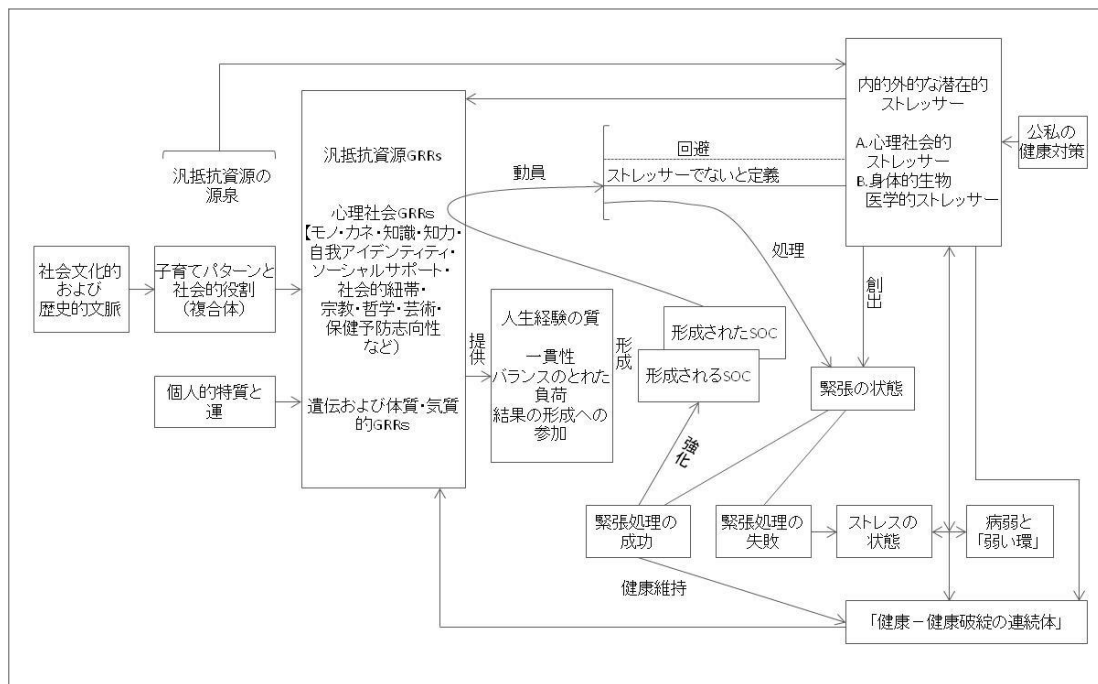


図 1-8 健康生成モデル (Antonovsky, 1987/山崎・吉井監訳, 2001 より)

1-3-2

1) **Comprehensibility** について

Antonovsky による定義は、「人が内的環境および外的環境からの刺激に直面した時、その刺激をどの程度認知的に理解できるものとして捉えているかということである。言い換えれば、混沌とした無秩序で無作為で偶発的で説明のできない雑音としてではなく、むしろ秩序だった一貫性のある構造化された明瞭な情報としてどの程度知覚しているかということである」とされている。

**Comprehensibility** とは、**comprehend+ability** であり、直訳すると、『完全に把握（理解）する能力』であるが、では何を『把握する』のか。ここで、前述の **SOC** の定義 1 行目に戻りたい。**SOC** とは『ダイナミックではあるが持続する確信の感覚によって表現される生活世界規模の志向性（orientation）のこと』である。**SOC** の定義には、物事を多面的にとらえ、時間軸が存在する。すなわち、**Comprehensibility** とは『物事全体を総合的に把握する（＝見る）感性や捉え方』と言えるのではないだろうか。そして、ここでの『把握する』とは、目の前のことだけでなく、人生全般に対して意味づけをするということであり、『全体を総合的に』という部分が単なる「把握する」だけでなく、健康生成論に則った考え方になる。たとえば、病気や別離、失敗などの出来事はその部分だけを見ると、それはネガティブイベントである。しかしそのネガティブイベントを人生全体で連続性をもって、かつ多面的に捉えると、そのネガティブイベントが自分自身の成長や人間力 **UP** につながっており、そのネガティブイベントも含めて今の自分が存在すると考えられる。一瞬だけを見て判断するのではなく、その人の人生全体について時間軸を引き伸ばしかつ大きく捉えることで意味づけが大きく変化するのである。

以上より、**Comprehensibility** とは『出来事を人生全体の中で包括的に捉え（把握する）意味づけることができる力』と解釈することができると考えられる。

1-3-2

2) **Manageability** について

Antonovsky は、「人に降り注ぐ刺激に見合う十分な資源を自分が自由に使えると感じている程度。『自由に使える』とは、自分のコン



トロール下にある資源やその人が頼れると感じて信頼している他者によってコントロールされている資源のことである」と定義した。Antonovsky がこのように定義した背景に、SOC の強い人には見られず、弱い人に必ず見られた物事の捉え方がある。それは、SOC の弱い人は、人生における出来事は降りかかるものであり、いつも決まって不幸な結果をもたらし、それは一生続くと捉えられていた。反対に SOC の強い人は、人生に起こる出来事は対処可能な経験として応じることが可能な挑戦であるとみなし、最悪の結果であっても、その結果は耐えうることのできるものと捉えていた。

Manageability とは、management+ability であり、直訳すると、『管理できる能力』である。ここでいう management とは、主体的に対処方法を自己選択し、資源を活用することと解釈できる。また、この資源は、その人が持って生まれた基本的能力でもあるだろうし、人間関係や周囲の環境、経験を経て獲得したものなど後天的なものでもあるだろう。そのいずれをも、その時、その場面、状況に応じて有効に活用できる能力が Manageability である。

そして、さらに SOC のキーワードである『dynamic』『orientation』を含めて考えると、現時点での対処という意味で終わらず、その対処が将来的にみれば自己成長につながると考えられることである。以上より、Manageability とは、『出来事は自分の力だけでなく、周囲の力を活用して解決し、自己成長につなげる力』と解釈することができる。

### 1-3-2

#### 3) Meaningfulness について

Antonovsky は、「人が人生を意味があると感じている程度、生きていることによって生じる問題や要求の、少なくともいくつかは、エネルギーを投入するに値し、関わる価値があり、ない方がずっとよいと思う重荷というより歓迎すべき挑戦であると感じる程度」としている。

さらに、Antonovsky は、愛する者の死や解雇されるなどの不幸な経験をうれしく思うことではなく、それらが課された時にも、その人はその挑戦を進んで受け止め、それに意味を見出そうと決心し、尊厳をもってそれに打ち勝つために最善を尽くすだろうということである、とも述べている。

Antonovsky が、この **meaningfulness** の定義に辿りついた経過は以下の通りである。SOC が強いと分類された人々は、いつも自分にとって重要な、そして非常に関心のある、また自分にとって認知的にも感情的にも「意味ある」人生の領域について語り、さらにこれらの領域でおこる出来事は、挑戦として、感情を投入して関わる価値のあるものとして捉えていた。また、Antonovsky は **meaningfulness** を『動機付けの要素』とも位置付けている。

ここで注目したいのが、目の前のことだけでなく、人生全体について語っていること、そして、『動機付け』というように、先を見越した要素を含んでいることである。ここに SOC のキーワードである『**dynamic**』の考えが含まれている。

以上より、**meaningfulness** とは、『出来事は自分の人生において意味あるものと捉え、自身の成長、生きがい、自信につながると感じること』であると解釈する。

いずれの構成要素も、それぞれ単独で意味を捉えたのでは本質に誤解が生じることも考えられる。SOC が健康生成論の中心概念であるので、3 つの要素については、SOC の定義にある『**dynamic**』、『**orientation**』を踏まえた解釈が大切であり、Antonovsky の意図はそこにあると確信している。

以上を踏まえて、これら 3 つの要素から SOC を大きく捉えると、『人生全体の中で、**dynamic** に物事を捉え（認識し）[comprehensibility]、資源を有効に活用しながら対応し[manageability]、そのことにより自己成長や自信、生きる意味を感じる[meaningfulness]こと』と言えるのではないだろうか。

ところで、WHO は 1999 年、健康の定義に新しく「**dynamic**」「**spiritual**」を取り入れた。この「**dynamic**」は、連続性を持ち、大きな視点で健康を捉えることを意味している。ここで、上記の Antonovsky の SOC 定義 1 行目に着目したい。『ダイナミック』『世界生活規模の志向性 (**orientation**)』とある。すなわち、物事を大きく、多面的に、連続性をもって捉えようということである。Antonovsky は WHO が提案する約 20 年前にすでにこれらの概念を持って健康を捉えていたことになる。また、WHO は 1986 年オタワ憲章において、ヘルスプロモーションの理念を発表した。ヘルスプ

ロモーションは「人々が自分たち自身の健康と健康規定要因をコントロールできるようになるプロセス」と定義され、個人のエンパワメントだけでなく、環境整備の必要性をも含めた概念である。健康生成論の概念はこのヘルスプロモーションの哲学的基礎であるともいわれており、SOCがヘルスプロモーションの理論足りえるものといわれる所以がここにある。

### 1-3-3 ストレス対処と SOC

ストレス対処には GRRs が動員される。Antonovsky は、SOC をストレス対処にあたり、GRRs の中から、時と場合に応じて柔軟かつ適切に GRRs を選び取り動員する力であると位置づけている。そしてストレス対処の成功がさらに SOC を強化するが、ストレス対処の成否は、GRRs の豊富さとその動員力である SOC の強さにかかっているという。

SOC と自己効力感などの自己概念との大きな違いは、ストレス対処において、他者への信頼・依存についてである。他者への信頼・依存が自己効力感では「依存的な自己、弱い自己」とマイナスに評価されるのに対して、SOC では資源を有効に活用できたとして、プラスに評価される。さらに環境の存在も同様の働きをする。環境や人とのつながりが、日常生活の不安を減らし、生きていく意味や支えを与えてくれるというのである。ここからもわかるように、SOC は他者や周囲の環境、社会のあり方や外的資源への依存性の高い、拡大された自己概念であり、集団主義的である日本のような社会において、より一般的な概念であるといわれる。また、周囲の環境が SOC に影響を与えること、SOC は社会的に育まれることから、そのための社会関係・社会環境づくりが重要である。

### 1-3-4 SOC に関する先行研究

1979 年に Antonovsky が健康生成論、SOC を発表して以来、諸外国では SOC に関する研究が数多くなされてきた。日本では、2000 年前後から SOC に関する研究がされ始め、2004 年ごろからその数は増えてきている。日本における研究の対象者は、主に疾患や障害をもっている人々であり、疾患や障害と SOC との関連を見たものが多く、看護学領域で盛んに使用されてきた。徐々に対象も広がり始め、ここ数年は、労働者や中高大学生を対象とした研究も報告され

ている。労働者を対象とした研究として、Tomotsune ら<sup>21)</sup>は SOC が高いほど仕事関係のストレスに、より有効に対処できていたことを報告し、同じく労働者を対象とした戸ヶ里ら<sup>22)</sup>は、社会経済的要因との関連を検討し、無業者において SOC が最も低いこと、教育年数が少ないと SOC が低いことを報告している。また、中高大学生を対象とした研究では、山本ら<sup>23)</sup>が大学生を対象に、中学時代の友人関係の良さが SOC を高めていること、戸ヶ里ら<sup>24)</sup>は高校生を対象とし、SOC 高群には、小学校時の積極的な部活動が影響していて、SOC 上昇群には高校の部活動、友人との望ましい関係、一定数のわかりあえる友人との関連を報告している。さらに大学生を対象とした藤里ら<sup>25)</sup>は、SOC の高さが適応的な対処方略選択を促進することを報告している。

さらに、ここ数年の間に、乳幼児を育てる親を対象とした研究報告がされるようになった。

諸外国においては、発達障害の子どもを育てる母親の SOC が低いこと、難聴の子どもの母親においては SOC とソーシャルサポートはストレスを減らし QOL を改善する資源であることが報告されている<sup>26~28)</sup>。また、妊娠中の女性においては、SOC が Well-being に影響すること、妊娠初期のパートナーのサポートに関する不満は、出産 1 年後の抑うつに影響し、SOC を低下させる傾向にあることが報告されている<sup>29~30)</sup>。さらに、父親と母親双方を対象とした調査では、年齢が小さいほど、父親の SOC は母親の SOC よりも有意に高いこと<sup>31)</sup> や、父親母親ともに抑うつ症状と育児ストレスは SOC と有意に関連すること<sup>32~35)</sup>、経済的に余裕がない場合や健康状態が不良の場合に SOC は低いこと<sup>36)</sup> が報告されている。

我が国においては、SOC が低い妊婦ほどマタニティブルーズの発生率が高いこと<sup>37)</sup> や、妊娠初中期、後期、出産 1 ヶ月後で追跡調査を行い、SOC は妊娠当初から高く維持されること、妊産婦の SOC 平均得点は一般の女性よりも高いこと<sup>38)</sup>、SOC と育児不安の間に負の相関がみられたこと<sup>39)</sup> が報告されている。また障害児を育てる母親の SOC が QOL とソーシャルサポートに強く関連している<sup>40)</sup> という報告もされている。

しかし、SOC の関連要因はマタニティブルーズや抑うつというネガティブな要因に焦点をあてた調査が多く、さらにその関連は国内では単相関のみであり、関連構造が明らかにされているわけではな

い。また障害を持つ子どもの親を対象とした報告が多く、乳幼児期の子育て期の親の SOC がポジティブな要因とどのように関連しているのかについては、明らかになっていない。SOC はストレスを上手く対処し、健康な方向へ導く力、成長につなげる力である。乳幼児期の親はストレスを少なからず感じ、かつストレスに対処しながら成長する存在である。乳幼児期の親を対象に、SOC の概念を用いることは適していると考えられる。

#### 1-4 Quality of life (QOL)とエンパワメント

ヘルスプロモーションにおいて重要なキーワードが「Quality of Life(QOL)」と「エンパワメント」である。

ここでは、QOLとエンパワメントが子育て支援においてどのように捉えることができるかについて言及する。

##### 1-4-1 Quality of life と子育て支援

健康レベルを把握する視点として「Quality of life (QOL)」がある。世界保健機関 (WHO) は、QOL を個人が生活する文化や価値観において、個人の目標や期待、基準や関心との関わりから得られた個人の認識に基づくものと定義し、生活のよりよい状態のことで個人が自分の生活や人生にいかに充実感や満足感を得ているかという認識であるとしている<sup>41)</sup>。また、身体健康、心理的状況、自立の程度、社会的関係、個人の信条、環境との関係性に影響される。しかし、使われる指標や捉え方はまだ統一されていない。

WHO が QOL の概念の明確化とその統一を図り、以下の 3 項目を示した。1 つ目は、QOL は客観的状态に関する認知や諸資源についての満足感といった主観的なものと関わるという特性であること、2 つ目は QOL の多次元性であり、それは身体的次元、精神的次元、社会的次元、そして実存的次元であること、3 つ目は、QOL は役割を果たすとか満足にたやすく動けるといった積極的側面と、消極的感情や薬物依存、疲労、苦痛といった消極的側面を含んでいることである。

以上から QOL は生活におけるよりよい状態のこと、すなわち充実感や満足感であり、個人の価値観や目標、期待などの個人の認識が大きく関与していること、そして QOL とは多次元性であり、それに関わる周囲との関係性や環境のあり方が QOL を支える重要な要素であることが示されていると言える。

乳幼児期の親を対象とした研究でも QOL はさまざまな指標や質問項目が使用されている。WHO-QOL 尺度や生活満足感、育児満足感、主観的幸福感、Well-being などである。これらがソーシャルサポートと正の相関を示すことは多くの研究で報告されている<sup>42~45)</sup>。しかし、その関連要因は構造的に明らかにされていない。さらに、父親については QOL に関する先行研究すら報告されていないのが現状である。

QOL 関連要因を構造的に明らかにすることは、QOL 向上につながる支援を検討するエビデンスとなりうると考えられ、その意義は高いと言える。

#### 1-4-2 エンパワメントと子育て支援

「empowerment」という言葉は「権利や権限を与えること」という意味の用語として 17 世紀に使われ始めた。社会的に広く使われだしたのは第 2 次世界大戦後、アメリカの公民権運動やフェミニズム運動などの社会変革活動を契機としてであり、このころには社会的に差別や搾取を受けたり、自らコントロールしていく力を奪われた人々が、そのコントロールを取り戻すプロセスを意味するようになってきた。近年では、社会福祉、発展途上国の開発、医療分野、ジェンダーなど様々な場面で使われるようになってきている。看護界では、「個人が自己の生活をコントロール・決定する能力を開発していくプロセス」を意味し使われることが多い。精神保健の領域にエンパワメントの考え方を導入した Rapport<sup>46)</sup> は、エンパワメントを「もっとも広い意味では、人や組織や地域社会が自らの生活を熟達すること」として定義づけている。Simmons & Parsons<sup>47)</sup> は「人が彼らの環境を支配し、自己決定を達成することを可能にするプロセス」と定義している。また、Gibson<sup>48)</sup> は「健康を増進したり、コントロールを強化するように、可能となさしめる過程」と定義づけ、Hawks<sup>49)</sup> は「その人が設定した目標を達成することができるように、その人の能力を育成、発展、強化するために、機会や資源を提供すること」として定義づけている。

このように、エンパワメントの概念は多次元的であり、プロセスを含む概念として捉えられている。

久木田<sup>50)</sup> は、エンパワメントの一連のプロセスの中で重要なのは、プロセスの各段階で「自己決定」が行われることであると述べている。この自己決定や選択はパワーの「コントロール」を意味し、自らのコントロールが可能なプロセスに対して、自分でコントロールできているという「制御感」や「オーナーシップ」をもち、さらに活動を通して自己のもつ「潜在力への気づき」やうまくできたという「効力感」をもつようになる。これらすべてのプロセスが確保されて初めてエンパワメントは起こるものと考えられている。そして支援者は、エンパワメントを効果的にするには「自分にはできる」

という自己肯定感や、自尊感情等の概念を常に意識することが大切であるとされている。

プロセスを含む概念であるため、エンパワメントを評価することは困難な面もあるが、エンパワメントの指標として、「満足感」や「自己成長」、「コントロール感」などが使用されている。また、個人的な内的な感覚としては肯定的な自己概念や満足感、自尊感情やコントロール感の獲得などが取り上げられている。さらにエンパワメントの結果として、問題解決能力の向上や QOL の向上をもたらすとの見解もあり、エンパワメントと QOL は深く連動しているとも言える。

前述したように、子育て支援のめざすところは親子のエンパワメントである。エンパワメントと連動している QOL の関連構造を明らかにすることは望ましい子育て支援方法の科学的エビデンスを得る上での一助となると考えられる。



1-5 国際生活機能分類 (International Classification of Functioning and Disability and Health : ICF)<sup>51)</sup> と子育て支援

WHOは2001年5月、人間の生活機能と障害の分類法として、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning and Disability and Health : ICF) を採択した。ICFの特徴は、これまでのWHO国際障害分類 (ICIDH) がマイナス面を分類するという考え方が中心であったのに対し、ICFは、生活機能というプラス面からみるように視点を転換したこと、環境因子や個人因子の背景要因を追加したこと、さらに障害や疾病の有無に関係なく、すべての人に活用できるモデルとしたことである。

ICFは情報を2つの部門に整理し、第1部は生活機能と障害、第2部は背景因子を扱い、それぞれ2つの構成要素から成る(図1-9)。

第1部の生活機能と障害は「心身機能・身体構造」、「活動・参加」からなる。心身機能とは、身体系の生理的機能であり、身体構造とは器官・肢体とその構成部分などの身体の解剖学的部分である。もう一つの要素である「活動・参加」のうち、活動とは、課題や行為の個人による遂行のことであり、歩行やADL、家事、職業能力などをいう。これは個人的な観点から捉えた生活機能を指す。また参加とは、生活や人生場面へのかかわりのことであり、就労や趣味、スポーツ、地域活動などをいい、社会的な観点から捉えた生活機能を指す。さらに活動と参加には、「実行状況」と「能力」の二つの評価点を含む。

第2部の背景因子は、個人の人生と生活に関する背景全体を表す。それは環境因子と個人因子の2つの構成要素からなり、ある健康状態にある個人やその人の健康状況や健康関連状況に影響を及ぼしうるものである。

環境因子とは、建築や福祉用具といった物的環境や、家族や友人といった人的環境、さらに制度やサービスなどの社会的環境からなり、この因子は個人の外部にあり、その人の社会の一員としての実行状況、課題や行為の遂行能力、心身機能・身体構造に対して、肯定的または否定的な影響を及ぼしうるとされる。このように環境因子は個人的、社会的レベルといった異なる2つのレベルに焦点をあてて整理されており、さらに、心身機能・身体構造や活動、参加といった構成要素と相互に作用するとされる。

第2部のもう一つの構成要素である個人因子とは、個人の年齢や

性別、生育歴、価値観、ライフスタイル、教育歴などの個人の人生や特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなる。個人因子はICFの分類としては含まれていないが、その関与を示すために、図1-9に含まれている。この因子の関与が様々な介入の結果に影響しうるからである。

ICFモデルは、図1-9にもあるように、背景因子である個人因子や環境因子が活動や参加を促進や抑制させるといった相互作用が強調される。すなわち支援環境を整備することの重要性が示されているといえる。支援環境により、活動や参加の範囲が制限されたり、逆に拡大されることは、乳幼児を育てる親にも当てはまることであり、ICFモデルのもつ意味は乳幼児を育てる親への支援においても有効であると考えられる。しかし、今までに乳幼児を育てる親を対象として、量的研究に基づいて検証された先行研究は報告されていない。

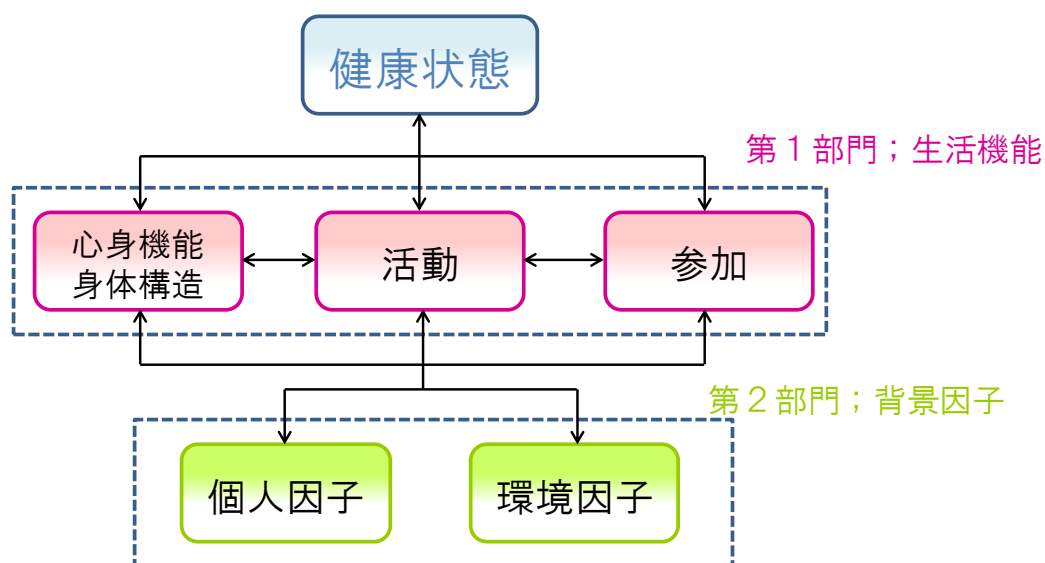


図 1-9 ICF モデル

1-6 乳幼児期の母親、父親の QOL に関する先行研究

1-6-1 母親に関する研究

1) 母親の QOL に関する研究

現在までに、子育て不安などの子育てに関するネガティブな認識に焦点を当てた研究が数多くなされ、子育て不安の要因や、ソーシャルサポートとの関連が明らかになっている<sup>6,52~56)</sup>。

一方、母親のポジティブな認識に焦点を当てた研究として、加藤<sup>57)</sup>は母親の主観的な幸福感とソーシャルサポートとの関係を調査し、母親の主観的幸福感には、情緒的なサポートが影響し、第2子以降はその傾向が顕著であることを明らかにした。藤井ら<sup>58)</sup>は、子育て不安の有無別に、育児満足感との関連を調査し、不安あり群となし群では、人的サポートに有意な差が見られたことを報告している。また、及川ら<sup>59)</sup>は、母親の生活満足度の関連要因としてパートナーのサポート、母親の被養育体験との関係について調査し、パートナーの行動面でのサポートが重要な要素であることを明らかにした。これらはパートナーをはじめとするソーシャルサポートが母親のポジティブな認識に影響を与えていることを示唆している。一方、ソーシャルサポートと生活満足感との関連については、母親の就業の有無により、母親の生活満足感にプラスもしくはマイナスの異なる影響を与えることも報告されている<sup>9)</sup>。

このように、先行研究の多くは、子育てに関する認識としてはネガティブな認識に焦点を当てたもの、親の認識としてポジティブな認識に焦点を当てたものであり、いずれもソーシャルサポートとの関連が報告されてきた。しかしながら、子育てに関する認識とは、子どもの成長やその時々のある出来事などにより、一人の母親の中にポジティブ、ネガティブ双方の認識が存在するものである。さらに、子育ては子どもの成長だけでなく、親も成長していく過程であり、ポジティブ、ネガティブ双方の思いを持ちながらも、最終的に親の自己成長につながるような支援が求められていると考えられる。しかし、ポジティブ、ネガティブ双方のいずれをも含んだ親の子育てに関する認識とソーシャルサポート、生活満足感などの QOL との関連を構造的に明らかにした先行研究は報告されていない。

母親の QOL を扱った研究報告では、生活満足感や育児満足感、主観的幸福感、well-being などさまざまな指標が使用されている。先行研究からは、サポートが母親の QOL を高めること、実際のサ

ポート量ではなく母親自身がサポートを受けていると認知できるかどうかは QOL に影響することが報告されている<sup>60)</sup>。また、サポート認知が母親の自己認識を高めることや母親の学歴が子育て認識に影響することも報告されている<sup>8,61)</sup>。さらに、知的障害児の母親を対象とした調査ではあるが、経済的困難と主観的健康感は母親の well-being を予測する因子であることが報告されている<sup>62)</sup>。

しかし、母親の自己認識とサポート認知、QOL との関連を構造的に明らかにした先行研究は報告されていない。

## 2) 社会経済的要因による差異に関する先行研究

従来の研究では、母親の社会経済的要因として、仕事の有無を取り上げた研究が多い。永久<sup>63)</sup>は職業の有無により、日常生活の中で感じる否定的・肯定的感情について分類した結果、子どもへの感情や夫への感情、生活感情の全てにおいて否定的感情が専業主婦で高いことを報告している。さらに柏木<sup>64)</sup>は、育児不安の中核は親役割と就業などの個人役割との対立・葛藤であり、この育児不安は無職の母親で強く、職業を持つ母親では育児不安が弱い上、親役割の満足度が高いことを報告している。また、多重役割を担う母親は負担が大きく、疲労感は強いが、他方生き生きとしていて、正負両面の感情を抱いていること、これを親役割についてみると、仕事をもっている母親の方が、子どもや育児への満足度が高く、仕事とは別の子育てにおける心理的なゆとりを持っていることが報告されている<sup>63,65)</sup>。

また、近年、社会経済的要因として、母親の最終学歴による差異も報告されるようになってきている。母親の学歴により、子育てにおける対処の仕方を左右するという報告<sup>66)</sup>や、子育てにおける不安の兆候が異なるという報告<sup>67)</sup>、さらに日本の母親の特徴と言われた子どもとの一体感が高学歴の母親に弱いという報告<sup>68)</sup>もある。

女性のライフサイクルが変化している現代において、仕事の有無だけでなく、母親の学歴や年間収入などの社会経済的要因を分析していくことの必要性もあることが示唆される。

このように先行研究では母親の子育てに関する認識や QOL には、母親の属性、父親のサポートの状況と関連していることが報告されているが、構造的・総合的に分析した研究は報告されていない。母

親の子育てに関する認識、ソーシャルサポート、QOLとの関連について、社会経済的要因も含めて構造的・総合的に明らかにすることで、より望ましい子育て支援を検討する際の基礎資料を得ることができると考えられ、その意義は大きいと考えられる。

#### 1-6-2 父親に関する研究

父親の子育てが国レベルにおいて注目され始めたのは1990年代後半であり、父親を対象とした研究報告も国内においては、10年ほど前から報告されるようになってきた。その内容は、父親の育児参加に関する研究が多く、父親の育児ストレスに関する報告も少しずつみられるようになってきた。以下、1) 育児ストレスに関する報告、2) 父親の育児参加の要因、3) 父親の育児参加が及ぼす影響、4) 父親のQOLに関する研究について、先行研究を概観する。

##### 1) 父親の育児ストレスについて

1990年代以降、政策として父親が育児に参加することが奨励される状況になった。斧出<sup>69)</sup>は、「育児に積極的に関わる父親」を内面化し、「仕事だけでなく育児もする父親」への志向性が若い世代で高まりつつあることを報告した。また、米国においては1980年代後半にLaRossa<sup>70)</sup>が同様の報告をし、「あるべき父親像」と実際の父親の行動とのギャップが父親に心理的ストレス、育児ストレスをもたらしているとしている。

父親の育児ストレスについては、矢澤ら<sup>5)</sup>により「育児が思うようにいかない」「父親としての自信がない」「配偶者とのコミュニケーションが不足している」などの悩みがあることが報告されている。また、冬木<sup>71)</sup>は家事や育児をあまりしていない父親ほど、「仕事と育児の葛藤」「育児意欲の低下」を強く感じていること、父親の年齢が若いほど「育児疎外感」を感じ、さらに子どもの数が少なく性別役割意識の高い父親ほど「父子関係不安」(妻なしで子どもと二人きりになることを不安に思う)を抱えることを指摘している。さらに長津<sup>72)</sup>は育児に積極的に参加している父親は仕事を犠牲にしてさまざまな不安や悩みに耐えながら子育てをしているが。母親が無職であり育児を母親に任せている父親は時間的余裕があるときに楽しみながら子育てに参加していることを報告している。

以上から、父親の育児によるネガティブな感情は、育児をすること

から生じる負担や不安、また仕事に時間をとられすぎることから生じる育児と仕事との葛藤や時間不足の悩みがその内容と言える。

## 2) 父親の育児参加の要因

父親の育児参加を規定する要因として、父親自身の役割観、母親からの積極的な働き掛け、仕事と家庭の多重役割の捉え方が報告されている<sup>73~75)</sup>が、大和は次の3つの要因説を挙げている<sup>76)</sup>。一つ目は「状況要因説」であり、父親が育児をしやすい、あるいはせざるを得ない状況であることが父親の育児分担量を増やすとする説である。これは、父親の労働時間が短い、母親がフルタイムで働いている、子どもが小さい、祖母が同居していないといった場合には、父親の育児参加が増えることが報告されている<sup>77~80)</sup>。

二つ目は「権力要因説」であり、収入などの権力資源をより多くもつと、相手に育児を分担するよう交渉する力がより強くなり、相手の育児分担が増えるとする説である。これは、母親がフルタイム就業である場合、あるいは母親がフルタイム就業でかつ高学歴の場合、父親の育児参加が増加するという知見がある<sup>78,80)</sup>。ただし、これらは母親の労働時間が長いという状況要因説でも解釈は可能である。

三つ目は「意識要因説」であり、性別役割意識がその人の育児行動を規定するという説であるが、この説については否定する報告<sup>77~80)</sup>もあり、検討の余地があると考えられる。

また坂本は以下の10点に整理している<sup>81)</sup>。

- ①時間的余裕：妻がフルタイムで働いている世帯と比べ、妻が専業主婦やパートタイマーである場合は相対的に妻の家事時間が長く、夫の家事時間が短いなど、時間に余裕がある方が家事・育児を行う。
- ②相対的資源差：妻の資源（学歴、収入など）が高いほど夫が家事をする。
- ③家庭内受容：世帯内で必要となる家事育児の増加により、世帯員それぞれが家事育児を多く行う。
- ④イデオロギー：性別役割分業意識が強い夫ほど、家事をしない。
- ⑤情緒関係：夫婦の情緒関係が安定するほど、夫は共同行動としての家事・育児に参加する。
- ⑥父親のアイデンティティ：父親役割を重視している夫ほど、家事・育児に参加する。
- ⑦家族・近親者・友人のサポート：家族や友人から家事・育児の援助を受けられる世帯ほど夫が家事・育児に参加しない。
- ⑧子育てに関する知識・スキル：育児に対する知識やスキル

を高めることで夫が育児に参加する。⑨雇用不安：夫が雇用不安を抱いた場合、夫は業績をあげ、リストラを回避しようと労働時間を延ばそうとする。そのため、家事・育児参加から遠のいてしまう。⑩職場の環境・慣行：育児休業を取得した男性がいる、上司・同僚の理解が得られるなどのファーザーフレンドリーな職場では、夫は家事・育児に参加する。

さらに、従来の父親研究では家事・育児参加の要因として、家庭内に焦点を当てたものが多く、父親の就業環境などを考慮した研究は少なかった<sup>82)</sup>。しかし、海外では、2000年以降、父親の就業環境などを考慮した研究<sup>83)</sup>が進んでおり、以下のような知見が得られている。職場に対しての満足感が低い父親ほど育児をしているという結果が得られている。さらに、男性が育児をすることに対する職場の上司や同僚の理解がある、あるいは職場ですでに育児休業をとった男性がいる場合には、育児休業を取得しやすかったことが確認されている<sup>77)</sup>。

これらから、父親の育児参加には、時間の問題だけでなく、社会経済的要因や性別役割意識、夫婦の関係性など、さまざまな要因が関連していることがみてとれる。

### 3) 父親の育児参加が及ぼす影響

父親の育児参加が家族に与える影響については、子どもへの影響、母親への影響、そして夫婦関係への影響がある。子どもへの影響については、Aldous<sup>84)</sup>らが父親とポジティブな関わりをもつ男児の問題行動は少ないことを報告し、加藤ら<sup>85)</sup>は育児をする父親の子どもは情緒的・社会的発達が良いことを報告している。このように国内外で、父親の育児参加は子どもへポジティブな影響を与えていることが明らかとなっている。また、母親への影響として、細野<sup>86)</sup>は父親による母親へのサポートは母親の育児ストレス軽減につながることを、小林<sup>87)</sup>は父親のサポートが多いほど母親の抑うつ得点が低いことを報告し、さらに荒牧<sup>88)</sup>は父親のサポートを多く受けている母親は育児への肯定的感情が高いことを報告しており、父親の育児参加は、母親の精神的健康に良い影響を与えていることが明らかとなっている。一方、父親の実際のサポートよりも父親の育児参加を母親自身がどのように受け止めているか、そのギャップの大きさが母親の精神的健康に重要であるとする報告もある<sup>60)</sup>。

父親の育児参加と夫婦関係については、父親の育児参加が母親の夫婦満足度と有意に関連する<sup>89)</sup>という報告と、父親の育児参加は母親の夫婦満足度と有意な関連を示さない<sup>90)</sup>という相反する報告があるが、父親の育児参加と夫婦関係との関連については、父親の家事育児参加だけでなく、母親の期待水準とのズレの程度を考慮することの有用性も示されており<sup>91)</sup>、母親の期待度や認識を含めて分析する必要があると言える。また、父親の育児参加は夫婦関係を良好にし、そのことが子どもの成長発達を促すこと<sup>92)</sup>や、夫婦関係と幼児の不安定さが関連すること<sup>93)</sup>も報告されており、間接的に子どもの成長発達に影響することが明らかとなっている。

#### 4) 父親の QOL に関する研究

父親の QOL に関する報告は国内外ともに少ない。諸外国においては Chen ら<sup>94)</sup>により育児と QOL は正の関連があることが報告されているが、その他の多くはガンなどの病気や障害をもつ子どもの親を対象としたものであり、健常児の親を対象とした研究はほとんど報告されていない。さらに国内では父親の育児参加が家族への貢献感を経て健康 QOL を高める可能性を示した朴ら<sup>95)</sup>による報告のみである。

このように、父親の育児参加は子どもや母親、夫婦関係に影響を与えることが明らかになっているが、先行研究の調査の回答者は母親であることが多く、父親自身の回答によるものは少ない。さらに、父親自身については親性の発達という視点以外に、QOL などのポジティブな視点を含んだ報告は少ない。

父親の育児参加と QOL との関連の先行研究は十分ではなく、さらに、夫婦関係を含めた構造的な関連は明らかになっていない。

育児参加と夫婦の関係性を含んだ父親の QOL の関連構造が明らかになることは、父親を支援する上で求められる科学的なエビデンスが明らかになることであり、その意義は高いと言える。



1-6-3 父親および母親の QOL に関する先行研究のまとめ

以上より、母親については QOL の関連要因が明らかになってきているが、単相関での調査報告がほとんどであり、構造的には明らかになっていない。また、父親の QOL 関連要因は、諸外国では障害児や疾病をもつ子どもの父親の研究が見られるが、健康な子どもをもつ父親についてはまだ明らかになっていないといえない。さらに国内においては父親研究の件数自体が少なく、QOL に関する報告は 1 件のみであり、その関連要因はまだ明らかにはなっていない。

また、父親の家事育児役割については、母親や父親自身の QOL にどのように関連しているかは明確にはなっていない。

母親に関する先行研究からは、QOL は夫婦関係やソーシャルサポート、社会経済的要因、SOC と関連していることが報告されているが、これらの要因は構造的には明らかになっていない。

夫婦関係やソーシャルサポート、社会経済的要因、SOC、父親の家事育児役割といったさまざまな要因がどのように構造的に関連しているのかについて明らかにすることは、QOL 向上につながるための、優先性を考慮した望ましい支援につながると考えられる。

2 研究の概念枠組み

本研究では「乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル」を概念枠組みとして用いた。このモデルは、ICF の視点と先行研究を参考に作成したものである。

本研究概念枠組みである「乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル」では乳幼児を育てる親の支援環境として、ソーシャルサポート、夫婦の関係性を用い、生活満足感や充実感、主観的健康感からなる QOL をファイナルゴールとして設定した。さらに、先行研究を参考に、子育て認識や自己認識、家事育児役割、夫婦の満足感が QOL と関連すると仮説を立て、支援環境と QOL の間に位置付けた。また、学歴や収入といった社会経済的要因および SOC は、ICF モデルでは背景因子の中の個人因子に含まれ、モデルの基盤になると考えられる。そのため、社会経済的要因と SOC を支援環境と同様に、「乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル」の基盤に位置付けた。

すなわち、本モデルは、ICF モデルの基盤となる「環境因子」「個人因子」に支援環境や社会経済的要因、SOC を位置づけ、「参加」「活動」に、自己認識や家事育児役割を用い、それらが相互に関連し、QOL に関連するのではないかとする仮説に基づいたモデルである。

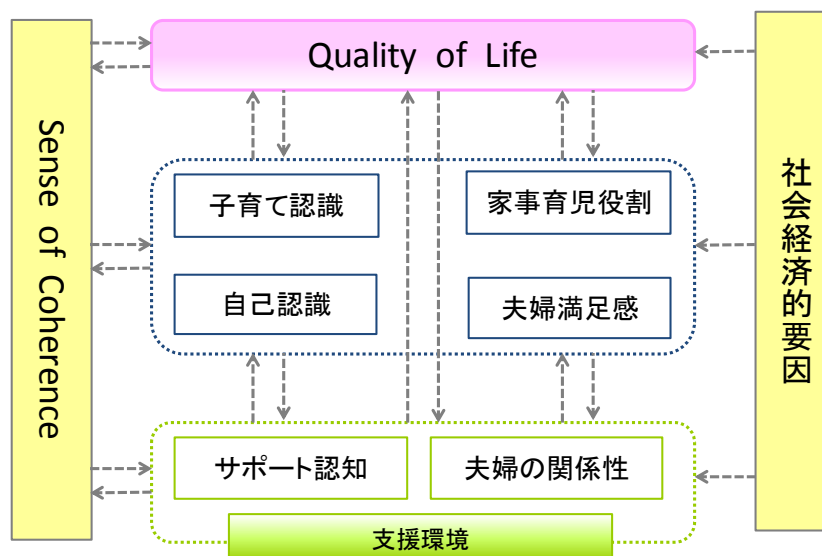


図 1-10 本研究の概念枠組み（仮説モデル）

3 本論文の目的

本論文の目的は、QOL と支援環境、家事育児役割、認識、SOC、社会経済的要因との関連および因果を総合的かつ構造的に明らかにすることである。そのために、WHO が示した健康状態を環境との関係で捉える国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF) を研究基盤モデルとし、「乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル」(研究概念枠組み) を作成し、第 II 章以降において、以下の点について追究する。

まず、乳幼児を育てる母親のサポート認知と母親の自己認識及び子育て認識、QOL との関連構造を明らかにする。次に、乳幼児を育てる母親の SOC とサポート認知、自己認識及び子育て認識に関する追跡調査を実施し、その因果構造を明らかにする。さらに、乳幼児を育てる父親及び母親の夫婦の関係性や夫婦満足感、父親の家事育児役割と QOL との関連構造を明らかにする。また、得られた関連及び因果構造について、父親や母親の社会経済的要因による差異について明らかにする。

さらに、その研究結果に基づいて、QOL 向上につながる新しい子育て支援の方向性と展望を考察することを本論文の目的とする。

#### 4 研究の意義

社会構造が変化した中でも乳幼児を育てる父親母親が充実した子育て生活を送ることができるような支援が求められている。そこで、本研究の意義は、

- 1) QOL とサポート認知、母親の認識との関連を構造的に明らかにできる。
- 2) SOC および社会経済的要因が母親の QOL に与える影響が明らかにできる。
- 3) 父親の家事育児役割や夫婦関係が父親自身および母親の QOL に与える影響について明らかにできる。
- 4) 上記の 1) から 3) が明らかになることにより、母親、父親の QOL の関連要因の構造が明確になり、父親、母親の QOL の維持向上につながる子育て支援方法の検討の一助となる。
- 5) QOL を規定する基盤や、優先性が明らかになることで、優先性を考慮した有効な子育て支援の方法に寄与しうることが期待できる。

5 用語の操作的定義

本論文で用いる用語について、以下のように定義する。

- 1) **Quality of life (QOL)** とは、生活におけるよりよい状態のことと捉え、本論文では生活満足感や充実感、主観的健康感と定義する。
- 2) 支援環境とは、本論文においては配偶者や親族、近隣や友人による情緒的、手段的支援のある環境と定義する。
- 3) 社会経済的要因とは、学歴及び収入、就労と定義する。
- 4) **Sense of Coherence** とは、前述した **Comprehensibility**、**Manageability**、**Meaningfulness** の3つの下位概念を含んだストレス対処力と定義する。

6 研究の全体像

本論文の構成は図 1-7 の通りである。

第 I 章の序論では、研究背景について述べ、第 II 章では「乳幼児を育てる母親のサポート認知と認識、QOL との関連構造」について、第 III 章では「乳幼児を育てる母親の SOC とサポート認知、QOL との因果構造」について、第 IV 章では「夫婦の関係性、父親の家事育児役割と QOL との関連構造」について、第 V 章では第 I 章から第 IV 章までの科学的エビデンスを踏まえ、新しい子育て支援の方向性と展望について論じる。

<b>I 章</b>	研究背景・研究意義・研究目的	
<b>II 章</b>	乳幼児を育てる母親のサポート認知と認識、QOL との関連構造	横断研究
<b>III 章</b>	乳幼児を育てる母親の SOC とサポート認知、QOL との因果構造	縦断研究
<b>IV 章</b>	夫婦の関係性、父親の家事育児役割と QOL との関連構造	横断研究
<b>V 章</b>	新しい子育て支援の方向性と展望 -QOL の向上につながる支援-	

図 1-11 論文構成

参考文献（第I章）

- 1)厚生労働省．人口動態統計．2013.
- 2)内閣府．平成24年度少子化の状況及び少子化への対処施策の概況（子ども・子育て白書平成25年版）．2013.
- 3)厚生労働省．平成24年国民生活基礎調査．2013.
- 4)厚生労働省．健やか親子21．2000.
- 5)矢澤澄子，国広陽子，天童綾子．若い父親の「アイデンティティ」－子育てのジレンマ－．都市環境と子育て．東京：勁草書房．2002；77-96.
- 6)荒牧美佐子，無藤隆．育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違い－未就学児を持つ母親を対象に．発達心理学研究 2008；19(2)：87-97.
- 7)Benesse 教育研究開発センター．第3回子育て生活基本調査報告書幼児版．東京：2008；92-112.
- 8)目良秋子，柏木恵子．育児期女性の生活・家族感情－学歴と就労との関連から－．発達研究 2005；19；113-124.
- 9)山村文．幼児を持つ母親の生活満足感とソーシャルサポートの関連性について．帝京大学心理学紀要 2005；9：73-92.
- 10)WHO. Bangkok Chapter. 2005.
- 11)藤内修二．育児支援ネットワークの構築に向けて－ヘルスプロモーションを推進する立場から－．小児保健研究 2004；63(2)：114-117.
- 12)内閣府共生社会政策少子化対策．「子ども・子育てビジョン」について～子どもの笑顔があふれる社会のために～．2010.
- 13)厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課．こんにちは赤ちゃん事業のあり方と保健師への期待 保健師ジャーナル 2009；65(5)：348-353.
- 14)中板育美．こんにちは赤ちゃん事業・育児支援訪問事業成功のポイント－子どもにも親にも地域にも、やさしく温かいサービスとして根づきますように－．保健師ジャーナル 2009；65(5)：348-353.
- 15)厚生労働省．地域子育て拠点事業について．2007.
- 16)内閣府男女共同参画局．男女共同参画白書平成25年版．2013.
- 17)Antonovsky A. Unraveling the mystery of health: How people manage stress and stay well. Jossey-Bass Publishers.1987.山崎

- 喜比古(監訳). 健康の謎を解くストレス対処と健康保持のメカニズム. 東京: 有信堂. 2001.
- 18)小田博志. サリュートジェネシスと心身医学. 心身医学 1999; 39(7): 507-513.
- 19)山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 坂野純子. ストレス対処能力 SOC. 東京: 有信堂. 2008.
- 20)Antonovsky A. The structure and properties of the Sense of Coherence scale. Social Science and Medicine 1993; 36: 725-733.
- 21)Yusuke T., Mikiko H., Kazuyo U., et al. 日本の研究学園都市の労働者における首尾一貫感覚とストレス対処プロフィールとの関連. Industrial Health 2009; 47(6): 664-672.
- 22)戸ヶ里泰典, 山崎喜比古. ストレス対処能力 SOC の社会階層間格差の検討 20~40歳の若年者を対象とした全国サンプル調査から. 社会医学研究 2009; 26(2): 45-52.
- 23)山本武志, 阿部愛美, 福代亜矢子, 他. 中学校・高校時代の友人関係が大学生のストレス対処能力 SOC に与える影響. Campus Health 2010; 47(2): 174-189.
- 24)戸ヶ里泰典, 小手森麗華, 山崎喜比古, 他. 高校生における Sense of Coherence の関連要因の検討小・中・高の学校生活各側面の回顧的評価と SOC の 10 カ月間の変化パターンとの関連性. 日本健康教育学会誌 2009; 17(2): 71-86.
- 25)藤里紘子, 小玉正博. 首尾一貫感覚 (Sense of Coherence) とストレス反応、および対処法略との関連. ヒューマンケア研究 2009; 10(1): 23-33.
- 26)Manor Binyamini I. Mother of children with developmental disorders in the Bedouin community in Israel: family functioning, caregiver burden, and coping abilities. J Autism DevDisord 2011; 41(5): 610-617.
- 27) PozoCabanillas P., SarriaAanchez E., Mendez Zaballos L. Stress in mothers of individuals with autistic spectrum disorders. Psicothema 2006; 18(3):342-347.
- 28) Hintermair M. Sense of coherence: a relevant resource in the coping process of mothers of deaf and hard-of-hearing children? J Deaf Stud Deaf Educ. 2004;9(1): 15-26.



- 29) Sjöström H., LangiusEklöf A., Hjertberg R. Well-being and sense of coherence during pregnancy. *Acta Obstet Gynecol Scand.* 2004; 83(12): 1112-1118.
- 30) Hildingsson I., Tingvall M., Rubertsson C. Partner support in the childbearing period- a follow up study. *Women Birth.* 2008; 21(4):141-148.
- 31) Ahlborg T., Berg S., Lindvig J. Sense of coherence in first-time parents: a longitudinal study. *Scand J Public Health.* 2013; 41(6): 623-629.
- 32) Kerstis B., Engström G., Edlund B., et al. Association between mothers' and fathers' depressive symptoms, sense of coherence and perception of their child's temperament in early parenthood in Sweden. *Scand J Public Health.* 2013; 41(3): 233-239.
- 33) Hultala M., Korja R., Lehtonen L., et al. Parental psychological well-being and behavioral outcome of very low birth weight infants at 3 years. *Pediatrics.* 2012; 129(4): 937-944.
- 34) Hultala M., Korja R., Lehtonen L., et al. Parental psychological well-being and cognitive development of very low weight infant at 2 years. *Acta Paediatr.* 2011; 100(12): 1555-1560.
- 35) Gudmundsdottir E., Schirren M., Boman KK. Psychological resilience and long-term distress in Swedish and Icelandic parents' adjustment to childhood cancer. *Acta Oncol.* 2011; 50(3): 373-380.
- 36) Hansson M., Ahlborg T. Quality of the intimate and sexual relationship in first-time parent – a longitudinal study. *Sex Report Healthc.* 2012; 3(1): 21-29.
- 37) 松下年子, 原田美智, 大浦ゆう子. SOC と マタニティブルーズ. 日本保健科学学会誌 2007; 10(1): 5-14.
- 38) 松下年子, 岡部恵子, 小倉邦子, 他. 妊娠中の SOC と QOL. 日本看護学会論文集: 精神看護 2010; 40: 57-59.
- 39) 穴井千鶴, 園田直子, 津田彰. 「自分の生き方」をテーマにした育児期女性への心理的支援 – Sense of Coherence からのアプローチ

- チー．久留米大学心理学研究 2006；5：29-40.
- 40)牧山布美．しょうがい児を育てる親の QOL の経年的変化．川崎医療福祉学会誌 2011；21(1)：41-51.
- 41)The WHOQOL Group. The World Health Organization Quality of Life Assessment (WHOQOL). Position Paper From The World Health Organization. Social Science & Medicine. 1995; 41(10): 1403-1409.
- 42)大橋幸美，浅野みどり，門間晶子，他．1歳6ヶ月の子どもの行動特徴と母親の育児ストレス・QOL・家族機能との関連．家族看護学研究 2012；18(1)：2-12.
- 43)片山理恵，内藤直子，佐々木睦子．乳幼児の母親と父親のソーシャルサポートと子育て観の関係と育児休業利用の実態．香川大学看護学雑誌 2012；16(1)：49-56.
- 44)川村千恵子，田辺昌吾，畠中宗一．乳幼児をもつ母親のウェルビーイングに影響を及ぼす要因属性、子育て支援ニーズならびに充足度からの検討．メンタルヘルスの社会 2010；16：42-52.
- 44)桐野匡史，朴志先，近藤理恵，他．共働き世帯の父親の育児参加と母親の心理的 well-being の関係．厚生指標 2011；58(3)：1-8.
- 45)中村由美子，杉本晃子，澁谷泰秀，他．A町の養育期にある家族の家族機能の特徴．青森県立保健大学雑誌 2005；6(3)：379-389.
- 46)Rapport, CH. Studies in Empowerment: Introduction to the Issues, Prevention in Health service. 1984；3(2/3)：1-8.
- 47)Simmons & Parsons. Empowerment for role alternatives in adolescence. Adolescence. 1983; 18-69: 193-200.
- 48)Gibson CH. A concept Analysis of Empowerment. J AdvNurs. 1991; 16(3): 354-361.
- 49)Hawks JH. Empowerment in nursing education: concept analysis and application to philosophy, learning and instruction. J AdvNurs. 1992; 17(5): 609-618.
- 50)久木田純．エンパワーメントとは何か．現代のエスプリ 1998；376：110-134.
- 51)世界保健機関．ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－東京：中央法規出版．2002.
- 52)渡部月子，星旦二．4ヶ月児をもつ母親の育児不安を規定する要

- 因に関する研究．日本地域看護学会誌 2004；6(2)：47-54.
- 53) 高橋有里．乳児の母親の育児ストレス状況とその関連要因．岩手県立大学看護学部紀要 2007；19：31-41.
- 54) 吉永茂美，岸本長代．乳児をもつ母親の育児ストレス、ソーシャルサポートとストレス反応との関連－初産婦と経産婦との比較から－．小児保健研究 2007；66(6)：767-772.
- 55) 荒木美幸，大石和代，岩城宏子．育児期にある母親に対するソーシャルサポートと育児ストレスとの関連性．長崎大学医療技術短期大学部紀要 2001；14(1)：89-95.
- 56) 新田紀枝，藤岡千秋．幼児を持つ母親の心身の状態とソーシャルサポートとの関係．大阪府立看護大学紀要 1997；13(1)：65-73.
- 57) 加藤孝士．母親の主観的幸福感とソーシャルサポートの関係－最も関わる人物からのサポート－．小児保健研究 2008；67(1)：57-62.
- 58) 藤井加那子，永井利三郎．育児期にある母親の育児満足感に影響する因子－子育て不安の認識の有無による違い－．小児保健研究 2008；67(1)：10-17.
- 59) 及川郁子，小田切房子，久保恭子．乳幼児をもつ親の生活満足度－夫の育児協力・家事協力の影響－．日本赤十字武蔵野短期大学紀要 2006；19：91-102.
- 60) 小池はるか，大谷範子，池畠美知子，他．9か月児の母親の精神的健康に影響を与える要因の検討．小児保健研究 2009；68(4)：439-445.
- 61) 金娟鏡．就業形態、学歴と子育て観が母親役割行動に及ぼす影響－幼児の母親を対象にした日韓比較－．家庭教育研究所紀要 2007；29：29-37.
- 62) Olsson MB., Hwang CP. Socioeconomic and psychological variables as risk and protective factors for parental well-being in families of children with intellectual disabilities. J Intellect Disabli Res. 2008; 52(12): 1002-1113.
- 63) 永久ひさ子．専業主婦における子どもの位置と生活感情．母子研究 1995；16：50-57.
- 64) 柏木恵子著．家族心理学 社会変動・発達・ジェンダーの視点 東京：東京大学出版会．2003；219-220.
- 65) 山本真理子編著．現代の若い母親たち：夫・子ども・生活・仕事．

- 東京：新曜社．1997．
- 66)Koeske G.F., Koeske R.D.The buffering effect of social support on parental stress, *American Journal of Orthopsychiatry*1990; 60(3): 440-451.
- 67)Mathiesen K.S., Tambs K.,Dalgard O.S.The influence of social class, strain and social support on symptoms of anxiety and depression in mothers of toddlers. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology*. 1999; 34(2): 61-72.
- 68)柏木恵子, 若松素子. 「親となる」ことによる人格発達：生涯発達の視点から親を研究する試み. *発達心理学研究* 1994 ; 5(1) : 61-74.
- 69)斧出節子. 男性の家庭志向と仕事志向—家庭志向の意味するもの— . 育児をめぐるジェンダー関係とネットワークに関する実証研究平成 13-14 年度科学研究費補助金研究成果報告書 2003 ; 38-47.
- 70)LaRossa R. Fatherhood and social change. *Family Relations* 1988; 37: 451-457.
- 71)冬木春子. 父親の育児ストレス. 大和礼子, 斧出節子, 木脇奈智子編. *男の育児 女の育児—家族社会学からのアプローチ*. 京都：昭和堂. 2008 ; 137-160.
- 72)袖井孝子, 岡村清子, 長津美代子, 他著. *共働き家族*. 東京：家政教育社. 1993 ; 87-112.
- 73)藤原千恵子, 日隈ふみ子, 石井京子. 父親の育児家事行動に関する横断的研究. *小児保研究* 1997 ; 56(6) : 794-800.
- 74)川上あずさ, 牛尾禮子. 父親の育児に対する役割要因に関する要因とその支援方略. *小児保健研究* 2008 ; 67(3) : 496-503.
- 75)石井クンツ昌子. 父親の役割と子育て参加—その現状と規定要因、家族への影響について—. *季刊家計経済研究* 2009 ; 81 : 16-23.
- 76)大和礼子. 「父親の育児」の規定要因と実態. 大和礼子, 斧出節子, 木脇奈智子編. *男の育児 女の育児—家族社会学からのアプローチ*. 京都：昭和堂. 2008 ; 15-16.
- 77)Ishii-Kuntz M., K Makino., K Kato., et al. Japanese fathers of preschoolers and their involvement in child care. *Journal of Marriage and Family*. 2004; 66: 779-791.
- 78)岩井紀子, 稲葉昭英. 家事に参加する夫、しない夫. 盛山和夫編.

- 日本の階層システム 4 ジェンダー・市場・家族. 東京：東京大学出版会. 2000；193-215.
- 79)永井暁子. 父親の家事育・育児遂行の要因と子どもの家事参加への影響. 季刊家計経済研究 2001；49：44-53.
- 80)永井暁子. 男性の育児参加. 渡辺秀樹，稲葉昭英，嶋崎尚子編. 現代家族の構造と変容－全国家族調査 NFRJ98 による計量分析. 東京：東京大学出版会. 2004；190-200.
- 81)坂本和靖. 両立支援制度が男性の生活時間配分に与える影響. 樋口美雄，府川哲夫編. ワークライフバランスと家族形成. 東京：東京大学出版会. 2011；218-219.
- 82)石井クンツ昌子. 父親の役割と子育て参加－その現状と規定要因、家族への影響について－. 季刊家計経済研究 2009；81：16-23.
- 83)O'Brien, M. Ian S. Working fathers: Earning and Caring, research discussion series, equal opportunities commission. 2003.
- 84)Aldous J., Mulligan G.M. Fathers' Child Care and Children's Behavior Problems. Journal of Family Issues. 2002；23：624-647.
- 85)加藤邦子，石井クンツ昌子，牧野カツコ，他. 父親の育児かわり及び母親の育児不安が3歳児の社会性に及ぼす影響－社会的背景の異なる2つのコホート比較から－. 発達心理学研究 2002；13：30-41.
- 86)細野久容. 乳幼児の母親を支える環境について－ソーシャルサポート、サポート源への母親の評価と育児満足度との関連について－. 乳幼児医学・心理学研究 2004；13(1)：41-55.
- 87)小林佐和子. 乳幼児をもつ母親のソーシャルサポートと抑うつ状態との関連. 小児保健研究 2008；67(1)：96-101.
- 88)荒牧美佐子. 育児への否定的・肯定的感情とソーシャルサポートとの関連－ひとり親・ふたり親の比較から－. 小児保健研究 2005；64(6)：737-744.
- 89)末盛慶，石原邦雄. 夫の家事遂行と妻の夫婦関係満足感－NSFH (National Survey of Families and Households) を用いた日米比較－. 人口問題研究 1998；54(3)：39-55.
- 90)李基平. 夫の家事参加と妻の夫婦関係満足度－妻の夫への家事参加期待とその充足度に注目して－. 家族社会学研究 2008；

- 20(1) : 70-80.
- 91)中川まり．夫の家事・育児参加と夫婦関係－乳幼児をもつ共働き夫婦に関する研究－．家庭教育研究所紀要 2008 ; 30 : 97-109.
- 92)尾形和男．父親についての研究（VI）－共働き家庭における母親の育児に対する父親の協力と子どもの精神発達－．国際学院埼玉短期大学研究紀要 1993 ; 14 : 23-32.
- 93)Brook JS., Brook DW., Whiteman M. Maternal correlates of toddler insecure and dependent behavior. J Genet Psychol. 2003; 164(1): 72-87.
- 94)Chen YC., Chie WC., Chang PJ., et al. Is infant feeding pattern associated with father's quality of life? Am J Mens Health. 2010; 4(4): 315-322.
- 95)朴志先，金潔，近藤理恵，他．未就学児の父親における育児参加と心理的ウェルビーイングとの関係．日本保健科学会誌 2011 ; 13(4) : 160-169.

## 第II章

---

乳幼児を育てる母親のサポート認知と  
認知、Quality of Life との関連構造

## 1 研究の背景

近年、少子化や核家族の増加、都市化による近隣の人間関係の希薄化による、家庭や地域における子育て機能の低下や、親の孤立、子育て不安の増大、虐待の増加が社会問題になっている。そのような社会問題を受け、現在までに、子育て不安などの子育てに関するネガティブな認識に焦点を当てた研究が数多くなされ、子育て不安の要因や、ソーシャルサポートとの関連が明らかになっている<sup>1~6)</sup>。一方、母親のポジティブな認識に焦点を当てた研究として、加藤<sup>7)</sup>は母親の主観的な幸福感に着目し、ソーシャルサポートとの関係を調査し、母親の主観的幸福感には情緒的なサポートが影響し、第2子以降はその傾向が顕著であることを明らかにした。また藤井ら<sup>8)</sup>は、子育て不安の有無別に、育児満足感との関連を調査し、不安あり群と不安なし群では、人的サポートに有意な差が見られたことを報告している。さらに、及川ら<sup>9)</sup>は、母親の生活満足度の関連要因としてパートナーのサポート、母親の被養育体験との関係について調査し、パートナーの行動面でのサポートが重要な要素であることを明らかにしている。これらはパートナーをはじめとするソーシャルサポートが母親のポジティブな認識に影響を与えていることを示唆している。一方、高らはソーシャルサポートと生活満足感との関連について調査し、その結果、母親の就業の有無により、母親の生活満足感にプラスもしくはマイナスの異なる影響を与えることが報告されている<sup>11)</sup>。

このように、先行研究の多くは、子育てに関する認識としてはネガティブな認識に焦点を当てたもの、親の認識としてポジティブな認識に焦点を当てたものであり、いずれもソーシャルサポートとの関連が報告されてきた。しかしながら、子育てに関する認識とは、子どもの成長やその時々のある出来事などにより、一人の母親の中にポジティブ、ネガティブ双方の認識が存在するものである。さらに、子育ては子どもの成長だけでなく、親も成長していく過程であり、ポジティブ、ネガティブ双方の思いを持ちながらも、最終的に親の自己成長につながるような支援が求められていると考えられる。しかし、ポジティブ、ネガティブ双方のいずれをも含んだ親の子育てに関する認識とソーシャルサポート、親の生活満足感との関連を構造的に明らかにした先行研究は報告されていない。

また、先行研究では母親の子育てに関する認識には、子どもの順



位や母親の属性、父親のサポートの状況と関連していることが報告されているが、構造的・総合的に分析したものは報告されていない。さらに従来の研究では、母親の社会経済的要因としては母親の就労の有無を扱ったものは多い。しかし、母親の学歴により、子育てにおける対処の仕方を左右するという報告<sup>12)</sup>や、母親の学歴により子育てにおける不安の兆候が異なるという報告<sup>13)</sup>もあり、仕事の有無だけでなく、母親の学歴や年間収入などの社会経済的要因を分析していくことの必要性もあると言えるだろう。

女性の高学歴化や社会進出が多くなり、女性のライフサイクルが多様化している現代において、社会経済的要因を含んだ QOL の関連構造を明らかにすることは、女性として、母親として充実した生活を送ることができる支援を検討するための科学的エビデンスになると考えられ、その意義は高いと考えられる。

2 研究の目的

乳幼児を育てる母親のサポート認知と母親の自己及び子育て認識、QOL との関連を明らかにするとともに、有効な子育て支援を検討する際の基礎資料を得ることである。

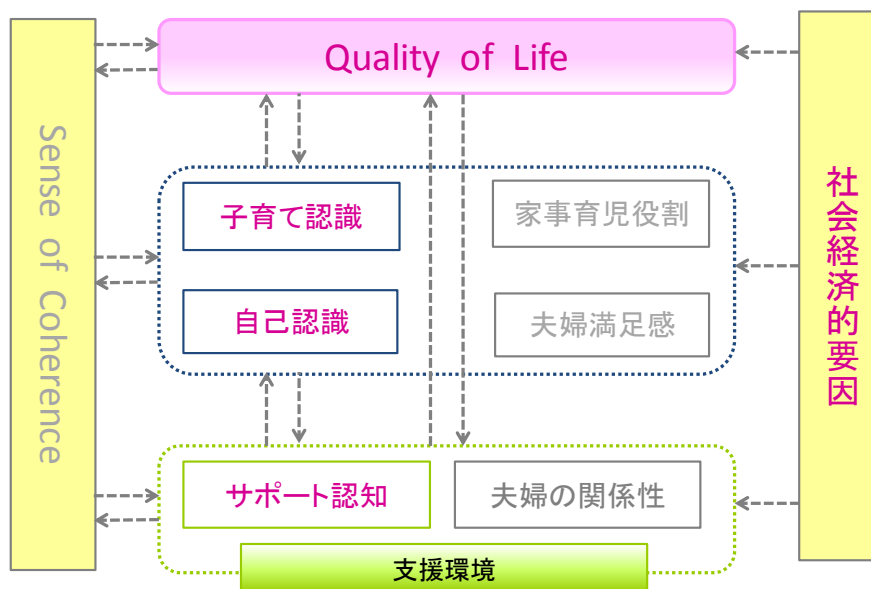


図 2-1 第Ⅱ章仮説モデル  
(赤字部分が本章で明らかにする点)

### 3 研究の方法

#### 3-1 調査対象

A市S区幼稚園園児の母親361名、B市6～7ヶ月児健康診査来所の母親269名の計630名である。

#### 3-2 調査の方法および時期

2010年2～6月に自記式質問紙調査を実施した。

A市においては、幼稚園教諭から手渡しで配布してもらい、郵送にて回収した。B市においては、健康診査時、研究者から手渡しで配布し、留置き法もしくは郵送にて回収した。

#### 3-3 調査項目

調査項目は、1) 子どもの属性、2) 母親の属性、3) 父親の属性、4) サポート認知得点、5) 子育てに関する認識、生活満足感、自己肯定感、主観的健康感に関する項目とした。

1) 子どもの属性に関する項目は、年齢と出生順位とした。

2) 母親の属性に関する項目は、年齢と仕事の有無、最終学歴、子育て支援サービス利用の有無を設定した。最終学歴の選択肢は、中学校、高等学校、専門学校、短期大学以上、答えたくないとした。

3) 父親の属性は年齢、帰宅時間、休日数、世帯の年間収入とした。帰宅時間は、平均の平均的な帰宅時間を記入してもらった。休日は、「ひと月あたりの休日数」を尋ね、選択肢を月8回、月6回、月4回、不定期、休みなしとした。世帯の年間収入は、250万円以下、250から400万円以下、400から600万円以下、600万円以上、答えたくないから選択してもらった。

4) サポート認知得点は、宗像<sup>14)</sup>のソーシャルサポート尺度(13項目4件法)を用い、パートナー、パートナー以外の親族、近隣友人それぞれについて、とてもそう思う4点、そう思う3点、あまりそう思わない2点、思わない1点で得点を算出した(総得点39-156点)。得点が高いほど、多くのサポートがある、すなわちサポート認知が高いとした。

5) 子育てに関する認識は川井ら<sup>15)</sup>の尺度を参考に8項目(「育児に自信が持てない」「子どもをうまく育てている」「子どもを育てることが負担に感じられる」「自分の子どもは育てやすいと思う」「子育てがなければどんなに自由だろう」「子育てによって人生は充実し

ている」「子どもの成長とともに自分も成長する」「子育ては楽しい」、生活満足感<sup>10)</sup>は加藤<sup>10)</sup>の尺度を参考に4項目(「日々の生活の中で生きる喜びや充実感を味わっている」「日々の生活の中に打ち込めるものがある」「日頃、張りのある生活を送っている」「今の生活に満足している」、自己肯定感<sup>16)</sup>は self-esteem 尺度<sup>16)</sup>を参考に7項目(「だいたいにおいて自分に満足している」「自分には良いところがたくさんあると思う」「時々、全く自分が役立たずだと感じる」「少なくとも人と同じくらいの価値はある人間だと思う」「もう少し自分を尊敬できたらいいと思う」「だいたい自分は何をやってもうまくいかない人間のように思える」「すべてをよい方に考えようとする方である」、主観的健康感1項目(「健康である」)を設定した。とてもそう思う4点、そう思う3点、あまりそう思わない2点、思わない1点とした。「育児に自信がもてない」「子どもを育てることが負担に感じられる」「子育てがなければどんなに自由だろう」「時々、自分が役立たずだと感じる」「もう少し自分を尊敬できたらいいと思う」「だいたい自分は何をやってもうまくいかない人間のように思える」の逆転項目については、とてもそう思う1点、そう思う2点、あまりそう思わない3点、思わない4点とし、得点が高いほどよい状態になるよう、統計処理を行った。

### 3-4 分析方法

探索的因子分析により抽出された因子を参考に、潜在変数を命名し、概念モデルを設定し、共分散構造分析を用いて、構造的・総合的な分析を行った。分析には、SPSSver.19.0、Amosver.19.0を用いた。

### 3-5 倫理的配慮

調査票には、研究目的、プライバシーの保護、結果の公表を明記し、調査票は無記名とした。調査票配布の際、文書および口頭にA市には文書による説明を行い、研究への参加意思は対象者が調査票を返信することで了承されたものとみなした。

本研究は、首都大学東京研究安全倫理委員会の承認(承認番号 22-12)を得て行った。

#### 4 結果

A 市、B 市合わせて、630 人に配付し、354 人から回収が得られた(回収率 56.2%)。そのうち不備が多いものを除いた 349 人を分析対象とした(有効回答率 98.6%)。

##### 4-1 対象者の属性

対象者の属性は下記の通りである。

##### 4-1-1 子どもの属性(表 2-1)

子どもの属性は表 2-1 に示す通りである。

##### 1) 子どもの性別

A 市では男児 86 人(50.6%)、女児 84 人(49.4%)、B 市では男児 95 人(53.1%)、女児 83 人(46.4%)であった。全体では、男児 181 人(51.9%)、女児 167 人(47.9%)であった。

##### 2) 子どもの年齢

A 市の平均年齢は 4.2(SD0.8)歳、B 市は 0 歳、全体は 2.1(SD2.2)歳であった。全体の内訳は 0 歳児 179 人(51.3%)、3 歳児 35 人(10.0%)、4 歳児 58 人(16.6%)、5 歳児 75 人(21.5%)、不明 1 人(0.3%)であった。

##### 3) 子どもの順位

子どもの順位は、A 市では第 1 子 74 人(43.5%)、第 2 子以降第 1 子 96 人(56.5%)、B 市では第 1 子 83 人(46.4%)、第 2 子以降 93 人(51.9%)であった。全体では第 1 子 157 人(45.0%)、第 2 子 144 人(41.3%)、第 3 子 37 人(10.6%)、第 4 子 5 人(1.4%)、第 5 子 2 人(0.6%)、第 7 子 1 人(0.3%)であった。

表 2-1 子どもの属性

		全体 (n=349)		A市 (n=170)		B市 (n=179)	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)
性別	男児	181	(51.9)	86	(50.6)	95	(53.1)
	女児	167	(47.9)	84	(49.4)	83	(46.4)
	不明	1	(0.3)	0	(0.0)	1	(0.6)
年齢	平均	2.1±2.2歳		4.2±0.8歳		0±0.0歳	
	0歳		(45.0)	0	(0.0)	179	(100.0)
	3歳		(45.0)	35	(20.6)	0	(0.0)
	4歳		(45.0)	58	(34.1)	0	(0.0)
	5歳		(45.0)	75	(44.1)	0	(0.0)
	不明		(45.0)	2	(1.2)	0	(0.0)
	順位	1人目	157	(45.0)	74	(43.5)	83
2人目		144	(41.3)	77	(45.3)	67	(37.4)
3人目		37	(10.6)	14	(8.2)	23	(12.8)
4人目		5	(1.4)	3	(1.8)	2	(1.1)
5人目		2	(0.6)	2	(1.2)	0	(0.0)
6人目		0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)
7人目		1	(0.3)	0	(0.0)	1	(0.6)
不明		3	(0.9)	0	(0.0)	3	(1.7)

4-1-2 母親の属性（表 2-2）

母親の属性は表 2-2 に示す通りである。

1) 母親の年齢

A 市では平均年齢 37.2(SD3.9)歳、中央値 37 歳、最年少 25 歳、最高齢 47 歳であった。B 市では平均年齢 30.9(SD4.7)歳、中央値 31 歳、最年少 20 歳、最高齢 45 歳であった。全体では、平均年齢 34.0(SD5.3)歳、中央値 34 歳、最年少 20 歳、最高齢 47 歳であった。

2) 就労の有無

A 市では就労ありの人は 32 人(18.8%)、就労なしの人は 138 人(81.2%)、B 市では就労ありの人は 73 人(40.8%)、就労なしの人は 106 人(59.2%)であった。全体では、就労ありの人は 105 人(30.1%)、就労なしの人は 244 人(69.9%)であった。

3) 最終学歴

A 市では、中学校卒業 1 人(0.6%)、高等学校卒業は 40 人(23.5%)、専門学校以上卒業は 121 人(71.2%)であった。B 市では、中学校卒業は 8 人(4.5%)、高等学校卒業は 66 人(36.9%)、専門学校以上卒業者は 103 人(57.6%)であった。全体では、中学校 9 人(2.6%)、高等学校 106 人(30.4%)、専門学校以上卒業は 224 人(64.2%)、答えたくない 7 人(2.0%)、不明 3 人(0.9%)であった。

4) パートナー(配偶者)と合わせた世帯の年間収入

A 市では 250 万円未満 4 人(2.4%)、250~400 万円未満 23 人(13.5%)、400~600 万円未満 51 人(30.0%)、600 万円以上 73 人(42.9%)であった。B 市では、250 万円未満 10 人(5.6%)、250~400 万円未満 52 人(29.1%)、400~600 万円未満 67 人(37.4%)、600 万円以上は 36 人(20.1%)であった。全体では、250 万円未満 14 人(4.0%)、250~400 万円未満 75 人(21.5%)、400~600 万円未満 118 人(33.8%)、600 万円以上 109 人(31.2%)、答えたくない 14 人(4.0%)であった。

5) 子育て支援サービス利用の有無

サービス利用あり 306 人(87.7%)、利用なし 43 人(12.3%)であった。A 市の内訳は、利用あり 158 人(92.9%)、利用なし 12 人(7.1%)であった。

6) 子育て支援サービスの内訳(複数回答)

A市では、サービス利用ありと回答した人は、158人(92.9%)、その内訳で最も多かったのは園庭開放 176人(50.4%)、次いで家庭訪問 85人(50.0%)、子育てサークル(45.9%)であった。B市では、サービスの利用ありと回答した人は、148人(82.7%)、その内訳で最も多かったのは、家庭訪問 86人(48.0%)、次いで園庭開放 43人(24.0%)、育児教室 42人(23.5%)、インターネット 37人(20.7%)であった。全体では、サービス利用ありと回答した人は 306人(87.7%)であり、その内訳は、家庭訪問 171人(49.0%)、電話相談 35人(10.0%)、育児教室 81人(23.2%)、園庭開放 176人(50.4%)、つどいの広場 44人(12.6%)、インターネットの子育てサイト 85人(24.4%)、子育てサークル 88人(25.2%)、ファミリーサポート 14人(4.0%)であった。



表 2-2 母親の属性

		全体 (n=349)		A市 (n=170)		B市 (n=179)	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)
平均年齢		34.0±5.3(20-47)		37.2±3.9(25-47)		30.9±4.7(20-45)	
就労の有無	就労あり	105	(30.1)	32	(18.8)	73	(40.8)
	就労なし	244	(69.9)	138	(81.2)	106	(59.2)
最終学歴	中学校	9	(2.6)	1	(0.6)	8	(4.5)
	高等学校	106	(30.4)	40	(23.5)	66	(36.9)
	専門学校	67	(19.2)	33	(19.4)	34	(19.0)
	短大大学以上	157	(45.0)	88	(51.8)	69	(38.6)
	答えたくない	7	(2.0)	7	(4.1)	0	(0.0)
	不明	3	(0.9)	1	(0.6)	2	(1.1)
年間収入 (世帯)	250万円以下	14	(4.0)	4	(2.4)	10	(5.6)
	250~400万円未満	75	(21.5)	23	(13.5)	52	(29.1)
	400~600万円未満	118	(33.8)	51	(30.0)	67	(37.4)
	600万円以上	109	(31.2)	73	(42.9)	36	(20.1)
	答えたくない	14	(4.0)	12	(7.1)	2	(1.1)
	不明	19	(5.4)	7	(4.1)	12	(6.7)
サービス利用	あり	306	(87.7)	158	(92.9)	148	(82.7)
	なし	43	(12.3)	12	(7.1)	31	(17.3)
[サービス利用の内訳]							
	家庭訪問	171	(49.0)	85	(50.0)	86	(48.0)
	電話相談	35	(10.0)	23	(13.5)	12	(6.7)
	育児教室	81	(23.2)	39	(22.9)	42	(23.5)
	園庭開放	176	(50.4)	133	(78.2)	43	(24.0)
	つどいの広場	44	(12.6)	37	(21.8)	7	(3.9)
	インターネット	85	(24.4)	48	(28.2)	37	(20.7)
	子育てサークル	88	(25.2)	78	(45.9)	10	(5.6)
	ファミリーサポート	14	(4.0)	6	(3.5)	8	(4.5)
	その他	8	(2.3)	8	(4.7)	0	(0.0)

#### 4-1-3 父親の属性

父親の属性は表 2-3 に示すとおりである。

##### 1) 父親の年齢

A 市では平均年齢 39.2(SD4.6)歳、中央値 39 歳、最年少 27 歳、最高齢 53 歳であった。B 市では平均年齢 33.1(SD5.6)歳、中央値 33 歳、最年少 20 歳、最高齢 48 歳であった。全体では、平均年齢 36.0(SD6.0)歳、最年少 20 歳、最高齢 53 歳であった。

##### 2) 就労の有無

A 市では就労ありの人は 170 人(100.0%)、B 市では就労ありの人は 176 人(98.3%)、就労なしの人は 2 人(1.1%)であった。全体では、就労ありの人は 346 人(99.1%)、就労なしの人は 2 人(0.6%)であった。

##### 3) 不規則勤務の有無

不規則勤務ありの人は A 市では 41 人(24.1%)、B 市では 43 人(24.0)であった。全体では、不規則勤務ありの人は 84 人(24.1%)であった。不規則勤務のうち、夜勤ありの人は、A 市では 22 人(53.7%)、B 市では 30 人(69.8%)、全体では 52 人(61.9%)であった。

##### 4) ひと月あたりの休日数

A 市では月 8 回 104 人(61.2%)、月 6 回 27 人(15.9%)、月 4 回 21 人(12.4%)、不定期 15 人(8.8%)、休みなし 1 人(0.6%)であった。B 市では月 8 回 72 人(40.2%)、月 6 回 50 人(27.9%)、月 4 回 29 人(16.2%)、不定期 17 人(9.5%)、休みなし 2 人(1.1%)であった。全体では、月 8 回 176 人(50.4%)、月 6 回 77 人(22.1%)、月 4 回 50 人(14.3%)、不定期 32 人(9.2%)、休みなし 3 人(0.9%)、不明 9 人(2.6%)であった。

##### 5) 通勤時間(片道 ; 分)

A 市では、30 分以内 34 人(20.0%)、31~60 分以内 78 人(45.9%)、60~90 分以内 45 人(26.4%)、90 分以上 11 人(6.5%)であった。B 市では、30 分以内 126 人(70.4%)、31~60 分以内 33 人(18.4%)、60~90 分以内 1 人(0.6%)、90 分以上 1 人(0.6%)であった。全体では 30 分以内 160 人(45.8%)、31~60 分以内 111 人(31.8%)、60~90 分

以内 46 人(13.2%)、90 分以上 12 人(3.4%)であった。

6) 帰宅時間

帰宅時間の平均時間は、A 市は 21 時 00 分、B 市は 19 時 16 分、全体では 20 時 12 分であった。帰宅時間の内訳は、A 市では 18 時までが 11 人(6.5%)、18～19 時までが 17 人(10.0%)、19～20 時までが 33 人(19.4%)、20～21 時までが 35 人(20.6%)、21～22 時までが 41 人(24.1%)、22～23 時までが 19 人(11.1%)、23 時以降が 11 人(6.5%)であった。B 市では 18 時までが 46 人(14.7%)、18～19 時までが 26 人(14.5%)、19～20 時までが 27 人(15.1%)、20～21 時までが 24 人(13.4%)、21～22 時までが 7 人(4.0%)、22～23 時までが 2 人(1.1%)、23 時以降が 4 人(2.2%)、不定時 4 人(2.2%)であった。

表 2-3 父親の属性

		全体 (n=349)		A市 (n=170)		B市 (n=179)	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)
平均年齢		36.0±6.0(20-53)		39.2±4.6(27-53)		33.1±5.6(20-48)	
就労の有無	就労あり	346	(99.1)	170	(100.0)	176	(98.3)
	就労なし	2	(0.6)	0	(0.0)	2	(1.1)
	不明	1	(0.3)	0	(0.0)	1	(0.6)
不規則勤務の有無	あり	84	(24.1)	41	(24.1)	43	(24.0)
	[再掲]夜勤あり	52	(61.9)	22	(53.7)	30	(69.8)
	なし	257	(73.6)	128	(75.3)	129	(72.1)
	不明	8	(2.3)	1	(0.6)	7	(3.9)
休日数 (ひと月あたり)	月8日	176	(50.4)	104	(61.2)	72	(40.2)
	月6日	77	(22.1)	27	(15.9)	50	(27.9)
	月4日	50	(14.3)	21	(12.4)	29	(16.2)
	不定期	32	(9.2)	15	(8.8)	17	(9.5)
	休みなし	3	(0.9)	1	(0.6)	2	(1.1)
	不明	9	(2.6)	2	(1.2)	7	(3.9)
	仕事なし	2	(0.6)	0	(0.0)	2	(1.1)
	不明						
通勤時間 (片道；分)	30分以内	160	(45.8)	34	(20.0)	126	(70.4)
	31～60分以内	111	(31.8)	78	(45.9)	33	(18.4)
	61～90分以内	46	(13.2)	45	(26.4)	1	(0.6)
	90分以上	12	(3.4)	11	(6.5)	1	(0.6)
	不明	20	(5.7)	2	(1.2)	18	(10.1)
帰宅時間	平均	20時12分		21時00分		19時16分	
	18時まで	57	(16.3)	11	(6.5)	46	(14.7)
	18～19時まで	43	(12.3)	17	(10.0)	26	(14.5)
	19～20時まで	60	(17.2)	33	(19.4)	27	(15.1)
	20～21時まで	59	(16.9)	35	(20.6)	24	(13.4)
	21～22時まで	48	(13.8)	41	(24.1)	7	(4.0)
	22～23時まで	21	(6.0)	19	(11.1)	2	(1.1)
	23時以降	15	(4.3)	11	(6.5)	4	(2.3)
	不定時	4	(1.1)	0	(0.0)	4	(2.2)
	仕事なし	2	(0.6)	0	(0.0)	2	(1.1)
不明	40	(11.5)	3	(1.8)	37	(20.7)	

4-1-4 居住の状況

居住年数、居住形態、同居者の状況は表 2-4～2-5 に示す通りである。

1) 居住年数

A 市では、1 年未満 10 人(5.9%)、1～5 年 75 人(44.0%)、6～10 年 63 人(37.1%)、11 年以上 18 人(10.6%)、B 市では 1 年未満 11 人(6.1%)、1～5 年 108 人(60.3%)、6～10 年 24 人(13.5%)、11 年以上 25 人(14.0%)であった。全体では 1 年未満 21 人(6.0%)、1～5 年 183 人(52.4%)、6～10 年 87 人(26.0%)、11 年以上 43 人(12.9%)であった(表 2-4)。

2) 居住形態

A 市では、一戸建てに居住している人は 121 人(71.2%)、集合住宅に居住している人は 47 人(27.6%)であった。B 市では、一戸建てに居住している人は 107 人(59.8%)、集合住宅に居住している人は 69 人(38.5%)であった。全体では、一戸建てに居住している人は 228 人(65.3%)、集合住宅に居住している人は 116 人(33.2%)であった(表 2-4)。

表 2-4 居住の状況

		全体 (n=349)		A市 (n=170)		B市 (n=179)	
		人	(%)	人	(%)	人	(%)
居住年数	1 年未満	21	( 6.0)	10	( 5.9)	11	( 6.1)
	1～5年	183	(52.4)	75	(44.0)	108	(60.3)
	6～10年	87	(24.9)	63	(37.1)	24	(13.5)
	11年以上	43	(12.3)	18	(10.6)	25	(14.0)
	不明	5	( 4.3)	4	( 2.4)	11	( 6.1)
居住形態	一戸建て	228	(65.3)	121	(71.2)	107	(59.8)
	集合住宅	116	(33.2)	47	(27.6)	69	(38.5)
	不明	5	(1.4)	2	( 1.2)	3	( 1.7)

3) 同居者の状況

同居の状況は表 2-5 の通りである。

祖父母との同居について、A 市では父方祖父と同居している人は 7 人(4.1%)、父方祖母と同居している人は 8 人(4.7%)、母方祖父と同居している人は 1 人(0.6%)、母方祖母と同居している人は 4 人

(2.4%)であった。B市では父方祖父と同居している人は35人(19.6%)、父方祖母と同居している人は40人(22.3%)、母方祖父と同居している人は11人(6.1%)、母方祖母と同居している人は12人(6.7%)であった。全体では、父方祖父と同居している人は42人(12.0%)、父方祖母と同居している人は48人(13.8%)、母方祖父と同居している人は12人(3.4%)、母方祖母と同居している人は16人(4.6%)であった。

表 2-5 同居者の状況

	全体(n=349)		A市(n=170)		B市(n=179)	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)
父親	345	(98.9)	170	(100.0)	175	(97.8)
母親	348	(99.7)	170	(100.0)	178	(99.5)
父方祖父	42	(12.0)	7	(4.1)	35	(19.6)
父方祖母	48	(13.8)	8	(4.7)	40	(22.3)
母方祖父	12	(3.4)	1	(0.6)	11	(6.1)
母方祖母	16	(4.6)	4	(2.4)	12	(6.7)
兄	113	(32.4)	54	(31.8)	59	(33.0)
姉	79	(22.6)	39	(22.9)	40	(22.3)
弟	44	(12.6)	43	(25.3)	1	(0.6)
妹	27	(7.7)	26	(15.3)	1	(0.6)
その他	4	(1.1)	3	(1.8)	1	(0.6)

4-2 サポート得点

4-2-1 サポート平均得点

サポート合計平均得点を表 2-6 に示す。

A 市の平均得点は、パートナー  $40.6 \pm 8.4$ (range17-52)、パートナー以外の親族  $39.4 \pm 8.0$ (range18-52)、近隣や友人  $33.3 \pm 6.7$ (range14-51)であった。B 市の平均得点は、 $41.6 \pm 8.3$ (14-52)、パートナー以外の親族  $42.3 \pm 7.2$ (range13-52)、近隣や友人  $34.4 \pm 7.8$ (range13-51)であった。全体の平均得点は、パートナーの平均得点は  $41.1 \pm 8.4$ (range14-52)、パートナー以外の親族の平均得点は  $40.9 \pm 7.8$ (range13-52)、近隣友人の平均得点は  $33.9 \pm 7.3$ (range13-51)であった。

表 2-6 サポート平均得点

	全体	A市	B市
パートナー	$41.1 \pm 8.4$ (14-52)	$40.6 \pm 8.4$ (17-52)	$41.6 \pm 8.3$ (14-52)
親族	$40.9 \pm 7.8$ (13-52)	$39.4 \pm 8.0$ (18-52)	$42.3 \pm 7.2$ (13-52)
近隣友人	$33.9 \pm 7.3$ (13-51)	$33.3 \pm 6.7$ (14-51)	$34.4 \pm 7.8$ (13-51)

( ) はrange

#### 4-2-2 サポート源別得点

サポート源別のそれぞれの項目得点を表 2-7~2-9 に示す。

パートナーのサポートで最も平均値が高い項目は、「引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる」(得点  $3.6 \pm 0.7$ )であり、次いで「お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる」(得点  $3.4 \pm 0.8$ )、「あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる」(得点  $3.3 \pm 0.9$ )、「会うと心が落ち着き安心できる」(得点  $3.3 \pm 0.8$ )であった。最も平均値が低い項目は、「常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる」(得点  $2.8 \pm 0.9$ )であった。

パートナー以外の親族で最も平均値が高い項目は、「わからないことがあれば、よく教えてくれる」(得点  $3.4 \pm 0.7$ )であり、次いで「会うと心が落ち着き安心できる」(得点  $3.3 \pm 0.8$ )、「引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる」(得点  $3.3 \pm 0.9$ )、「あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる」(得点  $3.3 \pm 0.7$ )、「あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる」(得点  $3.3 \pm 0.7$ )であった。最も平均値が低い項目は、「家事をやってくれたり、手伝ってくれる」(得点  $2.9 \pm 1.0$ )であった。

友人・近隣で最も平均値が高い項目は、「会うと心が落ち着き安心できる」(得点  $3.3 \pm 0.7$ )であり、次いで「わからないことがあれば、よく教えてくれる」(得点  $3.2 \pm 0.7$ )であった。最も平均値が低い項目は、「経済的に困っている時、頼りになる」(得点  $1.5 \pm 0.7$ )であった。



表 2-7 パートナーのサポート得点

		度数	(%)	平均値
1 経済的に困っている時、頼りになる	4 とてもそう思う	138	(39.5)	3.2±0.8
	3 そう思う	145	(41.5)	
	2 あまり思わない	51	(14.6)	
	1 思わない	13	(3.7)	
2 病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる	4 とてもそう思う	134	(38.4)	3.1±0.9
	3 そう思う	132	(37.8)	
	2 あまり思わない	64	(18.3)	
	1 思わない	16	(4.6)	
3 引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる	4 とてもそう思う	247	(70.8)	3.6±0.7
	3 そう思う	72	(20.6)	
	2 あまり思わない	20	(5.7)	
	1 思わない	5	(1.4)	
4 わからないことがあれば、よく教えてくれる	4 とてもそう思う	141	(40.4)	3.1±0.9
	3 そう思う	122	(35.0)	
	2 あまり思わない	63	(18.1)	
	1 思わない	22	(6.3)	
5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる	4 とてもそう思う	110	(31.5)	2.9±0.9
	3 そう思う	133	(38.1)	
	2 あまり思わない	80	(22.9)	
	1 思わない	26	(7.4)	
6 会うと心が落ち着き安心できる	4 とてもそう思う	179	(51.3)	3.3±0.8
	3 そう思う	120	(34.4)	
	2 あまり思わない	37	(10.6)	
	1 思わない	12	(3.4)	
7 気持ちが通じ合う	4 とてもそう思う	141	(40.4)	3.2±0.8
	3 そう思う	133	(38.1)	
	2 あまり思わない	59	(16.9)	
	1 思わない	15	(4.3)	
8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる	4 とてもそう思う	82	(23.5)	2.8±0.9
	3 そう思う	134	(38.4)	
	2 あまり思わない	99	(28.4)	
	1 思わない	34	(9.7)	
9 あなたを日頃認め、評価してくれる	4 とてもそう思う	109	(31.2)	2.9±0.9
	3 そう思う	137	(39.3)	
	2 あまり思わない	73	(20.9)	
	1 思わない	30	(8.6)	
10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる	4 とてもそう思う	168	(48.1)	3.3±0.9
	3 そう思う	122	(35.0)	
	2 あまり思わない	39	(11.2)	
	1 思わない	20	(5.7)	
11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる	4 とてもそう思う	123	(35.2)	3.0±0.9
	3 そう思う	137	(39.3)	
	2 あまり思わない	62	(17.8)	
	1 思わない	27	(7.7)	
12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる	4 とてもそう思う	168	(48.1)	3.2±0.9
	3 そう思う	119	(34.1)	
	2 あまり思わない	39	(11.2)	
	1 思わない	23	(6.6)	
13 お互いの考えや将来のことなどを話し合えることができる	4 とてもそう思う	190	(54.4)	3.4±0.8
	3 そう思う	106	(30.4)	
	2 あまり思わない	37	(10.6)	
	1 思わない	16	(4.6)	

表 2-8 親族のサポート得点

		度数	(%)	平均値
1 経済的に困っている時、頼りになる	4 とてもそう思う	122	(35.0)	3.1±0.8
	3 そう思う	144	(41.3)	
	2 あまり思わない	58	(16.6)	
	1 思わない	22	(6.3)	
2 病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる	4 とてもそう思う	167	(47.9)	3.2±0.9
	3 そう思う	116	(33.2)	
	2 あまり思わない	44	(12.6)	
	1 思わない	20	(5.7)	
3 引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる	4 とてもそう思う	185	(53.0)	3.3±0.9
	3 そう思う	105	(30.1)	
	2 あまり思わない	34	(9.7)	
	1 思わない	18	(5.2)	
4 わからないことがあれば、よく教えてくれる	4 とてもそう思う	181	(52.2)	3.4±0.7
	3 そう思う	126	(36.3)	
	2 あまり思わない	33	(9.5)	
	1 思わない	7	(2.0)	
5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる	4 とてもそう思う	112	(32.1)	2.9±1.0
	3 そう思う	126	(36.1)	
	2 あまり思わない	67	(19.2)	
	1 思わない	41	(11.7)	
6 会うと心が落ち着き安心できる	4 とてもそう思う	168	(48.1)	3.3±0.8
	3 そう思う	137	(39.3)	
	2 あまり思わない	30	(8.6)	
	1 思わない	12	(3.4)	
7 気持ちが通じ合う	4 とてもそう思う	111	(31.8)	3.1±0.8
	3 そう思う	176	(50.4)	
	2 あまり思わない	45	(12.9)	
	1 思わない	13	(3.7)	
8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる	4 とてもそう思う	89	(25.5)	2.9±0.9
	3 そう思う	152	(43.6)	
	2 あまり思わない	84	(24.1)	
	1 思わない	22	(6.3)	
9 あなたを日頃認め、評価してくれる	4 とてもそう思う	110	(31.5)	3.1±0.8
	3 そう思う	156	(44.7)	
	2 あまり思わない	70	(20.1)	
	1 思わない	10	(2.9)	
10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる	4 とてもそう思う	141	(40.4)	3.3±0.7
	3 そう思う	164	(47.0)	
	2 あまり思わない	34	(9.7)	
	1 思わない	7	(2.0)	
11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる	4 とてもそう思う	151	(43.3)	3.3±0.7
	3 そう思う	149	(42.7)	
	2 あまり思わない	39	(11.2)	
	1 思わない	7	(2.0)	
12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる	4 とてもそう思う	110	(31.5)	3.0±0.9
	3 そう思う	134	(38.4)	
	2 あまり思わない	75	(21.5)	
	1 思わない	26	(7.4)	
13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	4 とてもそう思う	107	(30.7)	3.0±0.9
	3 そう思う	148	(42.4)	
	2 あまり思わない	69	(19.8)	
	1 思わない	22	(6.3)	

表 2-9 近隣や友人のサポート得点

		度数	(%)	平均値
1 経済的に困っている時、頼りになる	4 とてもそう思う	5	( 1.4)	1.5±0.7
	3 そう思う	34	( 0.7)	
	2 あまり思わない	94	(26.9)	
	1 思わない	210	(60.2)	
2 病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる	4 とてもそう思う	10	( 2.9)	2.0±0.9
	3 そう思う	91	(26.1)	
	2 あまり思わない	118	(33.8)	
	1 思わない	124	(35.5)	
3 引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる	4 とてもそう思う	45	(12.9)	2.4±1.0
	3 そう思う	121	(34.7)	
	2 あまり思わない	85	(24.4)	
	1 思わない	90	(25.8)	
4 わからないことがあれば、よく教えてくれる	4 とてもそう思う	118	(33.8)	3.2±0.7
	3 そう思う	186	(53.3)	
	2 あまり思わない	26	( 7.4)	
	1 思わない	15	( 0.3)	
5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる	4 とてもそう思う	6	( 1.7)	1.7±0.7
	3 そう思う	41	(11.7)	
	2 あまり思わない	138	(39.5)	
	1 思わない	153	(43.8)	
6 会うと心が落ち着き安心できる	4 とてもそう思う	127	(36.4)	3.3±0.7
	3 そう思う	186	(53.3)	
	2 あまり思わない	22	( 6.3)	
	1 思わない	8	( 2.3)	
7 気持ちが通じ合う	4 とてもそう思う	75	(21.5)	3.0±0.7
	3 そう思う	203	(58.2)	
	2 あまり思わない	61	(17.5)	
	1 思わない	5	( 1.4)	
8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる	4 とてもそう思う	46	(13.2)	2.7±0.8
	3 そう思う	169	(48.4)	
	2 あまり思わない	104	(29.8)	
	1 思わない	26	( 7.4)	
9 あなたを日頃認め、評価してくれる	4 とてもそう思う	61	(17.5)	2.9±0.8
	3 そう思う	205	(58.7)	
	2 あまり思わない	54	(15.5)	
	1 思わない	22	( 6.3)	
10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる	4 とてもそう思う	59	(16.9)	2.9±0.8
	3 そう思う	199	(57.0)	
	2 あまり思わない	61	(17.5)	
	1 思わない	21	( 6.0)	
11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる	4 とてもそう思う	79	(22.6)	3.0±0.8
	3 そう思う	201	(57.6)	
	2 あまり思わない	43	(12.3)	
	1 思わない	18	( 5.2)	
12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる	4 とてもそう思う	73	(20.9)	2.8±0.9
	3 そう思う	151	(43.3)	
	2 あまり思わない	78	(22.3)	
	1 思わない	41	(11.7)	
13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	4 とてもそう思う	72	(20.6)	2.8±0.9
	3 そう思う	165	(47.3)	
	2 あまり思わない	75	(21.5)	
	1 思わない	29	( 8.3)	

4-3 母親の自己認識および子育て認識の分布

4-3-1 自己認識に関する項目の得点および分布得点

自己認識に関する項目の分布は表 2-10 に示す通りである。

表 2-10 母親の自己認識に関する項目の分布

		度数	(%)
自分に満足している	4 とてもそう思う	42	(12.0)
	3 そう思う	173	(49.6)
	2 あまり思わない	118	(33.8)
	1 思わない	16	(4.6)
自分には良いところがたくさんある	4 とてもそう思う	19	(5.4)
	3 そう思う	149	(42.7)
	2 あまり思わない	164	(47.0)
	1 思わない	17	(4.9)
時々、自分が全く役立たずだと感じる	4 とてもそう思う	20	(5.7)
	3 そう思う	114	(32.7)
	2 あまり思わない	182	(52.1)
	1 思わない	33	(9.5)
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	4 とてもそう思う	39	(11.2)
	3 そう思う	244	(69.9)
	2 あまり思わない	58	(16.6)
	1 思わない	7	(2.0)
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	4 とてもそう思う	51	(14.5)
	3 そう思う	177	(50.7)
	2 あまり思わない	109	(31.2)
	1 思わない	12	(3.4)
何をやってもうまくいかない人間のように思え	4 とてもそう思う	15	(4.3)
	3 そう思う	55	(15.8)
	2 あまり思わない	224	(64.2)
	1 思わない	55	(15.8)
すべてを良い方に考えようとする	4 とてもそう思う	37	(10.6)
	3 そう思う	151	(43.3)
	2 あまり思わない	131	(37.5)
	1 思わない	30	(8.6)

## 4-3-2 子育て認識に関する項目の得点および分布

母親の子育て認識に関する項目の分布は表 2-11 に示す通りである。

表 2-11 母親の子育て認識に関する項目の分布

		度数	(%)
育児に自信がもてない	4 とてもそう思う	11	( 3.2)
	3 そう思う	83	(23.8)
	2 あまり思わない	92	(26.4)
	1 思わない	54	(15.5)
子どもをうまく育てている	4 とてもそう思う	12	( 3.4)
	3 そう思う	166	(47.6)
	2 あまり思わない	153	(43.8)
	1 思わない	18	( 5.2)
子どもを育てることは負担だ	4 とてもそう思う	8	( 2.3)
	3 そう思う	40	(11.5)
	2 あまり思わない	178	(51.0)
	1 思わない	122	(35.0)
自分の子どもは育てやすい	4 とてもそう思う	60	(17.2)
	3 そう思う	171	(49.0)
	2 あまり思わない	87	(24.9)
	1 思わない	27	( 7.7)
子育てがなければどんなに自由だろう	4 とてもそう思う	22	( 6.3)
	3 そう思う	82	(23.5)
	2 あまり思わない	152	(43.6)
	1 思わない	93	(26.6)
子育てによって人生は充実している	4 とてもそう思う	152	(43.6)
	3 そう思う	162	(46.4)
	2 あまり思わない	27	( 7.7)
	1 思わない	7	( 2.0)
子どもの成長とともに自分も成長する	4 とてもそう思う	203	(58.2)
	3 そう思う	129	(37.0)
	2 あまり思わない	15	( 4.3)
	1 思わない	2	( 0.6)
子育ては楽しい	4 とてもそう思う	122	(35.0)
	3 そう思う	183	(52.4)
	2 あまり思わない	39	(11.2)
	1 思わない	5	( 1.4)

4-3-3 生活満足感および主観的健康感に関する項目の得点および分布

母親の生活満足感および主観的健康感に関する項目の分布は表 2-12 に示す通りである。

表 2-12 母親の生活満足感・主観的健康感に関する項目の分布

		度数	(%)
<b>[生活満足感]</b>			
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	4 とてもそう思う	110	(31.5)
	3 そう思う	167	(47.9)
	2 あまり思わない	65	(18.6)
	1 思わない	6	(1.7)
日々の生活の中に打ち込めるものがある	4 とてもそう思う	63	(18.1)
	3 そう思う	137	(39.3)
	2 あまり思わない	121	(34.7)
	1 思わない	27	(7.7)
日頃、ハリある生活を送っている	4 とてもそう思う	56	(16.0)
	3 そう思う	150	(43.0)
	2 あまり思わない	124	(35.5)
	1 思わない	18	(5.2)
今の生活に満足している	4 とてもそう思う	85	(24.4)
	3 そう思う	173	(49.6)
	2 あまり思わない	73	(20.9)
	1 思わない	18	(5.2)
<b>[主観的健康感]</b>			
健康である	4 とてもそう思う	134	(38.4)
	3 そう思う	166	(47.6)
	2 あまり思わない	44	(12.6)
	1 思わない	5	(1.4)

#### 4-4 母親の自己認識と属性との関連

##### 4-4-1 子どもの属性と母親の自己認識

子どもの年齢 2 群(乳児群と幼児群)、子どもの順位 2 群(1 人目群、2 人目以降群)と母親の自己認識で、 $\chi^2$  検定を行った結果は、表 2-13、表 3-14 の通りである。

##### 1) 子どもの年齢と母親の自己認識(表 2-13)

子どもの年齢 2 群と母親の自己認識「すべてをよい方に考えようとする」、「子どもを育てることは負担だ」、「自分の子どもは育てやすい」、「子育ては楽しい」、「日頃、ハリある生活を送っている」との間に、統計学上有意な差が見られた。「すべてをよい方に考えようとする」、「子どもを育てることは負担だ」について、「思わない」、「あまり思わない」と答えたものは、乳児群の方が有意に多かった。「自分の子どもは育てやすい」、「子育ては楽しい」、「日頃、ハリある生活を送っている」について、「とてもそう思う」「そう思う」と答えたものは、乳児群の方が有意に多かった。

「自分の子どもは育てやすい」「子育ては楽しい」は乳児群が高く、「子どもを育てることは負担だ」は幼児群が高いことは、子どもの発達がひとつの理由であると考えられる。乳児群は 6~7 ヶ月児であり、授乳や排泄の世話は多くかかるが、動きも少なく、強い自我が見られないため、母親は子どもに対してはポジティブな感情を抱きやすい。一方、幼児群は 3~5 歳児であり、直接的な世話は乳児に比べ減少するものの、自我が芽生え、動きも活発になるため、日常的に世話をする母親の心身両面の負担が大きくなり、ネガティブな感情を抱きやすいと考えられる。

##### 2) 子どもの順位と母親の自己認識(表 2-14)

子どもの順位別 2 群と母親の自己認識「子どもをうまく育てている」、「自分の子どもは育てやすい」で、統計学上有意な差が見られた。「子どもをうまく育てている」、「自分の子どもは育てやすい」について、「とてもそう思う」、「そう思う」と答えたものは、1 人目群が有意に多かった。二人目以上の子育ての場合、単に子育てに関する負担が 1 人目群に比べ多くなるだけでなく、子育て経験があることですでに何らかの育てにくさを経験していることから、「育てやすさ」だけを感じる事が一人目群よりも少ない結果になったと考えられる。

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-13 母親の自己認識と子どもの年齢

		子どもの年齢				χ <sup>2</sup> 検定
		乳児		幼児		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	18	10.1	24	14.3	n. s.
	そう思う	96	53.6	75	44.6	
	あまり思わない	57	31.8	61	36.3	
	思わない	8	4.5	8	4.8	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	11	6.1	8	4.8	n. s.
	そう思う	69	38.5	78	46.4	
	あまり思わない	88	49.2	76	45.2	
	思わない	11	6.1	6	3.6	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	10	5.6	10	6.0	n. s.
	そう思う	52	29.1	60	35.7	
	あまり思わない	98	54.7	84	50.0	
	思わない	19	10.6	14	8.3	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	17	9.5	20	11.9	n. s.
	そう思う	123	68.7	121	72.0	
	あまり思わない	35	19.6	23	13.7	
	思わない	3	1.7	4	2.4	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	29	16.2	22	13.1	n. s.
	そう思う	88	49.2	87	51.8	
	あまり思わない	56	31.3	53	31.5	
	思わない	6	3.4	6	3.6	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	7	3.9	8	4.8	n. s.
	そう思う	32	17.9	23	13.7	
	あまり思わない	116	64.8	106	63.1	
	思わない	24	13.4	31	18.5	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	18	10.1	19	11.3	*
	そう思う	65	36.3	86	51.2	
	あまり思わない	76	42.5	53	31.5	
	思わない	20	11.2	10	6.0	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	5	2.8	6	3.6	n. s.
	そう思う	38	21.2	43	25.6	
	あまり思わない	108	60.3	92	54.8	
	思わない	27	15.1	27	16.1	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	2.2	8	4.8	n. s.
	そう思う	91	50.8	75	44.6	
	あまり思わない	75	41.9	76	45.2	
	思わない	9	5.0	9	5.4	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	1	0.6	7	4.2	*
	そう思う	14	7.8	26	15.5	
	あまり思わない	94	52.5	82	48.8	
	思わない	69	38.5	53	31.5	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	38	21.2	22	13.1	*
	そう思う	91	50.8	80	47.6	
	あまり思わない	37	20.7	48	28.6	
	思わない	9	5.0	18	10.7	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	6	3.4	16	9.5	n. s.
	そう思う	45	25.1	37	22.0	
	あまり思わない	83	46.4	69	41.1	
	思わない	45	25.1	46	27.4	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	75	41.9	75	44.6	n. s.
	そう思う	90	50.3	72	42.9	
	あまり思わない	9	5.0	18	10.7	
	思わない	4	2.2	3	1.8	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	106	59.2	97	57.7	n. s.
	そう思う	68	38.0	59	35.1	
	あまり思わない	4	2.2	11	6.5	
	思わない	1	0.6	1	0.6	
子育ては楽しい	とてもそう思う	80	44.7	42	25.0	***
	そう思う	92	51.4	89	53.0	
	あまり思わない	6	3.4	33	19.6	
	思わない	1	0.6	4	2.4	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	73	40.8	35	20.8	n. s.
	そう思う	77	43.0	90	53.6	
	あまり思わない	26	14.5	39	23.2	
	思わない	2	1.1	4	2.4	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	34	19.0	29	17.3	n. s.
	そう思う	76	42.5	59	35.1	
	あまり思わない	56	31.3	65	38.7	
	思わない	13	7.3	14	8.3	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	39	21.8	17	10.1	*
	そう思う	69	38.5	79	47.0	
	あまり思わない	62	34.6	62	36.9	
	思わない	9	5.0	9	5.4	
今の生活に満足している	とてもそう思う	50	27.9	35	20.8	n. s.
	そう思う	88	49.2	83	49.4	
	あまり思わない	32	17.9	41	24.4	
	思わない	9	5.0	9	5.4	
健康である	とてもそう思う	78	43.6	56	33.3	n. s.
	そう思う	75	41.9	91	54.2	
	あまり思わない	24	13.4	18	10.7	
	思わない	2	1.1	3	1.8	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant



第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-14 母親の自己認識と子どもの順位

		子どもの順位				χ <sup>2</sup> 検定
		1人目群		2人目以降群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	14	8.9	28	14.8	n. s.
	そう思う	86	54.8	85	45.0	
	あまり思わない	51	32.5	66	34.9	
	思わない	6	3.8	10	5.3	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	7	4.5	12	6.3	n. s.
	そう思う	75	47.8	72	38.1	
	あまり思わない	69	43.9	94	49.7	
	思わない	6	3.8	11	5.8	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	9	5.7	11	5.8	n. s.
	そう思う	51	32.5	61	32.3	
	あまり思わない	78	49.7	103	54.5	
	思わない	19	12.1	14	7.4	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	15	9.6	23	12.2	n. s.
	そう思う	116	73.9	126	66.7	
	あまり思わない	22	14.0	36	19.0	
	思わない	3	1.9	4	2.1	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	24	15.3	26	13.8	n. s.
	そう思う	78	49.7	98	51.9	
	あまり思わない	49	31.2	59	31.2	
	思わない	6	3.8	6	3.2	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	8	5.1	7	3.7	n. s.
	そう思う	24	15.3	30	15.9	
	あまり思わない	99	63.1	124	65.6	
	思わない	26	16.6	28	14.8	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	17	10.8	20	10.6	n. s.
	そう思う	67	42.7	83	43.9	
	あまり思わない	60	38.2	70	37.0	
	思わない	13	8.3	16	8.5	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	4	2.5	7	3.7	n. s.
	そう思う	40	25.5	42	22.2	
	あまり思わない	88	56.1	110	58.2	
	思わない	25	15.9	29	15.3	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	2.5	8	4.2	*
	そう思う	87	55.4	76	40.2	
	あまり思わない	62	39.5	91	48.1	
	思わない	4	2.5	14	7.4	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	3	1.9	5	2.6	n. s.
	そう思う	16	10.2	24	12.7	
	あまり思わない	81	51.6	96	50.8	
	思わない	57	36.3	63	33.3	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	39	24.8	21	11.1	**
	そう思う	69	43.9	100	52.9	
	あまり思わない	37	23.6	49	25.9	
	思わない	8	5.1	19	10.1	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	10	6.4	12	6.3	n. s.
	そう思う	38	24.2	44	23.3	
	あまり思わない	71	45.2	80	42.3	
	思わない	38	24.2	53	28.0	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	70	44.6	79	41.8	n. s.
	そう思う	72	45.9	90	47.6	
	あまり思わない	11	7.0	16	8.5	
	思わない	3	1.9	4	2.1	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	92	58.6	109	57.7	n. s.
	そう思う	62	39.5	66	34.9	
	あまり思わない	3	1.9	12	6.3	
	思わない	0	0.0	2	1.1	
子育ては楽しい	とてもそう思う	60	38.2	60	31.7	n. s.
	そう思う	83	52.9	99	52.4	
	あまり思わない	13	8.3	26	13.8	
	思わない	1	0.6	4	2.1	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	52	33.1	56	29.6	n. s.
	そう思う	74	47.1	93	49.2	
	あまり思わない	28	17.8	36	19.0	
	思わない	3	1.9	3	1.6	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	28	17.8	33	17.5	n. s.
	そう思う	67	42.7	70	37.0	
	あまり思わない	49	31.2	71	37.6	
	思わない	12	7.6	15	7.9	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	21	13.4	33	17.5	n. s.
	そう思う	75	47.8	75	39.7	
	あまり思わない	53	33.8	70	37.0	
	思わない	8	5.1	10	5.3	
今の生活に満足している	とてもそう思う	38	24.2	45	23.8	n. s.
	そう思う	82	52.2	90	47.6	
	あまり思わない	31	19.7	42	22.2	
	思わない	6	3.8	12	6.3	
健康である	とてもそう思う	64	40.8	67	35.4	n. s.
	そう思う	78	49.7	88	46.6	
	あまり思わない	13	8.3	31	16.4	
	思わない	2	1.3	3	1.6	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

#### 4-4-2 母親の属性と母親の自己認識

母親の年齢(全体の中央値で分けた高群、低群)、母親の就労の有無(あり群、なし群)、母親の最終学歴(中学校・高校卒群、専門・短大・大学卒群)、世帯の年間収入(250万円以下群、250～400万円以下群、400～600万円以下群、600万円以上群)、子育て支援サービス利用の有無(あり群、なし群)、サービス内容として、家庭訪問の有無(あり群、なし群)、つどいの広場の参加の有無(あり群、なし群)、子育てサークル参加の有無(あり群、なし群)と、母親の自己認識で $\chi^2$ 検定をした結果は、表 2-15～表 2-22 の通りである。

##### 1) 母親の年齢と母親の自己認識(表 2-15)

母親の年齢 2 群と母親の自己認識との間では、「子育てによって人生は充実している」、「子育ては楽しい」において、統計学上有意な差が見られた。「子育てによって人生充実している」では「とてもそう思う」「そう思う」と答えたものは、年齢高群の方が有意に多く、「子育ては楽しい」で「とてもそう思う」「そう思う」と答えたものは、年齢低群の方が有意に多かった。年齢高群は子育てを楽しいか否かだけで捉えるのではなく、子育てのポジティブ、ネガティブ両面を含めて、人生全体で捉え、充実感を抱きやすい傾向であることが示唆された。

##### 2) 母親の就労の有無と母親の自己認識(表 2-16)

いずれの項目も、有意な差は見られなかった。

##### 3) 母親の最終学歴と母親の自己認識(表 2-17)

母親の最終学歴 2 群と母親の自己認識「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ」、「もう少し自分を尊敬できればいいと思う」、「何をやってもうまくいかない人間のように思える」、「すべてをよい方に考えようとする」、「育児に自信が持てない」、「子どもをうまく育てている」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「今の生活に満足している」、「健康である」との間で統計学上有意な差が見られた。

「自分には良いところがたくさんある」、「少なくとも同じくらいの価値ある人間だ」、「子どもをうまく育てている」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「今の生活に満足している」、「健康で

ある」と答えたものは、専門・短大・大学卒群が中学・高校卒群よりも有意に多かった。中学・高校卒群は、専門・短大・大学卒群よりも「何をやってもうまくいかない人間のように思える」、「育児に自信が持てない」と答えたものは有意に多かった。一方、「もう少し自分を尊敬したい」と答えたものは、専門・短大・大学卒群が中学・高校卒群よりも、有意に多かった。高学歴群は、自己認識や子育て認識、QOLをポジティブに捉える傾向であることが示された。

4) 世帯の年間収入と母親の自己認識(表 2-18)

世帯の年間収入 4 群と母親の自己認識との間では、「何をやってもうまくいかない人間のように思える」のみ統計学上有意な差が見られた。年間収入が低い群は、高い群よりも「とてもそう思う」、「そう思う」と答えたものが有意に多かった。

5) サービス利用と母親の自己認識(表 2-19)

いずれの項目も有意な差は見られなかった。

6) 家庭訪問の有無と母親の自己認識(表 2-20)

家庭訪問の有無 2 群と母親の自己認識との間では、「もう少し自分を尊敬したい」のみ統計学上有意な差が見られた。「とてもそう思う」、「そう思う」と答えたものは、家庭訪問なし群よりもあり群が有意に多かった。

7) つどいの広場参加の有無と母親の自己認識(表 2-21)

つどいの広場参加の有無 2 群と母親の自己認識との間では、「自分には良いところがたくさんある」、「子育てによって人生は充実している」において、統計学上有意な差が見られた。

「自分には良いところがたくさんある」、「子育てによって人生は充実している」と認識しているのは、参加あり群の方が参加なし群よりも有意に多かった。

8) 子育てサークル参加の有無と母親の自己認識(表 2-22)

子育てサークル参加の有無 2 群と母親の自己認識「子育てがなければどんなに自由だろう」、「子育ては楽しい」との間において、統計学上有意な差が見られた。

「子育てがなければどんなに自由だろう」と認識しているのは、参加あり群の方が参加なし群よりも高い傾向であった。「子育ては楽しい」と認識しているのは、参加なし群の方が参加あり群よりも有意に多かった。子育てサークル参加なしの人は、子育てで自由が制限されているとは感じず、子育てを楽しんでいる人が多い傾向が示された。

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-15 母親の自己認識と母親の年齢

		母親の年齢				χ <sup>2</sup> 検定
		低群		高群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	19	10.7	23	13.5	n. s.
	そう思う	91	51.1	82	48.0	
	あまり思わない	58	32.6	60	35.1	
	思わない	10	5.6	6	3.5	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	12	6.7	7	4.1	n. s.
	そう思う	69	38.8	80	46.8	
	あまり思わない	88	49.4	76	44.4	
	思わない	9	5.1	8	4.7	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	11	6.2	9	5.3	n. s.
	そう思う	58	32.6	56	32.7	
	あまり思わない	94	52.8	88	51.5	
	思わない	15	8.4	18	10.5	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	20	11.2	19	11.1	n. s.
	そう思う	120	67.4	124	72.5	
	あまり思わない	34	19.1	24	14.0	
	思わない	3	1.7	4	2.3	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	30	16.9	21	12.3	n. s.
	そう思う	90	50.6	87	50.9	
	あまり思わない	52	29.2	57	33.3	
	思わない	6	3.4	6	3.5	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	8	4.5	7	4.1	n. s.
	そう思う	29	16.3	26	15.2	
	あまり思わない	119	66.9	105	61.4	
	思わない	22	12.4	33	19.3	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	18	10.1	19	11.1	n. s.
	そう思う	68	38.2	83	48.5	
	あまり思わない	73	41.0	58	33.9	
	思わない	19	10.7	11	6.4	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	6	3.4	5	2.8	n. s.
	そう思う	40	22.5	43	25.1	
	あまり思わない	104	58.4	96	56.1	
	思わない	27	15.2	27	15.8	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	2.2	8	4.7	n. s.
	そう思う	90	50.6	76	44.4	
	あまり思わない	75	42.1	78	45.6	
	思わない	9	5.1	9	5.3	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	1	0.6	7	4.1	n. s.
	そう思う	21	11.8	19	11.1	
	あまり思わない	91	51.1	87	50.9	
	思わない	64	36.0	58	33.9	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	36	20.2	24	14.0	n. s.
	そう思う	79	44.4	92	53.8	
	あまり思わない	47	26.4	40	23.4	
	思わない	13	7.3	14	8.2	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	9	5.1	13	7.6	n. s.
	そう思う	44	24.7	38	22.2	
	あまり思わない	81	45.5	71	41.5	
	思わない	44	24.7	49	28.7	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	72	40.4	80	46.8	*
	そう思う	87	48.9	75	43.9	
	あまり思わない	11	6.2	16	9.4	
	思わない	7	3.9	0	0.0	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	102	57.3	101	59.1	n. s.
	そう思う	69	38.8	60	35.1	
	あまり思わない	6	3.4	9	5.3	
	思わない	1	0.6	1	0.6	
子育ては楽しい	とてもそう思う	73	41.0	49	28.7	*
	そう思う	89	50.0	94	55.0	
	あまり思わない	15	8.4	24	14.0	
	思わない	1	0.6	4	2.3	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	64	36.0	46	26.9	n. s.
	そう思う	77	43.3	90	52.6	
	あまり思わない	32	18.0	33	19.3	
	思わない	4	2.2	2	1.2	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	34	19.1	29	17.0	n. s.
	そう思う	77	43.3	60	35.1	
	あまり思わない	54	30.3	67	39.2	
	思わない	13	7.3	14	8.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	31	17.4	25	14.6	n. s.
	そう思う	72	40.4	78	45.6	
	あまり思わない	63	35.4	61	35.7	
	思わない	11	6.2	7	4.1	
今の生活に満足している	とてもそう思う	45	25.3	40	23.4	n. s.
	そう思う	88	49.4	85	49.7	
	あまり思わない	33	18.5	40	23.4	
	思わない	12	6.7	6	3.5	
健康である	とてもそう思う	78	43.8	56	32.7	n. s.
	そう思う	79	44.4	87	50.9	
	あまり思わない	19	10.7	25	14.6	
	思わない	2	1.1	3	1.8	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-16 母親の自己認識と母親の就労の有無

		母の就労				χ <sup>2</sup> 検定
		あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	17	16.2	25	10.2	n. s.
	そう思う	51	48.6	122	50.0	
	あまり思わない	35	33.3	83	34.0	
	思わない	2	1.9	14	5.7	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	7	6.7	12	4.9	n. s.
	そう思う	49	46.7	100	41.0	
	あまり思わない	44	41.9	120	49.2	
	思わない	5	4.8	12	4.9	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	3	2.9	17	7.0	n. s.
	そう思う	29	27.6	85	34.8	
	あまり思わない	62	59.0	120	49.2	
	思わない	11	10.5	22	9.0	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	11	10.5	28	11.5	n. s.
	そう思う	73	69.5	171	70.1	
	あまり思わない	19	18.1	39	16.0	
	思わない	2	1.9	5	2.0	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	17	16.2	34	13.9	n. s.
	そう思う	51	48.6	126	51.6	
	あまり思わない	32	30.5	77	31.6	
	思わない	5	4.8	7	2.9	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	4	3.8	11	4.5	n. s.
	そう思う	15	14.3	40	16.4	
	あまり思わない	69	65.7	155	63.5	
	思わない	17	16.2	38	15.6	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	14	13.3	23	9.4	n. s.
	そう思う	44	41.9	1007	412.7	
	あまり思わない	35	33.3	96	39.3	
	思わない	12	11.4	18	7.4	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	1	1.0	10	4.1	n. s.
	そう思う	21	20.0	62	25.4	
	あまり思わない	67	63.8	133	54.5	
	思わない	15	14.3	39	16.0	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	3.8	8	3.3	n. s.
	そう思う	55	52.4	111	45.5	
	あまり思わない	38	36.2	115	47.1	
	思わない	8	7.6	10	4.1	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	1	1.0	7	2.9	n. s.
	そう思う	7	6.7	33	13.5	
	あまり思わない	59	56.2	119	48.8	
	思わない	38	36.2	84	34.4	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	22	21.0	38	15.6	n. s.
	そう思う	51	48.6	120	49.2	
	あまり思わない	22	21.0	65	26.6	
	思わない	9	8.6	18	7.4	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	4	3.8	18	7.4	n. s.
	そう思う	25	23.8	57	23.4	
	あまり思わない	50	47.6	102	41.8	
	思わない	26	24.8	67	27.5	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	46	43.8	106	43.4	n. s.
	そう思う	47	44.8	115	47.1	
	あまり思わない	7	6.7	20	8.2	
	思わない	4	3.8	3	1.2	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	65	61.9	138	56.6	n. s.
	そう思う	38	36.2	91	37.3	
	あまり思わない	1	1.0	14	5.7	
	思わない	1	1.0	1	0.4	
子育ては楽しい	とてもそう思う	41	39.0	81	33.2	n. s.
	そう思う	53	50.5	130	53.3	
	あまり思わない	11	10.5	28	11.5	
	思わない	0	0.0	5	2.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	41	39.0	69	28.3	n. s.
	そう思う	47	44.8	120	49.2	
	あまり思わない	15	14.3	50	20.5	
	思わない	2	1.9	4	1.6	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	22	21.0	41	16.8	n. s.
	そう思う	41	39.0	96	39.3	
	あまり思わない	35	33.3	86	35.2	
	思わない	7	6.7	20	8.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	22	21.0	34	13.9	n. s.
	そう思う	43	41.0	107	43.9	
	あまり思わない	36	34.3	88	36.1	
	思わない	3	2.9	15	6.1	
今の生活に満足している	とてもそう思う	29	27.6	56	23.0	n. s.
	そう思う	51	48.6	122	50.0	
	あまり思わない	19	18.1	54	22.1	
	思わない	6	5.7	12	4.9	
健康である	とてもそう思う	47	44.8	87	35.7	n. s.
	そう思う	45	42.9	121	49.6	
	あまり思わない	13	12.4	31	12.7	
	思わない	0	0.0	5	2.0	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. , not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-17 母親の自己認識と母親の最終学歴

		母の最終学歴				χ <sup>2</sup> 検定
		中学高校卒		専門短大大学卒		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	6	5.2	35	15.6	**
	そう思う	50	43.5	119	53.1	
	あまり思わない	52	45.2	61	27.2	
	思わない	7	6.1	9	4.0	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	4	3.5	15	6.7	***
	そう思う	33	28.7	114	50.9	
	あまり思わない	69	60.0	87	38.8	
	思わない	9	7.8	8	3.6	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	10	8.7	10	4.5	n. s.
	そう思う	40	34.8	70	31.3	
	あまり思わない	53	46.1	125	55.8	
	思わない	12	10.4	19	8.5	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	8	7.0	31	13.8	*
	そう思う	75	65.2	159	71.0	
	あまり思わない	29	25.2	29	12.9	
	思わない	3	2.6	4	1.8	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	23	20.0	26	11.6	*
	そう思う	64	55.7	109	48.7	
	あまり思わない	24	20.9	81	36.2	
	思わない	4	3.5	8	3.6	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	11	9.6	4	1.8	*
	そう思う	20	17.4	33	14.7	
	あまり思わない	72	62.6	146	65.2	
	思わない	12	10.4	41	18.3	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	9	7.8	27	12.1	*
	そう思う	40	34.8	105	46.9	
	あまり思わない	50	43.5	78	34.8	
	思わない	16	13.9	14	6.3	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	4	3.5	7	3.1	*
	そう思う	39	33.9	42	18.8	
	あまり思わない	58	50.4	136	60.7	
	思わない	13	11.3	39	17.4	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	3.5	8	3.6	*
	そう思う	42	36.5	118	52.7	
	あまり思わない	60	52.2	89	39.7	
	思わない	9	7.8	9	4.0	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	2	1.7	6	2.7	n. s.
	そう思う	15	13.0	22	9.8	
	あまり思わない	62	53.9	112	50.0	
	思わない	35	30.4	84	37.5	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	21	18.3	39	17.4	n. s.
	そう思う	53	46.1	112	50.0	
	あまり思わない	25	21.7	58	25.9	
	思わない	14	12.2	13	5.8	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	7	6.1	15	6.7	n. s.
	そう思う	15	13.0	54	24.1	
	あまり思わない	50	43.5	97	43.3	
	思わない	31	27.0	58	25.9	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	40	34.8	107	47.8	n. s.
	そう思う	58	50.4	99	44.2	
	あまり思わない	13	11.3	14	6.3	
	思わない	3	2.6	4	1.8	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	64	55.7	133	59.4	n. s.
	そう思う	44	38.3	81	36.2	
	あまり思わない	5	4.3	10	4.5	
	思わない	2	1.7	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	35	30.4	83	37.1	n. s.
	そう思う	66	57.4	113	50.4	
	あまり思わない	13	11.3	24	10.7	
	思わない	1	0.9	4	1.8	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	33	28.7	74	33.0	n. s.
	そう思う	52	45.2	110	49.1	
	あまり思わない	28	24.3	35	15.6	
	思わない	1	0.9	5	2.2	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	16	13.9	45	20.1	*
	そう思う	38	33.0	95	42.4	
	あまり思わない	50	43.5	67	29.9	
	思わない	11	9.6	16	7.1	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	16	13.9	38	17.0	n. s.
	そう思う	47	40.9	99	44.2	
	あまり思わない	43	37.4	77	34.4	
	思わない	9	7.8	9	4.0	
今の生活に満足している	とてもそう思う	20	17.4	62	27.7	**
	そう思う	54	47.0	115	51.3	
	あまり思わない	29	25.2	41	18.3	
	思わない	12	10.4	6	2.7	
健康である	とてもそう思う	41	35.7	90	40.2	*
	そう思う	49	42.6	111	49.6	
	あまり思わない	23	20.0	20	8.9	
	思わない	2	1.7	3	1.3	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-18 母親の自己認識と世帯の年間収入

		世帯の年間収入								χ <sup>2</sup> 検定
		250万円以下		250～400万円以下		400～600万円以下		600万円以上		
		度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	1	7.1	4	5.3	16	13.6	19	17.4	n. s.
	そう思う	7	50.0	39	52.0	59	50.0	58	53.2	
	あまり思わない	5	35.7	29	38.7	37	31.4	28	25.7	
	思わない	1	7.1	3	4.0	6	5.1	4	3.7	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	0	0.0	2	2.7	7	5.9	7	6.4	n. s.
	そう思う	5	35.7	28	37.3	53	44.9	55	50.5	
	あまり思わない	7	50.0	40	53.3	55	46.6	43	39.4	
	思わない	2	14.3	5	6.7	3	2.5	4	3.7	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	2	14.3	4	5.3	7	5.9	4	3.7	n. s.
	そう思う	4	28.6	26	34.7	31	26.3	34	31.2	
	あまり思わない	7	50.0	37	49.3	71	60.2	60	55.0	
	思わない	1	7.1	8	10.7	9	7.6	11	10.1	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	2	14.3	5	6.7	13	11.0	16	14.7	n. s.
	そう思う	8	57.1	56	74.7	86	72.9	78	71.6	
	あまり思わない	4	28.6	13	17.3	18	15.3	12	11.0	
	思わない	0	0.0	1	1.3	1	0.8	3	2.8	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	3	21.4	13	17.3	17	14.4	16	14.7	n. s.
	そう思う	7	50.0	37	49.3	59	50.0	52	47.7	
	あまり思わない	2	14.3	22	29.3	38	32.2	39	35.8	
	思わない	2	14.3	3	4.0	4	3.4	2	1.8	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	3	21.4	2	2.7	4	3.4	3	2.8	*
	そう思う	1	7.1	15	20.0	15	12.7	16	14.7	
	あまり思わない	10	71.4	49	65.3	82	69.5	64	58.7	
	思わない	0	0.0	9	12.0	17	14.4	26	23.9	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	1	7.1	6	8.0	15	12.7	12	11.0	n. s.
	そう思う	6	42.9	29	38.7	49	41.5	54	49.5	
	あまり思わない	5	35.7	32	42.7	43	36.4	36	33.0	
	思わない	2	14.3	8	10.7	11	9.3	7	6.4	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	1	7.1	2	2.7	2	1.7	3	2.8	n. s.
	そう思う	4	28.6	24	32.0	26	22.0	19	17.4	
	あまり思わない	7	50.0	40	53.3	72	61.0	67	61.5	
	思わない	1	7.1	9	12.0	18	15.3	20	18.3	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	1	7.1	3	4.0	1	0.8	5	4.6	n. s.
	そう思う	7	50.0	32	42.7	62	52.5	55	50.5	
	あまり思わない	6	42.9	39	52.0	47	39.8	43	39.4	
	思わない	0	0.0	1	1.3	8	6.8	6	5.5	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	0	0.0	0	0.0	3	2.5	3	2.8	n. s.
	そう思う	2	14.3	11	14.7	13	11.0	10	9.2	
	あまり思わない	7	50.0	41	54.7	60	50.8	57	52.3	
	思わない	4	28.6	23	30.7	42	35.6	39	35.8	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	2	14.3	14	18.7	21	17.8	20	18.3	n. s.
	そう思う	8	57.1	34	45.3	55	46.6	57	52.3	
	あまり思わない	3	21.4	19	25.3	30	25.4	25	22.9	
	思わない	1	7.1	5	6.7	12	10.2	7	6.4	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	2	14.3	4	5.3	9	7.6	7	6.4	n. s.
	そう思う	2	14.3	21	28.0	27	22.9	28	25.7	
	あまり思わない	4	28.6	28	37.3	55	46.6	50	45.9	
	思わない	6	42.9	22	29.3	27	22.9	24	22.0	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	7	50.0	28	37.3	51	43.2	49	45.0	n. s.
	そう思う	3	21.4	40	53.3	55	46.6	50	45.9	
	あまり思わない	2	14.3	6	8.0	9	7.6	9	8.3	
	思わない	2	14.3	1	1.3	2	1.7	1	0.9	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	9	64.3	37	49.3	76	64.4	60	55.0	n. s.
	そう思う	3	21.4	36	48.0	37	31.4	42	38.5	
	あまり思わない	2	14.3	2	2.7	4	3.4	6	5.5	
	思わない	0	0.0	0	0.0	1	0.8	1	0.9	
子育ては楽しい	とてもそう思う	8	57.1	27	36.0	41	34.7	36	33.0	n. s.
	そう思う	4	28.6	41	54.7	61	51.7	58	53.2	
	あまり思わない	2	14.3	7	9.3	13	11.0	13	11.9	
	思わない	0	0.0	0	0.0	3	2.5	2	1.8	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	7	50.0	21	28.0	43	36.4	28	25.7	n. s.
	そう思う	3	21.4	40	53.3	52	44.1	59	54.1	
	あまり思わない	3	21.4	12	16.0	20	16.9	22	20.2	
	思わない	1	7.1	1	1.3	3	2.5	0	0.0	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	4	28.6	11	14.7	23	19.5	18	16.5	n. s.
	そう思う	4	28.6	30	40.0	49	41.5	41	37.6	
	あまり思わない	2	14.3	27	36.0	40	33.9	40	36.7	
	思わない	4	28.6	7	9.3	5	4.2	10	9.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	2	14.3	13	17.3	20	16.9	17	15.6	n. s.
	そう思う	5	35.7	31	41.3	49	41.5	51	46.8	
	あまり思わない	4	28.6	26	34.7	43	36.4	38	34.9	
	思わない	3	21.4	5	6.7	5	4.2	3	2.8	
今の生活に満足している	とてもそう思う	3	21.4	12	16.0	32	27.1	32	29.4	n. s.
	そう思う	4	28.6	39	52.0	59	50.0	55	50.5	
	あまり思わない	5	35.7	18	24.0	22	18.6	18	16.5	
	思わない	2	14.3	6	8.0	5	4.2	4	3.7	
健康である	とてもそう思う	6	42.9	30	40.0	53	44.9	39	35.8	n. s.
	そう思う	5	35.7	32	42.7	54	45.8	56	51.4	
	あまり思わない	2	14.3	12	16.0	11	9.3	13	11.9	
	思わない	1	7.1	1	1.3	1	0.8	1	0.9	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant



第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-19 母親の自己認識とサービス利用

		サービス利用				χ <sup>2</sup> 検定
		あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	37	12.1	5	11.6	n. s.
	そう思う	154	50.3	19	44.2	
	あまり思わない	101	33.0	17	39.5	
	思わない	14	4.6	2	4.7	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	16	5.2	3	7.0	n. s.
	そう思う	133	43.5	16	37.2	
	あまり思わない	141	46.1	23	53.5	
	思わない	16	5.2	1	2.3	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	19	6.2	1	2.3	n. s.
	そう思う	99	32.4	15	34.9	
	あまり思わない	162	52.9	20	46.5	
	思わない	26	8.5	7	16.3	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	36	11.8	3	7.0	n. s.
	そう思う	214	69.9	30	69.8	
	あまり思わない	49	16.0	9	20.9	
	思わない	7	2.3	0	0.0	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	46	15.0	5	11.6	n. s.
	そう思う	156	51.0	21	48.8	
	あまり思わない	94	30.7	15	34.9	
	思わない	10	3.3	2	4.7	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	12	3.9	3	7.0	n. s.
	そう思う	49	16.0	6	14.0	
	あまり思わない	198	64.7	26	60.5	
	思わない	47	15.4	8	18.6	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	31	10.1	6	14.0	n. s.
	そう思う	134	43.8	17	39.5	
	あまり思わない	116	37.9	15	34.9	
	思わない	25	8.2	5	11.6	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	10	3.3	1	2.3	n. s.
	そう思う	76	24.8	7	16.3	
	あまり思わない	176	57.5	24	55.8	
	思わない	44	14.4	10	23.3	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	11	3.6	1	2.3	n. s.
	そう思う	144	47.1	22	51.2	
	あまり思わない	134	43.8	19	44.2	
	思わない	17	5.6	1	2.3	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	8	2.6	0	0.0	n. s.
	そう思う	38	12.4	2	4.7	
	あまり思わない	158	51.6	20	46.5	
	思わない	101	33.0	21	48.8	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	55	18.0	5	11.6	n. s.
	そう思う	145	47.4	26	60.5	
	あまり思わない	77	25.2	10	23.3	
	思わない	26	8.5	1	2.3	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	21	6.9	1	2.3	n. s.
	そう思う	72	23.5	10	23.3	
	あまり思わない	133	43.5	19	44.2	
	思わない	80	26.1	14	32.6	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	134	43.8	18	41.9	n. s.
	そう思う	141	46.1	21	48.8	
	あまり思わない	25	8.2	2	4.7	
	思わない	5	1.6	2	4.7	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	180	58.8	23	53.5	n. s.
	そう思う	111	36.3	18	41.9	
	あまり思わない	13	4.2	2	4.7	
	思わない	2	0.7	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	102	33.3	20	46.5	n. s.
	そう思う	163	53.3	20	46.5	
	あまり思わない	36	11.8	3	7.0	
	思わない	5	1.6	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	93	30.4	17	39.5	n. s.
	そう思う	153	50.0	14	32.6	
	あまり思わない	54	17.6	11	25.6	
	思わない	5	1.6	1	2.3	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	50	16.3	13	30.2	n. s.
	そう思う	124	40.5	13	30.2	
	あまり思わない	109	35.6	12	27.9	
	思わない	22	7.2	5	11.6	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	45	14.7	11	25.6	n. s.
	そう思う	133	43.5	17	39.5	
	あまり思わない	112	36.6	12	27.9	
	思わない	15	4.9	3	7.0	
今の生活に満足している	とてもそう思う	70	22.9	15	34.9	n. s.
	そう思う	159	52.0	14	32.6	
	あまり思わない	62	20.3	11	25.6	
	思わない	15	4.9	3	7.0	
健康である	とてもそう思う	116	37.9	18	41.9	n. s.
	そう思う	142	46.4	24	55.8	
	あまり思わない	43	14.1	1	2.3	
	思わない	5	1.6	0	0.0	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.: not significant

表 2-20 母親の自己認識と家庭訪問利用

		家庭訪問				χ <sup>2</sup> 検定
		あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	18	10.5	24	13.5	n. s.
	そう思う	87	50.9	86	48.3	
	あまり思わない	55	32.2	63	35.4	
	思わない	11	6.4	5	2.8	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	7	4.1	12	6.7	n. s.
	そう思う	66	38.6	83	46.6	
	あまり思わない	87	50.9	77	43.3	
	思わない	11	6.4	6	3.4	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	13	7.6	7	3.9	n. s.
	そう思う	57	33.3	57	32.0	
	あまり思わない	86	50.3	96	53.9	
	思わない	15	8.8	18	10.1	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	24	14.0	15	8.4	n. s.
	そう思う	116	67.8	128	71.9	
	あまり思わない	26	15.2	32	18.0	
	思わない	5	2.9	2	1.1	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	28	16.4	23	12.9	*
	そう思う	91	53.2	86	48.3	
	あまり思わない	51	29.8	58	32.6	
	思わない	1	0.6	11	6.2	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	6	3.5	9	5.1	n. s.
	そう思う	30	17.5	25	14.0	
	あまり思わない	110	64.3	114	64.0	
	思わない	25	14.6	30	16.9	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	11	6.4	26	14.6	n. s.
	そう思う	73	42.7	78	43.8	
	あまり思わない	70	40.9	61	34.3	
	思わない	17	9.9	13	7.3	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	6	3.5	5	2.8	n. s.
	そう思う	48	28.1	35	19.7	
	あまり思わない	89	52.0	111	62.4	
	思わない	28	16.4	26	14.6	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	5	2.9	7	3.9	n. s.
	そう思う	81	47.4	85	47.8	
	あまり思わない	74	43.3	79	44.4	
	思わない	11	6.4	7	3.9	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	5	2.9	3	1.7	n. s.
	そう思う	25	14.6	15	8.4	
	あまり思わない	81	47.4	97	54.5	
	思わない	60	35.1	62	34.8	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	31	18.1	29	16.3	n. s.
	そう思う	81	47.4	90	50.6	
	あまり思わない	41	24.0	46	25.8	
	思わない	16	9.4	11	6.2	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	11	6.4	11	6.2	n. s.
	そう思う	44	25.7	38	21.3	
	あまり思わない	76	44.4	76	42.7	
	思わない	40	23.4	53	29.8	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	77	45.0	75	42.1	n. s.
	そう思う	79	46.2	83	46.6	
	あまり思わない	14	8.2	13	7.3	
	思わない	1	0.6	6	3.4	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	102	59.6	101	56.7	n. s.
	そう思う	59	34.5	70	39.3	
	あまり思わない	9	5.3	6	3.4	
	思わない	1	0.6	1	0.6	
子育ては楽しい	とてもそう思う	57	33.3	65	36.5	n. s.
	そう思う	91	53.2	92	51.7	
	あまり思わない	18	10.5	21	11.8	
	思わない	5	2.9	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	55	32.2	55	30.9	n. s.
	そう思う	81	47.4	86	48.3	
	あまり思わない	31	18.1	34	19.1	
	思わない	3	1.8	3	1.7	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	29	17.0	34	19.1	n. s.
	そう思う	70	40.9	67	37.6	
	あまり思わない	57	33.3	64	36.0	
	思わない	15	8.8	12	6.7	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	24	14.0	32	18.0	n. s.
	そう思う	74	43.3	76	42.7	
	あまり思わない	62	36.3	62	34.8	
	思わない	10	5.8	8	4.5	
今の生活に満足している	とてもそう思う	40	23.4	45	25.3	n. s.
	そう思う	90	52.6	83	46.6	
	あまり思わない	32	18.7	41	23.0	
	思わない	9	5.3	9	5.1	
健康である	とてもそう思う	62	36.3	72	40.4	n. s.
	そう思う	84	49.1	82	46.1	
	あまり思わない	22	12.9	22	12.4	
	思わない	3	1.8	2	1.1	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-21 母親の自己認識とつどいの広場利用

		つどいの広場				χ <sup>2</sup> 検定
		あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	9	20.5	33	10.8	n. s.
	そう思う	19	43.2	154	50.5	
	あまり思わない	13	29.5	105	34.4	
	思わない	3	6.8	13	4.3	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	3	6.8	16	5.2	*
	そう思う	26	59.1	123	40.3	
	あまり思わない	12	27.3	152	49.8	
	思わない	3	6.8	14	4.6	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	2	4.5	18	5.9	n. s.
	そう思う	15	34.1	99	32.5	
	あまり思わない	23	52.3	159	52.1	
	思わない	4	9.1	29	9.5	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	8	18.2	31	10.2	n. s.
	そう思う	29	65.9	215	70.5	
	あまり思わない	6	13.6	52	17.0	
	思わない	1	2.3	6	2.0	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	7	15.9	44	14.4	n. s.
	そう思う	22	50.0	155	50.8	
	あまり思わない	13	29.5	96	31.5	
	思わない	2	4.5	10	3.3	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	1	2.3	14	4.6	n. s.
	そう思う	7	15.9	48	15.7	
	あまり思わない	26	59.1	198	64.9	
	思わない	10	22.7	45	14.8	
すべてを良い方へ考えようとする	とてもそう思う	4	9.1	33	10.8	n. s.
	そう思う	29	65.9	122	40.0	
	あまり思わない	9	20.5	122	40.0	
	思わない	2	4.5	28	9.2	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	0	0.0	11	3.6	n. s.
	そう思う	11	25.0	72	23.6	
	あまり思わない	21	47.7	179	58.7	
	思わない	12	27.3	42	13.8	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	2	4.5	10	3.3	n. s.
	そう思う	24	54.5	142	46.6	
	あまり思わない	15	34.1	138	45.2	
	思わない	3	6.8	15	4.9	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	0	0.0	8	2.6	n. s.
	そう思う	9	20.5	31	10.2	
	あまり思わない	20	45.5	158	51.8	
	思わない	15	34.1	107	35.1	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	8	18.2	52	17.0	n. s.
	そう思う	16	36.4	155	50.8	
	あまり思わない	17	38.6	70	23.0	
	思わない	3	6.8	24	7.9	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	5	11.4	17	5.6	n. s.
	そう思う	7	15.9	75	24.6	
	あまり思わない	16	36.4	136	44.6	
	思わない	16	36.4	77	25.2	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	25	56.8	127	41.6	*
	そう思う	12	27.3	150	49.2	
	あまり思わない	6	13.6	21	6.9	
	思わない	1	2.3	6	2.0	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	28	63.6	175	57.4	n. s.
	そう思う	13	29.5	116	38.0	
	あまり思わない	3	6.8	12	3.9	
	思わない	0	0.0	2	0.7	
子育ては楽しい	とてもそう思う	15	34.1	107	35.1	n. s.
	そう思う	22	50.0	161	52.8	
	あまり思わない	7	15.9	32	10.5	
	思わない	0	0.0	5	1.6	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	19	43.2	91	29.8	n. s.
	そう思う	17	38.6	150	49.2	
	あまり思わない	8	18.2	57	18.7	
	思わない	0	0.0	6	2.0	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	13	29.5	50	16.4	n. s.
	そう思う	12	27.3	125	41.0	
	あまり思わない	14	31.8	107	35.1	
	思わない	4	9.1	23	7.5	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	8	18.2	48	15.7	n. s.
	そう思う	19	43.2	131	43.0	
	あまり思わない	13	29.5	111	36.4	
	思わない	4	9.1	14	4.6	
今の生活に満足している	とてもそう思う	9	20.5	76	24.9	n. s.
	そう思う	24	54.5	149	48.9	
	あまり思わない	8	18.2	65	21.3	
	思わない	3	6.8	15	4.9	
健康である	とてもそう思う	16	36.4	118	38.7	n. s.
	そう思う	24	54.5	142	46.6	
	あまり思わない	3	6.8	41	13.4	
	思わない	1	2.3	4	1.3	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-22 母親の自己認識と子育てサークル利用

		子育てサークル				χ <sup>2</sup> 検定
		あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	14	15.9	28	10.7	n. s.
	そう思う	40	45.5	133	51.0	
	あまり思わない	29	33.0	89	34.1	
	思わない	5	5.7	11	4.2	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	5	5.7	14	5.4	n. s.
	そう思う	43	48.9	106	40.6	
	あまり思わない	35	39.8	129	49.4	
	思わない	5	5.7	12	4.6	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	7	8.0	13	5.0	n. s.
	そう思う	33	37.5	81	31.0	
	あまり思わない	39	44.3	143	54.8	
	思わない	9	10.2	24	9.2	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	10	11.4	29	11.1	n. s.
	そう思う	62	70.5	182	69.7	
	あまり思わない	13	14.8	45	17.2	
	思わない	3	3.4	4	1.5	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	14	15.9	37	14.2	n. s.
	そう思う	42	47.7	135	51.7	
	あまり思わない	28	31.8	81	31.0	
	思わない	4	4.5	8	3.1	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	1	1.1	14	5.4	n. s.
	そう思う	14	15.9	41	15.7	
	あまり思わない	55	62.5	169	64.8	
	思わない	18	20.5	37	14.2	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	10	11.4	27	10.3	n. s.
	そう思う	47	53.4	104	39.8	
	あまり思わない	26	29.5	105	40.2	
	思わない	5	5.7	25	9.6	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	4	4.5	7	2.7	n. s.
	そう思う	25	28.4	58	22.2	
	あまり思わない	42	47.7	158	60.5	
	思わない	17	19.3	37	14.2	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	5	5.7	7	2.7	n. s.
	そう思う	40	45.5	126	48.3	
	あまり思わない	39	44.3	114	43.7	
	思わない	4	4.5	14	5.4	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	4	4.5	4	1.5	n. s.
	そう思う	15	17.0	25	9.6	
	あまり思わない	39	44.3	139	53.3	
	思わない	30	34.1	92	35.2	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	16	18.2	44	16.9	n. s.
	そう思う	42	47.7	129	49.4	
	あまり思わない	22	25.0	65	24.9	
	思わない	8	9.1	19	7.3	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	12	13.6	10	3.8	*
	そう思う	18	20.5	64	24.5	
	あまり思わない	36	40.9	116	44.4	
	思わない	22	25.0	71	27.2	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	40	45.5	112	42.9	n. s.
	そう思う	38	43.2	124	47.5	
	あまり思わない	8	9.1	19	7.3	
	思わない	2	2.3	5	1.9	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	50	56.8	153	58.6	n. s.
	そう思う	30	34.1	99	37.9	
	あまり思わない	7	8.0	8	3.1	
	思わない	1	1.1	1	0.4	
子育ては楽しい	とてもそう思う	26	29.5	96	36.8	*
	そう思う	42	47.7	141	54.0	
	あまり思わない	18	20.5	21	8.0	
	思わない	2	2.3	3	1.1	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	24	27.3	86	33.0	n. s.
	そう思う	44	50.0	123	47.1	
	あまり思わない	17	19.3	48	18.4	
	思わない	3	3.4	3	1.1	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	22	25.0	41	15.7	n. s.
	そう思う	31	35.2	106	40.6	
	あまり思わない	28	31.8	93	35.6	
	思わない	7	8.0	20	7.7	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	14	15.9	42	16.1	n. s.
	そう思う	36	40.9	114	43.7	
	あまり思わない	30	34.1	94	36.0	
	思わない	7	8.0	11	4.2	
今の生活に満足している	とてもそう思う	18	20.5	67	25.7	n. s.
	そう思う	41	46.6	132	50.6	
	あまり思わない	23	26.1	50	19.2	
	思わない	6	6.8	12	4.6	
健康である	とてもそう思う	29	33.0	105	40.2	n. s.
	そう思う	48	54.5	118	45.2	
	あまり思わない	9	10.2	35	13.4	
	思わない	2	2.3	3	1.1	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

#### 4-2-3 父親の属性と母親の自己認識

父親の年齢(全体の中央値で分けた高群、低群)、帰宅時間(A; 19時まで群、19時以降群、B; 20時12分まで群、20時13分以降群)、不規則勤務の有無(あり群、なし群)、休日日数(月8回群、月6回群、月4回群、不定期群、休みなし群)と、母親の自己認識で $\chi^2$ 検定を行った結果を表2-23～表2-27に示した。

##### 1) 父親の年齢と母親の自己認識(表2-23)

父親の年齢2群(全体の中央値の高群と低群)と母親の自己認識「子どもをうまく育てている」、「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」との間において、統計学上有意な差が見られた。

「子どもをうまく育てている」と認識しているのは、年齢低群が高群よりも有意に多かった。「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」と認識しているものは、年齢高群が低群よりも有意に多かった。「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」と認識しているものは、年齢低群が高群よりも多かった。父親の年齢が低い群の母親は、子育てをポジティブに捉える傾向であることが示された。

##### 2) 帰宅時間 A・B と母親の自己認識(表2-24～25)

帰宅時間 A(19時まで群、19時以降群)と母親の自己認識「自分の子どもは育てやすい」、「子育ては楽しい」との間において、統計学上有意な差が見られた。「自分の子どもは育てやすい」について、「そう思わない」「思わない」と認識しているものは、19時以降群が19時まで群よりも有意に多かった。また、「子育ては楽しい」と認識しているのは、19時まで群が19時以降群よりも有意に多かった。父親の帰宅時間が早いということは、母親が一人で子育てをする時間が少なくなることも言え、母親の精神的、身体的負担の軽減につながり、母親の中に余裕が生じることも予測できる。そのため、父親が早く帰宅する群において、母親は育てやすさや子育てを楽しんでいる傾向にあると考えられる。

帰宅時間 B(20時12分まで群、20時13分以降群)と母親の自己認識では、「すべてを良い方に考えようとする」のみ統計学上有意な差が見られ、「とてもそう思う」、「そう思う」と認識しているものは、

20 時 13 分以降群が 20 時 12 分まで群よりも有意に多かった。

3) 不規則勤務の有無と母親の自己認識(表 2-26)

統計学上、有意な差は見られなかった。

4) 休日日数と母親の自己認識(表 2-27)

休日日数 4 群と母親の自己認識「自分には良いところがたくさんある」、「すべてを良い方に考えようとする」、「子育てによって人生は充実している」、「自分の生活に打ち込めるものがある」との間において、統計学上有意な差が見られた。

「自分には良いところがたくさんある」、「すべてを良い方に考えようとする」と認識しているものは、月 8 回群が月 6 回群、月 4 回群よりも有意に多かった。「子育てによって人生は充実している」と認識しているものは、月 6 回群、月 4 回群が、月 8 回群よりも有意に多かった。「日々の生活の中に打ち込めるものがある」と認識しているものは、月 8 回群が他の群よりも有意に多かった。

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-23 母親の自己認識と父親の年齢

		父親の年齢				χ <sup>2</sup> 検定
		低群		高群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	16	8.6	26	16.0	n. s.
	そう思う	103	55.1	70	43.2	
	あまり思わない	59	31.6	59	36.4	
	思わない	9	4.8	7	4.3	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	8	4.3	11	6.8	n. s.
	そう思う	82	43.9	67	41.4	
	あまり思わない	89	47.6	75	46.3	
	思わない	8	4.3	9	5.6	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	13	7.0	7	4.3	n. s.
	そう思う	57	30.5	57	35.2	
	あまり思わない	102	54.5	80	49.4	
	思わない	15	8.0	18	11.1	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	21	11.2	18	11.1	n. s.
	そう思う	128	68.4	116	71.6	
	あまり思わない	35	18.7	23	14.2	
	思わない	3	1.6	4	2.5	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	30	16.0	21	13.0	n. s.
	そう思う	94	50.3	83	51.2	
	あまり思わない	58	31.0	51	31.5	
	思わない	5	2.7	7	4.3	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	11	5.9	4	2.5	n. s.
	そう思う	28	15.0	27	16.7	
	あまり思わない	123	65.8	101	62.3	
	思わない	25	13.4	30	18.5	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	18	9.6	19	11.7	n. s.
	そう思う	72	38.5	79	48.8	
	あまり思わない	76	40.6	55	34.0	
	思わない	21	11.2	9	5.6	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	5	2.7	6	3.7	n. s.
	そう思う	41	21.9	42	25.9	
	あまり思わない	115	61.5	85	52.5	
	思わない	25	13.4	29	17.9	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	3	1.6	9	5.6	*
	そう思う	101	54.0	65	40.1	
	あまり思わない	74	39.6	79	48.8	
	思わない	9	4.8	9	5.6	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	0	0.0	8	4.9	*
	そう思う	20	10.7	20	12.3	
	あまり思わない	100	53.5	78	48.1	
	思わない	66	35.3	56	34.6	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	34	18.2	26	16.0	n. s.
	そう思う	93	49.7	78	48.1	
	あまり思わない	45	24.1	42	25.9	
	思わない	12	6.4	15	9.3	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	7	3.7	15	9.3	*
	そう思う	41	21.9	41	25.3	
	あまり思わない	93	49.7	59	36.4	
	思わない	46	24.6	47	29.0	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	75	40.1	77	47.5	n. s.
	そう思う	97	51.9	65	40.1	
	あまり思わない	11	5.9	16	9.9	
	思わない	3	1.6	4	2.5	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	104	55.6	99	61.1	*
	そう思う	79	42.2	50	30.9	
	あまり思わない	4	2.1	11	6.8	
	思わない	0	0.0	2	1.2	
子育ては楽しい	とてもそう思う	71	38.0	51	31.5	***
	そう思う	106	56.7	77	47.5	
	あまり思わない	9	4.8	30	18.5	
	思わない	1	0.5	4	2.5	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	63	33.7	47	29.0	n. s.
	そう思う	91	48.7	76	46.9	
	あまり思わない	31	16.6	34	21.0	
	思わない	1	0.5	5	3.1	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	32	17.1	31	19.1	n. s.
	そう思う	82	43.9	55	34.0	
	あまり思わない	58	31.0	63	38.9	
	思わない	14	7.5	13	8.0	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	29	15.5	27	16.7	n. s.
	そう思う	83	44.4	67	41.4	
	あまり思わない	64	34.2	60	37.0	
	思わない	10	5.3	8	4.9	
今の生活に満足している	とてもそう思う	43	23.0	42	25.9	n. s.
	そう思う	100	53.5	73	45.1	
	あまり思わない	33	17.6	40	24.7	
	思わない	11	5.9	7	4.3	
健康である	とてもそう思う	80	42.8	54	33.3	n. s.
	そう思う	84	44.9	82	50.6	
	あまり思わない	21	11.2	23	14.2	
	思わない	2	1.1	3	1.9	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-24 母親の自己認識と父親の帰宅時間 A

		帰宅時間A				χ <sup>2</sup> 検定
		19時まで		19時以降		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	10	9.7	30	14.6	n. s.
	そう思う	56	54.4	94	45.6	
	あまり思わない	34	33.0	69	33.5	
	思わない	3	2.9	13	6.3	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	7	6.8	11	5.3	n. s.
	そう思う	47	45.6	87	42.2	
	あまり思わない	44	42.7	97	47.1	
	思わない	5	4.9	11	5.3	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	8	7.8	9	4.4	n. s.
	そう思う	27	26.2	78	37.9	
	あまり思わない	58	56.3	98	47.6	
	思わない	10	9.7	21	10.2	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	9	8.7	28	13.6	n. s.
	そう思う	75	72.8	137	66.5	
	あまり思わない	17	16.5	35	17.0	
	思わない	2	1.9	5	2.4	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	15	14.6	30	14.6	n. s.
	そう思う	53	51.5	101	49.0	
	あまり思わない	31	30.1	67	32.5	
	思わない	4	3.9	8	3.9	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	5	4.9	9	4.4	n. s.
	そう思う	15	14.6	30	14.6	
	あまり思わない	68	66.0	131	63.6	
	思わない	15	14.6	36	17.5	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	9	8.7	26	12.6	n. s.
	そう思う	42	40.8	96	46.6	
	あまり思わない	43	41.7	68	33.0	
	思わない	9	8.7	16	7.8	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	4	3.9	7	3.4	n. s.
	そう思う	18	17.5	58	28.2	
	あまり思わない	65	63.1	107	51.9	
	思わない	15	14.6	34	16.5	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	3.9	7	3.4	n. s.
	そう思う	52	50.5	91	44.2	
	あまり思わない	40	38.8	97	47.1	
	思わない	7	6.8	11	5.3	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	1	1.0	7	3.4	n. s.
	そう思う	12	11.7	25	12.1	
	あまり思わない	56	54.4	102	49.5	
	思わない	33	32.0	72	35.0	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	26	25.2	27	13.1	*
	そう思う	44	42.7	108	52.4	
	あまり思わない	26	25.2	53	25.7	
	思わない	5	4.9	17	8.3	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	8	7.8	14	6.8	n. s.
	そう思う	27	26.2	47	22.8	
	あまり思わない	47	45.6	87	42.2	
	思わない	21	20.4	58	28.2	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	39	37.9	100	48.5	n. s.
	そう思う	57	55.3	82	39.8	
	あまり思わない	6	5.8	18	8.7	
	思わない	1	1.0	5	2.4	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	55	53.4	124	60.2	n. s.
	そう思う	45	43.7	70	34.0	
	あまり思わない	2	1.9	11	5.3	
	思わない	1	1.0	1	0.5	
子育ては楽しい	とてもそう思う	32	31.1	73	35.4	*
	そう思う	64	62.1	96	46.6	
	あまり思わない	6	5.8	33	16.0	
	思わない	1	1.0	4	1.9	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	33	32.0	63	30.6	n. s.
	そう思う	49	47.6	97	47.1	
	あまり思わない	21	20.4	39	18.9	
	思わない	0	0.0	6	2.9	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	21	20.4	36	17.5	n. s.
	そう思う	38	36.9	80	38.8	
	あまり思わない	39	37.9	68	33.0	
	思わない	5	4.9	21	10.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	17	16.5	32	15.5	n. s.
	そう思う	38	36.9	95	46.1	
	あまり思わない	44	42.7	66	32.0	
	思わない	3	2.9	13	6.3	
今の生活に満足している	とてもそう思う	20	19.4	53	25.7	n. s.
	そう思う	61	59.2	99	48.1	
	あまり思わない	20	19.4	41	19.9	
	思わない	2	1.9	13	6.3	
健康である	とてもそう思う	46	44.7	71	34.5	n. s.
	そう思う	40	38.8	110	53.4	
	あまり思わない	16	15.5	22	10.7	
	思わない	1	1.0	3	1.5	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.: not significant



第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-25 母親の自己認識と父親の帰宅時間 B

		帰宅時間B				χ <sup>2</sup> 検定
		20時12分まで		20時13分以降		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	15	9.3	25	15.9	n. s.
	そう思う	88	54.3	65	41.4	
	あまり思わない	52	32.1	58	36.9	
	思わない	7	4.3	9	5.7	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	8	4.9	10	6.4	n. s.
	そう思う	74	45.7	64	40.8	
	あまり思わない	74	45.7	73	46.5	
	思わない	6	3.7	10	6.4	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	12	7.4	6	3.8	n. s.
	そう思う	51	31.5	55	35.0	
	あまり思わない	85	52.5	78	49.7	
	思わない	14	8.6	18	11.5	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	16	9.9	21	13.4	n. s.
	そう思う	113	69.8	107	68.2	
	あまり思わない	30	18.5	24	15.3	
	思わない	2	1.2	5	3.2	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	25	15.4	22	14.0	n. s.
	そう思う	86	53.1	75	47.8	
	あまり思わない	44	27.2	55	35.0	
	思わない	7	4.3	5	3.2	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	8	4.9	6	3.8	n. s.
	そう思う	28	17.3	22	14.0	
	あまり思わない	103	63.6	100	63.7	
	思わない	23	14.2	29	18.5	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	18	11.1	17	10.8	*
	そう思う	60	37.0	84	53.5	
	あまり思わない	69	42.6	45	28.7	
	思わない	15	9.3	11	7.0	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	5	3.1	6	3.8	n. s.
	そう思う	40	24.7	38	24.2	
	あまり思わない	97	59.9	81	51.6	
	思わない	19	11.7	32	20.4	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	6	3.7	6	3.8	n. s.
	そう思う	76	46.9	73	46.5	
	あまり思わない	69	42.6	71	45.2	
	思わない	11	6.8	7	4.5	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	4	2.5	4	2.5	n. s.
	そう思う	16	9.9	22	14.0	
	あまり思わない	84	51.9	79	50.3	
	思わない	57	35.2	52	33.1	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	31	19.1	23	14.6	n. s.
	そう思う	77	47.5	80	51.0	
	あまり思わない	39	24.1	42	26.8	
	思わない	12	7.4	12	7.6	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	14	8.6	8	5.1	n. s.
	そう思う	37	22.8	39	24.8	
	あまり思わない	75	46.3	63	40.1	
	思わない	36	22.2	47	29.9	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	70	43.2	71	45.2	n. s.
	そう思う	77	47.5	68	43.3	
	あまり思わない	13	8.0	12	7.6	
	思わない	1	0.6	6	3.8	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	94	58.0	92	58.6	n. s.
	そう思う	64	39.5	53	33.8	
	あまり思わない	3	1.9	11	7.0	
	思わない	1	0.6	1	0.6	
子育ては楽しい	とてもそう思う	56	34.6	52	33.1	n. s.
	そう思う	89	54.9	78	49.7	
	あまり思わない	14	8.6	25	15.9	
	思わない	3	1.9	2	1.3	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	54	33.3	45	28.7	*
	そう思う	72	44.4	80	51.0	
	あまり思わない	36	22.2	25	15.9	
	思わない	0	0.0	6	3.8	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	30	18.5	28	17.8	n. s.
	そう思う	61	37.7	60	38.2	
	あまり思わない	59	36.4	54	34.4	
	思わない	12	7.4	14	8.9	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	26	16.0	24	15.3	n. s.
	そう思う	64	39.5	73	46.5	
	あまり思わない	65	40.1	49	31.2	
	思わない	6	3.7	11	7.0	
今の生活に満足している	とてもそう思う	40	24.7	35	22.3	n. s.
	そう思う	80	49.4	83	52.9	
	あまり思わない	35	21.6	30	19.1	
	思わない	7	4.3	9	5.7	
健康である	とてもそう思う	64	39.5	58	36.9	n. s.
	そう思う	69	42.6	84	53.5	
	あまり思わない	26	16.0	13	8.3	
	思わない	3	1.9	2	1.3	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-26 母親の自己認識と父親の不規則勤務の有無

		不規則勤務				χ <sup>2</sup> 検定
		あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	10	11.9	31	12.1	n. s.
	そう思う	36	42.9	133	51.8	
	あまり思わない	34	40.5	81	31.5	
	思わない	4	4.8	12	4.7	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	2	2.4	16	6.2	n. s.
	そう思う	36	42.9	110	42.8	
	あまり思わない	44	52.4	116	45.1	
	思わない	2	2.4	15	5.8	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	5	6.0	12	4.7	n. s.
	そう思う	30	35.7	84	32.7	
	あまり思わない	42	50.0	136	52.9	
	思わない	7	8.3	25	9.7	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	8	9.5	31	12.1	n. s.
	そう思う	60	71.4	177	68.9	
	あまり思わない	15	17.9	42	16.3	
	思わない	1	1.2	6	2.3	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	16	19.0	34	13.2	n. s.
	そう思う	39	46.4	133	51.8	
	あまり思わない	25	29.8	82	31.9	
	思わない	4	4.8	8	3.1	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	4	4.8	9	3.5	n. s.
	そう思う	13	15.5	40	15.6	
	あまり思わない	59	70.2	162	63.0	
	思わない	8	9.5	46	17.9	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	7	8.3	30	11.7	n. s.
	そう思う	32	38.1	116	45.1	
	あまり思わない	38	45.2	89	34.6	
	思わない	7	8.3	22	8.6	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	1	1.2	10	3.9	n. s.
	そう思う	21	25.0	59	23.0	
	あまり思わない	47	56.0	149	58.0	
	思わない	15	17.9	38	14.8	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	3	3.6	9	3.5	n. s.
	そう思う	40	47.6	123	47.9	
	あまり思わない	37	44.0	112	43.6	
	思わない	4	4.8	13	5.1	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	1	1.2	7	2.7	n. s.
	そう思う	11	13.1	28	10.9	
	あまり思わない	43	51.2	131	51.0	
	思わない	28	33.3	91	35.4	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	15	17.9	45	17.5	n. s.
	そう思う	33	39.3	133	51.8	
	あまり思わない	25	29.8	59	23.0	
	思わない	10	11.9	17	6.6	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	3	3.6	19	7.4	n. s.
	そう思う	18	21.4	61	23.7	
	あまり思わない	39	46.4	109	42.4	
	思わない	24	28.6	68	26.5	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	33	39.3	118	45.9	n. s.
	そう思う	41	48.8	114	44.4	
	あまり思わない	5	6.0	22	8.6	
	思わない	4	4.8	3	1.2	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	50	59.5	150	58.4	n. s.
	そう思う	31	36.9	93	36.2	
	あまり思わない	3	3.6	12	4.7	
	思わない	0	0.0	2	0.8	
子育ては楽しい	とてもそう思う	29	34.5	91	35.4	n. s.
	そう思う	45	53.6	132	51.4	
	あまり思わない	10	11.9	29	11.3	
	思わない	0	0.0	5	1.9	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	30	35.7	79	30.7	n. s.
	そう思う	36	42.9	126	49.0	
	あまり思わない	15	17.9	48	18.7	
	思わない	2	2.4	4	1.6	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	14	16.7	49	19.1	n. s.
	そう思う	32	38.1	101	39.3	
	あまり思わない	33	39.3	85	33.1	
	思わない	5	6.0	21	8.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	14	16.7	42	16.3	n. s.
	そう思う	33	39.3	113	44.0	
	あまり思わない	30	35.7	90	35.0	
	思わない	6	7.1	12	4.7	
今の生活に満足している	とてもそう思う	15	17.9	69	26.8	n. s.
	そう思う	47	56.0	124	48.2	
	あまり思わない	15	17.9	54	21.0	
	思わない	7	8.3	10	3.9	
健康である	とてもそう思う	40	47.6	90	35.0	n. s.
	そう思う	34	40.5	129	50.2	
	あまり思わない	8	9.5	35	13.6	
	思わない	2	2.4	3	1.2	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-27 母親の自己認識と父親の休日数

		休日										χ <sup>2</sup> 検定
		月0回		月6回		月4回		不定期		休みなし		
		度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	23	13.1	8	10.4	6	12.0	2	6.3	1	33.3	n. s.
	そう思う	92	52.3	36	46.8	22	44.0	17	53.1	1	33.3	
	あまり思わない	53	30.1	30	39.0	18	36.0	13	40.6	0	0.0	
	思わない	8	4.5	3	3.9	4	8.0	0	0.0	1	33.3	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	10	5.7	5	6.5	1	2.0	0	0.0	1	33.3	**
	そう思う	87	49.4	23	29.9	17	34.0	17	53.1	0	0.0	
	あまり思わない	69	39.2	45	58.4	31	62.0	14	43.8	1	33.3	
	思わない	10	5.7	4	5.2	1	2.0	1	3.1	1	33.3	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	7	4.0	3	3.9	3	6.0	4	12.5	0	0.0	n. s.
	そう思う	56	31.8	27	35.1	17	34.0	12	37.5	1	33.3	
	あまり思わない	96	54.5	40	51.9	27	54.0	14	43.8	1	33.3	
	思わない	17	9.7	7	9.1	3	6.0	2	6.3	1	33.3	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	20	11.4	8	10.4	5	10.0	4	12.5	1	33.3	n. s.
	そう思う	130	73.9	54	70.1	33	66.0	18	56.3	1	33.3	
	あまり思わない	22	12.5	12	15.6	11	22.0	10	31.3	1	33.3	
	思わない	4	2.3	2	2.6	1	2.0	0	0.0	0	0.0	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	21	11.9	9	11.7	10	20.0	8	25.0	0	0.0	n. s.
	そう思う	86	48.9	43	55.8	25	50.0	16	50.0	1	33.3	
	あまり思わない	61	34.7	23	29.9	14	28.0	7	21.9	2	66.7	
	思わない	8	4.5	2	2.6	1	2.0	1	3.1	0	0.0	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	5	2.8	1	1.3	4	8.0	3	9.4	0	0.0	n. s.
	そう思う	24	13.6	14	18.2	10	20.0	4	12.5	0	0.0	
	あまり思わない	112	63.6	53	68.8	31	62.0	22	68.8	2	66.7	
	思わない	35	19.9	9	11.7	5	10.0	3	9.4	1	33.3	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	15	8.5	7	9.1	9	18.0	3	9.4	1	33.3	**
	そう思う	92	52.3	24	31.2	17	34.0	13	40.6	1	33.3	
	あまり思わない	59	33.5	41	53.2	14	28.0	13	40.6	1	33.3	
	思わない	10	5.7	5	6.5	3	6.0	3	9.4	0	0.0	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	9	5.1	1	1.3	1	2.0	0	0.0	0	0.0	n. s.
	そう思う	33	18.8	22	28.6	14	28.0	10	31.3	1	33.3	
	あまり思わない	108	61.4	43	55.8	29	58.0	15	46.9	1	33.3	
	思わない	26	14.8	10	13.0	6	12.0	7	21.9	1	33.3	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	6	3.4	3	3.9	1	2.0	1	3.1	0	0.0	n. s.
	そう思う	90	51.1	36	46.8	20	40.0	12	37.5	2	66.7	
	あまり思わない	73	41.5	33	42.9	24	48.0	19	59.4	1	33.3	
	思わない	7	4.0	5	6.5	5	10.0	0	0.0	0	0.0	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	6	3.4	1	1.3	1	2.0	0	0.0	0	0.0	n. s.
	そう思う	21	11.9	10	13.0	6	12.0	2	6.3	0	0.0	
	あまり思わない	86	48.9	43	55.8	29	58.0	17	53.1	0	0.0	
	思わない	63	35.8	22	28.6	14	28.0	13	40.6	3	100.0	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	33	18.8	12	15.6	8	16.0	5	15.6	0	0.0	n. s.
	そう思う	79	44.9	44	57.1	25	50.0	15	46.9	2	66.7	
	あまり思わない	52	29.5	11	14.3	9	18.0	11	34.4	1	33.3	
	思わない	10	5.7	8	10.4	8	16.0	1	3.1	0	0.0	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	12	6.8	3	3.9	5	10.0	1	3.1	0	0.0	n. s.
	そう思う	46	26.1	20	26.0	8	16.0	6	18.8	0	0.0	
	あまり思わない	69	39.2	37	48.1	25	50.0	14	43.8	2	66.7	
	思わない	49	27.8	17	22.1	12	24.0	11	34.4	1	33.3	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	79	44.9	30	39.0	23	46.0	15	46.9	1	33.3	*
	そう思う	76	43.2	41	53.2	23	46.0	14	43.8	1	33.3	
	あまり思わない	19	10.8	3	3.9	3	6.0	2	6.3	0	0.0	
	思わない	2	1.1	2	2.6	1	2.0	0	0.0	1	33.3	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	104	59.1	45	58.4	30	60.0	17	53.1	1	33.3	n. s.
	そう思う	61	34.7	29	37.7	18	36.0	15	46.9	1	33.3	
	あまり思わない	9	5.1	3	3.9	2	4.0	0	0.0	1	33.3	
	思わない	2	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	59	33.5	29	37.7	17	34.0	11	34.4	1	33.3	n. s.
	そう思う	88	50.0	42	54.5	25	50.0	20	62.5	2	66.7	
	あまり思わない	26	14.8	5	6.5	7	14.0	1	3.1	0	0.0	
	思わない	3	1.7	1	1.3	1	2.0	0	0.0	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	52	29.5	26	33.8	16	32.0	12	37.5	0	0.0	n. s.
	そう思う	89	50.6	33	42.9	22	44.0	15	46.9	2	66.7	
	あまり思わない	33	18.8	15	19.5	10	20.0	5	15.6	1	33.3	
	思わない	2	1.1	2	2.6	2	4.0	0	0.0	0	0.0	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	36	20.5	15	19.5	6	12.0	4	12.5	0	0.0	*
	そう思う	73	41.5	19	24.7	23	46.0	16	50.0	2	66.7	
	あまり思わない	52	29.5	37	48.1	15	30.0	12	37.5	0	0.0	
	思わない	14	8.0	6	7.8	6	12.0	0	0.0	1	33.3	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	28	15.9	13	16.9	7	14.0	6	18.8	0	0.0	n. s.
	そう思う	80	45.5	27	35.1	23	46.0	12	37.5	2	66.7	
	あまり思わない	59	33.5	32	41.6	16	32.0	14	43.8	0	0.0	
	思わない	9	5.1	5	6.5	3	6.0	0	0.0	1	33.3	
今の生活に満足している	とてもそう思う	43	24.4	19	24.7	13	26.0	6	18.8	1	33.3	n. s.
	そう思う	95	54.0	40	51.9	18	36.0	17	53.1	1	33.3	
	あまり思わない	32	18.2	14	18.2	13	26.0	8	25.0	1	33.3	
	思わない	6	3.4	4	5.2	6	12.0	1	3.1	0	0.0	
健康である	とてもそう思う	64	36.4	31	40.3	20	40.0	12	37.5	2	66.7	n. s.
	そう思う	92	52.3	35	45.5	20	40.0	14	43.8	1	33.3	
	あまり思わない	18	10.2	9	11.7	9	18.0	6	18.8	0	0.0	
	思わない	2	1.1	2	2.6	1	2.0	0	0.0	0	0.0	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.: not significant

4-2-4 居住状況と母親の自己認識

居住年数(1年未満群、1～5年群、6～10年群、11年以上群)、居住形態(一戸建て群、集合住宅群)と母親の自己認識で $\chi^2$ 検定を行った結果は、表2-28、表2-29に示した通りである。

1) 居住年数と母親の自己認識(表2-28)

いずれの項目も各群間で統計学上、有意な差は見られなかった。

2) 居住形態と母親の自己認識(表2-29)

いずれの項目も各群間で統計学上、有意な差は見られなかった。

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-28 母親の自己認識と居住年数

		居住年数								χ <sup>2</sup> 検定
		1年未満		1年～5年以下		6年～10年以下		11年以上		
		度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	0	0.0	18	12.1	11	12.6	13	22.4	n. s.
	そう思う	6	10.9	108	72.5	37	42.5	22	37.9	
	あまり思わない	4	7.3	60	40.3	34	39.1	20	34.5	
	思わない	1	1.8	7	4.7	5	5.7	3	5.2	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	0	0.0	10	6.7	4	4.6	5	8.6	n. s.
	そう思う	4	7.3	86	57.7	35	40.2	24	41.4	
	あまり思わない	6	10.9	90	60.4	45	51.7	23	39.7	
	思わない	1	1.8	7	4.7	3	3.4	6	10.3	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	1	1.8	10	6.7	5	5.7	4	6.9	n. s.
	そう思う	1	1.8	59	39.6	34	39.1	20	34.5	
	あまり思わない	7	12.7	104	69.8	42	48.3	29	50.0	
	思わない	2	3.6	20	13.4	6	6.9	5	8.6	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	2	3.6	18	12.1	12	13.8	7	12.1	n. s.
	そう思う	6	10.9	146	98.0	55	63.2	37	63.8	
	あまり思わない	3	5.5	24	16.1	19	21.8	12	20.7	
	思わない	0	0.0	4	2.7	1	1.1	2	3.4	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	1	1.8	22	14.8	11	12.6	17	29.3	n. s.
	そう思う	6	10.9	100	67.1	47	54.0	24	41.4	
	あまり思わない	3	5.5	66	44.3	25	28.7	15	25.9	
	思わない	1	1.8	5	3.4	4	4.6	2	3.4	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	0	0.0	7	4.7	4	4.6	4	6.9	n. s.
	そう思う	2	3.6	26	17.4	15	17.2	12	20.7	
	あまり思わない	7	12.7	128	85.9	56	64.4	33	56.9	
	思わない	2	3.6	32	21.5	12	13.8	9	15.5	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	2	3.6	17	11.4	11	12.6	7	12.1	n. s.
	そう思う	1	1.8	88	59.1	38	43.7	24	41.4	
	あまり思わない	7	12.7	68	45.6	34	39.1	22	37.9	
	思わない	1	1.8	20	13.4	4	4.6	5	8.6	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	1	1.8	10	6.7	0	0.0	0	0.0	n. s.
	そう思う	3	5.5	44	29.5	22	25.3	14	24.1	
	あまり思わない	7	12.7	109	73.2	53	60.9	31	53.4	
	思わない	0	0.0	29	19.5	12	13.8	13	22.4	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	0	0.0	5	3.4	5	5.7	2	3.4	n. s.
	そう思う	6	10.9	95	63.8	38	43.7	27	46.6	
	あまり思わない	5	9.1	82	55.0	39	44.8	27	46.6	
	思わない	0	0.0	11	7.4	5	5.7	2	3.4	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	0	0.0	4	2.7	3	3.4	1	1.7	n. s.
	そう思う	1	1.8	28	18.8	7	8.0	4	6.9	
	あまり思わない	6	10.9	93	62.4	51	58.6	28	48.3	
	思わない	4	7.3	68	45.6	26	29.9	24	41.4	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	3	5.5	31	20.8	14	16.1	12	20.7	n. s.
	そう思う	5	9.1	91	61.1	49	56.3	26	44.8	
	あまり思わない	3	5.5	58	38.9	12	13.8	14	24.1	
	思わない	0	0.0	11	7.4	10	11.5	6	10.3	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	1	1.8	10	6.7	7	8.0	4	6.9	n. s.
	そう思う	4	7.3	47	31.5	16	18.4	15	25.9	
	あまり思わない	3	5.5	83	55.7	40	46.0	26	44.8	
	思わない	3	5.5	53	35.6	24	27.6	13	22.4	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	2	3.6	86	57.7	36	41.4	28	48.3	n. s.
	そう思う	8	14.5	90	60.4	42	48.3	22	37.9	
	あまり思わない	1	1.8	13	8.7	7	8.0	6	10.3	
	思わない	0	0.0	3	2.0	2	2.3	2	3.4	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	4	7.3	114	76.5	45	51.7	40	69.0	n. s.
	そう思う	6	10.9	72	48.3	35	40.2	16	27.6	
	あまり思わない	1	1.8	6	4.0	6	6.9	2	3.4	
	思わない	0	0.0	1	0.7	1	1.1	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	2	3.6	73	49.0	26	29.9	21	36.2	n. s.
	そう思う	8	14.5	100	67.1	45	51.7	30	51.7	
	あまり思わない	1	1.8	17	11.4	14	16.1	7	12.1	
	思わない	0	0.0	3	2.0	2	2.3	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	0	0.0	66	44.3	25	28.7	19	32.8	n. s.
	そう思う	6	10.9	93	62.4	41	47.1	27	46.6	
	あまり思わない	5	9.1	30	20.1	21	24.1	9	15.5	
	思わない	0	0.0	4	2.7	0	0.0	2	3.4	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	1	1.8	37	24.8	16	18.4	9	15.5	n. s.
	そう思う	6	10.9	81	54.4	28	32.2	22	37.9	
	あまり思わない	3	5.5	63	42.3	34	39.1	21	36.2	
	思わない	1	1.8	11	7.4	9	10.3	6	10.3	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	1	1.8	33	22.1	12	13.8	10	17.2	n. s.
	そう思う	6	10.9	88	59.1	36	41.4	20	34.5	
	あまり思わない	2	3.6	64	43.0	34	39.1	24	41.4	
	思わない	2	3.6	8	5.4	4	4.6	4	6.9	
今の生活に満足している	とてもそう思う	2	3.6	46	30.9	24	27.6	13	22.4	n. s.
	そう思う	5	9.1	106	71.1	42	48.3	20	34.5	
	あまり思わない	3	5.5	36	24.2	15	17.2	19	32.8	
	思わない	1	1.8	5	3.4	6	6.9	6	10.3	
健康である	とてもそう思う	3	5.5	86	57.7	26	29.9	19	32.8	n. s.
	そう思う	5	9.1	89	59.7	45	51.7	27	46.6	
	あまり思わない	2	3.6	17	11.4	14	16.1	11	19.0	
	思わない	1	1.8	1	0.7	2	2.3	1	1.7	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.; not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-29 母親の自己認識と居住形態

		居住形態				χ <sup>2</sup> 検定
		一戸建て		集合住宅		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	29	12.7	10	8.6	n. s.
	そう思う	116	50.9	57	49.1	
	あまり思わない	73	32.0	43	37.1	
	思わない	10	4.4	6	5.2	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	10	4.4	7	6.0	n. s.
	そう思う	98	43.0	50	43.1	
	あまり思わない	109	47.8	53	45.7	
	思わない	11	4.8	6	5.2	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	9	3.9	10	8.6	n. s.
	そう思う	72	31.6	39	33.6	
	あまり思わない	127	55.7	54	46.6	
	思わない	20	8.8	13	11.2	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	25	11.0	13	11.2	n. s.
	そう思う	166	72.8	74	63.8	
	あまり思わない	33	14.5	25	21.6	
	思わない	4	1.8	3	2.6	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	33	14.5	15	12.9	n. s.
	そう思う	114	50.0	62	53.4	
	あまり思わない	72	31.6	36	31.0	
	思わない	9	3.9	3	2.6	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	7	3.1	7	6.0	n. s.
	そう思う	38	16.7	16	13.8	
	あまり思わない	146	64.0	75	64.7	
	思わない	37	16.2	18	15.5	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	27	11.8	10	8.6	n. s.
	そう思う	104	45.6	46	39.7	
	あまり思わない	78	34.2	49	42.2	
	思わない	19	8.3	11	9.5	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	6	2.6	5	4.3	n. s.
	そう思う	58	25.4	25	21.6	
	あまり思わない	133	58.3	64	55.2	
	思わない	31	13.6	21	18.1	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	8	3.5	4	3.4	n. s.
	そう思う	105	46.1	57	49.1	
	あまり思わない	104	45.6	48	41.4	
	思わない	11	4.8	7	6.0	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	3	1.3	4	3.4	n. s.
	そう思う	27	11.8	13	11.2	
	あまり思わない	116	50.9	60	51.7	
	思わない	81	35.5	39	33.6	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	39	17.1	20	17.2	n. s.
	そう思う	117	51.3	51	44.0	
	あまり思わない	53	23.2	34	29.3	
	思わない	17	7.5	9	7.8	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	15	6.6	7	6.0	n. s.
	そう思う	51	22.4	30	25.9	
	あまり思わない	103	45.2	46	39.7	
	思わない	59	25.9	33	28.4	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	100	43.9	49	42.2	n. s.
	そう思う	107	46.9	54	46.6	
	あまり思わない	17	7.5	10	8.6	
	思わない	4	1.8	2	1.7	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	129	56.6	72	62.1	n. s.
	そう思う	87	38.2	40	34.5	
	あまり思わない	10	4.4	4	3.4	
	思わない	2	0.9	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	75	32.9	43	37.1	n. s.
	そう思う	125	54.8	58	50.0	
	あまり思わない	24	10.5	14	12.1	
	思わない	4	1.8	1	0.9	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	67	29.4	41	35.3	n. s.
	そう思う	115	50.4	50	43.1	
	あまり思わない	44	19.3	21	18.1	
	思わない	2	0.9	3	2.6	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	42	18.4	21	18.1	n. s.
	そう思う	92	40.4	41	35.3	
	あまり思わない	77	33.8	43	37.1	
	思わない	16	7.0	11	9.5	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	37	16.2	18	15.5	n. s.
	そう思う	99	43.4	48	41.4	
	あまり思わない	83	36.4	40	34.5	
	思わない	8	3.5	10	8.6	
今の生活に満足している	とてもそう思う	56	24.6	27	23.3	n. s.
	そう思う	118	51.8	54	46.6	
	あまり思わない	43	18.9	29	25.0	
	思わない	11	4.8	6	5.2	
健康である	とてもそう思う	80	35.1	52	44.8	n. s.
	そう思う	111	48.7	53	45.7	
	あまり思わない	33	14.5	10	8.6	
	思わない	4	1.8	2	1.7	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

4-2-5 同居者と母親の自己認識

父方祖父同居の有無(あり群、なし群)、父方祖母同居の有無(あり群、なし群)、母方祖父同居の有無(あり群、なし群)、母方祖母同居の有無(あり群、なし群)と母親の自己認識で $\chi^2$ 検定を行った結果を表 2-30、表 2-31 に示した。

1) 父方祖父母同居の有無と母親の自己認識(表 2-30)

父方祖父母同居の有無と母親の自己認識の中の「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日頃、ハリある生活を送っている」との間で統計学上有意な差が見られた。

「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」において「とてもそう思う」「そう思う」と認識しているものは、父方祖父同居なし群よりも父方祖父同居あり群に有意に多かった。一方、「日頃、ハリある生活を送っている」において「とてもそう思う」「そう思う」と認識しているものは、父方祖父母同居あり群よりも父方祖父母同居なし群が有意に多かった。

父方祖父との同居の場合、生活の中に生きる喜びや充実感を感じる人が多いことが示された。また、父方祖父母と別居の場合は、ハリある生活を送っていると感じる人が多いことが示された。

2) 母方祖父母同居の有無と母親の自己認識(表 2-31)

母方祖父母同居の有無の有無と母親の自己認識のいずれの項目とも、あり群となし群の間に統計学上有意な差は見られなかった。

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-30 母親の自己認識と父方祖父母同居の有無

		父方祖父同居				$\chi^2$ 検定	父方祖母同居				$\chi^2$ 検定
		あり		なし			あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	6	14.3	31	10.6	n. s.	7	14.6	30	10.5	n. s.
	そう思う	23	54.8	148	50.5		24	50.0	147	51.2	
	あまり思わない	11	26.2	100	34.1		15	31.3	96	33.4	
	思わない	2	4.8	14	4.8		2	4.2	14	4.9	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	2	4.8	14	4.8	n. s.	3	6.3	13	4.5	n. s.
	そう思う	21	50.0	124	42.3		21	43.8	124	43.2	
	あまり思わない	17	40.5	140	47.8		21	43.8	136	47.4	
	思わない	2	4.8	15	5.1		3	6.3	14	4.9	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	2	4.8	16	5.5	n. s.	3	6.3	15	5.2	n. s.
	そう思う	15	35.7	93	31.7		17	35.4	91	31.7	
	あまり思わない	21	50.0	155	52.9		24	50.0	152	53.0	
	思わない	4	9.5	29	9.9		4	8.3	29	10.1	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	5	11.9	31	10.6	n. s.	6	12.5	30	10.5	n. s.
	そう思う	30	71.4	206	70.3		32	66.7	204	71.1	
	あまり思わない	7	16.7	48	16.4		10	20.8	45	15.7	
	思わない	0	0.0	7	2.4		0	0.0	7	2.4	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	6	14.3	40	13.7	n. s.	8	16.7	38	13.2	n. s.
	そう思う	17	40.5	153	52.2		23	47.9	147	51.2	
	あまり思わない	16	38.1	91	31.1		14	29.2	93	32.4	
	思わない	3	7.1	9	3.1		3	6.3	9	3.1	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	0	0.0	14	4.8	n. s.	1	2.1	13	4.5	n. s.
	そう思う	7	16.7	46	15.7		10	20.8	43	15.0	
	あまり思わない	28	66.7	187	63.8		29	60.4	186	64.8	
	思わない	7	16.7	46	15.7		8	16.7	45	15.7	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	6	14.3	29	9.9	n. s.	7	14.6	28	9.8	n. s.
	そう思う	19	45.2	126	43.0		19	39.6	126	43.9	
	あまり思わない	13	31.0	114	38.9		16	33.3	111	38.7	
	思わない	4	9.5	24	8.2		6	12.5	22	7.7	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	0	0.0	10	3.4	n. s.	0	0.0	10	3.5	n. s.
	そう思う	10	23.8	70	23.9		14	29.2	66	23.0	
	あまり思わない	28	66.7	167	57.0		29	60.4	166	57.8	
	思わない	4	9.5	45	15.4		5	10.4	44	15.3	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	1	2.4	8	2.7	n. s.	1	2.1	8	2.8	n. s.
	そう思う	26	61.9	133	45.4		27	56.3	132	46.0	
	あまり思わない	12	28.6	138	47.1		17	35.4	133	46.3	
	思わない	3	7.1	14	4.8		3	6.3	14	4.9	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	0	0.0	6	2.0	n. s.	0	0.0	6	2.1	n. s.
	そう思う	1	2.4	37	12.6		1	2.1	37	12.9	
	あまり思わない	22	52.4	151	51.5		27	56.3	146	50.9	
	思わない	18	42.9	99	33.8		19	39.6	98	34.1	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	8	19.0	50	17.1	n. s.	9	18.8	49	17.1	n. s.
	そう思う	20	47.6	147	50.2		23	47.9	144	50.2	
	あまり思わない	10	23.8	72	24.6		12	25.0	70	24.4	
	思わない	2	4.8	22	7.5		2	4.2	22	7.7	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	1	2.4	20	6.8	n. s.	1	2.1	20	7.0	n. s.
	そう思う	8	19.0	71	24.2		9	18.8	70	24.4	
	あまり思わない	23	54.8	121	41.3		28	58.3	116	40.4	
	思わない	10	23.8	81	27.6		10	20.8	81	28.2	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	22	52.4	122	41.6	n. s.	21	43.8	123	42.9	n. s.
	そう思う	17	40.5	141	48.1		24	50.0	134	46.7	
	あまり思わない	1	2.4	26	8.9		1	2.1	26	9.1	
	思わない	2	4.8	3	1.0		2	4.2	3	1.0	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	26	61.9	169	57.7	n. s.	26	54.2	169	58.9	n. s.
	そう思う	14	33.3	111	37.9		20	41.7	105	36.6	
	あまり思わない	1	2.4	13	4.4		1	2.1	13	4.5	
	思わない	1	2.4	0	0.0		1	2.1	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	21	50.0	96	32.8	n. s.	21	43.8	96	33.4	n. s.
	そう思う	20	47.6	156	53.2		26	54.2	150	52.3	
	あまり思わない	1	2.4	37	12.6		1	2.1	37	12.9	
	思わない	0	0.0	4	1.4		0	0.0	4	1.4	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	23	54.8	83	28.3	p<0.01	21	43.8	85	29.6	n. s.
	そう思う	15	35.7	146	49.8		21	43.8	140	48.8	
	あまり思わない	4	9.5	58	19.8		6	12.5	56	19.5	
	思わない	0	0.0	5	1.7		0	0.0	5	1.7	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	10	23.8	49	16.7	n. s.	10	20.8	49	17.1	n. s.
	そう思う	18	42.9	115	39.2		20	41.7	113	39.4	
	あまり思わない	12	28.6	103	35.2		15	31.3	100	34.8	
	思わない	2	4.8	25	8.5		3	6.3	24	8.4	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	12	28.6	40	13.7	p<0.05	11	22.9	41	14.3	p<0.05
	そう思う	12	28.6	134	45.7		13	27.1	133	46.3	
	あまり思わない	17	40.5	102	34.8		23	47.9	96	33.4	
	思わない	1	2.4	16	5.5		1	2.1	16	5.6	
今の生活に満足している	とてもそう思う	12	28.6	69	23.5	n. s.	12	25.0	69	24.0	n. s.
	そう思う	18	42.9	152	51.9		19	39.6	151	52.6	
	あまり思わない	11	26.2	57	19.5		15	31.3	53	18.5	
	思わない	1	2.4	15	5.1		2	4.2	14	4.9	
健康である	とてもそう思う	20	47.6	111	37.9	n. s.	23	47.9	108	37.6	n. s.
	そう思う	15	35.7	145	49.5		16	33.3	144	50.2	
	あまり思わない	6	14.3	34	11.6		8	16.7	32	11.1	
	思わない	1	2.4	3	1.0		1	2.1	3	1.0	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant



第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-31 母親の自己認識と母方祖父母同居の有無

		母方祖父同居				$\chi^2$ 検定	母方祖母同居				$\chi^2$ 検定
		あり		なし			あり		なし		
		度数	(%)	度数	(%)		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	2	16.7	35	10.8	n. s.	3	18.8	34	10.7	n. s.
	そう思う	5	41.7	166	51.4		7	43.8	164	51.4	
	あまり思わない	5	41.7	106	32.8		6	37.5	105	32.9	
	思わない	0	0.0	16	5.0		0	0.0	16	5.0	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	0	0.0	16	5.0	n. s.	0	0.0	16	5.0	n. s.
	そう思う	5	41.7	140	43.3		6	37.5	139	43.6	
	あまり思わない	7	58.3	150	46.4		10	62.5	147	46.1	
	思わない	0	0.0	17	5.3		0	0.0	17	5.3	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	0	0.0	18	5.6	n. s.	0	0.0	18	5.6	n. s.
	そう思う	5	41.7	103	31.9		8	50.0	100	31.3	
	あまり思わない	7	58.3	169	52.3		7	43.8	169	53.0	
	思わない	0	0.0	33	10.2		1	6.3	32	10.0	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	0	0.0	36	11.1	n. s.	1	6.3	35	11.0	n. s.
	そう思う	11	91.7	225	69.7		12	75.0	224	70.2	
	あまり思わない	1	8.3	54	16.7		3	18.8	52	16.3	
	思わない	0	0.0	7	2.2		0	0.0	7	2.2	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	2	16.7	44	13.6	n. s.	4	25.0	42	13.2	n. s.
	そう思う	9	75.0	161	49.8		10	62.5	160	50.2	
	あまり思わない	1	8.3	106	32.8		2	12.5	105	32.9	
	思わない	0	0.0	12	3.7		0	0.0	12	3.8	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	0	0.0	14	4.3	n. s.	1	6.3	13	4.1	n. s.
	そう思う	3	25.0	50	15.5		3	18.8	50	15.7	
	あまり思わない	9	75.0	206	63.8		11	68.8	204	63.9	
	思わない	0	0.0	53	16.4		1	6.3	52	16.3	
すべてを良い方と考えようとする	とてもそう思う	2	16.7	33	10.2	n. s.	2	12.5	33	10.3	n. s.
	そう思う	4	33.3	141	43.7		5	31.3	140	43.9	
	あまり思わない	5	41.7	122	37.8		7	43.8	120	37.6	
	思わない	1	8.3	27	8.4		2	12.5	26	8.2	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	0	0.0	10	3.1	n. s.	0	0.0	10	3.1	n. s.
	そう思う	3	25.0	77	23.8		5	31.3	75	23.5	
	あまり思わない	8	66.7	187	57.9		9	56.3	186	58.3	
	思わない	1	8.3	48	14.9		2	12.5	47	14.7	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	0	0.0	9	2.8	n. s.	0	0.0	9	2.8	n. s.
	そう思う	5	41.7	154	47.7		6	37.5	153	48.0	
	あまり思わない	7	58.3	143	44.3		10	62.5	140	43.9	
	思わない	0	0.0	17	5.3		0	0.0	17	5.3	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	0	0.0	6	1.9	n. s.	0	0.0	6	1.9	n. s.
	そう思う	0	0.0	38	11.8		1	6.3	37	11.6	
	あまり思わない	7	58.3	166	51.4		8	50.0	165	51.7	
	思わない	5	41.7	112	34.7		7	43.8	110	34.5	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	2	16.7	56	17.3	n. s.	3	18.8	55	17.2	n. s.
	そう思う	9	75.0	158	48.9		11	68.8	156	48.9	
	あまり思わない	1	8.3	81	25.1		2	12.5	80	25.1	
	思わない	0	0.0	24	7.4		0	0.0	24	7.5	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	0	0.0	21	6.5	n. s.	0	0.0	21	6.6	n. s.
	そう思う	3	25.0	76	23.5		2	12.5	77	24.1	
	あまり思わない	4	33.3	140	43.3		7	43.8	137	42.9	
	思わない	5	41.7	86	26.6		7	43.8	84	26.3	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	7	58.3	137	42.4	n. s.	9	56.3	186	58.3	n. s.
	そう思う	5	41.7	153	47.4		7	43.8	118	37.0	
	あまり思わない	0	0.0	27	8.4		0	0.0	14	4.4	
	思わない	0	0.0	5	1.5		0	0.0	1	0.3	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	7	58.3	188	58.2	n. s.	9	56.3	186	58.3	n. s.
	そう思う	5	41.7	120	37.2		7	43.8	118	37.0	
	あまり思わない	0	0.0	14	4.3		0	0.0	14	4.4	
	思わない	0	0.0	1	0.3		0	0.0	1	0.3	
子育ては楽しい	とてもそう思う	6	50.0	111	34.4	n. s.	7	43.8	110	34.5	n. s.
	そう思う	6	50.0	170	52.6		9	56.3	167	52.4	
	あまり思わない	0	0.0	38	11.8		0	0.0	38	11.9	
	思わない	0	0.0	4	1.2		0	0.0	4	1.3	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	4	33.3	102	31.6	n. s.	5	31.3	101	31.7	n. s.
	そう思う	5	41.7	156	48.3		6	37.5	155	48.6	
	あまり思わない	3	25.0	59	18.3		5	31.3	57	17.9	
	思わない	0	0.0	5	1.5		0	0.0	5	1.6	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	3	25.0	56	17.3	n. s.	4	25.0	55	17.2	n. s.
	そう思う	5	41.7	128	39.6		5	31.3	128	40.1	
	あまり思わない	4	33.3	111	34.4		6	37.5	109	34.2	
	思わない	0	0.0	27	8.4		1	6.3	26	8.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	3	25.0	49	15.2	n. s.	3	18.8	49	15.4	n. s.
	そう思う	5	41.7	141	43.7		8	50.0	138	43.3	
	あまり思わない	4	33.3	115	35.6		5	31.3	114	35.7	
	思わない	0	0.0	17	5.3		0	0.0	17	5.3	
今の生活に満足している	とてもそう思う	4	33.3	77	23.8	n. s.	4	25.0	77	24.1	n. s.
	そう思う	7	58.3	163	50.5		10	62.5	160	50.2	
	あまり思わない	1	8.3	67	20.7		2	12.5	66	20.7	
	思わない	0	0.0	16	5.0		0	0.0	16	5.0	
健康である	とてもそう思う	6	50.0	125	38.7	n. s.	8	50.0	123	38.6	n. s.
	そう思う	5	41.7	155	48.0		6	37.5	154	48.3	
	あまり思わない	1	8.3	39	12.1		2	12.5	38	11.9	
	思わない	0	0.0	4	1.2		0	0.0	4	1.3	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

#### 4-2-6 サポート得点と母親の自己認識との関連

総サポート得点パートナーサポート得点、パートナー以外の親族サポート得点、友人・近隣サポート得点(いずれも平均得点で分けた高群、低群)と母親の自己認識で $\chi^2$ 検定を行った結果を、表 2-32～表 2-35 に示した。

##### 1) 総サポート得点と母親の自己認識(表 2-32)

総サポート得点と「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ」、「すべてを良い方に考えようとする」、「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」、「子育てによって人生は充実している」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」、「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものあり」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」、「健康である」との間に統計学上有意な差が見られた。

「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ」、「すべてを良い方に考えようとする」と認識しているものは、サポート低群よりも高群の方が有意に多かった。「子どもを育てることが負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」と認識しているものは、サポート低群が高群よりも有意に多かった。「子育てによって人生は充実している」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」と認識しているものは、サポート低群よりも高群の方が有意に多かった。「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」、「健康である」と認識しているものは、サポート低群よりも高群の方が有意に多かった。

サポート高群はサポート低群よりも、自己認識、子育て認識、QOL をポジティブに捉える人が多い傾向であることが示された。

##### 2) パートナーのサポート得点と母親の自己認識(表 2-33)

パートナーのサポート得点高低群と「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ」、「何をやってもうまくいかない人間のように思える」、「すべてを良い方に考えようとする」、「育児に自信がもてない」、

「子どもをうまく育てている」、「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」、「子育てによって人生は充実している」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」、「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」、「健康である」との間に、統計学上有意な差が見られた。

「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ」、「すべてを良い方に考えようとする」、「子どもをうまく育てている」、「子育てによって人生は充実している」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」、「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」、「健康である」と認識しているものは、サポート高群が低群よりも有意に多かった。また、「何をやってもうまくいかない人間のように思える」、「育児に自信が持てない」、「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」と認識している割合は、サポート低群が高群よりも有意に多かった。

パートナーのサポート高群は低群よりも、自己認識、子育て認識、QOL のほとんどの項目でポジティブに捉える人が多いことが示された。

### 3) パートナー以外の親族のサポート得点と母親の自己認識(表 2-34)

パートナー以外の親族のサポート得点高低群と母親の自己認識「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「すべてを良い方に考えようとする」、「育児に自信が持てない」、「子どもをうまく育てている」、「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」、「子育てによって人生は充実している」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」、「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」、「健康である」との間に統計学上、有意な差が見られた。

「自分に満足している」、「自分には良いところがたくさんある」、「すべてを良い方に考えようとする」、「子どもをうまく育てている」、「子育てによって人生は充実している」、「子どもの成長とともに自分も成長する」、「子育ては楽しい」、「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものがある」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」、「健康である」と認識しているものは、サポート高群が低群よりも有意に多かった。また、「育児に自信が持てない」、「子どもを育てることは負担だ」、「子育てがなければどんなに自由だろう」と認識しているものは、サポート低群が高群よりも有意に多かった。

パートナー以外の親族のサポート高群は低群に比べ、子育て認識、QOLをポジティブに捉える傾向であることが示された。自己認識に関するほとんどの項目で、サポート高群と低群の間に有意な差が見られなかった点が、パートナーによるサポートとは異なる点である。

#### 4)友人・近隣サポート得点と母親の自己認識(表 2-35)

友人・近隣サポート得点高低群と母親の自己認識「自分には良いところがたくさんある」、「すべてを良い方に考えようとする」、「生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる」、「日々の生活の中に打ち込めるものあり」、「日頃、ハリある生活を送っている」、「今の生活に満足している」との間に、統計学上有意な差が見られた。

いずれの項目とも、「とてもそう思う」、「そう思う」と認識しているものは、サポート低群よりも高群の方が有意に多かった。

友人や近隣のサポート高群は低群よりも、QOLをポジティブに捉える傾向であることが示された。子育て認識に関する全項目、自己認識に関するほとんどの項目で、サポート高群と低群の間に有意な差が見られなかった点が、他のサポート源とは異なる点である。

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-32 母親の自己認識と総サポート得点

		総サポート				χ <sup>2</sup> 検定
		低群		高群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	9	5.7	32	19.4	***
	そう思う	73	46.5	89	53.9	
	あまり思わない	64	40.8	41	24.8	
	思わない	11	7.0	3	1.8	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	2	1.3	16	9.7	***
	そう思う	53	33.8	86	52.1	
	あまり思わない	90	57.3	60	36.4	
	思わない	12	7.6	3	1.8	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	11	7.0	8	4.8	n. s.
	そう思う	53	33.8	47	28.5	
	あまり思わない	80	51.0	92	55.8	
	思わない	13	8.3	18	10.9	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	11	7.0	27	16.4	**
	そう思う	110	70.1	115	69.7	
	あまり思わない	30	19.1	21	12.7	
	思わない	6	3.8	1	0.6	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	22	14.0	25	15.2	n. s.
	そう思う	82	52.2	81	49.1	
	あまり思わない	47	29.9	55	33.3	
	思わない	6	3.8	4	2.4	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	9	5.7	4	2.4	n. s.
	そう思う	25	15.9	22	13.3	
	あまり思わない	102	65.0	108	65.5	
	思わない	21	13.4	31	18.8	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	11	7.0	24	14.5	*
	そう思う	62	39.5	76	46.1	
	あまり思わない	65	41.4	55	33.3	
	思わない	19	12.1	10	6.1	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	8	5.1	3	1.8	n. s.
	そう思う	43	27.4	33	20.0	
	あまり思わない	88	56.1	96	58.2	
	思わない	18	11.5	32	19.4	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	5	3.2	7	4.2	n. s.
	そう思う	64	40.8	90	54.5	
	あまり思わない	78	49.7	63	38.2	
	思わない	10	6.4	5	3.0	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	6	3.8	0	0.0	***
	そう思う	27	17.2	9	5.5	
	あまり思わない	77	49.0	91	55.2	
	思わない	46	29.3	65	39.4	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	20	12.7	37	22.4	n. s.
	そう思う	81	51.6	82	49.7	
	あまり思わない	44	28.0	34	20.6	
	思わない	12	7.6	9	5.5	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	16	10.2	5	3.0	**
	そう思う	44	28.0	30	18.2	
	あまり思わない	63	40.1	80	48.5	
	思わない	34	21.7	50	30.3	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	55	35.0	89	53.9	***
	そう思う	76	48.4	71	43.0	
	あまり思わない	22	14.0	3	1.8	
	思わない	3	1.9	2	1.2	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	78	49.7	111	67.3	**
	そう思う	68	43.3	52	31.5	
	あまり思わない	10	6.4	2	1.2	
	思わない	1	0.6	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	37	23.6	76	46.1	***
	そう思う	90	57.3	83	50.3	
	あまり思わない	25	15.9	6	3.6	
	思わない	5	3.2	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	28	17.8	77	46.7	***
	そう思う	80	51.0	76	46.1	
	あまり思わない	44	28.0	12	7.3	
	思わない	5	3.2	0	0.0	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	14	8.9	46	27.9	***
	そう思う	49	31.2	78	47.3	
	あまり思わない	72	45.9	37	22.4	
	思わない	22	14.0	3	1.8	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	13	8.3	40	24.2	***
	そう思う	51	32.5	88	53.3	
	あまり思わない	79	50.3	33	20.0	
	思わない	14	8.9	4	2.4	
今の生活に満足している	とてもそう思う	24	15.3	58	35.2	***
	そう思う	65	41.4	96	58.2	
	あまり思わない	55	35.0	9	5.5	
	思わない	13	8.3	2	1.2	
健康である	とてもそう思う	46	29.3	77	46.7	**
	そう思う	85	54.1	71	43.0	
	あまり思わない	22	14.0	16	9.7	
	思わない	4	2.5	1	0.6	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-33 母親の自己認識とパートナーサポート得点

		パートナーサポート				χ <sup>2</sup> 検定
		低群		高群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	6	3.9	36	19.4	***
	そう思う	72	46.8	98	52.7	
	あまり思わない	64	41.6	50	26.9	
	思わない	12	7.8	2	1.1	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	2	1.3	17	9.1	***
	そう思う	49	31.8	96	51.6	
	あまり思わない	89	57.8	72	38.7	
	思わない	14	9.1	1	0.5	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	14	9.1	6	3.2	n. s.
	そう思う	49	31.8	60	32.3	
	あまり思わない	75	48.7	103	55.4	
	思わない	16	10.4	17	9.1	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	10	6.5	29	15.6	***
	そう思う	103	66.9	137	73.7	
	あまり思わない	34	22.1	19	10.2	
	思わない	7	4.5	0	0.0	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	22	14.3	27	14.5	n. s.
	そう思う	83	53.9	89	47.8	
	あまり思わない	44	28.6	65	34.9	
	思わない	5	3.2	5	2.7	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	12	7.8	2	1.1	**
	そう思う	29	18.8	20	10.8	
	あまり思わない	94	61.0	129	69.4	
	思わない	19	12.3	35	18.8	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	12	7.8	24	12.9	**
	そう思う	61	39.6	86	46.2	
	あまり思わない	60	39.0	68	36.6	
	思わない	21	13.6	8	4.3	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	10	6.5	1	0.5	***
	そう思う	47	30.5	34	18.3	
	あまり思わない	79	51.3	115	61.8	
	思わない	18	11.7	35	18.8	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	4	2.6	8	4.3	***
	そう思う	55	35.7	107	57.5	
	あまり思わない	83	53.9	67	36.0	
	思わない	12	7.8	4	2.2	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	7	4.5	1	0.5	***
	そう思う	27	17.5	11	5.9	
	あまり思わない	71	46.1	104	55.9	
	思わない	48	31.2	70	37.6	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	20	13.0	39	21.0	n. s.
	そう思う	74	48.1	94	50.5	
	あまり思わない	45	29.2	39	21.0	
	思わない	14	9.1	11	5.9	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	15	9.7	6	3.2	**
	そう思う	44	28.6	36	19.4	
	あまり思わない	59	38.3	89	47.8	
	思わない	36	23.4	55	29.6	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	57	37.0	93	50.0	*
	そう思う	75	48.7	82	44.1	
	あまり思わない	16	10.4	10	5.4	
	思わない	5	3.2	1	0.5	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	76	49.4	122	65.6	**
	そう思う	65	42.2	62	33.3	
	あまり思わない	12	7.8	2	1.1	
	思わない	1	0.6	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	40	26.0	80	43.0	***
	そう思う	82	53.2	96	51.6	
	あまり思わない	27	17.5	10	5.4	
	思わない	5	3.2	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	21	13.6	86	46.2	***
	そう思う	78	50.6	87	46.8	
	あまり思わない	50	32.5	12	6.5	
	思わない	5	3.2	1	0.5	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	12	7.8	50	26.9	***
	そう思う	51	33.1	83	44.6	
	あまり思わない	69	44.8	48	25.8	
	思わない	22	14.3	4	2.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	10	6.5	44	23.7	***
	そう思う	55	35.7	92	49.5	
	あまり思わない	74	48.1	46	24.7	
	思わない	14	9.1	4	2.2	
今の生活に満足している	とてもそう思う	14	9.1	70	37.6	***
	そう思う	70	45.5	100	53.8	
	あまり思わない	56	36.4	14	7.5	
	思わない	14	9.1	2	1.1	
健康である	とてもそう思う	43	27.9	87	46.8	***
	そう思う	85	55.2	80	43.0	
	あまり思わない	22	14.3	18	9.7	
	思わない	4	2.6	1	0.5	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-34 母親の自己認識と親族サポート得点

		親族サポート				χ <sup>2</sup> 検定
		低群		高群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	6	4.1	35	18.4	***
	そう思う	74	50.0	95	50.0	
	あまり思わない	59	39.9	55	28.9	
	思わない	9	6.1	5	2.6	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	1	0.7	17	8.9	**
	そう思う	57	38.5	87	45.8	
	あまり思わない	81	54.7	80	42.1	
	思わない	9	6.1	6	3.2	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	9	6.1	11	5.8	n. s.
	そう思う	42	28.4	68	35.8	
	あまり思わない	87	58.8	89	46.8	
	思わない	10	6.8	22	11.6	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	11	7.4	27	14.2	n. s.
	そう思う	105	70.9	133	70.0	
	あまり思わない	27	18.2	27	14.2	
	思わない	5	3.4	2	1.1	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	19	12.8	30	15.8	n. s.
	そう思う	78	52.7	95	50.0	
	あまり思わない	48	32.4	58	30.5	
	思わない	3	2.0	7	3.7	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	7	4.7	7	3.7	n. s.
	そう思う	25	16.9	26	13.7	
	あまり思わない	99	66.9	121	63.7	
	思わない	17	11.5	36	18.9	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	5	3.4	31	16.3	***
	そう思う	66	44.6	80	42.1	
	あまり思わない	58	39.2	68	35.8	
	思わない	19	12.8	11	5.8	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	7	4.7	4	2.1	*
	そう思う	43	29.1	39	20.5	
	あまり思わない	82	55.4	109	57.4	
	思わない	16	10.8	37	19.5	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	3	2.0	9	4.7	*
	そう思う	60	40.5	101	53.2	
	あまり思わない	75	50.7	75	39.5	
	思わない	10	6.8	5	2.6	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	6	4.1	1	0.5	***
	そう思う	28	18.9	11	5.8	
	あまり思わない	77	52.0	96	50.5	
	思わない	36	24.3	82	43.2	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	18	12.2	41	21.6	n. s.
	そう思う	78	52.7	91	47.9	
	あまり思わない	41	27.7	41	21.6	
	思わない	11	7.4	13	6.8	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	15	10.1	6	3.2	*
	そう思う	40	27.0	39	20.5	
	あまり思わない	58	39.2	90	47.4	
	思わない	35	23.6	55	28.9	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	46	31.1	103	54.2	***
	そう思う	80	54.1	78	41.1	
	あまり思わない	19	12.8	6	3.2	
	思わない	2	1.4	3	1.6	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	68	45.9	129	67.9	***
	そう思う	70	47.3	57	30.0	
	あまり思わない	9	6.1	4	2.1	
	思わない	1	0.7	0	0.0	
子育ては楽しい	とてもそう思う	28	18.9	90	47.4	***
	そう思う	86	58.1	93	48.9	
	あまり思わない	29	19.6	7	3.7	
	思わない	5	3.4	0	0.0	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	23	15.5	84	44.2	***
	そう思う	77	52.0	87	45.8	
	あまり思わない	43	29.1	19	10.0	
	思わない	5	3.4	0	0.0	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	16	10.8	46	24.2	***
	そう思う	50	33.8	83	43.7	
	あまり思わない	64	43.2	52	27.4	
	思わない	18	12.2	8	4.2	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	11	7.4	43	22.6	***
	そう思う	53	35.8	92	48.4	
	あまり思わない	72	48.6	48	25.3	
	思わない	11	7.4	7	3.7	
今の生活に満足している	とてもそう思う	19	12.8	64	33.7	***
	そう思う	72	48.6	96	50.5	
	あまり思わない	47	31.8	25	13.2	
	思わない	10	6.8	5	2.6	
健康である	とてもそう思う	40	27.0	90	47.4	**
	そう思う	80	54.1	83	43.7	
	あまり思わない	25	16.9	15	7.9	
	思わない	3	2.0	2	1.1	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.; not significant

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-35 母親の自己認識と近隣や友人のサポート得点

		近隣友人サポート				χ <sup>2</sup> 検定
		低群		高群		
		度数	(%)	度数	(%)	
自分に満足している	とてもそう思う	13	9.0	29	16.2	n. s.
	そう思う	70	48.3	92	51.4	
	あまり思わない	53	36.6	53	29.6	
	思わない	9	6.2	5	2.8	
自分には良いところがたくさんある	とてもそう思う	4	2.8	15	8.4	*
	そう思う	56	38.6	83	46.4	
	あまり思わない	74	51.0	76	42.5	
	思わない	11	7.6	5	2.8	
時々、自分が全く役立たずだと感じる	とてもそう思う	9	6.2	10	5.6	n. s.
	そう思う	46	31.7	54	30.2	
	あまり思わない	75	51.7	98	54.7	
	思わない	15	10.3	17	9.5	
少なくとも人と同じくらいの価値ある人間だ	とてもそう思う	12	8.3	27	15.1	n. s.
	そう思う	103	71.0	122	68.2	
	あまり思わない	25	17.2	27	15.1	
	思わない	4	2.8	3	1.7	
もう少し自分を尊敬できればいいと思う	とてもそう思う	22	15.2	25	14.0	n. s.
	そう思う	73	50.3	91	50.8	
	あまり思わない	44	30.3	59	33.0	
	思わない	6	4.1	4	2.2	
何をやってもうまくいかない人間のように思える	とてもそう思う	5	3.4	8	4.5	n. s.
	そう思う	25	17.2	23	12.8	
	あまり思わない	93	64.1	117	65.4	
	思わない	22	15.2	31	17.3	
すべてを良い方に考えようとする	とてもそう思う	7	4.8	28	15.6	**
	そう思う	56	38.6	84	46.9	
	あまり思わない	65	44.8	55	30.7	
	思わない	17	11.7	12	6.7	
育児に自信がもてない	とてもそう思う	6	4.1	5	2.8	n. s.
	そう思う	37	25.5	39	21.8	
	あまり思わない	87	60.0	99	55.3	
	思わない	15	10.3	35	19.6	
子どもをうまく育てている	とてもそう思う	1	0.7	11	6.1	n. s.
	そう思う	70	48.3	85	47.5	
	あまり思わない	66	45.5	75	41.9	
	思わない	8	5.5	8	4.5	
子どもを育てることは負担だ	とてもそう思う	3	2.1	3	1.7	n. s.
	そう思う	17	11.7	19	10.6	
	あまり思わない	81	55.9	89	49.7	
	思わない	44	30.3	67	37.4	
自分の子どもは育てやすい	とてもそう思う	23	15.9	34	19.0	n. s.
	そう思う	74	51.0	89	49.7	
	あまり思わない	38	26.2	42	23.5	
	思わない	9	6.2	12	6.7	
子育てがなければどんなに自由だろう	とてもそう思う	7	4.8	14	7.8	n. s.
	そう思う	35	24.1	39	21.8	
	あまり思わない	69	47.6	75	41.9	
	思わない	34	23.4	51	28.5	
子育てによって人生は充実している	とてもそう思う	58	40.0	86	48.0	n. s.
	そう思う	69	47.6	78	43.6	
	あまり思わない	14	9.7	12	6.7	
	思わない	3	2.1	3	1.7	
子どもの成長とともに自分も成長する	とてもそう思う	78	53.8	111	62.0	n. s.
	そう思う	57	39.3	64	35.8	
	あまり思わない	9	6.2	3	1.7	
	思わない	1	0.7	1	0.6	
子育ては楽しい	とてもそう思う	42	29.0	71	39.7	n. s.
	そう思う	81	55.9	92	51.4	
	あまり思わない	20	13.8	13	7.3	
	思わない	2	1.4	3	1.7	
生活の中で、生きる喜びや充実感を感じる	とてもそう思う	39	26.9	66	36.9	*
	そう思う	67	46.2	89	49.7	
	あまり思わない	35	24.1	23	12.8	
	思わない	4	2.8	1	0.6	
日々の生活の中に打ち込めるものがある	とてもそう思う	20	13.8	40	22.3	*
	そう思う	51	35.2	76	42.5	
	あまり思わない	58	40.0	53	29.6	
	思わない	15	10.3	10	5.6	
日頃、ハリある生活を送っている	とてもそう思う	18	12.4	35	19.6	*
	そう思う	56	38.6	84	46.9	
	あまり思わない	61	42.1	52	29.1	
	思わない	10	6.9	8	4.5	
今の生活に満足している	とてもそう思う	29	20.0	53	29.6	*
	そう思う	70	48.3	92	51.4	
	あまり思わない	37	25.5	28	15.6	
	思わない	9	6.2	6	3.4	
健康である	とてもそう思う	48	33.1	75	41.9	n. s.
	そう思う	77	53.1	80	44.7	
	あまり思わない	18	12.4	21	11.7	
	思わない	2	1.4	3	1.7	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant



## 4-3 探索的因子分析の結果

自己肯定感に関する認識、子育てに関する認識、生活満足感に関する認識、主観的健康感の 20 項目について、探索的因子分析を行った結果、「よいところたくさんあり」「価値ある人間だ」「自分に満足」からなる第 1 因子、「子育ては負担」「子育ては楽しい」「子育てなければ自由」からなる第 2 因子、「生活に満足」「ハリある生活」からなる第 3 因子の 3 因子が抽出された（表 2-36）。

探索的因子分析の結果を参考に、『自己に対する認識』（『』は潜在変数名を示す）、『“子育てに関する認識”』、『QOL』と命名し、さらに「パートナーのサポート」「パートナー以外の親族のサポート」、「近隣や友人のサポート」の 3 項目からなる『サポート認知』の 4 つの潜在変数を設定した。

それぞれの cronbach  $\alpha$  係数は、0.795、0.736、0.666、0.619 であった。

表 2-36 探索的因子分析結果

	因子		
	1	2	3
よいところたくさんあり	.938	-.043	-.063
価値ある人間	.647	.018	-.001
自分に満足	.595	-.025	.225
子育ては負担	.116	.827	-.140
子育ては楽しい	.012	.687	.131
子育てなければ自由	-.164	.598	.069
生活に満足	.031	.000	.709
ハリある生活	.164	.060	.536
累積%	36.86	51.08	54.55
cronbachの $\alpha$ 係数	.795	.736	.666

因子抽出法：最尤法 回転法：kaiserの正規化を伴うプロマックス法

4-4 母親の QOL の関連構造分析

探索的因子分析の結果を参考に設定した4つの潜在変数を用いて、最適モデルを探索した結果、図2-1のようなモデルが得られた。本モデルの内生潜在変数“QOL”の決定係数は0.75、適合度はRMSEA=0.045、TLI=0.967、CFI=0.977、NFI=0.947であった。

本モデルから、サポート認知とQOLは有意に関連しないが、サポート認知は母親の自己認識や子育てに関する認識を経由して、間接的にQOLを高める方向に影響することが示された。

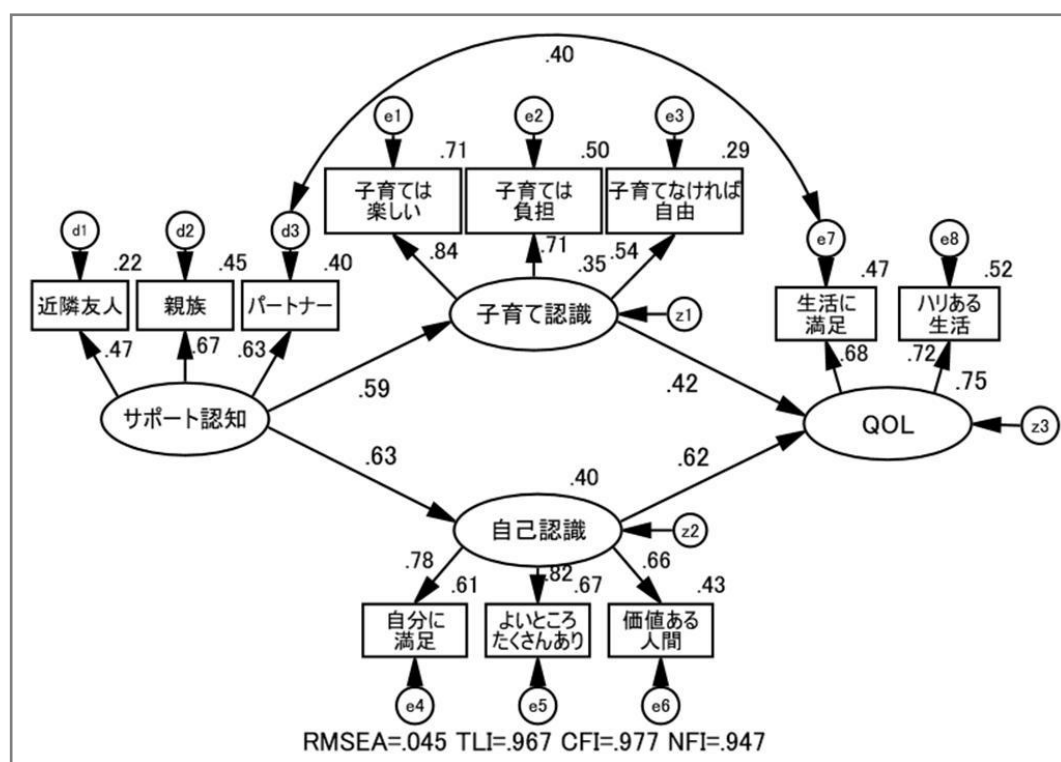


図 2-2 サポート認知と認識、QOL との関連モデル

#### 4-5 多母集団同時分析の結果

先行研究から、子どもの年齢、母親の年齢、母親の学歴、母親の就労の有無、世帯の年間収入が母親の生活満足感と関連していると考えられたため、4-4で得られた結果モデルを用いて多母集団同時を行った。子どもの年齢別（乳児群と幼児群）、母親の年齢2群（中央値で分けた高群、低群）、母親の学歴2群（中高卒群と専門学校以上群）、世帯の年間収入2群（400万円未満群と400万円以上群）、母親の就労の有無（就労あり群、就労なし群）でそれぞれ比較した。その結果、母親の学歴2群（中高卒群と専門学校以上卒群）、世帯の年間収入2群（400万円未満群と400万円以上群）において、有意な差が見られた。

母親の学歴2群においては、『サポート認知』から『子育て認識』への標準化直接効果が、専門学校以上卒群0.74、中高卒群0.38であり、専門学校以上卒群が統計学上有意に高い値を示した。

世帯の年間収入2群においては、『自己認識』から『QOL』への標準化直接効果は400万円未満群0.87、400万円以上群が0.53であり、400万円未満群が統計学上有意に高い値を示した。

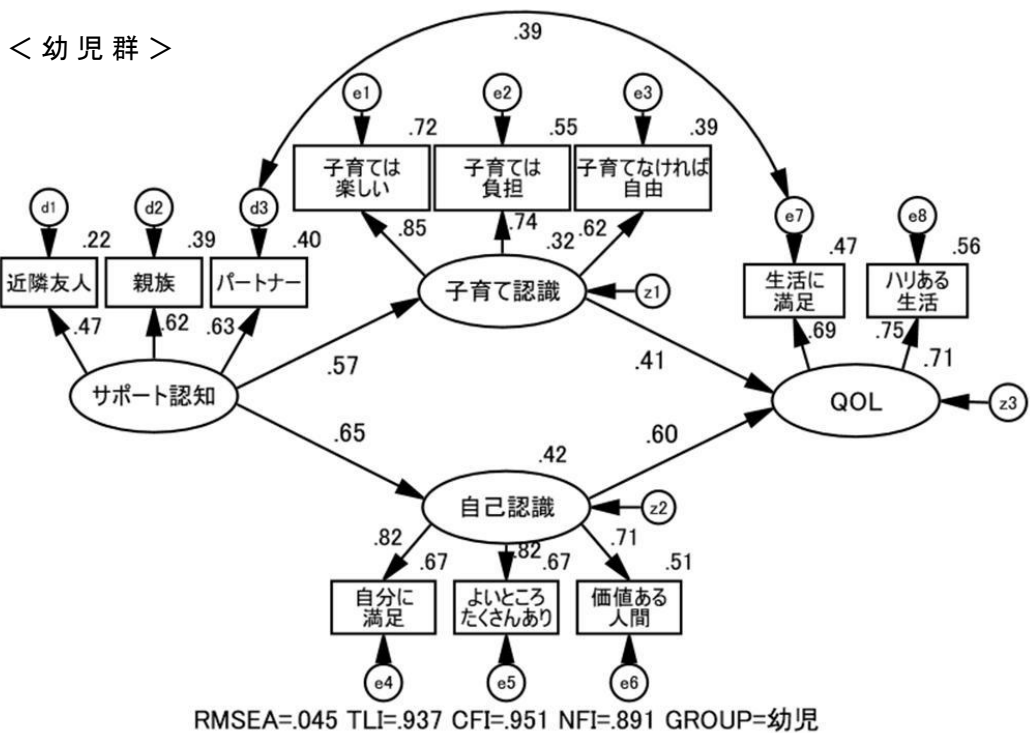
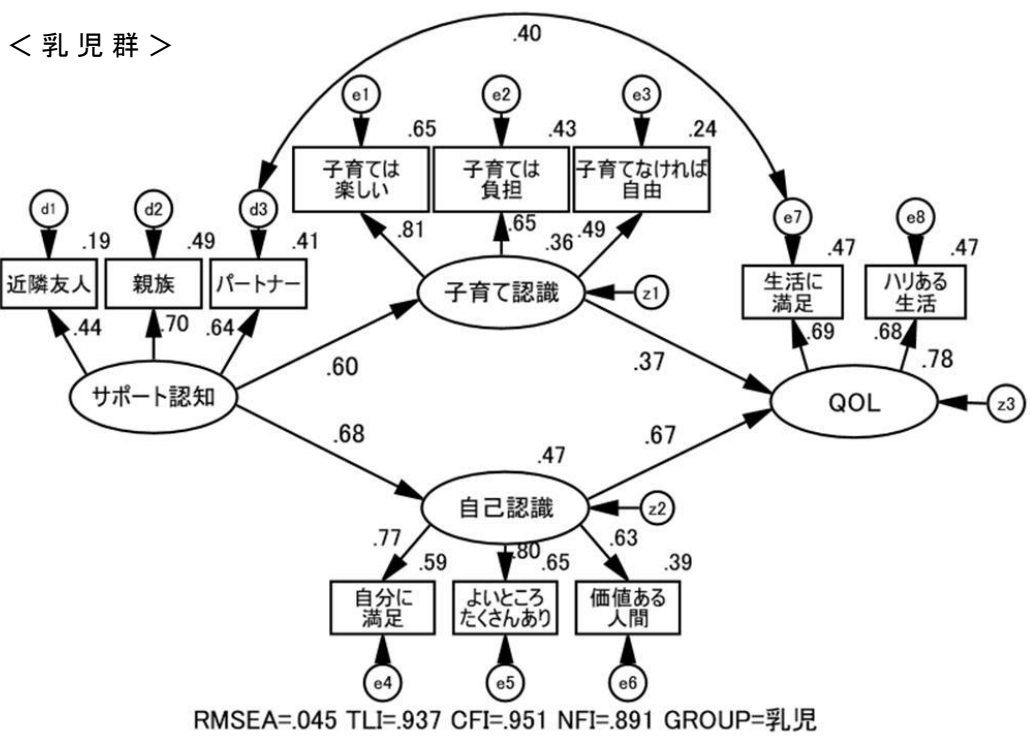


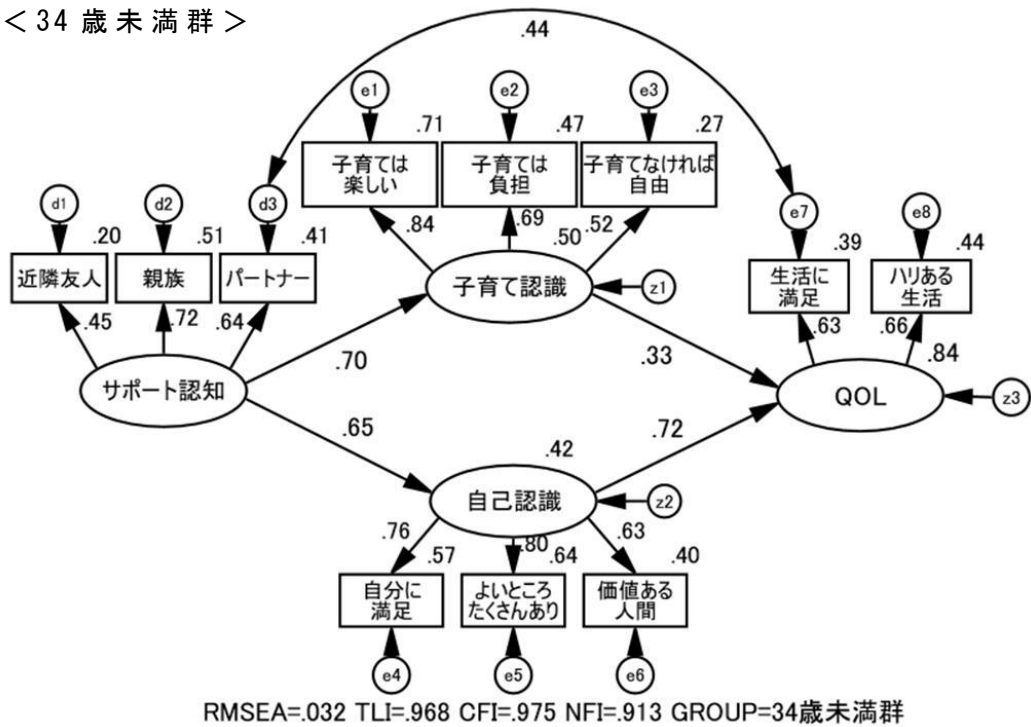
図 2-3 子どもの年齢 2 群による多母集団同時分析結果  
(上;乳児群、下;幼児群)

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-37 標準化直接・間接・総合効果(子どもの年齢別モデル)

		子どもの年齢		一対比較
		乳児	幼児	
[標準化直接効果]	サポート認知 → 子育て認識	0.601	0.568	n. s.
	サポート認知 → 自己認識	0.685	0.646	n. s.
	子育て認識 → QOL	0.367	0.410	n. s.
	自己認識 → QOL	0.666	0.604	n. s.
[標準化間接効果]	サポート認知 → 子育て認識 → QOL	0.221	0.233	—
	サポート認知 → 自己認識 → QOL	0.456	0.390	—
[標準化総合効果]	サポート認知 → → → QOL	0.677	0.623	—

< 34 歳未満群 >



< 34 歳以上群 >

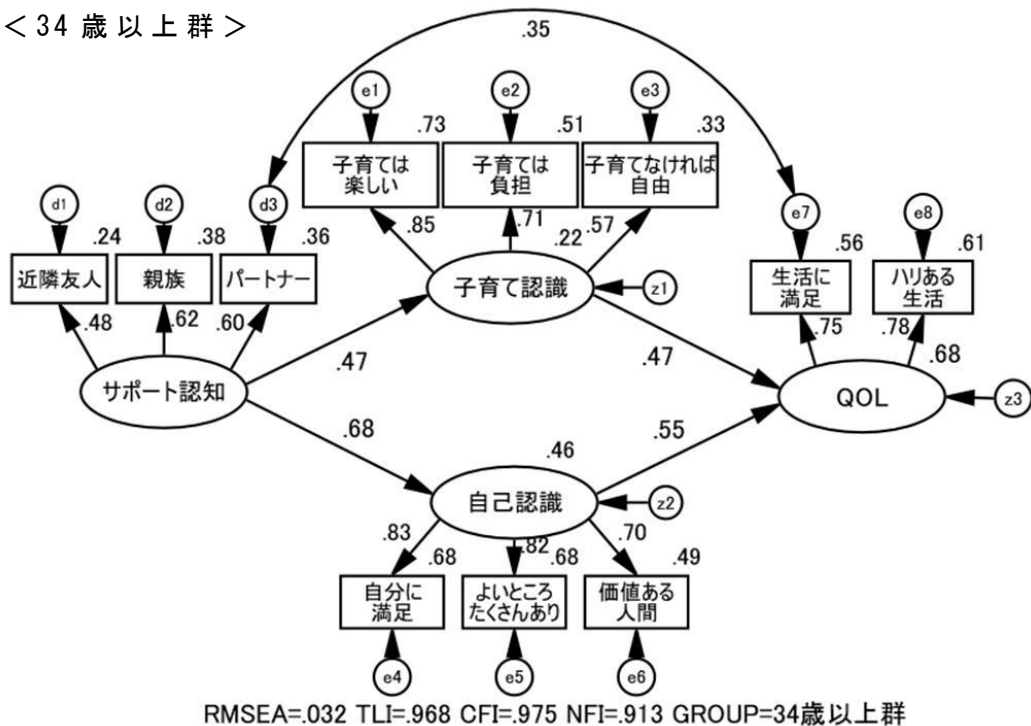


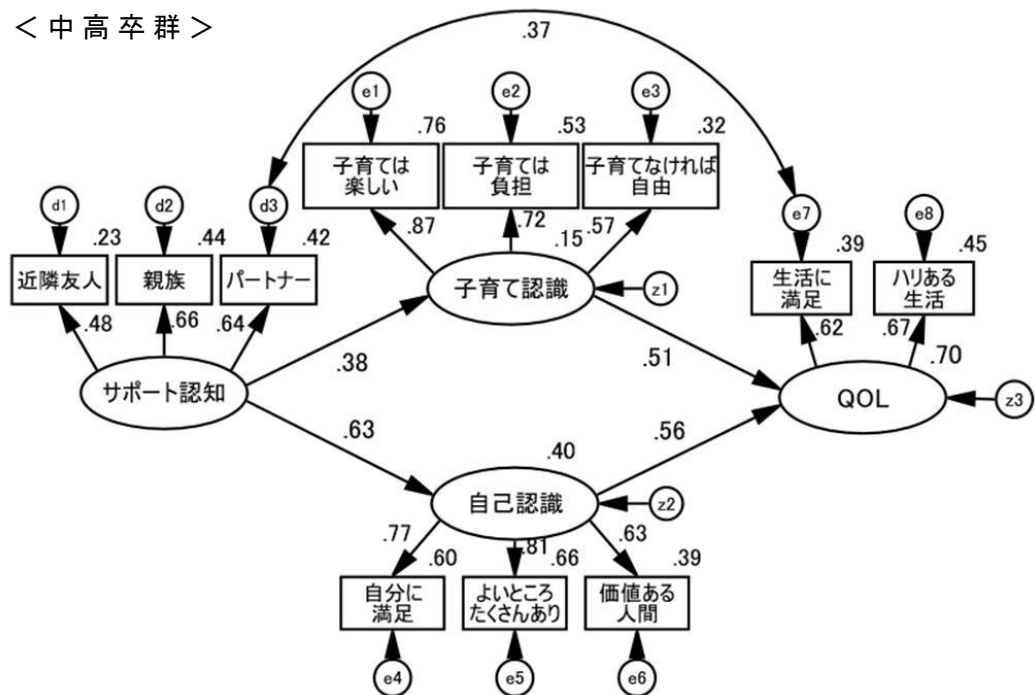
図 2-4 母親の年齢 2 群による多母集団同時分析結果  
(上;34 歳未満群、下;34 歳以上群)

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-38 標準化直接・間接・総合効果(母親の年齢別モデル)

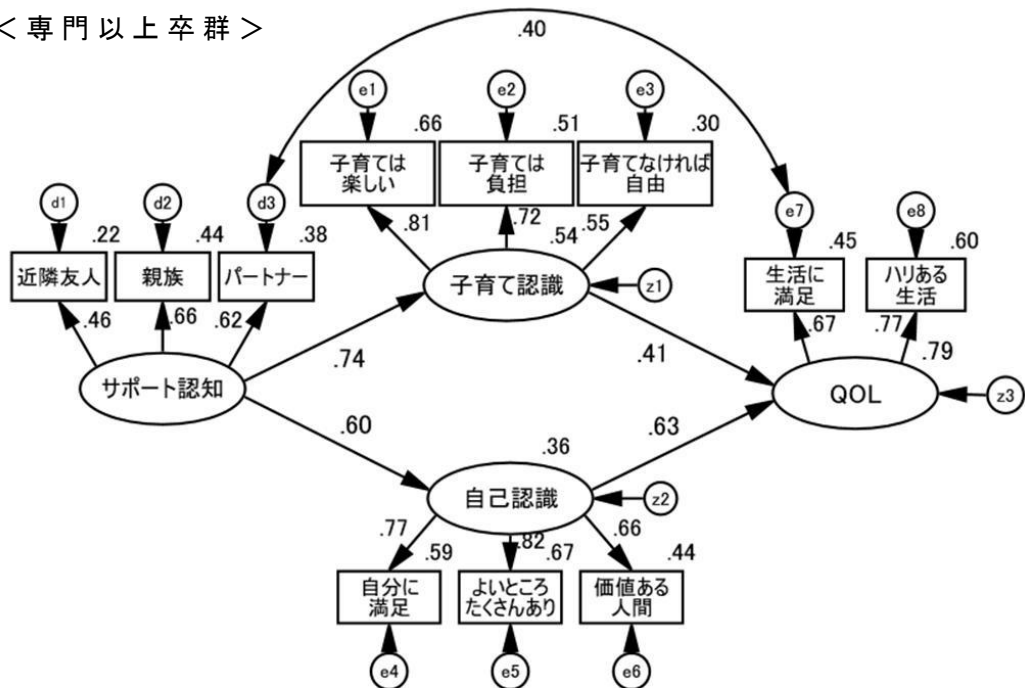
		母親の年齢		一対比較
		34歳未満	34歳以上	
[標準化直接効果]	サポート認知 → 子育て認識	0.704	0.472	n. s.
	サポート認知 → 自己認識	0.650	0.678	n. s.
	子育て認識 → QOL	0.326	0.471	n. s.
	自己認識 → QOL	0.720	0.546	n. s.
[標準化間接効果]	サポート認知 → 子育て認識 → QOL	0.230	0.222	—
	サポート認知 → 自己認識 → QOL	0.468	0.370	—
[標準化総合効果]	サポート認知 → → → QOL	0.697	0.593	—

< 中高卒群 >



RMSEA=.045 TLI=.935 CFI=.950 NFI=.888 GROUP=中高卒群

< 専門以上卒群 >



RMSEA=.045 TLI=.935 CFI=.950 NFI=.888 GROUP=専門以上卒

図 2-5 母親の学歴 2 群による 多母集団同時分析結果  
(上;中高卒群、下;専門以上卒群)

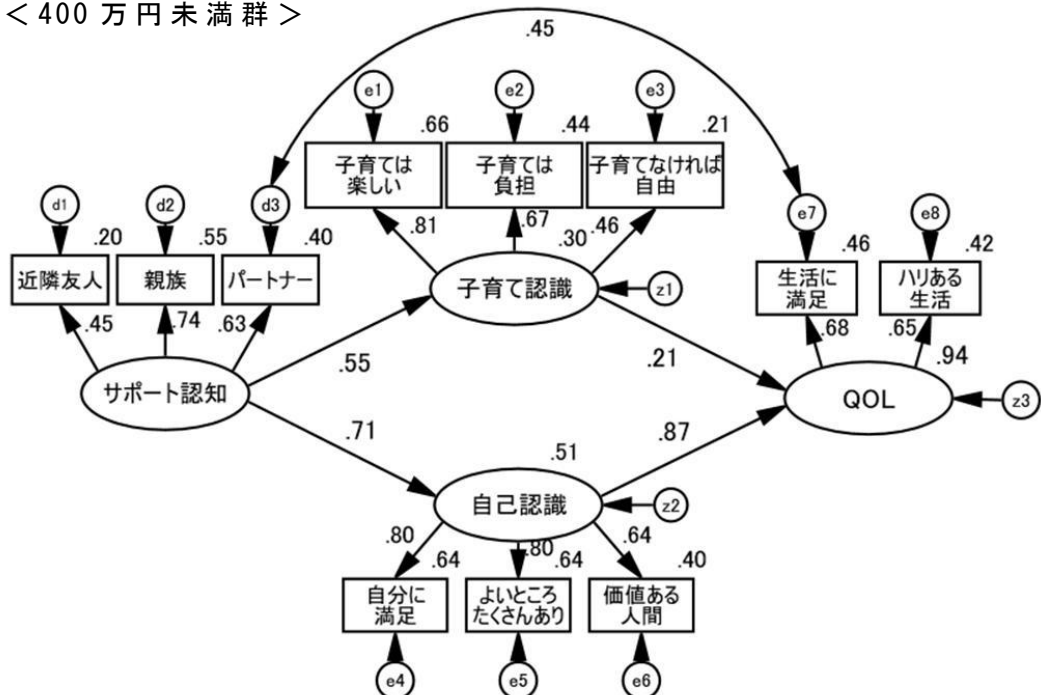


第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-39 標準化直接・間接・総合効果(母親の学歴別モデル)

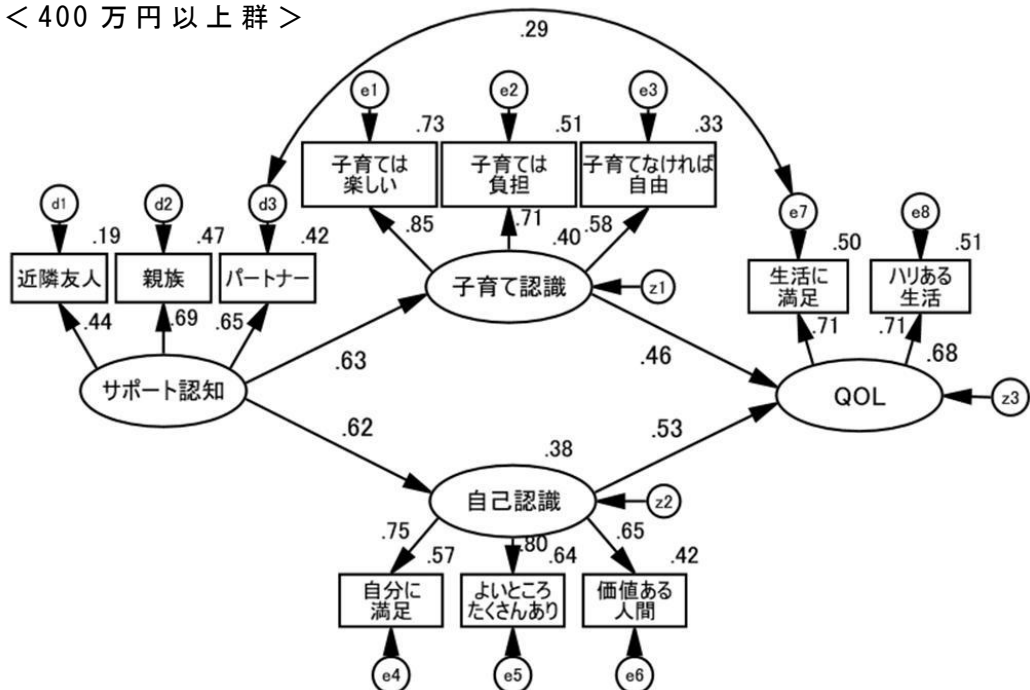
		母親の学歴		対比較
		中高卒	専門以上卒	
[標準化直接効果]	サポート認知 → 子育て認識	0.382	0.737	*
	サポート認知 → 自己認識	0.629	0.597	n. s.
	子育て認識 → QOL	0.506	0.407	n. s.
	自己認識 → QOL	0.556	0.630	n. s.
[標準化間接効果]	サポート認知 → 子育て認識 → QOL	0.193	0.300	—
	サポート認知 → 自己認識 → QOL	0.350	0.376	—
[標準化総合効果]	サポート認知 → → → QOL	0.544	0.675	—

< 400 万円未満群 >



RMSEA=.032 TLI=.967 CFI=.974 NFI=.903 GROUP=400万円未満群

< 400 万円以上群 >



RMSEA=.032 TLI=.967 CFI=.974 NFI=.903 GROUP=400万円以上群

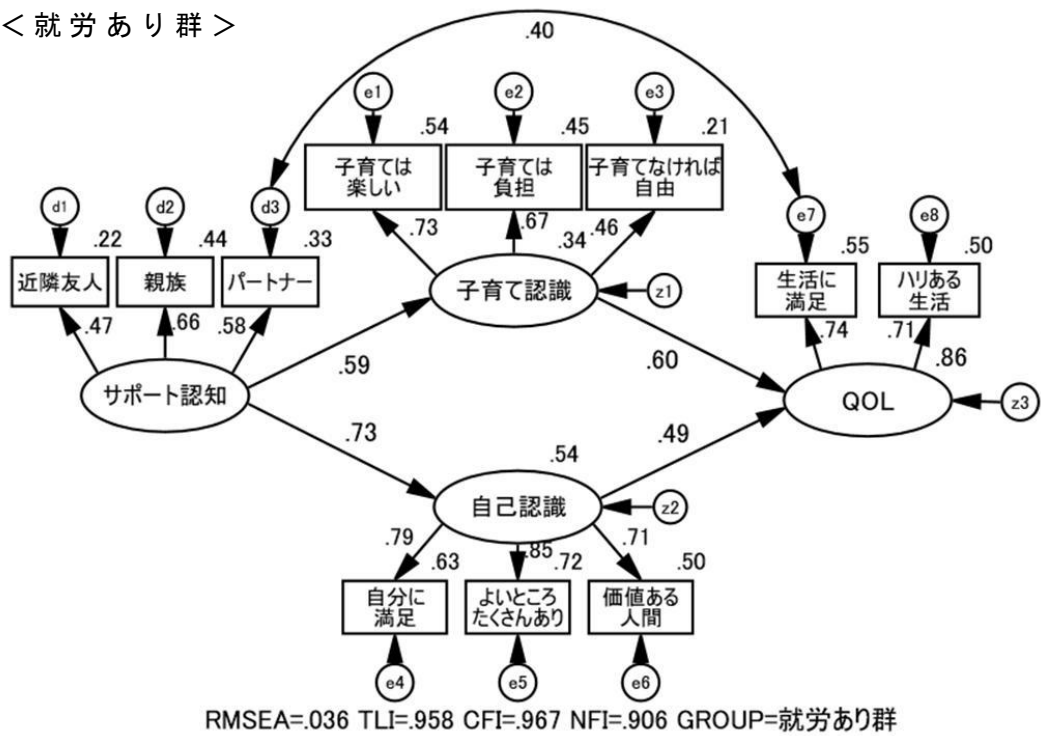
図 2-6 世帯年収 2 群による多母集団同時分析結果  
(上; 400 万円未満群、下; 400 万円以上群)

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-40 標準化直接・間接・総合効果(世帯年収別モデル)

				年収		対比較
				400万円未満	400万円以上	
[標準化直接効果]	サポート認知	→	子育て認識	0.547	0.631	n. s.
	サポート認知	→	自己認識	0.712	0.620	n. s.
	子育て認識	→	QOL	0.211	0.457	n. s.
	自己認識	→	QOL	0.868	0.532	*
[標準化間接効果]	サポート認知	→	子育て認識 → QOL	0.121	0.288	—
	サポート認知	→	自己認識 → QOL	0.618	0.330	—
[標準化総合効果]	サポート認知	→	→ → QOL	0.733	0.618	—

< 就労あり群 >



< 就労なし群 >

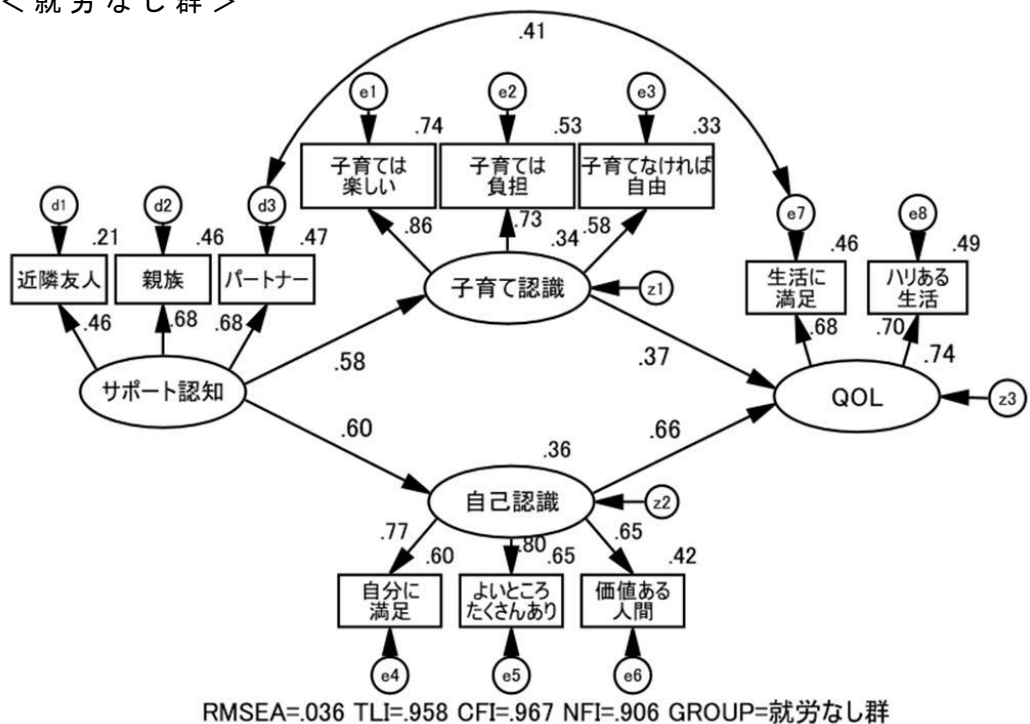


図 2-7 母親の就労の有無による多母集団同時分析結果  
(上; 就労あり群、下; 就労なし群)

第Ⅱ章 サポート認知と自己認識、QOL との関連構造

表 2-41 標準化直接・間接・総合効果(就労の有無別モデル)

			就労の有無		一対比較
			就労あり	就労なし	
[標準化直接効果]	サポート認知	→ 子育て認識	0.587	0.582	n. s.
	サポート認知	→ 自己認識	0.735	0.600	n. s.
	子育て認識	→ QOL	0.602	0.372	n. s.
	自己認識	→ QOL	0.491	0.657	n. s.
[標準化間接効果]	サポート認知	→ 子育て認識 → QOL	0.353	0.217	—
	サポート認知	→ 自己認識 → QOL	0.361	0.394	—
[標準化総合効果]	サポート認知	→ → → QOL	0.714	0.611	—

4-6 本研究のまとめ

本研究により以下の点が明らかとなった。

- 1) 乳幼児を育てる母親の QOL 関連構造は、サポート認知が基盤となることが示された。
- 2) サポート認知と QOL は直接関連せず、自己認識や子育て認識を經由して間接的に QOL を高める関連構造であることが明らかとなった。
- 3) 母親の QOL 関連構造には、母親の学歴と世帯の収入が関連することが明らかとなった。

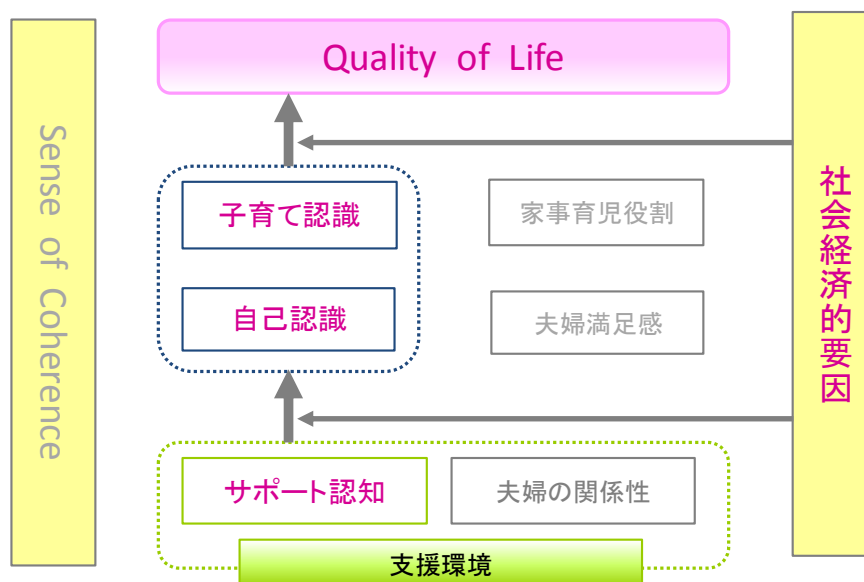


図 2-8 第Ⅱ章研究結果図

## 5. 考察

本研究結果から、乳幼児期の子どもを育てる母親のサポート認知と QOL の関連が構造的に明らかになった。以下、5-1 母親の QOL 関連構造モデルからの示唆、5-2 今後の課題について述べる。

### 5-1 母親の QOL 関連構造モデルからの示唆

本研究結果より、サポート認知が直接 QOL を高めるのではなく、母親の自己認識や子育て認識に関連し、間接的に QOL を関連することが明らかとなった。このことから、母親の QOL を高めるには、まず母親の自己認識や子育て認識を高めるための支援が有効であることが示唆された。また、社会経済的要因がサポート認知と QOL との関連に影響している可能性が示唆された。

先行研究からは、子育て不安や子育て肯定感、育児ストレスなどの子育てに関する認識に対し、ソーシャルサポートがよい方向に影響を与えていることが報告されていた。また、ソーシャルサポートが生活満足感などの QOL と関連する報告も見られた。しかし本研究結果より、ソーシャルサポートと QOL との関連は直接的に関連するのではなく、子育て認識や自己認識を経由して QOL と関連する構造が明らかとなった。ソーシャルサポートと QOL、子育て認識や自己認識の関連が構造的に明らかになった点が本研究における新規性である。また、多母集団同時分析の結果から、母親の最終学歴や世帯の年間収入が QOL 関連構造に影響を与えることが示された。

永久<sup>17)</sup> は高学歴化、社会進出が進むようになった女性のライフサイクルにおいて、母親は、母親としてだけでなく、一人の女性としても認められたいという二つの思いを持ちながら母親役割をしていることを報告し、これらに焦点を当てることの必要性を述べている。また、金<sup>18)</sup> は、高学歴の母親は母親であることと個人としての生き方の狭間で葛藤していることを報告し、母親への支援を検討する際には、母親の個人としての多様な生き方への視点が有効であるとしている。本研究結果も、直接的な子育て支援ではなく、母親が自分自身や子育て認識をポジティブに捉えることができるような支援の必要性を示唆していると考ええると、永久や金の報告を支持していたと言える。

第Ⅰ章で述べた健やか親子 21 や子ども・子育てビジョン、地域子育て支援拠点事業などの子育て支援は、子どもと『子どもの母親』に焦点が当てられている。『子どもの母親』であっても、一人の女性

として捉え、一人の女性としていきいきと自信をもって生活していけるような支援が、QOL向上につながる望ましい子育て支援の一つである可能性が示唆された。

#### 5-2 今後の課題

本研究は横断調査であるため、因果関係までは明らかにすることができない。追跡調査により因果関係を明らかにすることが今後の課題である。また、乳幼児別による多母集団同時分析において有意差が見られなかったのは、子どもの年齢差よりもA市とB市の地域差による影響が大きい可能性が考えられる。さらに、本研究は、限定された対象を調査対象としたため、今回の結果は子育てをしている母親の全てにあてはまるものではない。これらから、対象地域を増やすこと、無作為抽出により、外的妥当性を高めていくことが今後の研究課題であると考えられる。



参考文献（第Ⅱ章）

- 1) 渡部月子, 星旦二. 4 ヶ月児をもつ母親の育児不安を規定する要因に関する研究. 日本地域看護学会誌 2004 ; 6(2) : 47-54.
- 2) 荒牧美佐子, 無藤隆. 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違いー未就学児を持つ母親を対象にー. 発達心理学研究 2008 ; 19(2) : 87-97.
- 3) 高橋有里. 乳児の母親の育児ストレス状況とその関連要因. 岩手県立大学看護学部紀要 2007 ; 19 : 31-41.
- 4) 吉永茂美, 岸本長代. 乳児をもつ母親の育児ストレス、ソーシャルサポートとストレス反応との関連ー初産婦と経産婦との比較からー. 小児保健研究 2007 ; 66(6) : 767-772.
- 5) 荒木美幸, 大石和代, 岩城宏子. 育児期にある母親に対するソーシャルサポートと育児ストレスとの関連性. 長崎大学医療技術短期大学部紀要 2001 ; 14(1) : 89-95.
- 6) 新田紀枝, 藤岡千秋. 幼児を持つ母親の心身の状態とソーシャルサポートとの関係. 大阪府立看護大学紀要 1997 ; 13(1) : 65-73.
- 7) 加藤孝士. 母親の主観的幸福感とソーシャルサポートの関係ー最も関わる人物からのサポートー. 小児保健研究 2008 ; 67(1) : 57-62.
- 8) 藤井加那子, 永井利三郎. 育児期にある母親の育児満足感に影響する因子ー子育て不安の認識の有無による違いー. 小児保健研究 2008 ; 67(1) : 10-17.
- 9) 及川郁子, 小田切房子, 久保恭子. 乳幼児をもつ親の生活満足度ー夫の育児協力・家事協力の影響ー. 日本赤十字武蔵野短期大学紀要 2006 ; 19 : 91-102.
- 10) 加藤邦子. 乳児期の子どもを持つ母親の生活満足度を規定する要因分析ー育児支援との関わりを中心にー. 家庭教育研究所紀要 1998 ; 20 : 61-81.
- 11) 高燕, 星旦二, 中村立子. 都市部青壮年女性の就業状態における生活満足度の規定要因に関する研究. 社会医学研究 2007 ; 25 : 29-35.
- 12) Koeske G.F., Koeske R.D., : The buffering effect of social support on parental stress. American Journal of Orthopsychiatry. 1990; 60(3):440-451.
- 13) Mathiesen K.S., Tambs K., Dalgard O.S. : The influence of

- social class, strain and social support on symptoms of anxiety and depression in mothers of toddlers. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology*. 1999; 34(2): 61-72.
- 14) 宗像恒次. 行動科学から見た健康と病気. 東京: メヂカルフレンド社. 1996; 206.
- 15) 川井尚, 庄司順一, 千賀悠子, 他. 育児不安に関する基礎的研究. *日本総合愛育研究所紀要* 1994; 30: 27-39.
- 16) 管佐和子. SE(Self-Esteem)について. *看護研究* 1994; 17(2): 117-123.
- 17) 永久ひさ子. 子育てに専念する高学歴母親の葛藤. *児童心理* 2009; 63(9): 47-52.
- 18) 金媚鏡. 就業形態、学歴と子育て観が母親役割行動に及ぼす影響－幼児の母親を対象にした日韓比較－. *家庭教育研究所紀要* 2007; 29: 29-37.

## 第Ⅲ章

---

乳幼児を育てる母親の Sense of coherence とサポート認知と認識、Quality of Life との因果構造

## 1 研究の背景

### 1-1 社会構造の変化

少子化や核家族の増加、家族構成の変化、近隣関係の希薄化など、子育て家族を取り巻く社会構造の変化による親の孤立や育児不安の増大が 1980 年頃から報告されるようになってきた。こうした子育て家族を取り巻く社会構造の変化は、家庭や地域の子育て機能を低下につながることが指摘され、現在、様々な子育て施策がなされている。それらの対策における理論的な基盤になっているのが、ヘルスプロモーションの理念<sup>1)</sup>である。子育て支援におけるヘルスプロモーションとは、親子の Quality of life (以下、QOL) を高めること、親子のエンパワメントを支援することであり、そのための支援環境づくりが重要であることが示されている<sup>2)</sup>。

### 1-2 健康生成論と SOC

ヘルスプロモーションの基礎理論の一つであると言われているのが健康生成論である。健康生成論とは、従来の疾病に焦点をあてた疾病生成論とは異なり、人はなぜ健康でいられるのかということに焦点を当てた理論であり、この健康生成論の中核概念が Sense of Coherence (以下、SOC) である。その SOC とは、ストレスにうまく対処し、健康な方向へ導く力とされ、ストレスを成長の糧と捉え、また、周囲の支援環境を重視する点が特徴と言える<sup>3~5)</sup>。SOC の下位概念は comprehensibility、manageability、meaningfulness の 3 つで構成され、それぞれ「出来事を人生全体において包括的に捉え、理解できる力」「出来事は自分の力だけでなく周囲の力も活用して解決できる力」「出来事は自分の人生において意味あるものであり、自身の成長、生きがい、自信につながるものであると感じること」と解釈できる。すなわちストレスと捉えられる出来事に対し、人生全体の中でダイナミックに出来事を捉え、資源を有効に活用しながら対応し、そのことにより成長や自信、生きる意味を感じることで解釈することができ、ストレスに対処するだけでなく、そのストレスやストレス対処経験を健康な力や生きる力に繋げていく力である。先行研究においても SOC は精神的健康度や QOL と正の関係があることや、SOC が高いほど仕事関係のストレスにより有効に対処できていたことが報告されている<sup>6~8)</sup>。

また、ソーシャルサポートと SOC との関連については、ソーシ

ャルサポートとSOCは正の相関であること<sup>9)</sup>や、小学生を対象にした調査ではあるが、SOCとソーシャルサポートは双方向の因果関係を持つことが報告されている<sup>10)</sup>。

乳幼児期の母親を対象としたSOCに関する研究では、諸外国において、発達障害の子どもを育てる母親のSOCが低いこと、難聴の子どもの母親においてはSOCとソーシャルサポートはストレスを減らしQOLを改善する資源であることが報告されている<sup>11~13)</sup>。また、妊娠中の女性においては、SOCがWell-beingに影響すること、妊娠初期のパートナーのサポートに関する不満は、出産1年後の抑うつに影響し、SOCを低下させる傾向にあることが報告されている<sup>14~15)</sup>。我が国においては、SOCが低い妊婦ほどマタニティブルーズの発生率が高いこと<sup>16)</sup>や、SOCと育児不安の間に負の相関がみられたこと<sup>17)</sup>が報告されている。また障害児を育てる母親のSOCがQOLとソーシャルサポートに強く関連している<sup>18)</sup>という報告もされている。

このように母親を対象としたSOCとソーシャルサポートに関する研究は、障害や疾病をもっている子どもを育てる母親や妊婦を対象としたものが多く、乳幼児期の母親のSOCとソーシャルサポートとの関連は明らかになっているわけではない。また、各要因の因果構造を明確にした研究は報告されていない。

さらに、母親の肯定的、否定的感情がサポート認知と関連することも報告されている。金岡ら<sup>19)</sup>は、母親の自己効力感が育児に関する否定的感情の認知とサポート認知とに関連することを報告し、荒牧ら<sup>20)</sup>は、夫からのサポートが多いと認知する母親は育児への否定的感情が低く、肯定的感情が高いことを報告している。このようにサポート認知は、自己認識や子育て認識などの主観的認識と関連することが明らかになっている。しかし、SOCとサポート認知の因果関係に母親の主観的認識がどのように関連しているかは明らかになっていない。SOCとサポート認知の因果関係に主観的認識がどのように関連しているかを明らかにすることは望ましい子育て支援を検討する上で不可欠であると考えられる。

### 1-3 社会経済的要因と子育て、SOC

Antonovsky が示した健康生成モデルでは、人はストレスに直面した時、汎抵抗資源を活用してストレスに対処するととも

に、汎抵抗資源は SOC 形成の基礎となる人生経験の質を高め、SOC の強化要因となりうると仮定されている。汎抵抗資源とは、身体的、生化学的、物質的、認知・感情的、評価・態度的、関係的、社会文化的な、個人や集団における特徴のことで、世の中にあまねく存在しているストレスラーの回避、あるいは処理において役立つものと定義され、例えばモノ、カネ、知識、知力、自我アイデンティティ、社会的支援、社会との関係、社会経済的地位、遺伝的体質等である。今までに SOC と汎抵抗資源との関連は多く報告されている。その中でも、社会経済的要因と SOC との関連として、労働者を対象にした研究では、戸ヶ里ら<sup>21)</sup>が、無業者に SOC が最も低いことや教育年数が少ないと SOC が低いことを報告している。田中ら<sup>22)</sup>は 20 歳以上の地域住民を対象とし 20 歳までの経済状況が SOC を低下させることを報告し、高山ら<sup>23)</sup>は 20～69 歳の男女を対象に SOC と経済状態に関連が見られたことや SOC が高い場合に最終学歴が高い傾向であることを報告している。子育て中の母親を対象とした先行研究でも、穴井ら<sup>17)</sup>も学歴の高い群で SOC が高い傾向にあることを報告し、Lagerberg ら<sup>24)</sup>は、社会的地位が高い地域に住む母親はそうでない母親に比べて高い SOC を示すことを報告している。このように SOC と社会経済的要因が関連していることが明らかになっている。

また、SOC 以外でも、母親の学歴により、子育てにおける対処の仕方を左右するという報告<sup>25)</sup>や、子育てにおける不安の兆候が異なるという報告<sup>26)</sup>もされている。女性のライフサイクルが変化している現代において、母親の学歴や年間収入などの社会経済的要因を踏まえることの必要性があることが示唆されている。しかし、我が国における子育て期の母親を対象とした社会経済的要因に関連する先行研究は横断研究であり、その因果関係は明らかになっていない。

さらに SOC の形成・強化には人生経験およびその質が影響する<sup>3~5)</sup>。学歴が高いことはそれだけ年齢も重ねることになるが、一般的に年齢が上がるほど人生経験は多くなると予測され、学歴を扱う場合、年齢の影響を考慮する必要がある。さらに、経験という点においては、初めての子育てである一人目の場合と二人目以上の場合では子育ての経験値が異なるため、社会経済的要因だけでなく、母親の年齢や子どもの順位も SOC とサポート認知の因果構造に影響を与えると考えられるが、それらを明らかにした先行研究は報告されてい

ない。

#### 1-4 本研究の意義

乳幼児を育てる母親は少なからずストレスを感じている一方で、子育てのプロセスは子どもが育つだけでなく、ストレスを感じながらも親や家族も成長できる機会でもある。このような状況にある子育て期の母親への支援において、SOCの概念を取り入れたアプローチは新規性の高い研究と考えられる。SOCは周囲の支援環境を重視しており、支援環境の一つであるソーシャルサポートをどのように認知しているかというサポート認知とSOCとの関連構造を明らかにすることは、WHOのICFモデル（国際生活機能分類）に基づく子育て支援の環境づくりにつながる科学的エビデンスの一つとして位置づけられるものと考えられる。

現在、子育てサービスは育児不安やストレスの軽減に焦点をあてて行われ、母親への物理的・経済的支援の充実を中心に展開されているが、従来の育児不安やストレスに焦点を当てた疾病生成論的な視点の方策は十分とはいえないことは、育児不安や負担感、葛藤を持つ母親が減少していないという報告<sup>27~30)</sup>によって推定される。よって視点の転換、すなわち健康生成論的な視点で子育て支援を捉えることも求められていると考えられるが、SOCとサポート認知の関連構造や因果構造は明らかになっていない。SOCとサポート認知との関連が明らかになれば、健康生成論の視点を含んだ子育て支援を検討する基礎資料となると考えられ、新たな子育て支援を検討する上で、求められる科学的なエビデンスづくりとしてその意義は高いと言える。

2 研究の目的

本章では乳幼児を育てる母親の SOC とサポート認知、子育て認識および自己認識に関する追跡調査を実施し、その因果構造を明らかにするとともに社会経済的要因による差異を明らかにすることを目的とする。

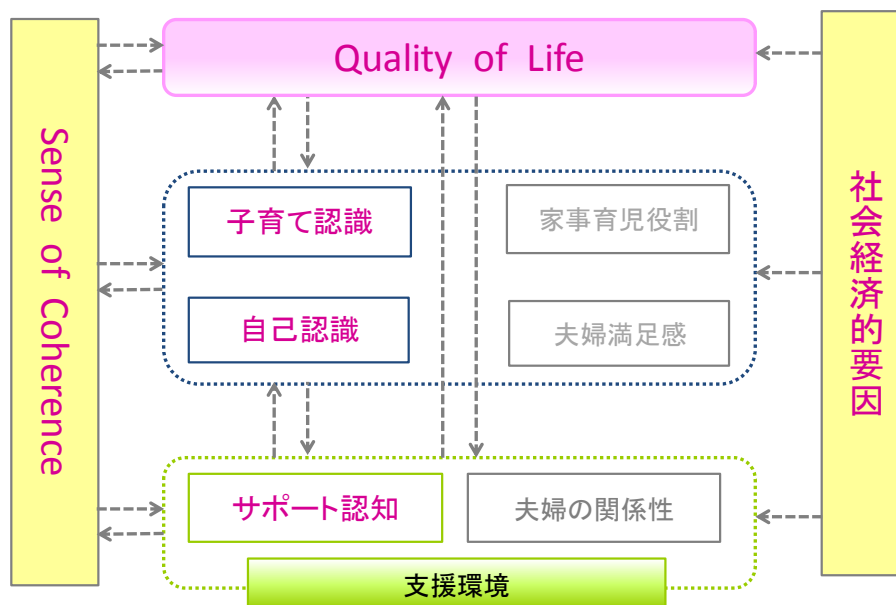


図 3-1 第Ⅲ章仮説モデル

(赤字部分が本章で明らかにする点)



### 3 研究方法

#### 3-1 調査対象

B市保健センターの6～7ヶ月児健康相談来所の母親269名である。同じ対象者に対して、1年後の1歳6ヶ月児健康診査来所時に同一の追跡調査を実施した。

#### 3-2 調査方法

自記式質問紙調査を行った。6～7ヶ月児健康相談及び1歳6ヶ月児健康診査時に配布し、留置きもしくは郵送にて回収した。

#### 3-3 調査時期

第1回調査は2010年4月～6月であり、第2回調査は2011年4月～6月である。

#### 3-4 調査項目

対象者の属性は、子どもについて（出生順位、年齢、性別）、母親について（年齢、就労の有無、学歴など）、父親について（年齢、就労の有無、帰宅時間など）、世帯について（同居の有無、年間収入など）をたずねた。母親の子育て認識、自己認識、QOL関連項目については、第Ⅱ章と同様に尋ねた。子育てに関する項目は8項目（「育児に自信が持てない」「子どもをうまく育てている」「子どもを育てることが負担に感じられる」「自分の子どもは育てやすいと思う」「子育てがなければどんなに自由だろう」「子育てによって人生は充実している」「子どもの成長とともに自分も成長する」「子育ては楽しい」）、生活満足感などのQOL関連項目は4項目（「日々の生活の中で生きる喜びや充実感を味わっている」「日々の生活の中に打ち込めるものがある」「日頃、張りのある生活を送っている」「今の生活に満足している」「健康である」）、自己認識は7項目（「だいたいにおいて自分に満足している」「自分には良いところがたくさんあると思う」「時々、全く自分が役立たずだと感じる」「少なくとも人と同じくらいの価値はある人間だと思う」「もう少し自分を尊敬できたらいいと思う」「だいたい自分は何をやってもうまくいかない人間のように思える」「すべてをよい方に考えようとする方である」）を設定した。いずれもとともそう思う4点、そう思う3点、あまりそう思わない2点、思わない1点とした。「育児に自信がもてない」「子どもを育

てることが負担に感じられる」「子育てがなければどんなに自由だろう」「時々、自分が役立たずだと感じる」「もう少し自分を尊敬できたらいいと思う」「だいたい自分は何をやってもうまくいかない人間のように思える」の逆転項目については、とてもそう思う 1 点、そう思う 2 点、あまりそう思わない 3 点、思わない 4 点とし、得点が高いほどよい状態になるよう、統計処理を行った。サポート認知については、宗像<sup>31)</sup>のソーシャルサポート尺度を参考にし、パートナー、親族、近隣や友人のそれぞれについて、「家事を手伝ってくれる」、「自分を認め評価してくれる」など 13 項目について「とてもそう思う」4 点から「そう思わない」1 点まで 4 件法でたずねた。最高 52 点、最低 13 点であり、得点が高いほどサポート認知が高いと判断した（表 3-1）。SOC については、Antonovsky の Sense of Coherence 尺度<sup>3)</sup>短縮版を用いた。「あなたは自分の周りで起きていることがどうでもいいという気持ちになることがありますか」「あなたは自制心を保つ自信がなくなることがよくありますか」などからなる 13 項目について、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」など 7 件法でたずねた。逆転項目については得点が高いほどよい状態になるよう処理した。最高 91 点、最低 13 点であり、得点が高いほど SOC が高いと判断した（表 3-2）。

表 3-1 サポート認知得点質問項目

質問項目	
1	経済的に困っている時、頼りになる
2	あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる
3	引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる
4	わからないことがあればよく教えてくれる
5	家事をやってくれたり、手伝ってくれる
6	会うと心が落ち着き、安心できる
7	気持ちが通じ合う
8	常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる
9	あなたを日頃認め、評価してくれる
10	あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる
11	あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる
12	個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる
13	お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる

表 3-2 SOC 尺度 (短縮版)

	質問項目	選択肢 (7件法)
1	me あなたは、自分の周りで起こっていることがどうでもいいという気持ちになることがありますか(*)	まったくない(1点)～ とてもよくある(7点)
2	co あなたは、これまでによく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがありますか(*)	まったくなかった(1点)～ いつもそうだった(7点)
3	ma あなたは、あてにしていた人がっかりさせられたことがありますか(*)	まったくなかった(1点)～ いつもそうだった(7点)
4	me 今までのあなたの人生は明確な目標や目的は	まったくなかった(1点)～ とてもあった(7点)
5	ma あなたは、不当な扱いをうけているという気持ちになることがありますか	とてもよくある(1点)～ まったくない(7点)
6	co あなたは、不慣れな状況の中にいると感じたり、どうすればいいのかわからないと感じることがよくありますか	とてもよくある(1点)～ まったくない(7点)
7	me あなたが毎日していることは(*)	喜びと満足を与えてくれる(1点)～ つらく退屈である(7点)
8	co あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか	とてもよくある(1点)～ まったくない(7点)
9	co あなたは、本当なら感じたくないような感情をいってしまうことがありますか	とてもよくある(1点)～ まったくない(7点)
10	ma あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか(*)	まったくなかった(1点)～ よくあった(7点)
11	co 何かが起こった時、普段あなたはそのことを	過大や過小に評価してきた(1点)～ 適切な見方をしてきた(7点)
12	me あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がないと感じることがありますか	とてもよくある(1点)～ まったくない(7点)
13	ma あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがよくありますか	とてもよくある(1点)～ まったくない(7点)

(\*)逆転項目 co:comprehensibility ma:manageability me:meaningfulness

### 3-5 分析方法

「comprehensibility」「manageability」「meaningfulness」からなる『Sense of Coherence』(以下、『』は潜在変数を示す)と「パートナーによるサポート」「親族によるサポート」「近隣や友人によるサポート」からなる『サポート認知』の潜在変数について、それぞれ『6ヶ月(2010年時)SOC』、『1歳6ヶ月(2011年時)SOC』、『6ヶ月時(2010年)サポート認知』、『1歳6ヶ月(2011年時)サポート認知』の4つの潜在変数を設定し、Finkelが示した因果構造を検証できる仮説モデルを設定した<sup>32)</sup>。どちらも原因もしくは結果となりうる双方向に影響を及ぼしあう可能性が存在すると仮定し、交差遅れ効果モデルとともに同時効果モデルを構築し、共分散構造分析を実施した。交差遅れ効果モデルは、第1回調査時点の2つの変数が第2回調査時までの間における両変数の変化に影響を及ぼすか否かを検討するモデルである。同時効果モデルとは、同一時点における2要因の関係を検討することになるが、縦断データから得ら

れる情報によって 2 要因の双方向の因果効果を同時に推定できるモデルである。交差遅れ効果モデルと同時効果モデルを検討することにより、因果関係分析に必要な条件がクリアできることが報告されており<sup>33-34)</sup>、本研究では、交差遅れ効果モデルと同時効果モデルの 2 つのモデルを用いて因果関係を検討することとした。

交差遅れ効果モデルと同時効果モデルにより、SOC とサポート認知の因果構造を明らかにした後、母親の自己認識、子育て認識 15 項目について探索的因子分析により、新たに 2 つの潜在変数を設定し、『SOC』『サポート認知』を合わせて 4 つの潜在変数で共分散構造分析を行った。母親の最終学歴（中高卒群と専門学校以上卒群）、就労の有無、世帯収入（400 万円以上群と 400 万円未満群）の社会的経済的要因および母親の年齢（第 1 回調査時の中央値で分けた 2 群）、子どもの順位（1 人目群と 2 人目以上群）による比較は、多母集団同時分析を行い確認した。

各尺度の信頼性は、Cronbach  $\alpha$  係数を用いた。

データ分析には、SPSS19.0 および Amos19.0 を用いた。

#### 3-6 倫理的配慮

調査票に研究目的、プライバシーの保護、結果の公表を明記するとともに、配布時に口頭による説明も行った。調査票は無記名とし、研究への参加意思は対象者が調査票を返信することです承されたものとみなした。本研究は首都大学東京研究倫理委員会の承認（承認番号 22 - 12）を得て実施した。

#### 4 結果

##### 4-1 回収数および分析対象者数

第1回調査は184人(回収率68.4%)、第2回調査は186人(69.1%)であり、そのうち、第1回、第2回ともに回答のあった112人(追跡率41.7%)を本研究での分析対象とした。

##### 4-2 対象の属性(表3-3)

子どもの性別は男児55人(49.1%)、女児56人(50.0%)、男女の双子1人(0.9%)、順位は第1子51人(45.5%)、第2子以上61人(54.5%)であった。

母親の平均年齢は31.2(SD4.6)歳(21~45歳)、中央値31歳であった。就労ありと回答した人は第1回調査では46人(41.1%)、第2回調査では53人(47.3%)であり、そのうち就労中の人は第1回調査では13人(就労していると回答した者のうち28.3%)、第2回調査では46人(同41.1%)であった。母親の最終学歴は第1回調査時、中高卒業45人(40.2%)、専門学校以上卒業66人(58.9%)、第2回調査時は中高卒42人(37.5%)、専門学校以上卒66人(58.9%)であった。

父親の平均年齢は32.9(SD6.3)歳(21~48歳)、平均帰宅時間は第1回調査時19時30(SD69)分、第2回調査時19時23(SD93)分であった。

世帯の年間収入は、第1回調査時400万円未満38人(34.0%)、400万円以上67人(59.7%)、不明や答えたくない7人(6.3%)、第2回調査時400万円未満44人(39.3%)、400万円以上58人(51.8%)、不明や答えたくない10人(8.9%)であった。祖父母との同居は、第1回調査時、父方祖父母24人(21.4%)、母方祖父母12人(10.7%)、核家族は75人(67.0%)であり、第2回調査時は、父方祖父母との同居は23人(20.5%)、母方祖父母との同居は13人(11.7%)、核家族は76人(67.8%)であった。

表 3-3 対象の属性

			(n=112)			
			2010年 (6ヶ月)		2011年 (1歳6ヶ月)	
			人	(%)	人	(%)
子ども	性別	男児	55	(49.1)	55	(49.1)
		女児	56	(50.0)	56	(50.0)
		男女の双子	1	(0.9)	1	(0.9)
	順位	第1子	51	(45.5)	51	(45.5)
		第2子以上	61	(54.5)	61	(54.5)
母親	年齢 (平均)		31.2 (SD4.6) (21~45歳)			
	仕事	あり	46	(41.1)	53	(47.3)
		就労中	13	(28.3)	50	(94.3)
		育児休業中	30	(65.2)	3	(5.7)
		その他	3	(6.5)	0	(0.0)
		なし	66	(58.9)	59	(52.7)
	学歴	中高卒	45	(40.2)	42	(37.5)
		専門学校以上卒	66	(58.9)	66	(58.9)
		不明/答えたくない	1	(0.9)	3	(2.7)
	サービスの利用	あり	93	(83.0)	97	(86.6)
なし		19	(17.0)	15	(13.4)	
父親	年齢 (平均)		32.9 (SD6.3) (21~48歳)			
	帰宅時間 (平均)		19時30分 (SD69分)		19時23分 (SD93分)	
世帯	収入	400万円未満	38	(33.9)	44	(39.3)
		400万円以上	67	(59.8)	58	(51.8)
		不明/答えたくない	7	(6.3)	10	(8.9)
	祖父母同居	なし	75	(67.0)	76	(67.9)
		父方祖父母	24	(21.4)	23	(20.5)
		母方祖父母	12	(10.7)	13	(11.5)
		不明	1	(0.9)	0	(0.0)

※母親及び父親の年齢は1回目調査時点 (2010年/6ヶ月時)

4-3 サポート認知得点と SOC 得点の経年変化

4-3-1 サポート認知得点の経年変化

1) サポート認知得点の分布

サポート認知得点の分布は表 3-3～表 3-5 の通りである。

表 3-4 サポート認知得点の分布 (パートナー)

		2010年		2011年	
		人	%	人	%
サポート 1	思わない	7	6.4	3	2.7
	あまりそう思わない	18	16.5	17	15.3
	そう思う	40	36.7	46	41.4
	とてもそう思う	44	40.4	45	40.5
サポート 2	思わない	7	6.5	4	3.6
	あまりそう思わない	21	19.4	16	14.5
	そう思う	41	38.0	58	52.7
	とてもそう思う	39	36.1	32	29.1
サポート 3	思わない	1	.9	2	1.8
	あまりそう思わない	6	5.7	2	1.8
	そう思う	17	16.0	19	17.3
	とてもそう思う	82	77.4	87	79.1
サポート 4	思わない	10	9.3	5	4.5
	あまりそう思わない	25	23.1	18	16.4
	そう思う	38	35.2	51	46.4
	とてもそう思う	35	32.4	36	32.7
サポート 5	思わない	7	6.4	6	5.4
	あまりそう思わない	27	24.8	18	16.2
	そう思う	41	37.6	50	45.0
	とてもそう思う	34	31.2	37	33.3
サポート 6	思わない	2	1.9	3	2.7
	あまりそう思わない	12	11.1	8	7.3
	そう思う	37	34.3	43	39.1
	とてもそう思う	57	52.8	56	50.9
サポート 7	思わない	5	4.6	3	2.7
	あまりそう思わない	16	14.8	11	9.9
	そう思う	40	37.0	55	49.5
	とてもそう思う	47	43.5	42	37.8
サポート 8	思わない	11	10.1	9	8.1
	あまりそう思わない	29	26.6	29	26.1
	そう思う	48	44.0	46	41.4
	とてもそう思う	21	19.3	27	24.3
サポート 9	思わない	13	11.9	5	4.5
	あまりそう思わない	20	18.3	23	20.7
	そう思う	52	47.7	45	40.5
	とてもそう思う	24	22.0	38	34.2
サポート 10	思わない	9	8.3	3	2.7
	あまりそう思わない	11	10.1	12	10.8
	そう思う	37	33.9	47	42.3
	とてもそう思う	52	47.7	49	44.1
サポート 11	思わない	11	10.1	4	3.6
	あまりそう思わない	14	12.8	15	13.5
	そう思う	52	47.7	52	46.8
	とてもそう思う	32	29.4	40	36.0
サポート 12	思わない	6	5.5	4	3.6
	あまりそう思わない	16	14.7	15	13.6
	そう思う	38	34.9	34	30.9
	とてもそう思う	49	45.0	57	51.8
サポート 13	思わない	5	4.6	3	2.8
	あまりそう思わない	11	10.1	8	7.3
	そう思う	36	33.0	36	33.0
	とてもそう思う	57	52.3	62	56.9

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.: not significant

1 経済的に困っている時、頼りになる	8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる
2 あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる	9 あなたを日頃認め、評価してくれる
3 引越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる	10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる
4 わからないことがあればよく教えてくれる	11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる
5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる	12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる
6 会うと心が落ち着き、安心できる	13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる
7 気持ちが通じ合う	

表 3-5 サポート認知得点の分布（親族）

		2010年		2011年	
		人	%	人	%
サポート 1	思わない	6	5.6	3	2.8
	あまりそう思わない	18	16.8	17	15.7
	そう思う	43	40.2	50	46.3
	とてもそう思う	40	37.4	38	35.2
サポート 2	思わない	3	2.8	3	2.8
	あまりそう思わない	8	7.4	4	3.7
	そう思う	30	27.8	45	42.1
	とてもそう思う	67	62.0	55	51.4
サポート 3	思わない	0	.0	1	1.0
	あまりそう思わない	9	8.7	6	5.7
	そう思う	33	31.7	34	32.4
	とてもそう思う	62	59.6	64	61.0
サポート 4	思わない	1	.9	0	.0
	あまりそう思わない	4	3.7	2	1.9
	そう思う	36	33.6	49	45.4
	とてもそう思う	66	61.7	57	52.8
サポート 5	思わない	8	7.5	5	4.6
	あまりそう思わない	18	17.0	13	11.9
	そう思う	31	29.2	45	41.3
	とてもそう思う	49	46.2	46	42.2
サポート 6	思わない	3	2.8	2	1.9
	あまりそう思わない	7	6.5	7	6.5
	そう思う	34	31.8	45	42.1
	とてもそう思う	63	58.9	53	49.5
サポート 7	思わない	3	2.8	4	3.7
	あまりそう思わない	13	12.3	9	8.3
	そう思う	51	48.1	60	55.6
	とてもそう思う	39	36.8	35	32.4
サポート 8	思わない	6	5.6	5	4.6
	あまりそう思わない	20	18.7	15	13.9
	そう思う	50	46.7	64	59.3
	とてもそう思う	31	29.0	24	22.2
サポート 9	思わない	2	1.9	3	2.8
	あまりそう思わない	18	16.8	10	9.2
	そう思う	53	49.5	66	60.6
	とてもそう思う	34	31.8	30	27.5
サポート 10	思わない	1	.9	1	.9
	あまりそう思わない	9	8.4	8	7.5
	そう思う	54	50.5	53	49.5
	とてもそう思う	43	40.2	45	42.1
サポート 11	思わない	1	.9	1	.9
	あまりそう思わない	10	9.3	11	10.1
	そう思う	47	43.9	56	51.4
	とてもそう思う	49	45.8	41	37.6
サポート 12	思わない	5	4.7	6	5.6
	あまりそう思わない	18	17.0	15	13.9
	そう思う	52	49.1	53	49.1
	とてもそう思う	31	29.2	34	31.5
サポート 13	思わない	3	2.8	4	3.7
	あまりそう思わない	21	19.6	8	7.5
	そう思う	47	43.9	60	56.1
	とてもそう思う	36	33.6	35	32.7

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 経済的に困っている時、頼りになる             | 8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる      |
| 2 あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる | 9 あなたを日頃認め、評価してくれる           |
| 3 引越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる        | 10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる   |
| 4 わからないことがあればよく教えてくれる          | 11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる     |
| 5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる           | 12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる    |
| 6 会うと心が落ち着き、安心できる              | 13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる |
| 7 気持ちが通じ合う                     |                              |



表 3-6 サポート認知得点の分布（近隣や友人）

		2010年		2011年	
		人	%	人	%
サポート 1	思わない	57	54.3	56	51.9
	あまりそう思わない	34	32.4	35	32.4
	そう思う	12	11.4	16	14.8
	とてもそう思う	2	1.9	1	.9
サポート 2	思わない	42	40.4	43	40.6
	あまりそう思わない	40	38.5	32	30.2
	そう思う	19	18.3	27	25.5
	とてもそう思う	3	2.9	4	3.8
サポート 3	思わない	28	27.2	28	26.4
	あまりそう思わない	24	23.3	22	20.8
	そう思う	33	32.0	33	31.1
	とてもそう思う	18	17.5	23	21.7
サポート 4	思わない	6	5.7	7	6.5
	あまりそう思わない	8	7.6	9	8.3
	そう思う	47	44.8	56	51.9
	とてもそう思う	44	41.9	36	33.3
サポート 5	思わない	53	52.5	50	47.6
	あまりそう思わない	35	34.7	31	29.5
	そう思う	12	11.9	22	21.0
	とてもそう思う	1	1.0	2	1.9
サポート 6	思わない	4	3.8	8	7.5
	あまりそう思わない	3	2.9	5	4.7
	そう思う	45	42.9	53	49.5
	とてもそう思う	53	50.5	41	38.3
サポート 7	思わない	2	1.9	6	5.6
	あまりそう思わない	15	14.3	10	9.3
	そう思う	60	57.1	66	61.7
	とてもそう思う	28	26.7	25	23.4
サポート 8	思わない	10	9.5	8	7.3
	あまりそう思わない	25	23.8	23	21.1
	そう思う	51	48.6	70	64.2
	とてもそう思う	19	18.1	8	7.3
サポート 9	思わない	10	9.7	7	6.4
	あまりそう思わない	9	8.7	15	13.8
	そう思う	60	58.3	67	61.5
	とてもそう思う	24	23.3	20	18.3
サポート 10	思わない	8	7.8	7	6.5
	あまりそう思わない	14	13.7	12	11.2
	そう思う	56	54.9	68	63.6
	とてもそう思う	24	23.5	20	18.7
サポート 11	思わない	6	5.8	7	6.6
	あまりそう思わない	9	8.7	6	5.7
	そう思う	56	54.4	68	64.2
	とてもそう思う	32	31.1	25	23.6
サポート 12	思わない	12	11.5	9	8.4
	あまりそう思わない	18	17.3	17	15.9
	そう思う	45	43.3	51	47.7
	とてもそう思う	29	27.9	30	28.0
サポート 13	思わない	11	10.7	8	7.6
	あまりそう思わない	14	13.6	13	12.4
	そう思う	47	45.6	58	55.2
	とてもそう思う	31	30.1	26	24.8

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.; not significant

- |                                |                              |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 経済的に困っている時、頼りになる             | 8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる      |
| 2 あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる | 9 あなたを日頃認め、評価してくれる           |
| 3 引っ越しをしなければならない時、手伝ってくれる      | 10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる   |
| 4 わからないことがあればよく教えてくれる          | 11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる     |
| 5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる           | 12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる    |
| 6 会うと心が落ち着き、安心できる              | 13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる |
| 7 気持ちが通じ合う                     |                              |

2) サポート認知得点の経年変化

6ヶ月(2010年)時のサポート認知得点は、パートナー40.5(SD8.4)、パートナー以外の親族42.3(SD7.1)、近隣や友人34.8(SD7.4)であり、1歳6ヶ月(2011年)時では、パートナー41.8(SD7.6)、パートナー以外の親族42.3(SD6.6)、近隣や友人34.7(SD7.4)といずれの時点においてもパートナー以外の親族によるサポート得点が最も高かった。また、対応のあるt検定を用いて2010年と2011年を比較したところ、パートナーのサポート認知得点は2010年より1年後の方が、統計学上有意( $p<0.05$ )に高くなっていたが、パートナー以外の親族と近隣や友人のサポート認知得点は有意な差はみられなかった(表3-7)。

表3-7 サポート認知得点の経年変化

	6ヶ月(2010年)		1歳6ヶ月(2011年)		t検定
	平均得点	range	平均得点	range	
サポート得点 パートナー	40.5(SD 8.4)	(14-52)	41.8(SD 7.6)	(15-52)	*
親族	42.3(SD 7.1)	(16-52)	42.3(SD 6.6)	(16-52)	n. s.
近隣友人	34.8(SD 7.4)	(13-52)	34.7(SD 7.4)	(13-52)	n. s.

\*\*\* $p<0.001$  \*\* $p<0.01$  \* $p<0.05$  n. s.; not significant

3) サポート認知得点項目別の経年変化

サポート認知得点の項目別の経年変化は表3-8～表3-10の通りである。

表 3-8 サポート認知得点項目別の経年変化（パートナー）

2010年		2011年				Kendall τ検定	2010年		2011年				Kendall τ検定
		思わな い	あまり 思わ ない	そう 思う	とて も 思 う				思わ ない	あ ま り 思 わ な い	そ う 思 う	と て も 思 う	
サポート1	思わない	0	5	1	1	***	サポート8	思わない	5	6	0	0	***
	%	0.0	71.4	14.3	14.3			%	45.5	54.5	0.0	0.0	
	あまりそう思わない	3	5	10	0			あまりそう思わない	4	9	13	3	
	%	16.7	27.8	55.6	0.0			%	13.8	31.0	44.8	10.3	
	そう思う	0	6	23	11			そう思う	0	12	22	13	
	%	0.0	15.0	57.5	27.5			%	0.0	25.5	46.8	27.7	
サポート2	思わない	3	4	0	0	***	サポート9	思わない	4	5	2	2	***
	%	42.9	57.1	0.0	0.0			%	30.8	38.5	15.4	15.4	
	あまりそう思わない	1	8	8	4			あまりそう思わない	1	9	5	5	
	%	4.8	38.1	38.1	19.0			%	5.0	45.0	25.0	25.0	
	そう思う	0	2	32	6			そう思う	0	7	30	14	
	%	0.0	5.0	80.0	15.0			%	0.0	13.7	58.8	27.5	
サポート3	思わない	1	0	0	0	*	サポート10	思わない	2	3	2	2	***
	%	100.0	0.0	0.0	0.0			%	22.2	33.3	22.2	22.2	
	あまりそう思わない	1	1	3	1			あまりそう思わない	1	4	5	1	
	%	16.7	16.7	50.0	16.7			%	9.1	36.4	45.5	9.1	
	そう思う	0	0	3	14			そう思う	0	3	26	8	
	%	0.0	0.0	17.6	82.4			%	0.0	8.1	70.3	21.6	
サポート4	思わない	3	3	3	1	***	サポート11	思わない	3	4	2	2	***
	%	30.0	30.0	30.0	10.0			%	27.3	36.4	18.2	18.2	
	あまりそう思わない	2	9	9	4			あまりそう思わない	1	7	4	2	
	%	8.3	37.5	37.5	16.7			%	7.1	50.0	28.6	14.3	
	そう思う	0	3	27	8			そう思う	0	3	35	14	
	%	0.0	7.9	71.1	21.1			%	0.0	5.8	67.3	26.9	
サポート5	思わない	3	2	1	1	***	サポート12	思わない	1	2	1	2	***
	%	42.9	28.6	14.3	14.3			%	16.7	33.3	16.7	33.3	
	あまりそう思わない	2	8	15	2			あまりそう思わない	2	7	5	2	
	%	7.4	29.6	55.6	7.4			%	12.5	43.8	31.3	12.5	
	そう思う	1	5	25	10			そう思う	0	4	17	16	
	%	2.4	12.2	61.0	24.4			%	0.0	10.8	45.9	43.2	
サポート6	思わない	1	1	0	0	***	サポート13	思わない	1	1	1	2	***
	%	50.0	50.0	0.0	0.0			%	20.0	20.0	20.0	40.0	
	あまりそう思わない	0	4	4	4			あまりそう思わない	1	1	6	3	
	%	0.0	33.3	33.3	33.3			%	9.1	9.1	54.5	27.3	
	そう思う	1	2	24	9			そう思う	1	4	17	12	
	%	2.8	5.6	66.7	25.0			%	2.9	11.8	50.0	35.3	
サポート7	思わない	2	1	2	0	***	***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05 n.s.: not significant						
	%	40.0	20.0	40.0	0.0								
	あまりそう思わない	1	5	9	1								
	%	6.3	31.3	56.3	6.3								
	そう思う	0	5	25	10								
	%	0.0	12.5	62.5	25.0								
とて も 思 う	0	0	17	29									
%	0.0	0.0	37.0	63.0									

- 1 経済的に困っている時、頼りになる
- 2 あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる
- 3 引越越しをしなければならない時、手伝ってくれる
- 4 わからないことがあればよく教えてくれる
- 5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる
- 6 会うと心が落ち着き、安心できる
- 7 気持ちが通じ合う
- 8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる
- 9 あなたを日頃認め、評価してくれる
- 10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる
- 11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる
- 12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる
- 13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる

表 3-9 サポート認知得点項目別の経年変化（親族）

2010年	2011年				Kendall τ検定	2010年	2011年				Kendall τ検定
	思わない	あまり そう思わ ない	そう思 う	とてもそ う思 う			思わない	あまりそ う思わな い	そう思 う	とてもそ う思 う	
サポート1	思わない	2	1	2	1	サポート8	思わない	3	2	1	0
	%	33.3	16.7	33.3	16.7		%	50.0	33.3	16.7	0.0
	あまりそう思わない	1	6	8	2		あまりそう思わない	1	4	12	2
	%	5.9	35.3	47.1	11.8		%	5.3	21.1	63.2	10.5
	そう思う	0	9	23	11	***	そう思う	1	8	36	5
	%	0.0	20.9	53.5	25.6		%	2.0	16.0	72.0	10.0
	とてもそう思う	0	1	16	23		とてもそう思う	0	1	14	15
	%	0.0	2.5	40.0	57.5		%	0.0	3.3	46.7	50.0
サポート2	思わない	1	1	0	0	サポート9	思わない	1	0	0	0
	%	50.0	50.0	0.0	0.0		%	16.7	0.0	0.0	0.0
	あまりそう思わない	1	1	5	1		あまりそう思わない	2	3	12	1
	%	12.5	12.5	62.5	12.5	***	%	11.1	16.7	66.7	5.6
	そう思う	0	2	20	8		そう思う	0	5	34	13
	%	0.0	6.7	66.7	26.7		%	0.0	9.6	65.4	25.0
	とてもそう思う	1	0	19	44		とてもそう思う	0	2	18	14
	%	1.6	0.0	29.7	68.8		%	0.0	5.9	52.9	41.2
サポート3	思わない	0	3	3	1	サポート10	思わない	0	1	0	0
	%	0.0	42.9	42.9	14.3		%	0.0	100.0	0.0	0.0
	あまりそう思わない	1	3	19	9		あまりそう思わない	0	1	6	1
	%	3.1	9.4	59.4	28.1	***	%	0.0	12.5	75.0	12.5
	そう思う	0	0	11	49		そう思う	1	5	31	16
	%	0.0	0.0	18.3	81.7		%	1.9	9.4	58.5	30.2
	とてもそう思う	0	0	11	49		とてもそう思う	0	1	15	26
	%	0.0	0.0	18.3	81.7		%	0.0	2.4	35.7	61.9
サポート4	思わない	1	0	0	0	サポート11	思わない	0	1	0	0
	%	100.0	0.0	0.0	0.0		%	0.0	100.0	0.0	0.0
	あまりそう思わない	0	0	0	4		あまりそう思わない	0	3	5	1
	%	0.0	0.0	0.0	100.0	*	%	0.0	33.3	55.6	11.1
	そう思う	1	0	23	11		そう思う	1	6	31	9
	%	2.9	0.0	65.7	31.4		%	2.1	12.8	66.0	19.1
	とてもそう思う	0	0	26	39		とてもそう思う	0	1	18	29
	%	0.0	0.0	40.0	60.0		%	0.0	2.1	37.5	60.4
サポート5	思わない	1	6	0	0	サポート12	思わない	1	2	1	0
	%	14.3	85.7	0.0	0.0		%	25.0	50.0	25.0	0.0
	あまりそう思わない	1	3	10	4		あまりそう思わない	2	7	8	1
	%	5.6	16.7	55.6	22.2	***	%	11.1	38.9	44.4	5.6
	そう思う	3	4	19	5		そう思う	3	6	34	9
	%	9.7	12.9	61.3	16.1		%	5.8	11.5	65.4	17.3
	とてもそう思う	0	0	15	34		とてもそう思う	0	0	9	22
	%	0.0	0.0	30.6	69.4		%	0.0	0.0	29.0	71.0
サポート6	思わない	0	1	1	0	サポート13	思わない	1	1	0	0
	%	0.0	50.0	50.0	0.0		%	50.0	50.0	0.0	0.0
	あまりそう思わない	0	2	5	0		あまりそう思わない	2	4	12	2
	%	0.0	28.6	71.4	0.0	***	%	10.0	20.0	60.0	10.0
	そう思う	1	2	22	8		そう思う	1	2	33	10
	%	3.0	6.1	66.7	24.2		%	2.2	4.3	71.7	21.7
	とてもそう思う	1	2	16	43		とてもそう思う	0	1	13	22
	%	1.6	3.2	25.8	69.4		%	0.0	2.8	36.1	61.1
サポート7	思わない	1	1	0	0	***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05 n.s.: not significant					
	%	50.0	50.0	0.0	0.0						
	あまりそう思わない	2	3	8	0						
	%	15.4	23.1	61.5	0.0	***					
	そう思う	0	5	34	10						
	%	0.0	10.2	69.4	20.4						
	とてもそう思う	0	0	16	23						
	%	0.0	0.0	41.0	59.0						

- 1 経済的に困っている時、頼りになる
- 2 あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる
- 3 引越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる
- 4 わからないことがあればよく教えてくれる
- 5 家事をやってくれたり、手伝ってくれる
- 6 会うと心が落ち着き、安心できる
- 7 気持ちが通じ合う
- 8 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる
- 9 あなたを日頃認め、評価してくれる
- 10 あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる
- 11 あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる
- 12 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる
- 13 お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる

表 3-10 サポート認知得点項目別の経年変化（近隣や友人）

2010年	2011年				Kendall τ検定	2010年	2011年				Kendall τ検定
	思わない	あまりそ う思わな い	そう思う	とてもそ う思う			思わない	あまりそ う思わな い	そう思う	とてもそ う思う	
サポート1	43	10	2	0	***	サポート8	5	1	3	1	**
%	78.2	18.2	3.6	0.0		%	50.0	10.0	30.0	10.0	
あまりそう思わない	12	16	6	0		%	2	9	13	0	
%	35.3	47.1	17.6	0.0		%	8.3	37.5	54.2	0.0	
そう思う	1	6	4	1		%	1	9	36	5	
%	8.3	50.0	33.3	8.3	%	2.0	17.6	70.6	9.8		
とてもそう思う	0	0	2	0	%	0	3	13	2		
%	0.0	0.0	100.0	0.0	%	0.0	16.7	72.2	11.1		
サポート2	28	10	2	1	***	サポート9	4	3	3	0	***
%	68.3	24.4	4.9	2.4		%	40.0	30.0	30.0	0.0	
あまりそう思わない	13	16	10	1		%	0	3	5	1	
%	32.5	40.0	25.0	2.5		%	0.0	33.3	55.6	11.1	
そう思う	2	3	11	0		%	3	6	39	11	
%	12.5	18.8	68.8	0.0	%	5.1	10.2	66.1	18.6		
とてもそう思う	0	0	1	2	%	0	1	15	7		
%	0.0	0.0	33.3	66.7	%	0.0	4.3	65.2	30.4		
サポート3	18	3	4	1	***	サポート10	4	1	3	0	***
%	69.2	11.5	15.4	3.8		%	50.0	12.5	37.5	0.0	
あまりそう思わない	6	13	2	2		%	1	4	8	1	
%	26.1	56.5	8.7	8.7		%	7.1	28.6	57.1	7.1	
そう思う	1	5	16	10		%	1	7	35	12	
%	3.1	15.6	50.0	31.3	%	1.8	12.7	63.6	21.8		
とてもそう思う	2	0	8	7	%	0	0	17	6		
%	11.8	0.0	47.1	41.2	%	0.0	0.0	73.9	26.1		
サポート4	2	2	2	0	***	サポート11	3	0	3	0	***
%	33.3	33.3	33.3	0.0		%	50.0	0.0	50.0	0.0	
あまりそう思わない	1	2	0	5		%	2	2	4	0	
%	12.5	25.0	0.0	62.5		%	25.0	25.0	50.0	0.0	
そう思う	3	4	34	5		%	1	4	37	12	
%	6.5	8.7	73.9	10.9	%	1.9	7.4	68.5	22.2		
とてもそう思う	1	1	17	23	%	0	0	19	12		
%	2.4	2.4	40.5	54.8	%	0.0	0.0	61.3	38.7		
サポート5	34	13	4	0	***	サポート12	6	3	2	1	***
%	66.7	25.5	7.8	0.0		%	50.0	25.0	16.7	8.3	
あまりそう思わない	14	15	3	1		%	2	3	10	0	
%	42.4	45.5	9.1	3.0		%	13.3	20.0	66.7	0.0	
そう思う	1	0	10	1		%	0	6	28	11	
%	8.3	0.0	83.3	8.3	%	0.0	13.3	62.2	24.4		
とてもそう思う	0	0	1	0	%	0	5	7	16		
%	0.0	0.0	100.0	0.0	%	0.0	17.9	25.0	57.1		
サポート6	3	1	0	0	***	サポート13	5	3	2	1	***
%	7.1	2.4	0.0	0.0		%	45.5	27.3	18.2	9.1	
あまりそう思わない	0	0	2	0		%	2	1	6	2	
%	0.0	0.0	100.0	0.0		%	18.2	9.1	54.5	18.2	
そう思う	4	4	25	10		%	0	8	31	7	
%	9.3	9.3	58.1	23.3	%	0.0	17.4	67.4	15.2		
とてもそう思う	1	0	22	29	%	0	1	15	13		
%	1.9	0.0	42.3	55.8	%	0.0	2.8	41.7	36.1		
サポート7	1	1	0	0	***	***p<0.001 **p<0.01 *p<0.05 n. s.: not significant					
%	50.0	50.0	0.0	0.0							
あまりそう思わない	4	2	5	2							
%	30.8	15.4	38.5	15.4							
そう思う	1	6	42	10							
%	1.7	10.2	71.2	16.9							
とてもそう思う	0	0	15	12							
%	0.0	0.0	55.6	44.4							

- |    |                              |
|----|------------------------------|
| 1  | 経済的に困っている時、頼りになる             |
| 2  | あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる |
| 3  | 引越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる        |
| 4  | わからないことがあればよく教えてくれる          |
| 5  | 家事をやってくれたり、手伝ってくれる           |
| 6  | 会うと心が落ち着き、安心できる              |
| 7  | 気持ちが通じ合う                     |
| 8  | 常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる        |
| 9  | あなたを日頃認め、評価してくれる             |
| 10 | あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる      |
| 11 | あなたの喜びをわがことのように喜んでくれる        |
| 12 | 個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる       |
| 13 | お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる    |

4-3-2 SOC 得点の経年変化

1)SOC 尺度項目の分布

6ヶ月(2010年)時と1歳6ヶ月(2011年)時のSOC尺度の各項目の分布は表3-11の通りである。

表 3-11 SOC 尺度項目の分布

	2010年							2011年							
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	
SOC1	人	21	21	17	29	15	7	1	25	25	20	26	9	6	1
	%	18.8	18.8	15.2	25.9	13.4	6.3	.9	22.3	22.3	17.9	23.2	8.0	5.4	.9
SOC2	人	6	18	22	33	22	6	3	10	25	24	29	15	6	3
	%	5.4	16.1	19.6	29.5	19.6	5.4	2.7	8.9	22.3	21.4	25.9	13.4	5.4	2.7
SOC3	人	6	22	23	21	21	9	7	13	24	21	22	18	11	3
	%	5.4	19.6	20.5	18.8	18.8	8.0	6.3	11.6	21.4	18.8	19.6	16.1	9.8	2.7
SOC4	人	4	8	13	31	26	20	8	1	6	21	29	31	19	5
	%	3.6	7.1	11.6	27.7	23.2	17.9	7.1	.9	5.4	18.8	25.9	27.7	17.0	4.5
SOC5	人	2	8	7	18	16	30	29	1	6	13	33	12	24	23
	%	1.8	7.1	6.3	16.1	14.3	26.8	25.9	.9	5.4	11.6	29.5	10.7	21.4	20.5
SOC6	人	5	10	22	25	16	23	10	0	9	29	25	14	22	13
	%	4.5	8.9	19.6	22.3	14.3	20.5	8.9	.0	8.0	25.9	22.3	12.5	19.6	11.6
SOC7	人	17	34	27	22	7	3	0	11	32	31	31	6	1	0
	%	15.2	30.4	24.1	19.6	6.3	2.7	.0	9.8	28.6	27.7	27.7	5.4	.9	.0
SOC8	人	4	10	21	24	11	30	10	2	7	19	28	19	31	5
	%	3.6	8.9	18.8	21.4	9.8	26.8	8.9	1.8	6.3	17.0	25.0	17.0	27.7	4.5
SOC9	人	9	9	18	27	12	21	14	3	7	22	34	14	20	11
	%	8.0	8.0	16.1	24.1	10.7	18.8	12.5	2.7	6.3	19.6	30.4	12.5	17.9	9.8
SOC10	人	7	17	14	18	26	17	12	6	16	17	23	25	17	6
	%	6.3	15.2	12.5	16.1	23.2	15.2	10.7	5.4	14.3	15.2	20.5	22.3	15.2	5.4
SOC11	人	3	5	11	50	17	16	8	0	6	9	48	28	14	5
	%	2.7	4.5	9.8	44.6	15.2	14.3	7.1	.0	5.4	8.0	42.9	25.0	12.5	4.5
SOC12	人	1	3	5	23	18	34	27	1	2	3	21	26	36	22
	%	.9	2.7	4.5	20.5	16.1	30.4	24.1	.9	1.8	2.7	18.8	23.2	32.1	19.6
SOC13	人	2	7	11	24	16	33	17	2	5	18	25	16	30	15
	%	1.8	6.3	9.8	21.4	14.3	29.5	15.2	1.8	4.5	16.1	22.3	14.3	26.8	13.4

- 1 あなたは、自分の周りで起こっていることがどうでもいいという気持ちになることがありますか
- 2 あなたは、これまでによく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがありますか
- 3 あなたは、あてにしていた人がっかりさせられたことがありますか
- 4 今までのあなたの人生は明確な目標や目的はまったくなかった(とてもあった)
- 5 あなたは、不当な扱いをうけているという気持ちになることがありますか
- 6 あなたは、不慣れな状況の中にいると感じたり、どうすればいいのかわからないと感じることがよくありますか
- 7 あなたが毎日していることは喜びと満足を与えてくれる(つらく退屈である)
- 8 あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか
- 9 あなたは、本当なら感じたくないような感情をいってしまうことがありますか
- 10 あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか
- 11 何かが起こった時、普段あなたはそのことを過大や過小に評価してきた(適切な見方をしてきた)
- 12 あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がないと感じることがありますか
- 13 あなたは、自制心を保つ自信がなくなることがよくありますか

2)SOC 得点の経年変化

6 ヶ月（2010 年）時の SOC 総得点は 59.7（SD12.6）、Comprehensibility21.7（SD5.6）、Manageability18.1（SD4.7）、Meaningfulness19.8（SD4.1）であった。1 歳 6 ヶ月（2011 年）時の SOC 総得点は 60.5（SD11.1）、Comprehensibility22.4（SD4.9）、Manageability18.1（SD4.5）、Meaningfulness20.0（SD3.5）であった。いずれの項目も 2010 年と 2011 年では横ばいもしくは微増していたが、対応のある t 検定を用いた比較では統計学上有意な差はみられなかった（表 3-12）。

表 3-12 SOC 得点の経年変化

		6ヶ月(2010年)		1歳6ヶ月(2011年)		t 検定
		平均得点	range	平均得点	range	
SOC得点	Comprehensibility	21.7(SD 5.6)	( 6-33)	22.4(SD 4.9)	(10-34)	n. s.
	Manageability	18.1(SD 4.7)	( 6-28)	18.1(SD 4.5)	( 7-28)	n. s.
	Meaningfulness	19.8(SD 4.1)	( 6-28)	20.0(SD 3.5)	( 9-27)	n. s.
	合計	59.7(SD12.6)	(23-83)	60.5(SD11.1)	(36-81)	n. s.

\*\*\*p<0.001   \*\*p<0.01   \*p<0.05   n. s. ; not significant

3)SOC 尺度項目の経年変化

SOC 尺度項目の経年変化は表 3-13～表 3-15 の通りである。

表 3-13 SOC 得点の経年変化 (comprehensibility)

2010年		2011年							Kendall τ 検定	
		1	2	3	4	5	6	7		
SOC2	1 人									
	%	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	2 人									
	%	16.7	16.7	11.1	33.3	16.7	5.6	0.0		
	3 人									
	%	4.5	36.4	22.7	18.2	18.2	0.0	0.0		
	4 人									
	%	9.1	18.2	27.3	33.3	3.0	6.1	3.0	***	
	5 人									
	%	4.5	9.1	31.8	27.3	18.2	9.1	0.0		
	6 人									
	%	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7		
	7 人									
	%	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3		
SOC6	1 人									
	%	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0		
	2 人									
	%	0.0	30.0	40.0	10.0	0.0	20.0	0.0		
	3 人									
	%	0.0	13.6	40.9	13.6	18.2	13.6	0.0		
	4 人									
	%	0.0	4.0	24.0	40.0	12.0	16.0	4.0	***	
	5 人									
	%	0.0	6.3	31.3	6.3	25.0	25.0	6.3		
	6 人									
	%	0.0	0.0	17.4	21.7	8.7	30.4	21.7		
	7 人									
	%	0.0	0.0	0.0	20.0	10.0	20.0	50.0		
SOC8	1 人									
	%	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0		
	2 人									
	%	0.0	20.0	30.0	40.0	0.0	10.0	0.0		
	3 人									
	%	0.0	9.5	9.5	42.9	23.8	14.3	0.0		
	4 人									
	%	8.3	4.2	16.7	33.3	16.7	20.8	0.0	***	
	5 人									
	%	0.0	0.0	27.3	27.3	27.3	18.2	0.0		
	6 人									
	%	0.0	1.4	4.3	3.4	4.3	14.3	3.4		
	7 人									
	%	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	40.0	20.0		
SOC9	1 人									
	%	22.2	11.1	33.3	22.2	11.1	0.0	0.0		
	2 人									
	%	0.0	44.4	22.2	11.1	11.1	0.0	11.1		
	3 人									
	%	0.0	5.6	11.1	44.4	16.7	16.7	5.6		
	4 人									
	%	3.8	3.8	30.8	50.0	0.0	11.5	0.0	***	
	5 人									
	%	0.0	0.0	16.7	33.3	33.3	16.7	0.0		
	6 人									
	%	0.0	0.0	2.0	5.0	3.0	6.0	5.0		
	7 人									
	%	0.0	0.0	9.5	23.8	14.3	28.6	23.8		
SOC11	1 人									
	%	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0		
	2 人									
	%	0.0	20.0	20.0	40.0	0.0	20.0	0.0		
	3 人									
	%	0.0	18.2	18.2	63.6	0.0	0.0	0.0		
	4 人									
	%	0.0	2.0	8.2	53.1	22.4	12.2	0.2	***	
	5 人									
	%	0.0	0.0	1.0	7.0	8.0	1.0	0.0		
	6 人									
	%	0.0	1.0	1.0	4.0	4.0	3.0	2.0		
	7 人									
	%	0.0	6.7	6.7	26.7	26.7	20.0	13.3		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

- 2 あなたは、これまでによく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがありますか  
 6 あなたは、不慣れた状況の中にいると感じたり、どうすればいいのかわからないと感じることがよくありますか  
 8 あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか  
 9 あなたは、本当なら感じたくないような感情をいだいてしまうことがありますか  
 11 何かが起こった時、普段あなたはそのことを過大や過小に評価してきた(適切な見方をしてきた)



表 3-14 SOC 得点の経年変化 (manageability)

2010年		2011年							Kendall τ 検定
		1	2	3	4	5	6	7	
SOC3	1 人	1	3	1	0	1	0	0	***
	%	16.7	50.0	16.7	0.0	16.7	0.0	0.0	
	2 人	2	8	6	4	1	1	0	
	%	9.1	36.4	27.3	18.2	4.5	4.5	0.0	
	3 人	4	6	2	8	2	0	1	
	%	17.4	26.1	8.7	34.8	8.7	0.0	4.3	
	4 人	1	2	4	5	5	3	1	
	%	4.8	9.5	19.0	23.8	23.8	14.3	4.8	
	5 人	3	3	6	2	6	1	0	
	%	14.3	14.3	28.6	9.5	28.6	4.8	0.0	
	6 人	0	0	2	2	1	4	0	
	%	0.0	0.0	22.2	22.2	111.1	44.4	0.0	
	7 人	1	0	0	1	2	2	1	
	%	14.3	0.0	0.0	14.3	28.6	28.6	14.3	
SOC5	1 人	0	0	0	1	1	0	0	***
	%	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
	2 人	0	1	2	3	0	2	0	
	%	0.0	12.5	25.0	37.5	0.0	25.0	0.0	
	3 人	0	0	2	3	1	0	1	
	%	0.0	0.0	28.6	42.9	14.3	0.0	14.3	
	4 人	0	0	2	9	5	2	0	
	%	0.0	0.0	11.1	50.0	27.8	11.1	0.0	
	5 人	0	1	3	6	1	2	3	
	%	0.0	6.3	18.8	37.5	6.3	12.5	18.8	
	6 人	1	3	1	10	1	8	6	
	%	3.3	10.0	3.3	33.3	3.3	26.7	20.0	
	7 人	0	1	3	1	3	9	12	
	%	0.0	3.4	10.3	3.4	10.3	31.0	41.4	
SOC10	1 人	1	3	0	2	1	0	0	***
	%	14.3	42.9	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	
	2 人	2	6	2	4	3	0	0	
	%	11.8	35.3	11.8	23.5	17.6	0.0	0.0	
	3 人	1	1	2	4	5	1	0	
	%	7.1	7.1	14.3	28.6	35.7	7.1	0.0	
	4 人	1	3	5	3	5	0	0	
	%	5.9	17.6	29.4	17.6	29.4	0.0	0.0	
	5 人	1	0	7	8	4	6	0	
	%	3.8	0.0	26.9	30.8	15.4	23.1	0.0	
	6 人	0	1	1	2	5	5	2	
	%	0.0	6.3	6.3	12.5	31.3	31.3	12.5	
	7 人	0	1	0	0	2	5	4	
	%	0.0	8.3	0.0	0.0	16.7	41.7	33.3	
SOC13	1 人	1	0	0	0	1	0	0	**
	%	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	
	2 人	0	0	2	3	0	1	1	
	%	0.0	0.0	28.6	42.9	0.0	14.3	14.3	
	3 人	0	1	3	3	2	2	0	
	%	0.0	9.1	27.3	27.3	18.2	18.2	0.0	
	4 人	0	1	6	8	3	3	3	
	%	0.0	4.2	25.0	33.3	12.5	12.5	12.5	
	5 人	0	1	1	5	4	2	3	
	%	0.0	6.3	6.3	31.3	25.0	12.5	18.8	
	6 人	1	2	2	5	5	14	3	
	%	3.1	6.3	6.3	15.6	15.6	43.8	9.4	
	7 人	0	0	4	1	1	6	5	
	%	0.0	0.0	23.5	5.9	5.9	35.3	29.4	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

- 3 あなたは、あてにしていた人がっかりさせられたことがありますか  
 5 あなたは、不当な扱いを受けているという気持ちになることがありますか  
 10 あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか  
 13 あなたは、自制心を保つ自信がなくなるがよくありますか

表 3-15 SOC 得点の経年変化 (meaningfulness)

2010年			2011年							Kendall τ 検定
			1	2	3	4	5	6	7	
SOC1	1	人	12	5	3	0	1	0	0	***
		%	57.1	23.8	14.3	0.0	4.8	0.0	0.0	
	2	人	6	6	5	3	1	0	0	
		%	28.6	28.6	23.8	14.3	4.8	0.0	0.0	
	3	人	1	5	2	5	2	2	0	
		%	5.9	29.4	11.8	29.4	11.8	11.8	0.0	
	4	人	4	6	8	8	2	1	0	
		%	13.8	20.7	27.6	27.6	6.9	3.4	0.0	
	5	人	1	2	2	8	1	1	0	
		%	6.7	13.3	13.3	53.3	6.7	6.7	0.0	
	6	人	0	1	0	2	2	1	1	
		%	0.0	14.3	.0	28.6	28.6	14.3	14.3	
	7	人	0	0	0	0	0	1	0	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
SOC4	1	人	0	1	1	1	1	0	0	***
		%	0.0	25.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	
	2	人	0	3	4	1	0	0	0	
		%	0.0	37.5	50.0	12.5	0.0	0.0	0.0	
	3	人	0	1	5	7	0	0	0	
		%	0.0	7.7	38.5	53.8	0.0	0.0	0.0	
	4	人	0	0	6	11	7	4	3	
		%	0.0	0.0	19.4	35.5	22.6	12.9	9.7	
	5	人	0	0	4	5	10	7	0	
		%	0.0	0.0	15.4	19.2	38.5	26.9	0.0	
	6	人	0	0	1	3	10	6	0	
		%	0.0	0.0	5.0	15.0	50.0	30.0	0.0	
	7	人	1	0	0	0	3	2	2	
		%	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	25.0	25.0	
SOC7	1	人	5	6	3	2	1	0	0	***
		%	29.4	35.3	17.6	11.8	5.9	0.0	0.0	
	2	人	1	19	12	2	0	0	0	
		%	2.9	55.9	35.3	5.9	0.0	0.0	0.0	
	3	人	2	4	8	12	1	0	0	
		%	7.4	14.8	29.6	44.4	3.7	0.0	0.0	
	4	人	2	1	4	13	2	0	0	
		%	9.1	4.5	18.2	59.1	9.1	0.0	0.0	
	5	人	1	1	2	1	2	0	0	
		%	14.3	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	0.0	
	6	人	0	0	1	1	0	1	0	
		%	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	
	7	人	0	0	0	0	0	0	0	
		%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
SOC12	1	人	0	0	0	1	0	0	0	***
		%	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	2	人	1	0	0	1	1	0	0	
		%	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	
	3	人	0	1	1	0	0	2	1	
		%	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	40.0	20.0	
	4	人	0	0	1	9	6	5	2	
		%	0.0	0.0	4.3	39.1	26.1	21.7	8.7	
	5	人	0	1	0	6	5	4	1	
		%	0.0	5.9	0.0	35.3	29.4	23.5	5.9	
	6	人	0	0	1	3	11	15	4	
		%	0.0	0.0	2.9	8.8	32.4	44.1	11.8	
	7	人	0	0	0	1	3	9	14	
		%	0.0	0.0	0.0	3.7	11.1	33.3	51.9	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

- 1 あなたは、自分の周りで起こっていることがどうでもよいという気持ちになることがありますか  
 4 今までのあなたの人生は明確な目標や目的はまったくなかった(とてもあった)  
 7 あなたが毎日していることは喜びと満足を与えてくれる(つらく退屈である)  
 12 あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がないと感じることがありますか

4-4 自己認識と子育て認識、QOL の経年変化

自己認識 7 項目と子育て認識 8 項目、QOL 関連 5 項目について、2010 年(6 ヶ月時)と 2011 年(1 歳 6 ヶ月時)の経年変化を Kendall  $\tau$  検定で確認した。

4-4-1 自己認識の経年変化

「自分に満足している」、「よいところあり」、「自分は役立たずだ」、「自分は価値ある人間だ」、「自分をもっと尊敬したい」、「自分は何をやってもうまくいかない人間だ」、「物事を良い方に考える」の自己認識 7 項目では、いずれの項目も 2010 年と 2011 年は統計学上有意な関連を示した(表 3-16)。

表 3-16 自己認識の経年変化

	2010年	2011年								Kendall $\tau$ 検定
		思わない		あまりそう思わない		そう思う		とてもそう思う		
		人	%	人	%	人	%	人	%	
自分に満足	思わない	1	(25.0)	2	(50.0)	1	(25.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	2	(5.3)	17	(44.7)	16	(42.1)	3	(7.9)	
	そう思う	0	(0.0)	11	(18.6)	42	(71.2)	6	(10.2)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(83.3)	1	(16.7)	
よいところあり	思わない	4	(57.1)	3	(42.9)	0	(0.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	1	(1.9)	40	(75.5)	12	(22.6)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	7	(15.9)	36	(81.8)	1	(2.3)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	1	(33.3)	2	(66.7)	0	(0.0)	
役立たずだ	思わない	2	(18.2)	4	(36.4)	3	(27.3)	2	(18.2)	*
	あまりそう思わない	4	(6.7)	40	(66.7)	15	(25.0)	1	(1.7)	
	そう思う	1	(2.9)	8	(23.5)	24	(70.6)	1	(2.9)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	
価値ある人間だ	思わない	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	1	(5.6)	11	(61.1)	5	(27.8)	1	(5.6)	
	そう思う	0	(0.0)	7	(9.3)	63	(84.0)	5	(6.7)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(66.7)	4	(33.3)	
尊敬したい	思わない	0	(0.0)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	3	(8.1)	19	(51.4)	14	(37.8)	1	(2.7)	
	そう思う	0	(0.0)	10	(21.3)	30	(63.8)	7	(14.9)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	3	(15.0)	8	(40.0)	9	(45.0)	
うまくいかない	思わない	7	(46.7)	8	(53.3)	0	(0.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	4	(5.8)	55	(79.7)	10	(14.5)	0	(0.0)	
	そう思う	1	(5.0)	8	(40.0)	9	(45.0)	2	(10.0)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	1	(33.3)	1	(33.3)	1	(33.3)	
良い方に考える	思わない	7	(53.8)	5	(38.5)	1	(7.7)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	3	(6.4)	34	(72.3)	9	(19.1)	1	(2.1)	
	そう思う	1	(2.6)	2	(5.3)	27	(71.1)	8	(21.1)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	6	(66.7)	3	(33.3)	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

4-4-2 子育て認識の経年変化

「育児に自信なし」、「上手く育てている」、「育児負担あり」、「育てやすい」、「子育てなければ自由」、「子育てで人生充実」、「子育てで親も成長する」、「子育ては楽しい」の子育てに関する 8 項目では、いずれの項目も 2010 年と 2011 年は統計学上有意な関連を示した（表 3-17）。

表 3-17 子育て認識の経年変化

	2010年	2011年								Kendall τ検定
		思わない		あまりそう思わない		そう思う		とてもそう思う		
		人	%	人	%	人	%	人	%	
育児自信なし	思わない	8	(44.4)	7	(38.9)	3	(16.7)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	8	(12.5)	48	(75.0)	8	(12.5)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	8	(35.0)	12	(60.0)	1	(5.0)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(50.0)	2	(50.0)	
うまく育てている	思わない	1	(20.0)	2	(40.0)	2	(40.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	2	(4.7)	32	(74.4)	9	(20.9)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	23	(39.7)	35	(60.3)	0	(0.0)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	
育児負担あり	思わない	20	(51.3)	19	(48.7)	0	(0.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	12	(21.4)	41	(73.2)	3	(5.4)	0	(0.0)	
	そう思う	1	(9.1)	4	(36.4)	4	(36.4)	2	(18.2)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	
育てやすい	思わない	0	(0.0)	1	(25.0)	2	(50.0)	1	(25.0)	***
	あまりそう思わない	2	(10.5)	11	(57.9)	5	(26.3)	1	(5.3)	
	そう思う	0	(0.0)	19	(29.5)	38	(62.3)	5	(8.2)	
	とてもそう思う	1	(5.0)	0	(0.0)	10	(50.0)	9	(45.0)	
子育てなければ自由	思わない	14	(51.9)	11	(40.7)	2	(7.4)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	9	(17.3)	35	(67.3)	7	(13.5)	1	(1.9)	
	そう思う	2	(8.3)	5	(20.8)	13	(54.2)	4	(16.7)	
	とてもそう思う	2	(50.0)	0	(0.0)	2	(50.0)	0	(0.0)	
子育てで人生充実	思わない	0	(0.0)	2	(50.0)	1	(25.0)	1	(25.0)	***
	あまりそう思わない	1	(20.0)	1	(20.0)	3	(60.0)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	4	(7.3)	41	(74.5)	10	(18.2)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	1	(2.4)	15	(35.7)	26	(61.9)	
子育てで親も成長	思わない	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	0	(0.0)	1	(33.3)	2	(66.7)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	3	(7.1)	22	(52.4)	17	(40.5)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	1	(1.6)	18	(29.5)	42	(68.9)	
子育ては楽しい	思わない	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	1	(25.0)	1	(25.0)	2	(50.0)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	3	(5.3)	46	(78.9)	9	(15.8)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	17	(38.6)	27	(61.4)	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

4-4-3 QOL 項目の経年変化

「日々喜びや充実感あり」、「打ち込めるものがある」、「ハリある生活を送っている」、「生活に満足している」、「健康である」の QOL に関する 5 項目では、「ハリある生活を送っている」以外の 4 項目について、2010 年と 2011 年では統計学上有意な関連を示した（表 3-18）。

表 3-18 生活満足感・主観的健康感の経年変化

2010年		2011年								Kendall τ 検定
		思わない		あまりそう思わない		そう思う		とてもそう思う		
		人	%	人	%	人	%	人	%	
日々喜び充実感あり	思わない	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	1	(5.9)	7	(41.2)	9	(52.9)	0	(0.0)	
	そう思う	0	(0.0)	3	(6.7)	34	(75.6)	8	(17.8)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	2	(4.7)	15	(34.9)	26	(60.5)	
うちこめるものあり	思わない	2	(33.3)	3	(50.0)	1	(16.7)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	3	(8.1)	20	(54.1)	12	(32.4)	2	(5.4)	
	そう思う	1	(2.2)	8	(17.8)	26	(57.8)	10	(22.3)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	1	(5.3)	10	(52.6)	8	(42.1)	
ハリある生活	思わない	1	(20.0)	3	(60.0)	0	(0.0)	1	(20.0)	n. s.
	あまりそう思わない	1	(3.1)	14	(43.8)	12	(37.5)	5	(15.6)	
	そう思う	1	(2.0)	11	(22.4)	27	(53.1)	11	(22.4)	
	とてもそう思う	1	(5.0)	2	(10.0)	11	(55.0)	6	(30.0)	
生活に満足	思わない	2	(33.3)	1	(16.7)	1	(16.7)	2	(33.3)	***
	あまりそう思わない	2	(10.5)	10	(52.6)	6	(31.6)	1	(5.3)	
	そう思う	1	(2.0)	6	(11.8)	36	(68.6)	9	(17.6)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	1	(3.3)	10	(33.3)	19	(63.3)	
健康である	思わない	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	***
	あまりそう思わない	0	(0.0)	8	(61.5)	3	(23.1)	2	(15.4)	
	そう思う	1	(2.1)	4	(8.5)	37	(78.7)	5	(10.6)	
	とてもそう思う	0	(0.0)	0	(0.0)	16	(34.8)	30	(65.2)	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

4-5 就労の有無別にみた自己認識と子育て認識、QOLの経年変化  
 自己認識7項目と子育て認識8項目、QOL5項目について、就労の有無別に2010年(6ヶ月時)と2011年(1歳6ヶ月時)の経年変化をKendall  $\tau$  検定で確認した。

4-5-1 就労の有無別にみた自己認識の経年変化

就労の有無別にみた自己認識7項目の経年変化は表3-19の通りである。就労あり群、就労なし群ともに、いずれの項目も統計学上有意な関連を示した。

表3-19 就労の有無別にみた自己認識の経年変化

2010年		2011年									
		就労あり				Kendall $\tau$ 検定	就労なし				
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定
自分に満足	思わない	0	1	0	0		1	1	1	0	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%		33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	8	6	3		1	9	10	0	
	%	5.6%	44.4%	33.3%	16.7%	*	5.0%	45.0%	50.0%	0.0%	**
	そう思う	0	4	22	3		0	7	20	3	
	%	0.0%	13.8%	75.9%	10.3%		0.0%	23.3%	66.7%	10.0%	
	とてもそう 思う	0	0	3	0		0	0	2	1	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	
よいところ あり	思わない	1	2	0	0		3	1	0	0	
	%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%		75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	17	6	0		1	23	6	0	
	%	0.0%	73.9%	26.1%	0.0%	***	3.3%	76.7%	20.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	20	1		0	5	16	0	
	%	0.0%	8.7%	87.0%	4.3%		0.0%	23.8%	76.2%	0.0%	
	とてもそう 思う	0	0	2	0		0	1	0	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
役立たずだ	思わない	0	1	1	0		2	3	2	2	
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		22.2%	33.3%	22.2%	22.2%	
	あまりそう 思わない	3	23	9	1		1	17	6	0	
	%	8.3%	63.9%	25.0%	2.8%	*	4.2%	70.8%	25.0%	0.0%	*
	そう思う	0	4	8	1		1	4	16	0	
	%	0.0%	30.8%	61.5%	7.7%		4.8%	19.0%	76.2%	0.0%	
	とてもそう 思う	0	0	0	0		0	0	2	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
価値ある人間だ	思わない	0	0	0	0		1	1	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	5	2	0		1	6	3	1	
	%	0.0%	71.4%	28.6%	0.0%	**	9.1%	54.5%	27.3%	9.1%	***
	そう思う	0	6	31	2		0	1	32	3	
	%	0.0%	15.4%	79.5%	5.1%		0.0%	2.8%	88.9%	8.3%	
	とてもそう 思う	0	0	3	2		0	0	5	2	
	%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%		0.0%	0.0%	71.4%	28.6%	
尊敬したい	思わない	0	1	0	0		0	0	1	0	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	3	8	6	1		0	11	8	0	
	%	16.7%	44.4%	33.3%	5.6%	***	0.0%	57.9%	42.1%	0.0%	***
	そう思う	0	6	14	2		0	4	16	5	
	%	0.0%	27.3%	63.6%	9.1%		0.0%	16.0%	64.0%	20.0%	
	とてもそう 思う	0	1	6	2		0	2	2	7	
	%	0.0%	11.1%	66.7%	22.2%		0.0%	18.2%	18.2%	63.6%	
うまくいかない	思わない	4	3	0	0		3	5	0	0	
	%	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%		37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	3	29	4	0		1	26	6	0	
	%	8.3%	80.6%	11.1%	0.0%	**	3.0%	78.8%	18.2%	0.0%	***
	そう思う	1	1	4	1		0	7	5	1	
	%	14.3%	14.3%	57.1%	14.3%		0.0%	53.8%	38.5%	7.7%	
	とてもそう 思う	0	1	0	0		0	0	1	1	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	
良い方考える	思わない	3	3	0	0		4	2	1	0	
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	16	4	0		2	18	5	1	
	%	4.8%	76.2%	19.0%	0.0%	***	7.7%	69.2%	19.2%	3.8%	***
	そう思う	1	1	13	5		0	1	14	3	
	%	5.0%	5.0%	65.0%	25.0%		0.0%	5.6%	77.8%	16.7%	
	とてもそう 思う	0	0	2	2		0	0	4	1	
	%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%		0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.; not significant

4-5-2 就労の有無別にみた子育て認識の経年変化

就労の有無別にみた子育て認識 8 項目の経年変化は表 3-20 の通りである。就労あり群の「子育てで親も成長する」以外の項目、就労なし群のすべての項目で統計学上有意な関連を示した。

表 3-20 就労の有無別にみた子育て認識の経年変化

2010年	2011年										
		就労あり					就労なし				
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ検定
育児自信なし	思わない	4	3	2	0		4	4	1	0	
	%	44.4%	33.3%	22.2%	0.0%		44.4%	44.4%	11.1%	0.0%	
	あまりそう 思わない	3	28	3	0		5	20	5	0	
	%	8.8%	82.4%	8.8%	0.0%	*	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	***
	そう思う	0	4	3	0		0	4	9	1	
%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		0.0%	28.6%	64.3%	7.1%		
とてもそう 思う	0	0	1	0		0	0	1	2		
%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	33.3%	66.7%		
うまく育てている	思わない	0	1	1	0		1	1	1	0	
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	13	4	0		2	19	5	0	
	%	0.0%	76.5%	23.5%	0.0%	**	7.7%	73.1%	19.2%	0.0%	***
	そう思う	0	12	19	0		0	11	16	0	
%	0.0%	38.7%	61.3%	0.0%		0.0%	40.7%	59.3%	0.0%		
とてもそう 思う	0	0	1	0		0	0	0	0		
%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
育児負担あり	思わない	11	11	0	0		9	8	0	0	
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	3	22	2	0		9	19	1	0	
	%	11.1%	81.5%	7.4%	0.0%	***	31.0%	65.5%	3.4%	0.0%	***
	そう思う	0	2	0	0		1	2	4	2	
%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%		11.1%	22.2%	44.4%	22.2%		
とてもそう 思う	0	0	0	0		0	0	0	0		
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
育てやすい	思わない	0	1	1	1		0	0	1	0	
	%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	3	4	1		1	8	1	0	
	%	11.1%	33.3%	44.4%	11.1%	*	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	***
	そう思う	0	11	17	2		0	8	21	3	
%	0.0%	36.7%	56.7%	6.7%		0.0%	22.6%	67.7%	9.7%		
とてもそう 思う	0	0	3	5		1	0	7	4		
%	0.0%	0.0%	37.5%	62.5%		8.3%	0.0%	58.3%	33.3%		
子育てでなければ 自由	思わない	6	8	2	0		8	3	0	0	
	%	37.5%	50.0%	12.5%	0.0%		72.7%	27.3%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	6	17	2	1		3	18	5	0	
	%	23.1%	65.4%	7.7%	3.8%	*	11.5%	69.2%	19.2%	0.0%	***
	そう思う	0	1	5	2		2	4	8	2	
%	0.0%	12.5%	62.5%	25.0%		12.5%	25.0%	50.0%	12.5%		
とてもそう 思う	1	0	0	0		1	0	2	0		
%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		33.3%	0.0%	66.7%	0.0%		
子育てで人生 充実	思わない	0	1	0	1		0	1	1	0	
	%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%		0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	1	2	0		1	0	1	0	
	%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	**	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	15	6		0	2	26	4	
%	0.0%	8.7%	65.2%	26.1%		0.0%	6.3%	81.3%	12.5%		
とてもそう 思う	0	0	9	13		0	1	6	13		
%	0.0%	0.0%	40.9%	59.1%		0.0%	5.0%	30.0%	65.0%		
子育てで親も 成長	思わない	0	0	1	0		0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	0	0	0		0	1	2	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	n. s.	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	***
	そう思う	0	1	9	9		0	2	13	8	
%	0.0%	5.3%	47.4%	47.4%		0.0%	8.7%	56.5%	34.8%		
とてもそう 思う	0	0	12	19		0	1	6	23		
%	0.0%	0.0%	38.7%	61.3%		0.0%	3.3%	20.0%	76.7%		
子育ては楽しい	思わない	0	0	0	0		0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	1	0	0		1	0	2	0	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	***	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	**
	そう思う	0	1	21	4		0	2	25	5	
%	0.0%	4.0%	80.0%	16.0%		0.0%	6.3%	78.1%	15.6%		
とてもそう 思う	0	0	6	18		0	0	11	9		
%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%		0.0%	0.0%	55.0%	45.0%		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

4-5-3 就労の有無別にみたQOLの経年変化

就労の有無別にみたQOL 5項目の経年変化は表3-21の通りである。就労あり群の「ハリある生活を送っている」以外の項目、就労なし群のすべての項目で統計学上有意な関連を示した。

表3-21 就労の有無別にみたQOLの経年変化

	2010年	2011年								
		就労あり				Kendall τ検定	就労なし			
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う
日々喜び充実感あり	思わない %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%		1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
	あまりそう 思わない %	0 0.0%	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%		1 9.1%	5 45.5%	5 45.5%	0 0.0%
	そう思う %	0 0.0%	1 5.0%	16 80.0%	3 15.0%	***	0 0.0%	2 8.0%	18 72.0%	5 20.0%
	とてもそう 思う %	0 0.0%	1 4.0%	8 32.0%	16 64.0%		0 0.0%	1 5.6%	7 38.9%	10 55.6%
うちこめるものあり	思わない %	0 0.0%	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%		2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%
	あまりそう 思わない %	2 11.1%	7 38.9%	8 44.4%	1 5.6%		1 5.3%	13 68.4%	4 21.1%	1 5.3%
	そう思う %	0 0.0%	2 10.5%	10 52.6%	7 36.8%	***	1 3.8%	6 23.1%	16 61.5%	3 11.5%
	とてもそう 思う %	0 0.0%	0 0.0%	6 54.5%	5 45.5%		0 0.0%	1 12.5%	4 50.0%	3 37.5%
ハリある生活	思わない %	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%		1 25.0%	2 50.0%	0 0.0%	1 25.0%
	あまりそう 思わない %	0 0.0%	2 14.3%	9 64.3%	3 21.4%	n. s.	1 5.6%	12 66.7%	3 16.7%	2 11.1%
	そう思う %	1 4.3%	2 8.7%	11 47.8%	9 39.1%		0 0.0%	9 34.6%	16 57.7%	2 7.7%
	とてもそう 思う %	0 0.0%	1 7.7%	8 61.5%	4 30.8%		1 14.3%	1 14.3%	3 42.9%	2 28.6%
生活に満足	思わない %	0 0.0%	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%		2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
	あまりそう 思わない %	2 28.6%	3 42.9%	2 28.6%	0 0.0%		0 0.0%	7 58.3%	4 33.3%	1 8.3%
	そう思う %	1 4.2%	4 16.7%	13 54.2%	6 25.0%	***	0 0.0%	2 7.4%	23 81.5%	3 11.1%
	とてもそう 思う %	0 0.0%	1 6.3%	5 31.3%	10 62.5%		0 0.0%	0 0.0%	5 35.7%	9 64.3%
健康である	思わない %	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%		0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%	0 0.0%
	あまりそう 思わない %	0 0.0%	7 87.5%	0 0.0%	1 12.5%		0 0.0%	8 61.5%	3 23.1%	2 15.4%
	そう思う %	1 5.9%	0 0.0%	14 82.4%	2 11.8%	***	1 2.1%	4 8.5%	37 78.7%	5 10.6%
	とてもそう 思う %	0 0.0%	0 0.0%	8 30.8%	18 69.2%		0 0.0%	0 0.0%	16 34.8%	30 65.2%

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant



4-6 最終学歴別にみた自己認識と子育て認識、QOLの経年変化

自己認識7項目と子育て認識8項目、QOL関連5項目について、最終学歴別（中高卒群、専門以上卒群）に2010年（6ヶ月時）と2011年（1歳6ヶ月時）の経年変化をKendall  $\tau$  検定で確認した。

4-6-1 最終学歴別にみた自己認識の経年変化について

中高卒群の「自分に満足している」、「自分は役立たずだ」以外の項目、専門学校以上卒群のすべての項目で統計学上有意な関連を示した（表3-22）。

表3-22 最終学歴別にみた自己認識の経年変化

	2010年	2011年									
		中高卒					専門短大以上卒				
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定
自分に満足	思わない	0	0	1	0		1	2	0	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	9	7	2		1	8	9	1	
	%	5.3%	47.4%	36.8%	10.5%	n. s.	5.3%	42.1%	47.4%	5.3%	***
	そう思う	0	6	14	2		0	4	28	4	
	%	0.0%	27.3%	63.6%	9.1%		0.0%	11.1%	77.8%	11.1%	
	とてもそう 思う	0	0	1	0		0	0	4	1	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	80.0%	20.0%	
よいところあり	思わない	2	2	0	0		2	1	0	0	
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	21	6	0		0	19	6	0	
	%	0.0%	77.8%	22.2%	0.0%	***	0.0%	76.0%	24.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	10	0		0	5	26	1	
	%	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%		0.0%	15.6%	81.3%	3.1%	
	とてもそう 思う	0	0	0	0		0	1	2	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	
役立たずだ	思わない	1	1	2	1		1	3	1	1	
	%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%		16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	
	あまりそう 思わない	2	14	5	0		2	25	10	1	
	%	9.5%	66.7%	23.8%	0.0%	n. s.	5.3%	65.8%	26.3%	2.6%	**
	そう思う	1	4	10	1		0	4	14	0	
	%	6.3%	25.0%	62.5%	6.3%		0.0%	22.2%	77.8%	0.0%	
	とてもそう 思う	0	0	1	0		0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
価値ある人間だ	思わない	0	0	0	0		1	1	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	8	1	0		0	3	4	1	
	%	10.0%	80.0%	10.0%	0.0%	***	0.0%	37.5%	50.0%	12.5%	**
	そう思う	0	4	27	1		0	3	35	4	
	%	0.0%	12.5%	84.4%	3.1%		0.0%	7.1%	83.3%	9.5%	
	とてもそう 思う	0	0	1	0		0	0	7	4	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	63.6%	36.4%	
尊敬したい	思わない	0	1	1	0		0	0	0	0	
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	2	4	6	0		1	15	8	1	
	%	16.7%	33.3%	50.0%	0.0%	***	4.0%	60.0%	32.0%	4.0%	***
	そう思う	0	4	12	3		0	6	18	4	
	%	0.0%	21.1%	63.2%	15.8%		0.0%	21.4%	64.3%	14.3%	
	とてもそう 思う	0	1	4	5		0	2	4	3	
	%	0.0%	10.0%	40.0%	50.0%		0.0%	22.2%	44.4%	33.3%	
うまくいかない	思わない	3	2	0	0		4	6	0	0	
	%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%		40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	23	4	0		4	31	6	0	
	%	0.0%	85.2%	14.8%	0.0%	***	9.8%	75.6%	14.6%	0.0%	**
	そう思う	0	3	4	1		1	5	5	1	
	%	0.0%	37.5%	50.0%	12.5%		8.3%	41.7%	41.7%	8.3%	
	とてもそう 思う	0	1	1	1		0	0	0	0	
	%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
良い方考える	思わない	3	3	0	0		4	2	1	0	
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		57.1%	28.6%	14.3%	0.0%	
	あまりそう 思わない	2	14	6	0		0	20	3	1	
	%	9.1%	63.6%	27.3%	0.0%	***	0.0%	83.3%	12.5%	4.2%	***
	そう思う	1	0	8	4		0	2	19	4	
	%	7.7%	0.0%	61.5%	30.8%		0.0%	8.0%	76.0%	16.0%	
	とてもそう 思う	0	0	0	2		0	0	6	1	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%		0.0%	0.0%	85.7%	14.3%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.: not significant

4-6-2 最終学歴別にみた子育て認識の経年変化について

最終学歴別にみた子育て認識 8 項目の経年変化を表 3-23 に示す。中高卒群、専門学校以上卒群のいずれもすべての項目で統計学上有意な関連を示した。

表 3-23 最終学歴別にみた子育て認識の経年変化

2010年	2011年										
	中高卒					専門学校以上卒					
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定	
育児自信なし	思わない	3	3	1	0		5	4	2	0	
	%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%		45.5%	36.4%	18.2%	0.0%	
	あまりそう 思わない	2	17	5	0		6	30	3	0	
	%	8.3%	70.8%	20.8%	0.0%	**	15.4%	76.9%	7.7%	0.0%	***
	そう思う	0	5	6	0		0	3	6	1	
うまく育てている	思わない	0	1	0	0		1	1	2	0	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%		25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	17	4	0		1	15	5	0	
	%	4.5%	77.3%	18.2%	0.0%	**	4.8%	71.4%	23.8%	0.0%	**
	そう思う	0	10	10	0		0	12	25	0	
育児負担あり	思わない	7	6	0	0		13	13	0	0	
	%	53.8%	46.2%	0.0%	0.0%		50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	3	22	1	0		9	19	2	0	
	%	11.5%	84.6%	3.8%	0.0%	***	30.0%	63.3%	6.7%	0.0%	***
	そう思う	0	1	1	1		0	3	3	1	
育てやすい	思わない	0	0	1	0		0	1	1	1	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	
	あまりそう 思わない	0	5	1	0		2	6	4	1	
	%	0.0%	83.3%	16.7%	0.0%	*	15.4%	46.2%	30.8%	7.7%	***
	そう思う	0	7	17	2		0	11	21	3	
子育てなければ自由	思わない	6	6	1	0		8	5	1	0	
	%	46.2%	46.2%	7.7%	0.0%		57.1%	35.7%	7.1%	0.0%	
	あまりそう 思わない	4	13	4	1		4	22	3	0	
	%	18.2%	59.1%	18.2%	4.5%	*	13.8%	75.9%	10.3%	0.0%	***
	そう思う	1	1	3	1		1	4	10	3	
子育てで人生充実	思わない	0	1	0	0		0	1	1	1	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%		0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	
	あまりそう 思わない	1	1	2	0		0	0	1	0	
	%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	***	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	20	5		0	2	21	5	
子育てで親も成長	思わない	0	0	1	0		0	0	0	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	.0	
	あまりそう 思わない	0	1	0	0		0	0	2	0	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	*	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	**
	そう思う	0	3	8	7		0	0	14	10	
子育ては楽しい	思わない	0	0	0	0		0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	1	0	0		0	0	2	0	
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	***	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	23	3		0	1	23	6	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

4-6-3 最終学歴別にみた QOL の経年変化について

最終学歴別にみた QOL5 項目の経年変化を表 3-24 に示す。中高卒群の「ハリある生活を送っている」以外の項目、専門学校以上卒群のすべての項目で統計学上有意な関連を示した。

表 3-24 最終学歴別にみた QOL の経年変化

2010年	2011年									
	中高卒					専門学校以上卒				
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ 検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ 検定
日々喜び充実感 あり	思わない	0	0	0	0	1	1	0	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	5	4	0	0	2	5	0	
	%	10.0%	50.0%	40.0%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%	0.0%	***
	そう思う	0	2	17	2	0	1	17	6	
	%	0.0%	9.5%	81.0%	9.5%	0.0%	4.2%	70.8%	25.0%	
とてもそう 思う	0	1	6	5	0	1	9	20		
%	0.0%	8.3%	50.0%	41.7%	0.0%	3.3%	30.0%	66.7%		
うちこめるもの あり	思わない	0	1	1	0	2	2	0	0	
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	2	10	7	0	1	10	5	2	
	%	10.5%	52.6%	36.8%	0.0%	5.6%	55.6%	27.8%	11.1%	***
	そう思う	1	3	11	1	0	5	15	9	
	%	6.3%	18.8%	68.8%	6.3%	0.0%	17.2%	51.7%	31.0%	
とてもそう 思う	0	0	4	2	0	1	5	6		
%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	8.3%	41.7%	50.0%		
ハリある生活	思わない	0	1	0	1	1	2	0	0	
	%	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	7	6	1	0	7	6	4	
	%	6.7%	46.7%	40.0%	6.7%	0.0%	41.2%	35.3%	23.5%	**
	そう思う	1	5	11	3	0	6	15	8	
	%	5.0%	25.0%	55.0%	15.0%	0.0%	21.4%	50.0%	28.6%	
とてもそう 思う	1	1	4	0	0	1	7	6		
%	16.7%	16.7%	66.7%	0.0%	0.0%	7.1%	50.0%	42.9%		
生活に満足	思わない	1	1	1	1	1	0	0	1	
	%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	
	あまりそう 思わない	0	7	3	0	2	3	3	1	
	%	0.0%	70.0%	30.0%	0.0%	22.2%	33.3%	33.3%	11.1%	***
	そう思う	1	2	15	3	0	4	20	6	
	%	4.8%	9.5%	71.4%	14.3%	0.0%	13.8%	65.5%	20.7%	
とてもそう 思う	0	0	4	4	0	1	6	15		
%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	4.5%	27.3%	68.2%		
健康である	思わない	0	0	0	0	0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	4	2	2	0	4	1	0	
	%	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	80.0%	20.0%	0.0%	***
	そう思う	1	2	14	2	0	2	22	3	
	%	5.3%	10.5%	73.7%	10.5%	0.0%	7.4%	81.5%	11.1%	
とてもそう 思う	0	0	4	12	0	0	12	18		
%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

4-7 世帯収入別にみた自己認識と子育て認識、QOL の経年変化

自己認識 7 項目と子育て認識 8 項目、QOL 関連 5 項目について、世帯収入別（400 万円未満群、400 万円以上群）に 2010 年（6 ヶ月時）と 2011 年（1 歳 6 ヶ月時）の経年変化を Kendall  $\tau$  検定で確認した。

4-7-1 世帯収入別にみた自己認識の経年変化について

400 万円未満群では「自分は役立たずだ」以外の項目、400 万円以上群ではすべての項目で統計学上有意な関連を示した（表 3-25）。

表 3-25 世帯収入別にみた自己認識の経年変化

2010年	2011年									
	400万円未満					400万円以上				
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall $\tau$ 検定
自分に満足	思わない	0	1	0	0	1	1	0	0	
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	5	7	0	0	9	7	3	
	%	7.7%	38.5%	53.8%	0.0%	0.0%	47.4%	36.8%	15.8%	**
	そう思う	0	7	14	2	0	4	25	4	
	%	0.0%	30.4%	60.9%	8.7%	0.0%	12.1%	75.8%	12.1%	
よいところ あり	思わない	1	1	0	0	2	1	0	0	
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	15	5	0	0	18	7	0	
	%	4.8%	71.4%	23.8%	0.0%	0.0%	72.0%	28.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	14	0	0	5	21	1	
	%	0.0%	12.5%	87.5%	0.0%	0.0%	18.5%	77.8%	3.7%	
役立たずだ	思わない	1	2	1	1	1	2	2	0	
	%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	13	6	0	3	26	6	1	
	%	5.0%	65.0%	30.0%	0.0%	8.3%	72.2%	16.7%	2.8%	***
	そう思う	1	5	9	0	0	2	13	0	
	%	6.7%	33.3%	60.0%	0.0%	0.0%	13.3%	86.7%	0.0%	
価値ある人間だ	思わない	1	0	0	0	0	1	0	0	
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	4	2	0	0	4	2	1	
	%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	57.1%	28.6%	14.3%	**
	そう思う	0	2	24	3	0	5	34	2	
	%	0.0%	6.9%	82.8%	10.3%	0.0%	12.2%	82.9%	4.9%	
尊敬したい	思わない	0	0	1	0	0	1	0	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	2	5	6	1	1	13	8	0	
	%	14.3%	35.7%	42.9%	7.1%	4.5%	59.1%	36.4%	0.0%	***
	そう思う	0	5	9	2	0	5	18	3	
	%	0.0%	31.3%	56.3%	12.5%	0.0%	19.2%	69.2%	11.5%	
うまくいかない	思わない	3	1	0	0	4	6	0	0	
	%	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	21	7	0	3	30	3	0	
	%	3.4%	72.4%	24.1%	0.0%	8.3%	83.3%	8.3%	0.0%	**
	そう思う	0	4	3	0	1	2	4	2	
	%	0.0%	57.1%	42.9%	0.0%	11.1%	22.2%	44.4%	22.2%	
良い方考える	思わない	4	1	1	0	3	4	0	0	
	%	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	17	3	0	0	13	4	1	
	%	4.8%	81.0%	14.3%	0.0%	0.0%	72.2%	22.2%	5.6%	***
	そう思う	0	1	6	4	1	1	19	4	
	%	0.0%	9.1%	54.5%	36.4%	4.0%	4.0%	76.0%	16.0%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.: not significant

4-7-2 世帯収入別にみた子育て認識の経年変化について

世帯収入別にみた子育て認識 8 項目の経年変化は表 3-26 の通りである。400 万円未満群では「うまく育てている」、「育児負担あり」、「子育てで親も成長する」以外の項目、400 万円以上群ではすべての項目で統計学上有意な関連を示した。

表 3-26 世帯収入別にみた子育て認識の経年変化

2010年		2011年									
		400万円未満					400万円以上				
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ検定
育児自信なし	思わない	3	2	0	0		4	4	3	0	
	%	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%		36.4%	36.4%	27.3%	0.0%	
	あまりそう 思わない	4	16	4	0		4	29	3	0	
	%	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	***	11.1%	80.6%	8.3%	0.0%	*
	そう思う	0	3	7	1		0	4	4	0	
%	0.0%	27.3%	63.6%	9.1%		0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		
とてもそう 思う	0	0	0	0		0	0	2	0		
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		
うまく育てている	思わない	0	0	1	0		0	2	1	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	
	あまりそう 思わない	1	15	3	0		0	14	4	0	
	%	5.3%	78.9%	15.8%	0.0%	n. s.	0.0%	77.8%	22.2%	0.0%	**
	そう思う	0	10	9	0		0	12	24	0	
%	0.0%	52.6%	47.4%	0.0%		0.0%	33.3%	66.7%	0.0%		
とてもそう 思う	0	0	1	0		0	0	0	0		
%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
育児負担あり	思わない	5	10	0	0		13	8	0	0	
	%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%		61.9%	38.1%	0.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	5	14	0	0		6	23	3	0	
	%	26.3%	73.7%	0.0%	0.0%	n. s.	18.8%	71.9%	9.4%	0.0%	***
	そう思う	1	2	1	1		0	1	3	0	
%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%		0.0%	25.0%	75.0%	0.0%		
とてもそう 思う	0	0	0	0		0	0	0	0		
%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
育てやすい	思わない	0	0	1	0		0	1	1	1	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	
	あまりそう 思わない	0	5	3	0		1	6	2	1	
	%	0.0%	62.5%	37.5%	0.0%	**	10.0%	60.0%	20.0%	10.0%	***
	そう思う	0	9	12	2		0	9	20	3	
%	0.0%	39.1%	52.2%	8.7%		0.0%	25.8%	64.5%	9.7%		
とてもそう 思う	0	0	2	4		0	0	7	5		
%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%		0.0%	0.0%	58.3%	41.7%		
子育てなければ 自由	思わない	6	3	1	0		6	7	1	0	
	%	60.0%	30.0%	10.0%	0.0%		42.9%	50.0%	7.1%	0.0%	
	あまりそう 思わない	5	11	3	0		3	20	4	1	
	%	26.3%	57.9%	15.8%	0.0%	***	10.7%	71.4%	14.3%	3.6%	***
	そう思う	1	1	6	2		1	3	7	2	
%	10.0%	10.0%	60.0%	20.0%		7.7%	23.1%	53.8%	15.4%		
とてもそう 思う	0	0	1	0		1	0	1	0		
%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%		50.0%	0.0%	50.0%	0.0%		
子育てで人生 充実	思わない	0	1	1	0		0	1	0	1	
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	
	あまりそう 思わない	0	0	0	0		0	0	3	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	*	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	14	5		0	2	22	5	
%	0.0%	9.5%	66.7%	23.8%		0.0%	6.9%	75.9%	17.2%		
とてもそう 思う	0	1	7	9		0	0	7	15		
%	0.0%	5.9%	41.2%	52.9%		0.0%	0.0%	31.8%	68.2%		
子育てで親も 成長	思わない	0	0	0	0		0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	0	1	0		0	1	1	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	n. s.	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	*
	そう思う	0	2	7	5		0	0	11	12	
%	0.0%	14.3%	50.0%	35.7%		0.0%	0.0%	47.8%	52.2%		
とてもそう 思う	0	1	9	15		0	0	9	22		
%	0.0%	4.0%	36.0%	60.0%		0.0%	0.0%	29.0%	71.0%		
子育ては楽しい	思わない	0	0	0	0		0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう 思わない	0	0	1	0		0	1	1	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	***	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	***
	そう思う	0	2	19	2		0	1	22	7	
%	0.0%	8.7%	82.6%	8.7%		0.0%	3.3%	73.3%	23.3%		
とてもそう 思う	0	0	8	8		0	0	8	16		
%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%		0.0%	0.0%	33.3%	66.7%		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.; not significant

4-7-3 世帯収入別にみた QOL の経年変化について

世帯収入別にみた QOL 5 項目の経年変化は表 3-27 の通りである。400 万円未満群ではすべての項目において、400 万円以上群では「ハリある生活を送っている」以外の項目において統計学上有意な関連を示した。

表 3-27 世帯収入別にみた QOL の経年変化

	2010年	2011年								
		400万円未満					400万円以上			
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う	Kendall τ検定	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう 思う
日々喜び充実感 あり	思わない	1	0	0	0		0	1	0	0
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	100.0%	0.0%	0.0%
	あまりそう 思わない	0	4	4	0		0	2	4	0
	%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%		0.0%	33.3%	66.7%	0.0%
	そう思う	0	2	12	2	***	0	1	18	6
%	0.0%	12.5%	75.0%	12.5%		0.0%	4.0%	72.0%	24.0%	
とてもそう 思う	0	0	6	9		0	2	9	14	
%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%		0.0%	8.0%	36.0%	56.0%	
うちこめるもの あり	思わない	1	2	0	0		1	0	1	0
	%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%		50.0%	0.0%	50.0%	0.0%
	あまりそう 思わない	2	8	5	0		1	9	7	2
	%	13.3%	53.3%	33.3%	0.0%		5.3%	47.4%	36.8%	10.5%
	そう思う	1	4	7	1	***	0	4	16	8
%	7.7%	30.8%	53.8%	7.7%		0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	
とてもそう 思う	0	0	5	4		0	1	4	3	
%	0.0%	0.0%	55.6%	44.4%		0.0%	12.5%	50.0%	37.5%	
ハリある生活	思わない	1	1	0	0		0	1	0	1
	%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%		0.0%	50.0%	0.0%	50.0%
	あまりそう 思わない	1	7	4	0		0	4	7	5
	%	8.3%	58.3%	33.3%	0.0%		0.0%	25.0%	43.8%	31.3%
	そう思う	1	7	8	3	**	0	4	17	6
%	5.3%	36.8%	42.1%	15.8%		0.0%	15.4%	61.5%	23.1%	
とてもそう 思う	0	2	4	1		0	0	7	5	
%	0.0%	28.6%	57.1%	14.3%		0.0%	0.0%	58.3%	41.7%	
生活に満足	思わない	1	0	0	1		0	1	1	1
	%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%		0.0%	33.3%	33.3%	33.3%
	あまりそう 思わない	0	6	2	0		2	1	3	1
	%	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%		28.6%	14.3%	42.9%	14.3%
	そう思う	1	5	10	4	**	0	1	24	4
%	5.0%	25.0%	50.0%	20.0%		0.0%	3.6%	82.1%	14.3%	
とてもそう 思う	0	1	5	4		0	0	5	13	
%	0.0%	10.0%	50.0%	40.0%		0.0%	0.0%	27.8%	72.2%	
健康である	思わない	0	0	0	0		0	0	1	0
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	0.0%	100.0%	0.0%
	あまりそう 思わない	0	2	2	1		0	6	1	0
	%	0.0%	40.0%	40.0%	20.0%		0.0%	85.7%	14.3%	0.0%
	そう思う	1	1	14	0	***	0	2	17	4
%	6.3%	6.3%	87.5%	0.0%		0.0%	8.7%	73.9%	17.4%	
とてもそう 思う	0	0	6	13		0	0	10	16	
%	0.0%	0.0%	31.6%	68.4%		0.0%	0.0%	38.5%	61.5%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

4-8 自己認識、子育て認識、QOL 項目と生活満足感との関連

4-8-1 2010 年自己認識、子育て認識、QOL 項目と 2010 年生活満足感との関連

2010 年の自己認識 7 項目、子育て認識 8 項目、QOL4 項目と 2010 年の生活満足感との関連を Kendall  $\tau$  検定で確認した。

2010 年自己認識 7 項目と 2010 年生活満足感との関連は、2010 年「自分は役立たずだ」、「自分をもっと尊敬したい」以外の項目との間に、2010 年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表 3-28）。

2010 年子育て認識 8 項目と 2010 年生活満足感との関連は、2010 年「育てやすい」以外の項目との間に、2010 年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表 3-29）。

2010 年生活満足感を除いた QOL4 項目と 2010 年生活満足感との関連は、すべての項目において、統計学上有意な関連を示した（表 3-30）。

表 3-28 2010 年自己認識と 2010 年生活満足感との関連

2010年	2010生活満足感				Kendall τ 検定	
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう思 う		
自分に満足	思わない	2	1	1	0	***
	%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	15	15	7	
	%	5.1%	38.5%	38.5%	17.9%	
	そう思う	2	3	35	20	
	%	3.3%	5.0%	58.3%	33.3%	
よいところ あり	思わない	3	3	1	0	***
	%	42.9%	42.9%	14.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	12	28	11	
	%	3.8%	22.6%	52.8%	20.8%	
	そう思う	1	5	23	17	
	%	2.2%	10.9%	47.8%	37.0%	
役立たずだ	思わない	2	2	3	4	n. s.
	%	18.2%	18.2%	27.3%	36.4%	
	あまりそう思わない	4	9	33	15	
	%	6.6%	14.8%	52.5%	24.6%	
	そう思う	0	8	15	12	
	%	0.0%	22.9%	42.9%	34.3%	
価値ある人間だ	思わない	1	0	1	0	*
	%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	9	4	4	
	%	10.5%	47.4%	21.1%	21.1%	
	そう思う	3	8	44	21	
	%	3.9%	10.5%	56.6%	27.6%	
尊敬したい	思わない	1	1	1	0	n. s.
	%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	3	18	15	
	%	2.7%	8.1%	48.6%	40.5%	
	そう思う	1	12	26	10	
	%	2.0%	24.5%	51.0%	20.4%	
うまくいかない	思わない	0	2	4	9	**
	%	0.0%	13.3%	26.7%	60.0%	
	あまりそう思わない	3	11	39	17	
	%	4.3%	15.7%	54.3%	24.3%	
	そう思う	2	6	8	5	
	%	9.5%	28.6%	38.1%	23.8%	
良い方に考える	思わない	4	4	3	2	***
	%	30.8%	30.8%	23.1%	15.4%	
	あまりそう思わない	1	13	25	8	
	%	2.1%	27.7%	53.2%	17.0%	
	そう思う	1	3	20	15	
	%	2.6%	7.7%	48.7%	38.5%	
	とてもそう思う	0	0	4	6	
	%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant



第三章 SOC とサポート認知、QOL との因果構造

表 3-29 2010 年子育て認識と 2010 年生活満足感との関連

	2010年	2010生活満足感				Kendall τ 検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう思 う	
育児自信なし	思わない	0	3	8	7	*
	%	0.0%	16.7%	38.9%	38.9%	
	あまりそう思わない	2	9	36	19	
	%	3.0%	13.6%	54.5%	28.8%	
	そう思う	3	8	6	4	
	%	15.0%	35.0%	30.0%	20.0%	
うまく育てている	思わない	1	1	2	1	***
	%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	
	あまりそう思わない	5	11	18	9	
	%	11.6%	25.6%	41.9%	20.9%	
	そう思う	0	8	32	20	
	%	0.0%	13.3%	51.7%	33.3%	
育児負担あり	思わない	1	6	16	18	**
	%	2.5%	15.0%	35.0%	45.0%	
	あまりそう思わない	2	13	30	12	
	%	3.5%	22.8%	52.6%	21.1%	
	そう思う	3	1	6	1	
	%	27.3%	9.1%	54.5%	9.1%	
育てやすい	思わない	2	0	1	1	n. s.
	%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	
	あまりそう思わない	0	8	7	4	
	%	0.0%	42.1%	36.8%	21.1%	
	そう思う	2	9	36	15	
	%	3.3%	14.8%	57.4%	24.6%	
子育てなければ自由	思わない	1	6	7	14	n. s.
	%	3.6%	21.4%	25.0%	50.0%	
	あまりそう思わない	2	8	33	9	
	%	3.8%	15.4%	61.5%	17.3%	
	そう思う	1	6	12	6	
	%	4.0%	24.0%	48.0%	24.0%	
子育てで人生充実	思わない	1	2	1	0	***
	%	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	1	1	1	
	%	40.0%	20.0%	20.0%	20.0%	
	そう思う	1	16	32	7	
	%	1.8%	28.6%	55.4%	12.5%	
子育てで親も成長	思わない	0	1	0	0	**
	%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	0	1	2	0	
	%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	
	そう思う	1	12	23	7	
	%	2.3%	27.9%	53.5%	16.3%	
子育ては楽しい	思わない	0	0	1	0	***
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	1	0	1	
	%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	
	そう思う	3	16	32	8	
	%	5.2%	25.9%	53.4%	13.8%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

表 3-30 2010 年 QOL (生活満足感を除く) と 2010 年生活満足感との関連

2010年	2010生活満足感				Kendall τ検定	
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とてもそう思 う		
日々喜び充実感 あり	思わない	1	0	1	0	
	%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	8	6	1	
	%	11.8%	47.1%	35.3%	5.9%	***
	そう思う	0	10	30	6	
	%	0.0%	21.7%	65.2%	13.0%	
うちこめるもの あり	思わない	2	2	1	1	
	%	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	
	あまりそう思わない	2	11	21	3	
	%	5.4%	29.7%	56.8%	8.1%	***
	そう思う	1	6	24	15	
	%	2.2%	13.0%	50.0%	32.6%	
ハリある生活	思わない	1	2	1	1	
	%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	
	あまりそう思わない	2	14	13	4	
	%	6.1%	42.4%	39.4%	12.1%	***
	そう思う	1	3	33	13	
	%	2.0%	6.1%	65.3%	26.5%	
健康である	思わない	0	0	0	1	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	あまりそう思わない	3	5	4	1	
	%	23.1%	38.5%	30.8%	7.7%	***
	そう思う	1	13	30	3	
	%	2.1%	27.7%	61.7%	6.4%	
	とてもそう思う	2	2	18	26	
	%	4.2%	4.2%	37.5%	54.2%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.; not significant

4-8-2 2010年自己認識、子育て認識、QOL項目と2011年生活満足感との関連

2010年の自己認識7項目、子育て認識8項目、QOL5項目と2011年の生活満足感との関連を Kendall  $\tau$  検定で確認した。

2010年自己認識7項目と2011年生活満足感との関連は、2010年「自分は役立たずだ」、「自分は価値ある人間だ」、「自分は何をやってもうまくいかない」以外の項目との間に、2011年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表3-31）。

2010年子育て認識8項目と2011年生活満足感との関連は、2010年「うまく育てている」、「育児負担あり」、「育てやすい」、「子育てがなければ自由」以外の項目との間に、2011年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表3-32）。

2010年QOL5項目と2011年生活満足感との関連には、すべての項目において、統計学上有意な関連を示した（表3-33）。

第三章 SOC とサポート認知、QOL との因果構造

表 3-31 2010 年自己認識と 2011 年生活満足感との関連

	2010年	2011生活満足感				Kendall τ 検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
自分に満足	思わない	1	1	1	1	**
	%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	
	あまりそう思わない	2	9	21	6	
	%	5.3%	23.7%	55.3%	15.8%	
	そう思う	2	7	29	21	
	%	3.4%	11.9%	49.2%	35.6%	
よいところ あり	思わない	2	2	3	0	*
	%	28.6%	28.6%	42.9%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	10	25	16	
	%	3.8%	18.9%	47.2%	30.2%	
	そう思う	1	6	24	13	
	%	2.3%	13.6%	54.5%	29.5%	
役立たずだ	思わない	2	1	5	3	n. s.
	%	18.2%	9.1%	45.5%	27.3%	
	あまりそう思わない	2	8	30	20	
	%	3.3%	13.3%	50.0%	33.3%	
	そう思う	1	8	17	8	
	%	2.9%	23.5%	50.0%	23.5%	
価値ある人間だ	思わない	1	0	1	0	n. s.
	%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	7	5	4	
	%	11.1%	38.9%	27.8%	22.2%	
	そう思う	1	9	42	23	
	%	1.3%	12.0%	56.0%	30.7%	
尊敬したい	思わない	0	1	1	1	**
	%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	
	あまりそう思わない	0	3	19	15	
	%	0.0%	8.1%	51.4%	40.5%	
	そう思う	1	9	27	10	
	%	2.1%	19.1%	57.4%	21.3%	
うまくいかない	思わない	0	2	5	8	n. s.
	%	0.0%	13.3%	33.3%	53.3%	
	あまりそう思わない	3	10	40	16	
	%	4.3%	14.5%	58.0%	23.2%	
	そう思う	2	5	6	7	
	%	10.0%	25.0%	30.0%	35.0%	
良い方に考える	思わない	2	5	4	2	***
	%	15.4%	38.5%	30.8%	15.4%	
	あまりそう思わない	3	8	29	7	
	%	6.4%	17.0%	61.7%	14.9%	
	そう思う	0	5	15	18	
	%	0.0%	13.2%	39.5%	47.4%	
	とてもそう思う	0	0	5	4	
	%	0.0%	0.0%	55.6%	44.4%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

第三章 SOC とサポート認知、QOL との因果構造

表 3-32 2010 年子育て認識と 2011 年生活満足感との関連

2010年	2011生活満足感				Kendall τ 検定	
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う		
育児自信なし	思わない	0	4	5	9	*
	%	0.0%	22.2%	27.8%	50.0%	
	あまりそう思わない	1	7	38	18	
	%	1.6%	10.9%	59.4%	28.1%	
	そう思う	3	7	8	3	
	%	15.0%	30.0%	40.0%	15.0%	
うまく育てている	思わない	0	0	3	2	n. s.
	%	0.0%	0.0%	60.0%	40.0%	
	あまりそう思わない	4	10	19	10	
	%	9.3%	23.3%	44.2%	23.3%	
	そう思う	1	8	31	18	
	%	1.7%	13.8%	53.4%	31.0%	
育児負担あり	思わない	0	9	13	17	n. s.
	%	0.0%	23.1%	33.3%	43.6%	
	あまりそう思わない	3	9	32	12	
	%	5.4%	16.1%	57.1%	21.4%	
	そう思う	2	0	7	2	
	%	18.2%	0.0%	63.6%	18.2%	
育てやすい	思わない	0	0	1	3	n. s.
	%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	
	あまりそう思わない	2	4	10	3	
	%	10.5%	21.1%	52.6%	15.8%	
	そう思う	1	11	36	14	
	%	1.6%	18.0%	57.4%	23.0%	
子育てなければ 自由	思わない	1	5	9	12	n. s.
	%	3.7%	18.5%	33.3%	44.4%	
	あまりそう思わない	1	10	28	13	
	%	1.9%	19.2%	53.8%	25.0%	
	そう思う	2	3	14	5	
	%	8.3%	12.5%	58.3%	20.8%	
子育てで人生 充実	思わない	1	1	1	1	**
	%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	
	あまりそう思わない	1	1	2	1	
	%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	
	そう思う	2	10	34	9	
	%	3.6%	18.2%	61.8%	16.4%	
子育てで親も 成長	思わない	0	0	1	0	*
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	0	1	2	0	
	%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	
	そう思う	2	9	24	7	
	%	4.8%	21.4%	57.1%	16.7%	
子育ては楽しい	思わない	0	0	1	0	***
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	0	1	1	
	%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	
	そう思う	2	14	35	7	
	%	3.5%	22.8%	61.4%	12.3%	
	とてもそう思う	1	4	16	23	
%	2.3%	9.1%	36.4%	52.3%		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

表 3-33 2010 年 QOL と 2011 年生活満足感との関連

2010年	2011生活満足感				Kendall τ 検定	
	思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う		
日々喜び充実感 あり	思わない	1	0	1	0	***
	%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	6	9	0	
	%	11.8%	35.3%	52.9%	0.0%	
	そう思う	1	7	29	8	
	%	2.2%	15.6%	64.4%	17.8%	
うちこめるもの あり	とてもそう思う	1	5	14	23	**
	%	2.3%	11.6%	32.6%	53.5%	
	思わない	1	3	2	0	
	%	16.7%	50.0%	33.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	8	20	7	
	%	5.4%	21.6%	54.1%	18.9%	
ハリある生活	そう思う	1	4	23	17	***
	%	2.2%	8.9%	51.1%	37.8%	
	とてもそう思う	1	3	8	7	
	%	5.3%	15.8%	42.1%	36.8%	
	思わない	1	2	1	1	
	%	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%	
生活満足	あまりそう思わない	2	6	18	6	***
	%	6.3%	18.8%	56.3%	18.8%	
	そう思う	1	6	26	17	
	%	2.0%	12.2%	51.0%	34.7%	
	とてもそう思う	1	4	8	7	
	%	5.0%	20.0%	40.0%	35.0%	
健康である	思わない	2	1	1	2	***
	%	33.3%	16.7%	16.7%	33.3%	
	あまりそう思わない	2	10	6	1	
	%	10.5%	52.6%	31.6%	5.3%	
	そう思う	1	6	36	9	
	%	2.0%	11.8%	68.6%	17.6%	
健康である	とてもそう思う	0	1	10	19	***
	%	0.0%	3.3%	33.3%	63.3%	
	思わない	0	0	1	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	3	2	7	1	
	%	23.1%	15.4%	53.8%	7.7%	
健康である	そう思う	2	10	30	5	***
	%	4.3%	21.3%	63.8%	10.6%	
	とてもそう思う	0	6	15	25	
	%	0.0%	13.0%	32.6%	54.3%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.; not significant

4-8-3 2011年自己認識、子育て認識、QOL項目と2011年生活満足感との関連

2011年の自己認識7項目、子育て認識8項目、QOL5項目と2011年の生活満足感との関連を Kendall  $\tau$  検定で確認した。

2011年自己認識7項目と2011年生活満足感との関連は、2010年「自分は役立たずだ」以外の項目との間に、2011年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表3-34）。

2011年子育て認識8項目と2011年生活満足感との関連は、2011年「子育てがなければ自由」以外の項目との間に、2011年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表3-35）。

2011年QOL5項目と2011年生活満足感との関連には、すべての項目において、統計学上有意な関連を示した（表3-36）。

第三章 SOC とサポート認知、QOL との因果構造

表 3-34 2011 年自己認識と 2011 年生活満足感との関連

	2011年	2011生活満足感				Kendall τ検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
自分に満足	思わない	1	1	1	0	***
	%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	3	11	11	5	
	%	10.0%	36.7%	36.7%	16.7%	
	そう思う	1	6	38	21	
	%	1.5%	9.1%	57.6%	31.8%	
よいところ あり	ととてもそう思う	0	0	6	5	*
	%	0.0%	0.0%	54.5%	45.5%	
	思わない	2	0	3	0	
	%	40.0%	0.0%	60.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	12	26	13	
	%	3.8%	22.6%	49.1%	24.5%	
役立たずだ	そう思う	1	6	27	17	n. s.
	%	2.0%	11.8%	52.9%	33.3%	
	ととてもそう思う	0	0	0	1	
	%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	思わない	0	1	4	2	
	%	0.0%	14.3%	57.1%	28.6%	
価値ある人間だ	あまりそう思わない	1	6	31	15	***
	%	1.9%	11.3%	58.5%	28.3%	
	そう思う	2	10	21	13	
	%	4.3%	21.7%	45.7%	28.3%	
	ととてもそう思う	2	1	0	1	
	%	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	
尊敬したい	思わない	2	0	0	0	*
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	6	10	3	
	%	5.0%	30.0%	50.0%	15.0%	
	そう思う	2	12	41	23	
	%	2.6%	15.4%	52.6%	29.5%	
うまくいかない	ととてもそう思う	0	0	5	5	***
	%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	
	思わない	0	2	4	6	
	%	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%	
	あまりそう思わない	3	6	44	22	
	%	4.0%	8.0%	58.7%	29.3%	
良い方に考える	そう思う	2	10	5	3	***
	%	10.0%	50.0%	25.0%	15.0%	
	ととてもそう思う	0	0	3	0	
	%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	
	思わない	3	4	3	1	
	%	27.3%	36.4%	27.3%	9.1%	
良い方に考える	あまりそう思わない	2	10	25	5	***
	%	4.8%	23.8%	59.5%	11.9%	
	そう思う	0	3	21	20	
	%	0.0%	6.8%	47.7%	45.5%	
	ととてもそう思う	0	1	7	5	
	%	0.0%	7.7%	53.8%	38.5%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant



表 3-35 2011 年子育て認識と 2011 年生活満足感との関連

	2011年	2011生活満足感				Kendall τ検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
育児自信なし	思わない	0	1	6	10	**
	%	0.0%	5.9%	35.3%	58.8%	
	あまりそう思わない	2	9	37	15	
	%	3.2%	14.3%	58.7%	23.8%	
	そう思う	1	8	12	6	
	%	3.7%	29.6%	44.4%	22.2%	
うまく育てている	思わない	2	0	1	0	**
	%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	13	32	11	
	%	3.4%	22.4%	55.2%	19.0%	
	そう思う	1	5	23	20	
	%	2.0%	10.2%	46.9%	40.8%	
育児負担あり	思わない	0	5	10	19	**
	%	0.0%	14.7%	29.4%	55.9%	
	あまりそう思わない	2	13	41	10	
	%	3.0%	19.7%	62.1%	15.2%	
	そう思う	1	0	5	2	
	%	12.5%	0.0%	62.5%	25.0%	
育てやすい	思わない	2	0	1	0	**
	%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	2	9	16	6	
	%	6.1%	27.3%	48.5%	18.2%	
	そう思う	0	8	34	15	
	%	0.0%	14.0%	59.6%	26.3%	
子育てなければ自由	思わない	2	5	7	13	n. s.
	%	7.4%	18.5%	25.9%	48.1%	
	あまりそう思わない	1	7	34	12	
	%	1.9%	13.0%	63.0%	22.2%	
	そう思う	1	4	13	6	
	%	4.2%	16.7%	54.2%	25.0%	
子育てで人生充実	思わない	1	0	0	0	***
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	3	5	0	
	%	11.1%	33.3%	55.6%	0.0%	
	そう思う	3	10	38	11	
	%	4.8%	16.1%	61.3%	17.7%	
子育てで親も成長	思わない	0	0	0	0	***
	%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	3	1	0	
	%	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	
	そう思う	2	9	32	2	
	%	4.4%	20.0%	71.1%	4.4%	
子育ては楽しい	思わない	1	0	0	0	***
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	0	3	0	
	%	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	
	そう思う	3	15	43	7	
	%	4.4%	22.1%	63.2%	10.3%	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.; not significant

表 3-36 2011 年 QOL と 2011 年生活満足感との関連

2011年		2011生活満足感				Kendall τ 検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
日々喜び充実感 あり	思わない	2	0	0	0	***
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	5	7	0	
	%	7.7%	38.5%	53.8%	0.0%	
	そう思う	2	10	39	9	
	%	3.3%	16.7%	65.0%	15.0%	
とてもそう思う	0	3	10	22		
%	0.0%	8.6%	28.6%	62.9%		
うちこめるもの あり	思わない	3	1	2	0	***
	%	50.0%	16.7%	33.3%	0.0%	
	あまりそう思わない	0	10	20	3	
	%	0.0%	30.3%	60.6%	9.1%	
	そう思う	1	6	30	13	
	%	2.0%	12.0%	60.0%	26.0%	
とてもそう思う	1	1	4	15		
%	4.8%	4.8%	19.0%	71.4%		
ハリある生活	思わない	3	0	1	0	***
	%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	1	13	16	0	
	%	3.3%	43.3%	53.3%	0.0%	
	そう思う	1	5	33	13	
	%	1.9%	9.6%	63.5%	25.0%	
とてもそう思う	0	0	6	18		
%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%		
健康である	思わない	1	0	0	0	***
	%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	あまりそう思わない	3	2	7	0	
	%	25.0%	16.7%	58.3%	0.0%	
	そう思う	0	14	41	4	
	%	0.0%	23.7%	69.5%	6.8%	
とてもそう思う	1	2	8	27		
%	2.6%	5.3%	21.1%	71.1%		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.; not significant

4-9 サポート認知得点、SOC 得点と生活満足感との関連

2010年パートナーおよび親族のサポート認知得点と2010年生活満足感とは統計学上有意な関連を示した。2010年のパートナーのサポート認知得点は2011年生活満足感とも統計学上有意な関連を示した。2011年のパートナー、親族、近隣や友人のサポート認知得点はいずれも2011年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した。

2010年のSOC得点は2010年、2011年の生活満足感と統計学上有意に関連し、さらに2011年のSOC得点は2011年の生活満足感とも統計学上有意な関連を示した（表3-37）。

表3-37 サポート認知得点、SOC得点と生活満足感との関連

			2010 生活満足感	2011 生活満足感
			p 値	
サポート 認知得点	2010年	パートナー	***	***
		親族	***	n. s.
		近隣や友人	n. s.	n. s.
	2011年	パートナー		***
		親族		***
		近隣や友人		*
SOC得点	2010年		***	***
	2011年			***

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

4-10 社会経済的要因と生活満足感との関連

2010年の社会経済的要因のうち、世帯収入、学歴は2010年の生活満足感、2011年の生活満足感と統計学上有意に関連していた（表3-38、3-39）。

2011年の社会経済的要因のうち、世帯収入、学歴は2011年の生活満足感と統計学上有意な関連を示した（表3-40）。

表 3-38 2010 年社会経済的要因と 2010 年生活満足感との関連

		2010 生活満足感				$\chi^2$ 検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
仕事の有無	あり	3	6	19	16	n. s.
	%	6.8%	13.6%	43.2%	36.4%	
	なし	3	14	33	15	n. s.
	%	4.6%	21.5%	49.2%	23.1%	
世帯収入	400万円未満	3	11	16	7	*
	%	8.1%	29.7%	43.2%	18.9%	
	400万円以上	3	8	31	23	*
	%	4.6%	12.3%	46.2%	35.4%	
学歴	中高卒	4	11	21	8	*
	%	9.1%	25.0%	47.7%	18.2%	
	専門以上卒	2	9	30	23	*
	%	3.1%	14.1%	45.3%	35.9%	

\*p<0.05 n. s. ; not significant

表 3-39 2010 年社会経済的要因と 2011 年生活満足感との関連

		2011 生活満足感				$\chi^2$ 検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
仕事の有無	あり	2	7	23	14	n. s.
	%	4.3%	15.2%	50.0%	30.4%	
	なし	3	11	33	17	n. s.
	%	4.7%	17.2%	51.6%	26.6%	
世帯収入	400万円未満	2	11	16	8	*
	%	5.4%	29.7%	43.2%	21.6%	
	400万円以上	3	7	35	22	*
	%	4.5%	10.4%	52.2%	32.8%	
学歴	中高卒	2	10	24	8	*
	%	4.5%	22.7%	54.5%	18.2%	
	専門以上卒	3	8	31	23	*
	%	4.6%	12.3%	47.7%	35.4%	

\*p<0.05 n. s. ; not significant

表 3-40 2011 年社会経済的要因と 2011 年生活満足感との関連

		2011 生活満足感				$\chi^2$ 検定
		思わない	あまりそう 思わない	そう思う	とても そう思う	
仕事の有無	あり	3	9	23	18	n. s.
	%	5.7%	17.0%	43.4%	34.0%	
	なし	2	9	33	13	n. s.
	%	3.5%	15.8%	57.9%	22.8%	
世帯収入	400万円未満	2	12	19	9	*
	%	4.8%	28.6%	45.2%	21.4%	
	400万円以上	2	3	34	19	*
	%	3.4%	5.2%	58.6%	32.8%	
学歴	中高卒	2	10	22	7	*
	%	4.9%	24.4%	53.7%	17.1%	
	専門以上卒	3	8	31	24	*
	%	4.5%	12.1%	47.0%	36.4%	

\*p<0.05 n. s. ; not significant

#### 4-11 SOCとサポート認知との因果構造

##### 4-11-1 SOCとサポート認知との因果構造モデル

まず各尺度の信頼係数を求めた。2010年（6ヶ月時）のサポート認知の信頼係数は0.931、SOC尺度は0.872、2011年（1歳6ヶ月時）のサポート認知は0.933、SOC尺度は0.843で、いずれも0.70以上の値であり、高い内的整合性が確認できた。

その後、仮説モデルに基づいて得られた適合度の高い因果構造モデルは図3-1の通りである。

両モデルの妥当性について、適合度指標により検討した。その結果、交差遅れ効果モデルはRMSEA=0.067、CFI=0.967、TLI=0.949、同時効果モデルはRMSEA=0.065、CFI=0.968、TLI=0.951であった。両モデルともCFI、TLIの値は0.9以上であり、RMSEAはほぼ適合度がよいと判断される0.070以下であり、適合度の高いモデルであることが示された。



4-11-2 SOCとサポート認知の経年変化

因果構造モデルから得られた『SOC』と『サポート』の経年変化のパス係数は表3-6の通りである。同時効果モデル、交差遅れ効果モデルともに、『2010年（6ヶ月時）サポート』、『2010年（6ヶ月時）SOC』の2つの潜在変数は、『2011年（1歳6ヶ月）サポート』、『2011年（1歳6ヶ月）SOC』のそれぞれの潜在変数と統計学上有意な関連がみられた。

交差遅れ効果モデルから、『2010年（6ヶ月時）SOC』は『2011年（1歳6ヶ月）サポート』に対して $\beta = 0.326$  ( $p < 0.05$ )であり統計学上有意な因果関係がみられたが、『2010年（6ヶ月時）サポート』は『2011年（1歳6ヶ月時）SOC』に対して、標準化推定値が $\beta = 0.057$ であり統計学上有意な関係ではなかった。同時効果モデルから、『2011年（1歳6ヶ月時）SOC』は『2011年（1歳6ヶ月時）サポート』に対して、標準化推定値が $\beta = 0.419$  ( $p < 0.05$ )であり統計学上有意な因果関係が見られたが、『2011年（1歳6ヶ月）サポート』は『2011年（1歳6ヶ月時）SOC』に対して標準化推定値が $\beta = -0.037$ であり、統計学上有意な関係ではなかった（表3-41）。

Finkel が示した因果構造が検証できるとされる交差遅れ効果モデル、同時効果モデルの2つのモデルから、SOCがサポートを有意に規定する因果構造が示された。この点が本研究の新規性である。

表3-41 交差遅れ効果・同時効果モデルの標準化推定値

交差遅れ効果モデル				
			$\beta$	p値
2010サポート	→	2011サポート	0.433	p=0.007
2010SOC	→	2011SOC	0.667	p<0.001
2010サポート	→	2011SOC	0.057	p=0.646
2010SOC	→	2011サポート	0.326	p=0.015
同時効果モデル				
			$\beta$	p値
2010サポート	→	2011サポート	0.447	p=0.002
2010SOC	→	2011SOC	0.721	p<0.001
2011サポート	→	2011SOC	-0.037	p=0.844
2011SOC	→	2011サポート	0.419	p=0.008



4-12 SOC とサポート認知、自己認識との因果構造

4-12-1 潜在変数の設定

子育て認識項目、自己認識項目の計 15 項目を用い、因子分析を行った結果、第 1 因子「子育ては楽しい」「子育ては負担だ」の 2 項目、第 2 因子「価値ある人間だ」「よいところあり」「自分に満足」の 3 項目の 2 因子が抽出された (表 3-42)。

因子分析の結果を参考に、「子育ては楽しい」「子育ては負担だ」からなる『子育て認識』、「自分に満足」「よいところあり」「価値ある人間だ」からなる『自己認識』、「パートナーからのサポート」「親族からのサポート」「近隣友人からのサポート」からなる『サポート認知』、「Comprehensibility」「Manageability」「Meaningfulness」からなる『SOC』の 4 つの潜在変数を設定した (「」は観測変数、『』は潜在変数を示す)。それぞれの Cronbach の  $\alpha$  係数は、0.674、0.687、0.555、0.825 であった。

表 3-42 探索的因子分析結果

	因子	
	1	2
子育て楽しい	.978	-.043
子育て負担あり	.474	.088
価値ある人間だ	-.022	.756
よいところあり	.117	.625
自分に満足	-.021	.559
累積%	30.99	52.04
cronbachの $\alpha$ 係数	.674	.687

因子抽出法：最尤法 回転法：kaiserの正規化を伴うプロマックス法

4-12-2 因果構造モデルの探索

4つの潜在変数を用いて、共分散構造分析を行い、最適モデルを探索した。その結果、図3-3に示すモデルが得られた。

本モデルの内生潜在変数『サポート認知』の決定係数は0.84、適合度は、RMSEA=0.042、CFI=0.982、NFI=0.902、TLI=0.973であった。CFI、NFI、TLIの値は0.9以上であり、RMSEAは0.050以下であり、妥当性の高いモデルであることが示された。

6ヶ月時の『SOC』を基盤とし、1歳6ヶ月時の『子育て認識』、『自己認識』、『サポート認知』への標準化直接効果はそれぞれ0.54、0.78、0.03であり、『6ヶ月SOC』から『1歳6ヶ月子育て認識』『1歳6ヶ月自己認識』への標準化直接効果は統計学上有意であったが、『1歳6ヶ月サポート認知』への標準化直接効果は有意ではなかった。『6ヶ月SOC』から『1歳6ヶ月サポート認知』への標準化間接効果は、『1歳6ヶ月子育て認識』、『1歳6ヶ月自己認識』を経由した場合、それぞれ0.29、0.40であり、『6ヶ月SOC』から『1歳6ヶ月サポート認知』への標準化総合効果は0.73であった。

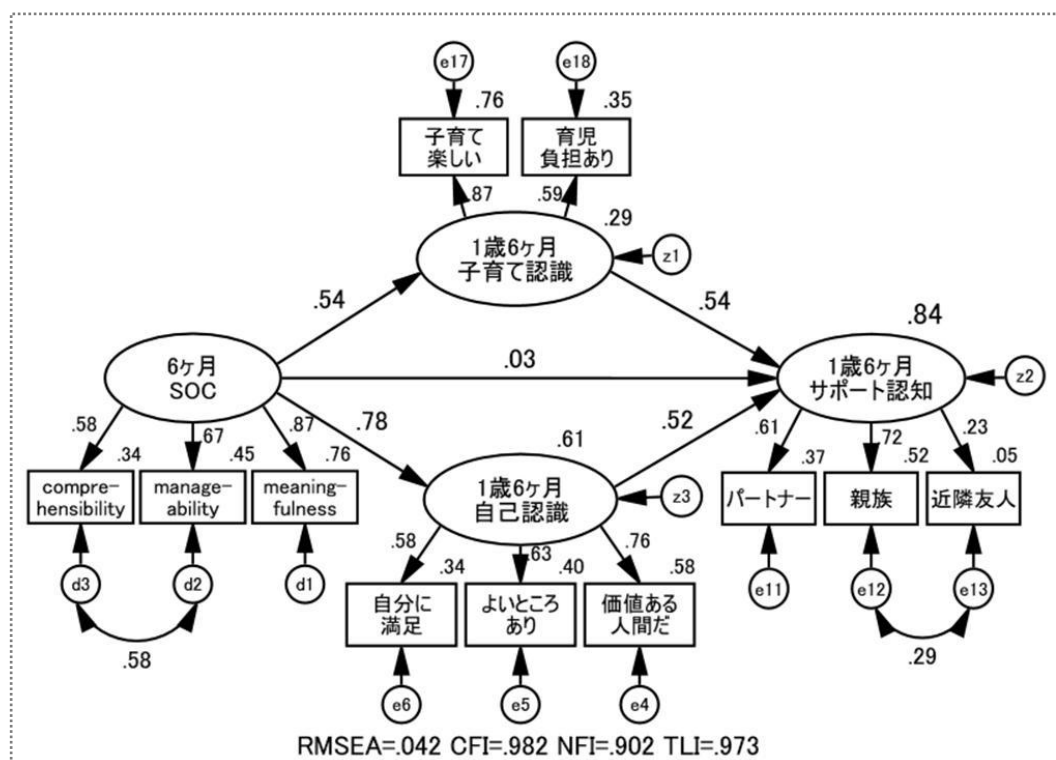


図 3-3 SOC、サポート認知と自己・子育て認識との因果構造モデル

#### 4-12-3 多母集団同時分析の結果

先行研究から、SOC と関連すると考えられる世帯の年間収入、母親の学歴、母親の年齢、母親の就労の有無、子どもの順位別に、得られた結果モデルを用いて多母集団同時分析を行った。その結果、世帯収入（400 万円未満群と 400 万円以上群）において、統計学上有意な差が見られた。

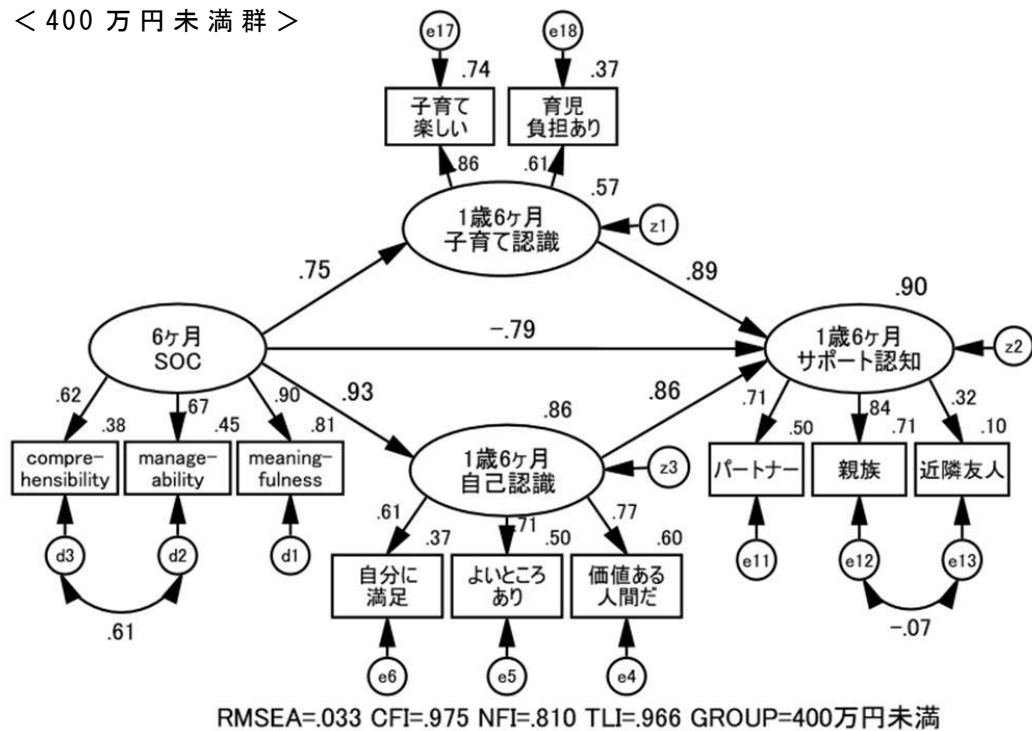
世帯収入(400 万円未満群と 400 万円以上群)において、『6 ヶ月 SOC』から『1 歳 6 ヶ月子育て認識』への標準化直接効果は 400 万円未満群 0.75、400 万円以上群 0.35 であり、400 万円未満群が 400 万円以上群より有意に高かった。さらに、統計学上有意な差はなかったが、『6 ヶ月 SOC』から『1 歳 6 ヶ月サポート認知』への標準化直接効果は、400 万円以上群 0.02 であったのに対し、400 万円未満群 -0.79 と 400 万円以上群が 400 万円未満群よりも高かった。400 万円未満の場合、『6 ヶ月 SOC』は『1 歳 6 ヶ月サポート認知』を抑制する方向で関連することが示された。

また、母親の学歴別（中高卒群と専門学校以上卒群）で比較すると、統計学上有意差はなかったものの、『6 ヶ月 SOC』から『1 歳 6 ヶ月サポート認知』への標準化直接効果は、中高卒群 -0.44 であったのに対し、専門学校以上卒群 0.24 であり、中高卒群よりも専門学校以上卒群の方が高かった。中高卒の場合、『6 ヶ月 SOC』が『1 歳 6 ヶ月サポート認知』を抑制する方向で関連し、専門学校以上卒の場合は『6 ヶ月 SOC』が『1 歳 6 ヶ月サポート認知』を促進する方向で関連することが示された。

さらに、母親の年齢別（第 1 回調査時の中央値で分けた高群と低群）で比較すると、統計学上有意な差は見られなかったものの、『6 ヶ月 SOC』から『1 歳 6 ヶ月子育て認識』への標準化直接効果は低群（31 歳以下群）0.473、高群（32 歳以上群）0.689 であり、高群の方が高かった（図 3-4~3-6、表 3-43~3-45）。

さらに母親の就労の有無別、子どもの順位別（1 人目群、2 人目以上群）では決定係数が 1.0 を超えたため、モデルとして成立しなかった。

< 400 万円未満群 >



< 400 万円以上群 >

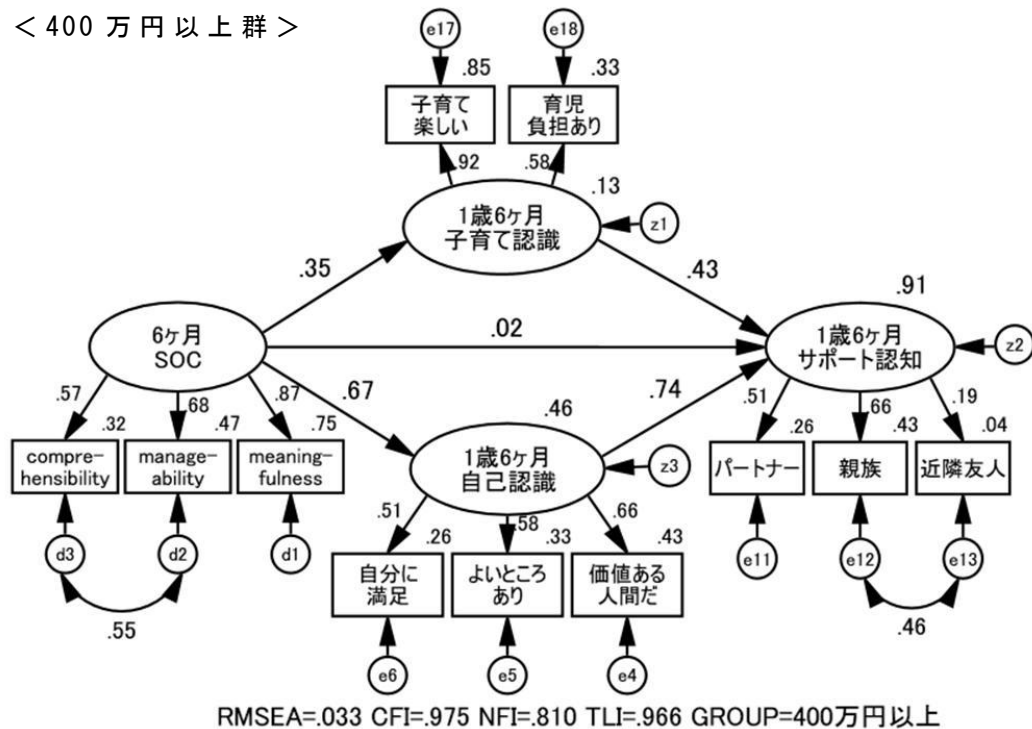


図 3-4 年収 2 群による多母集団同時分析結果  
(上 ; 400 万円未満群、下 ; 400 万円以上群)

第Ⅲ章 SOC とサポート認知、QOL との因果構造

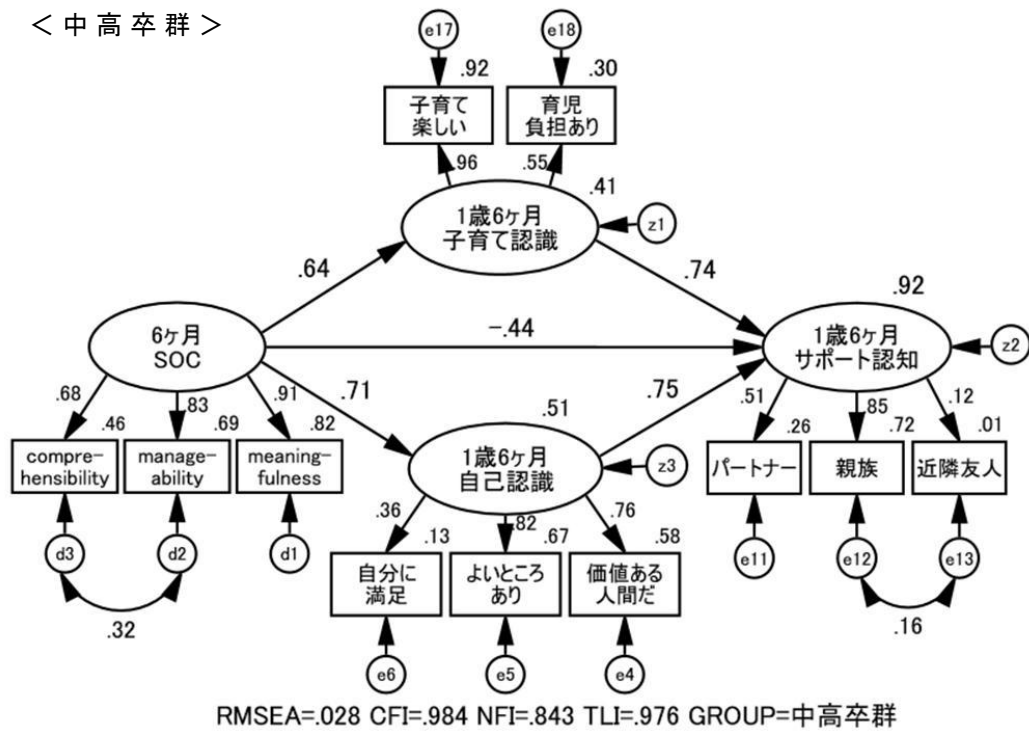
表 3-43 標準化直接・間接・総合効果（年収別モデル）

			年収		対比較
			400万円未満	400万円以上	
[標準化直接効果]	SOC	→ 子育て認知	0.753	0.355	*
	SOC	→ 自己認知	0.928	0.675	n. s.
	SOC	→ サポート認知	-0.793	0.002	n. s.
[標準化間接効果]	SOC	→ 子育て認知 → サポート認知	0.672	0.152	—
	SOC	→ 自己認知 → サポート認知	0.794	0.498	—
[標準化総合効果]	SOC	→ → → サポート認知	0.673	0.651	—

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

※子育て：子育て認知 自己：自己認知 サポート：サポート認知

< 中高卒群 >



< 専門以上卒群 >

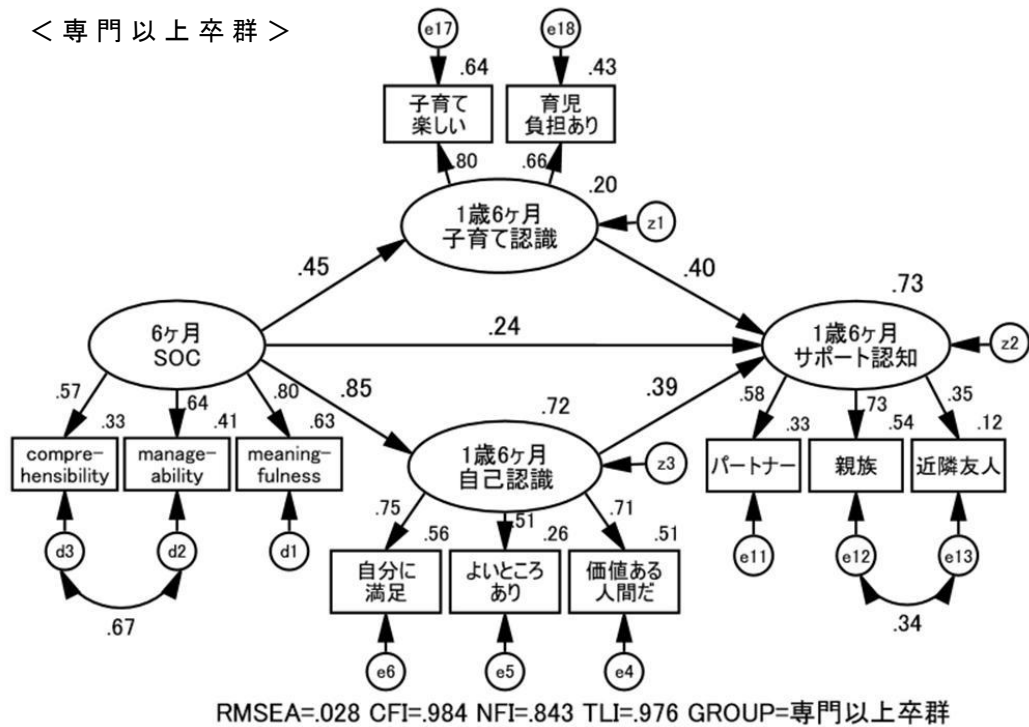


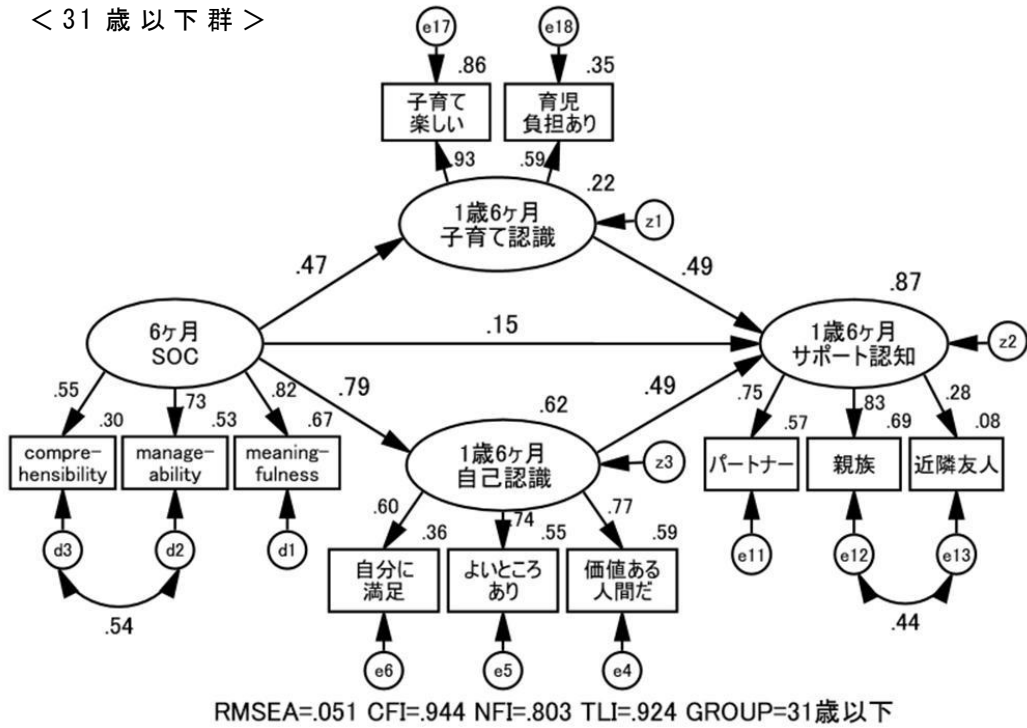
図 3-5 最終学歴 2 群による多母集団同時分析結果  
(上 ; 中高卒群、下 ; 専門以上卒群)

表 3-44 標準化直接・間接・総合効果（母親の学歴別モデル）

				母親の学歴		一対比較
				中高卒	専門以上卒	
[標準化直接効果]	SOC	→	子育て認識	0.643	0.451	n. s.
	SOC	→	自己認識	0.714	0.848	n. s.
	SOC	→	サポート認知	-0.442	0.235	n. s.
[標準化間接効果]	SOC	→	子育て認識 → サポート認知	0.474	0.181	—
	SOC	→	自己認識 → サポート認知	0.537	0.331	—
[標準化総合効果]	SOC	→	→ → サポート認知	0.570	0.747	—

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.; not significant  
 ※子育て：子育て認識 自己：自己認識 サポート：サポート認知

< 31 歳以下群 >



< 32 歳以上群 >

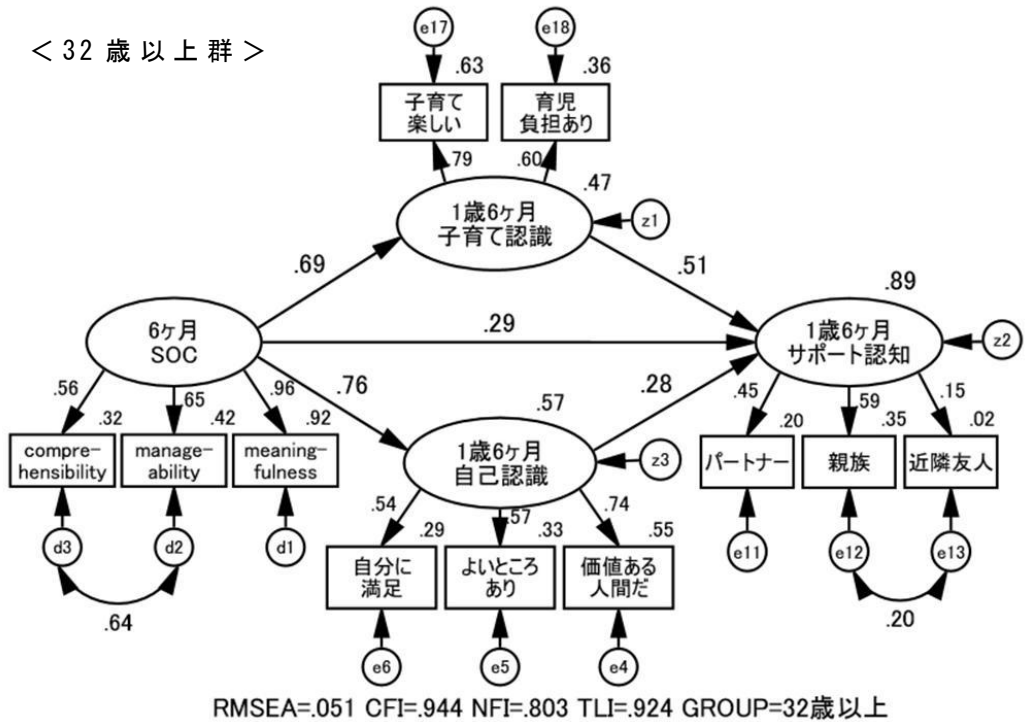


図 3-6 母親の年齢 2 群による多母集団同時分析結果  
(上 ; 31 歳以下群、下 ; 32 歳以上群)



表 3-45 標準化直接・間接・総合効果（母親の年齢別モデル）

				母親の年齢		一対比較
				31歳以下	32歳以上	
[標準化直接効果]	SOC	→	子育て認識	0.473	0.689	n. s.
	SOC	→	自己認識	0.757	0.756	n. s.
	SOC	→	サポート認知	0.146	0.289	n. s.
[標準化間接効果]	SOC	→	子育て認識 → サポート認知	0.233	0.349	—
	SOC	→	自己認識 → サポート認知	0.389	0.212	—
[標準化総合効果]	SOC	→	→ → サポート認知	0.622	0.561	—

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant  
 ※子育て：子育て認識 自己：自己認識 サポート：サポート認知

#### 4-13 SOCとサポート認知、自己認識、QOLとの因果構造

##### 4-13-1 潜在変数の設定

4-11-3で得られたモデルの内生潜在変数として、「生活に満足」「ハリある生活」「喜び充実感あり」の3項目からなる『1歳6ヶ月(2011年)QOL』を追加し、『6ヶ月(2010年)SOC』『1歳6ヶ月(2011年)自己認識』『1歳6ヶ月(2011年)子育て認識』『1歳6ヶ月(2011年)サポート認知』の5つの潜在変数を設定した。

##### 4-13-2 因果構造モデルの探索

5つの潜在変数を用いて、共分散構造分析を行い、最適モデルを探索した。その結果、図3-7に示すモデルが得られた。本モデルの内生潜在変数『2011QOL』の決定係数は0.97、適合度は、RMSEA=0.035、CFI=0.986、NFI=0.897、TLI=0.980であり、ほぼ妥当性の高いモデルであることが示された。

##### 4-13-3 多母集団同時分析の結果

本モデルを用いた母親の年齢、学歴、就労の有無、世帯収入による多母集団同時分析を行った結果、いずれも決定係数が1.0を超えたため、モデルとして成立しなかった。モデルが成立しなかった要因の一つに、分析に耐えうるだけの母数が不足していたことが考えられる。

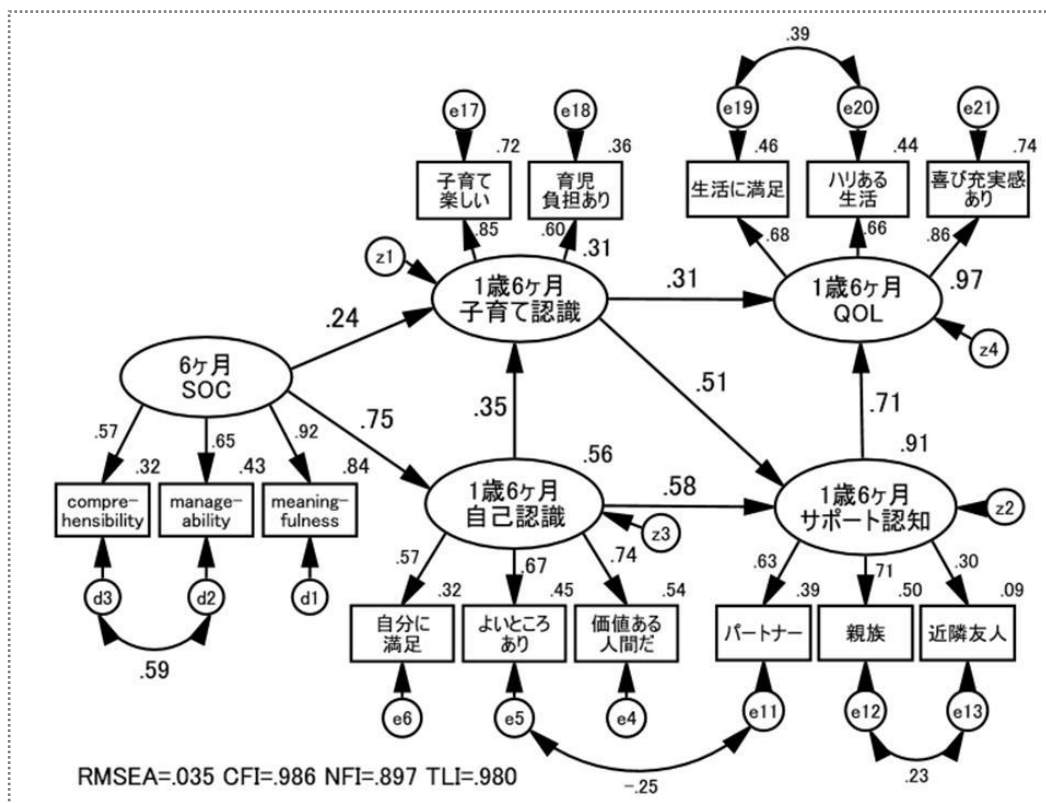


図 3-7 SOC と QOL 因果構造モデル

4-14 本研究のまとめ

本研究では以下の点が明らかとなった。

- 1) SOC とサポート認知との因果は、SOC が基盤となることが明らかとなった。
- 2) SOC を含んだ QOL 関連構造は、SOC が基盤となり、1年後の自己及び子育て認知、サポート認知を経由して間接的に QOL に関連する因果構造が明らかとなった。
- 3) SOC とサポート認知、自己認識との因果構造においては、世帯収入による差異が示された。

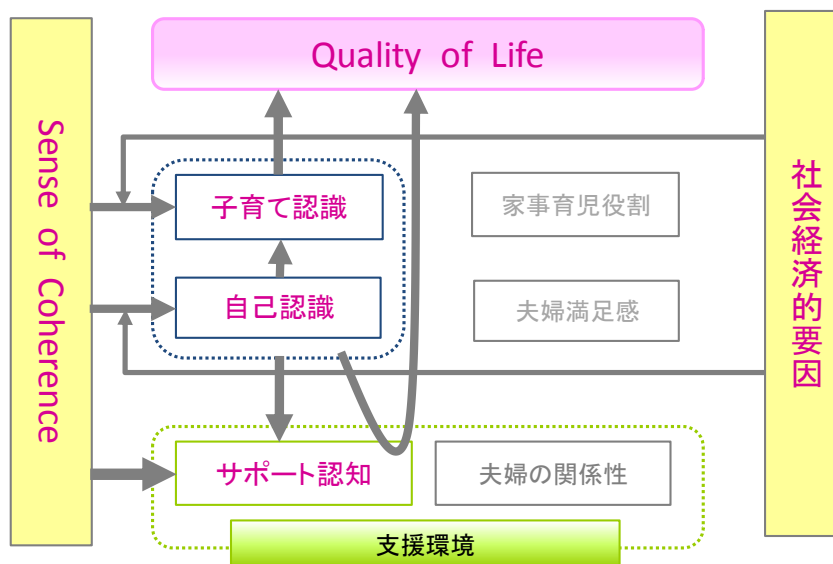


図 3-8 第Ⅲ章結果図

## 5 考察

考察では5-1 SOCとサポート認知との因果構造について、5-2 SOCとサポート認知、自己や子育て認識、QOLとの因果構造について、5-3 今後の研究課題について述べる。

### 5-1 SOCとサポート認知との因果構造について

交差遅れ効果モデル、同時効果モデルともに、6ヶ月時のサポート認知は1年後のサポート認知に、6ヶ月時のSOCは1年後のSOCと統計学上有意な関連が見られたことから、6ヶ月時におけるサポート認知とSOCは1年後の同一変数を有意に予測することができ、いずれも1年後の予測妥当性が高いことが示唆された。

また、交差遅れ効果モデル、同時効果モデルいずれも、SOCがサポート認知に対して有意な因果関係を示し、高いSOCはサポート認知を高める方向に影響する因果関係が存在する可能性が示唆された。SOCと自己効力感などの他の自己概念との大きな違いは、他者への信頼・依存であり、SOCの下位概念の一つであるmanageabilityは上手に他者を活用することや頼ることができる力である。すなわちSOCには周囲のサポートをうまく活用できるという認識が含まれており、本研究結果はmanageabilityの概念を含んだ高いSOCがサポート認知を高めることを示唆したと言える。

健康生成論を発表したAntonovsky<sup>5)</sup>は、ソーシャルサポートはSOCを高める方向に影響するという仮説を報告していた。また、小学生を対象とした朴峠ら<sup>10)</sup>の研究では、ソーシャルサポートとSOCとの間に双方向に因果関係がみられたことが報告されていた。本研究結果はAntonovskyの仮説や先行研究結果と異なり、高いSOCがその後のサポート認知を高める方向に影響する因果構造があるという結果が示された。追試による今後の再現性が求められる。

また、サポート認知は個人の認知する実態に焦点を当てるため、実際には存在しているサポート認知を十分に認知していない可能性もある。ソーシャルサポートは子育て支援に有効であることはすでに多くの先行研究で報告されている<sup>27,35~36)</sup>が、有効な支援として機能するためにはソーシャルサポートを認知する能力が不可欠になる。本研究結果に基づくと、SOCを高めることでその後のソーシャルサポートの認知に影響する因果が存在する可能性が示唆されたことから、SOCを高く維持できることは子育て支援において有効であると考えられる。しかしながらその因果構造の本質は介入研究により明

確にしなくてはならない。

## 5-2 SOC とサポート認知、自己や子育て認識、QOL との因果構造について

サポートは子育て支援に有効であることはすでに多くの先行研究で報告されている<sup>27,35~36)</sup>が、有効な支援として機能するためにはサポートを認知する能力が不可欠であり、実際に受けているサポート量ではなく、サポートを受けていると母親が認知しているか否かが重要である。サポートを認知するためには、周囲のサポート環境だけでなく、母親自身の認知能力も影響すると考えられる。SOC はストレスに対処する際、サポートをうまく活用する力である<sup>3)</sup>。SOC とサポート認知の交差遅れ効果モデルおよび同時効果モデルから、高い SOC がサポート認知を高めることが示されたが、SOC とサポート認知との関連は直接的ではなく、子育て認識や自己認識を経由した間接的に関連していることが構造的に明らかとなった。この研究結果から、乳幼児を育てる母親にとって、SOC は直接サポートを活用する方向に影響するのではなく、高い SOC が 1 年後の母親の子育て認識や自己認識を高める方向に影響することで、サポートを有効に活用する力になっていることが示唆された。そしてサポートを上手に認知できることが QOL を高める方向に影響することが示唆された。特に、「自分に満足」「よいところあり」「価値ある人間だ」といった自己肯定感と言い換えることができる自己認識を経由したサポート認知への標準化間接効果は 0.404 と高く、SOC とサポート認知には自己認識が関連している可能性が示唆された。山中<sup>38)</sup>は、育児自己効力感と育児ストレスの関連を検討した結果、母親自身の行動に自信をもたせ、その行動を支援するような働きかけの重要性を報告している。本研究結果からも自己肯定感を高める働きかけの有効性が示唆され、先行研究を支持した。

また、子育て認識を「子育ては楽しい」「育児をすることが負担に感じられない」と肯定的に捉えることもサポート認知を高める方向に影響する可能性が示され、育児不安や育児ストレス軽減に焦点を当ててではなく、子育てを楽しむことができるような支援が子育て支援に有効である可能性が示唆された。

また、SOC とサポート認知、自己や子育て認識の関連構造モデルから、母親の学歴や世帯収入がモデルに影響を与える可能性が示さ

れた。母親の学歴や世帯収入が高いほど SOC からサポート認知への標準化直接効果は大きく、社会経済的要因は SOC がサポート認知を高めることに影響している可能性が示唆された。SOC の高低には学歴や経済状況が関連することが明らかとなっている。穴井ら<sup>17)</sup>が介入を行った調査においても、SOC の変化に影響を与えた要因として学歴が示された。また、金<sup>37)</sup>は、高学歴の母親は母親であることと個人としての生き方の狭間で葛藤していることを報告し、母親への支援を検討する際には、母親の個人としての多様な生き方への視点が有効であるとしている。本研究結果も同様の結果であり先行研究を支持し、支援をする際、母親の学歴や収入などの社会経済的要因を考慮する必要性が示唆された。また、先行研究は、高い社会経済的要因（高学歴、高収入）を持つ人に焦点を当てて、論述されているものが多いが、本研究結果からは、低い社会経済的要因（低収入、低学歴）の人に対しても、その傾向を踏まえた支援を検討する必要性が示唆された。特に、低い社会経済的要因の人にとっては、SOC が高いほど、サポート認知を抑制する関連が示されたことは、換言すれば、自身で何とかできるという認識が高いため、サポート認知が抑制されているとも考えられる。また、SOC が高いほど、子育てをポジティブに捉える傾向にあるのも特徴である。一人でがんばりすぎず、しかし子育ては楽しいと思えるような生活を継続できるような支援が求められているのかもしれない。

### 5-3 今後の研究課題

本研究は追跡率 41%と低く、内的妥当性を高めることが研究課題である。さらに本研究はある地方都市 1 か所の調査結果であり、対象地域を無差別に抽出したものではないことから、調査結果の外的妥当性を高めることも今後の研究課題である。

また、多くの先行研究で、SOC が QOL や心身の健康と関連している結果を踏まえ、SOC を高める方策の必要性が言及されている。本研究結果からも、サポート認知を高めるには SOC を強化することの必要性が示唆されたが、SOC を強化するための有効な介入方法を検討し、その介入効果を実証していくことが今後の課題であると考えられる。

さらに本研究で得られた QOL 因果構造モデルは、母親の年齢や子どもとの順位、学歴、収入などの多母集団同時分析は収束しなかつ

たが、子育て経験を含めた現在や過去のさまざまな経験や社会経済的要因は SOC に影響する可能性があることは報告されている<sup>5)</sup>。宮川<sup>34)</sup> は多母集団同時分析のためには、分析対象者は 1 グループ 50 人以上が必要であると述べている。今回のモデルが収束しなかった理由の一つに分析対象者の少なさが考えられる。よって調査対象地区や調査対象者をさらに増やし、社会経済的要因が乳幼児の子どもを育てる母親の SOC に与える影響について追究していくことも今後の研究課題である。



参考文献（第Ⅲ章）

- 1) WHO. Bangkok Chapter. 2005.
- 2) 藤内修二. 育児支援ネットワークの構築に向けて－ヘルスプロモーションを推進する立場から. 小児保健研究 2004 ; 63(2) : 114-117.
- 3) Antonovsky A. Unraveling the mystery of health: How people manage stress and stay well. Jossey-Bass Publishers. 1987. 山崎喜比古監訳. 健康の謎を解く : ストレス対処と健康保持のメカニズム. 東京 : 有信堂. 2001.
- 4) 小田博志. サリユートジェネシスと心身医学. 心身医学 1999 ; 39(7) : 507-513.
- 5) 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 坂野純子. ストレス対処能力 SOC. 東京 : 有信堂. 2008.
- 6) Urakawa K., Yokoyama K. Individual Susceptibility to Occupational Hazard Sense of Coherence (SOC) may Reduce the Effects of Occupational Stress on Mental Health Status among Japanese Factory Workers. Industrial Health 2009; 47(5): 503-508.
- 7) 小林裕美, 乗越千枝. 訪問看護師のストレスに関する研究－訪問看護に伴う負担と精神健康状態 (GHQ) および首尾一貫感覚 (SOC) との関連について. 日本赤十字九州国際看護大学 Intramural Research Report 2005 ; 4 : 128-140.
- 8) Tomotsune Y., Hatashi M., Usami K., et al. 日本の学研都市の労働者における首尾一貫感覚とストレス対処プロフィールとの関連. Industrial Health 2009 ; 47(6) : 664-672.
- 9) Wolff AC., Rather PA. Stress, social support, and sense of coherence. West J Nurs Res 1999; 21(2): 182-197.
- 10) 朴峠周子, 武田文, 戸ヶ里泰典, 他. 小学校高学年における首尾一貫感覚 (Sense of Coherence; SOC) の変化およびソーシャルサポートとの因果関係 1年間の縦断調査から. 日本公衆衛生雑誌 2011 ; 58(11) : 967-977.
- 11) Manor Binyamini I. Mother of children with developmental disorders in the Bedouin community in Israel: family functioning, caregiver burden, and coping abilities. J Autism DevDisord 2011; 41(5): 610-617.

- 12) PozoCabanillas P., SarriaAanchez E., Mendez Zaballos L. Stress in mothers of individuals with autistic spectrum disorders. *Psicothema* 2006; 18(3): 342-347.
- 13) Hintermair M. Sense of coherence: a relevant resource in the coping process of mothers of deaf and hard-of-hearing children?. *J Deaf Stud Deaf Educ.* 2004; 9(1): 15-26.
- 14) Sjöström H., LangiusEklöfA., Hjärtberg R. Well-being and sense of coherence during pregnancy. *Actaobstet Gynecol Scand* 2004; 83(12):1112-1118.
- 15) Hildingsson I., Tingvall M., Rubertsson C. Partner support in the childbearing period—a follow up study. *Women Birth* 2008; 21(4):141-148.
- 16) 松下年子, 原田美智, 大浦ゆう子. SOC とマタニティブルーズ. *日本保健科学学会誌* 2007; 10(1): 5-14.
- 17) 穴井千鶴, 園田直子, 津田彰. 「自分の生き方」をテーマにした育児期女性への心理的支援—Sense of Coherence からのアプローチ—. *久留米大学心理学研究* 2006; 5: 29-40.
- 18) 牧山布美. しょうがい児を育てる親の QOL の経年的変化. *川崎医療福祉学会誌* 2011; 21(1): 41-51.
- 19) 金岡緑, 藤田大輔. 乳幼児をもつ母親の特性的自己効力感及びソーシャルサポートと育児に対する否定的感情の関連性. *厚生* の指標 2002; 49(6): 22-30.
- 20) 荒牧美佐子. 育児への否定的・肯定的感情とソーシャルサポートとの関連—ひとり親・ふたり親の比較から—. *小児保健研究* 2005; 64(6): 737-744.
- 21) 戸ヶ里泰典, 山崎喜比古. ストレス対処能力 SOC の社会階層間格差の検討—20~40歳の若年層を対象とした全国サンプル調査から—. *社会医学研究* 2009; 26(2): 45-52.
- 22) 田中小百合, 柘本妙子, 堀井節子, 他. 地域住民の健康保持能力 (SOC) の強化に関する縦断的検討. *日本看護研究学会雑誌* 2010; 33(5): 75-82.
- 23) 高山智子, 浅野祐子, 山崎喜比古, 他. ストレスフルな生活出来事が首尾一貫感覚 (Sense of Coherence) と精神健康に及ぼす影響. *日本公衆衛生雑誌* 1999; 46(11): 965-977.
- 24) Lagerberg D., Magnusson M., Sundelin C. Child health and

- maternal stress: does neighbourhood status matter? *Int J Adolesc Med Health*. 2011; 23(1): 19-25.
- 25) Koeske G.F., Koeske R.D. The buffering effect of social support on parental stress, *American Journal of Orthopsychiatry* 1990; 60(3): 440-451.
- 26) Mathiesen K.S., Tambs K., Dalgard O.S. The influence of social class, strain and social support on symptoms of anxiety and depression in mothers of toddlers. *Social Psychiatry and Psychiatric Epidemiology* 1999; 34(2): 61-72.
- 27) 荒牧美佐子, 無藤隆. 育児への負担感・不安感・肯定感とその関連要因の違いー未就学児を持つ母親を対象に. *発達心理学研究* 19(2) pp.87-97.2008.
- 28) Benesse 教育研究開発センター. 第3回子育て生活基本調査報告書幼児版. 東京. 2008; 92-112.
- 29) 目良秋子, 柏木恵子. 育児期女性の生活・家族感情ー学歴と就労との関連からー. *発達研究* 2005; 19: 113-124.
- 30) 山村文. 幼児を持つ母親の生活満足感とソーシャルサポートの関連性について. *帝京大学心理学紀要* 2005; 9: 73-92.
- 31) 宗像恒次. 行動科学からみた健康と病気. 東京: メヂカルフレンド社. 1996.
- 32) Finkel S E. *Causal analysis with panel data*. California. Sage Publications. 1995.
- 33) 豊田秀樹. 共分散構造分析[事例編]ー構造方程式モデリングー. 京都: 北大路書房. 1998; 83-90.
- 34) 宮川雅己. 因果分析への応用 グラフィカルモデリング. 東京: 朝倉書房. 1997; 121-143.
- 35) 中嶋和夫, 桑田寛子, 林仁実, 他. 父親の育児サポートに関する母親の認知. *厚生指標* 2000; 47(15): 11-18.
- 36) 山中淑子. 未就学児をもつ母親の育児ストレスを軽減させる支援策の検討ー母親の育児効力感とソーシャルサポートに着目してー. *心理学叢誌創刊号* 2008: 57-65.
- 37) 金娟鏡. 就業形態、学歴と子育て観が母親役割行動に及ぼす影響ー幼児の母親を対象にした日韓比較ー. *家庭教育研究所紀要* 2007; 29: 29-37.

# 第IV章

---

夫婦の関係性、父親の家事育児役割と  
Quality of Life との関連構造

## 1 研究の背景

平成9年、共働き世帯数が専業主婦世帯数を上回って以来、その数は増加の一途をたどっている<sup>1)</sup>。このことは女性の社会参加が増加し、「男性は仕事、女性は家庭」という性別役割意識の変更を余儀なくされ、男性が家事育児役割を担う必要性が高まっていると言える。

内閣府も「イクメンプロジェクト」を立ち上げ、男性の積極的な育児参加を促している。しかし育児休業を希望する男性は30%以上である<sup>2)</sup>のに対し、その取得率は2011年2.6%と希望と実態がかけ離れているのが現状である<sup>3)</sup>。また、未就学児をもつ父親の51.6%が仕事と育児を重視したいと思っているとの報告がある<sup>4)</sup>一方で、2010年の調査によると6歳未満児のいる男性の家事育児時間は一日当たり約1時間と、諸外国と比較し極端に短い<sup>5)</sup>。よって、男性が家事育児役割を担うには、育児休業を取得しやすくしたり、育児時間を確保できるような企業や社会の理解の促進という環境整備が必要不可欠であることが考察される。

また、平成11年に制定された男女共同参画社会基本法に示されている男女共同参画社会とは、仕事と家庭のバランス、すなわちワークライフバランスの実現の先にひとりひとりの豊かな人生をめざすものとされている<sup>6)</sup>。これを乳幼児期の父親に当てはめて考えると、企業や社会の環境整備だけでなく、家事や育児への参加が父親自身の生きがいや充実感、生活満足感といったQuality of life（以下、QOL）の向上につながるような支援が求められているといえるだろう。しかしながら、父親のQOLの関連要因に関する先行研究は十分ではなく、父親の育児参加がQOLとどのように関連しているのかも明らかではない。

父親の育児参加に関する研究は、父親の育児参加を規定する要因に関する報告と、父親の育児参加が母親の育児ストレスや子どもの成長発達、夫婦関係という家族構成員や家族の関係性に影響を与えるとする報告に大別できる。前者の父親の育児参加を規定する要因として、父親自身の役割観、母親からの積極的な働き掛け、仕事と家庭の多重役割の捉え方が報告されている<sup>7~9)</sup>。後者の父親の育児参加が家族に与える影響については、子どもへの影響、母親への影響、そして夫婦関係への影響がある。子どもへの影響については、Aldous<sup>10)</sup>らが父親とポジティブな関わりをもつ男児の問題行動は

少ないことを報告し、加藤ら<sup>11)</sup>は育児をする父親の子どもは情緒的・社会的発達が良いことを報告している。このように国内外で、父親の育児参加は子どもへポジティブな影響を与えていることが明らかとなっている。また、母親への影響として、細野<sup>12)</sup>は父親による母親へのサポートは母親の育児ストレス軽減につながることを報告し、小林<sup>13)</sup>は父親のサポートが多いほど母親の抑うつ得点が低いことを報告し、さらに荒牧<sup>14)</sup>は父親のサポートを多く受けている母親は育児への肯定的感情が高いことを報告しており、父親の育児参加は、母親の精神的健康に良い影響を与えていることが明らかとなっている。一方、父親の実際のサポートよりも父親の育児参加を母親自身がどのように受け止めているか、そのギャップの大きさが母親の精神的健康に重要であるとする報告もある<sup>15)</sup>。父親の育児参加と夫婦関係については、父親の育児参加が母親の夫婦満足度と有意に関連する<sup>16)</sup>という報告と、父親の育児参加は母親の夫婦満足度と有意な関連を示さない<sup>17)</sup>という相反する報告があるが、父親の育児参加と夫婦関係との関連については、父親の家事育児参加だけでなく、母親の期待水準とのズレの程度を考慮することの有用性も示されており<sup>18)</sup>、母親の期待度や認識を含めて分析する必要があると言える。また、父親の育児参加は夫婦関係を良好にし、そのことが子どもの成長発達を促すこと<sup>19)</sup>や、夫婦関係と幼児の不安定さが関連すること<sup>20)</sup>も報告されており、間接的に子どもの成長発達に影響することが明らかとなっている。

このように、父親の育児参加は子どもや母親、夫婦関係に影響を与えることが明らかになっているが、先行研究の調査の回答者は母親であることが多く、父親自身の回答によるものは少ない。さらに、父親自身については親性の発達という視点以外に、QOLなどのポジティブな視点を含んだ報告は少ない。諸外国においてはChenら<sup>21)</sup>により育児とQOLは正の関連があることが報告されているが、その他の多くはガンなどの病気や障害をもつ子どもの親を対象としたものであり、健常児の親を対象とした研究はほとんど報告されていない。さらに国内では父親の育児参加が家族への貢献感を経て健康QOLを高める可能性を示した朴ら<sup>22)</sup>による報告のみである。

このように父親の育児参加とQOLとの関連の先行研究は十分ではなく、さらに、夫婦関係を含めた構造的な関連は明らかになっていない。また、父親の家事育児役割と母親のQOLとの関連に関する

先行研究はいずれも単相関の報告のみで、父親の家事育児役割が母親のQOLに与える影響について構造的には明らかになっていない。

父親の家事育児参加と夫婦の関係性を含んだ父親および母親のQOLの関連構造が明らかになることは、父親および母親を支援する上で求められる科学的なエビデンスが明らかになることであり、その意義は高いと言える。

2 研究の目的

本研究は乳幼児を育てる父親および母親の QOL と関連する要因について、その関連要因を構造的に明らかにすることを目的とする。

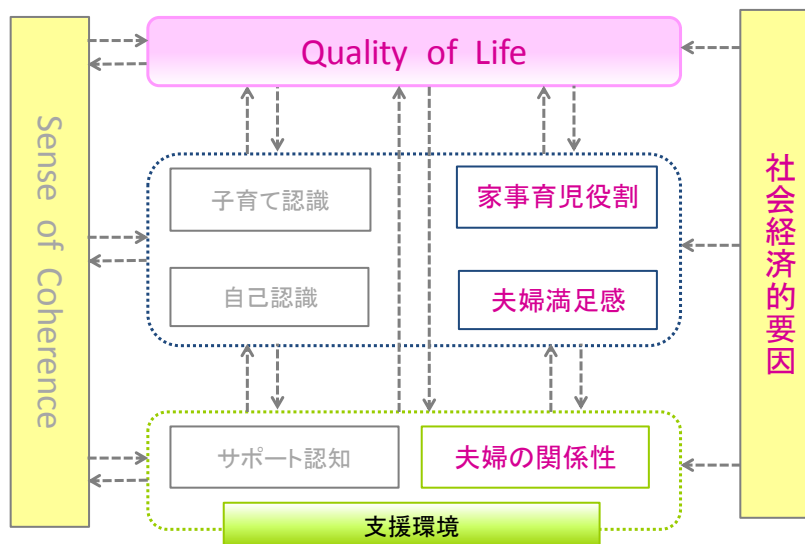


図 4-1 第IV章仮説モデル  
(赤字部分が本章で明らかにする点)



### 3 研究方法

#### 3-1 調査対象

日本家族社会学会が実施した第3回全国家族調査(以下、NFRJ08)対象 9,400 人(回収 5,203 人、回収率 55.4%)のうち、28~47歳の若年調査の対象者 2,209 人とした。

#### 3-2 調査方法と調査時期

訪問留置き法により自記式質問紙調査を行った。調査時期は 2009 年 1~2 月である。

#### 3-3 分析対象

NFRJ08 の若年調査 2,209 人のうち、0~5 歳の子どもを育てる男性 290 人および女性 332 人を分析対象とした。

#### 3-4 調査項目

分析に用いた項目は、先行研究を参考に、属性(性別、仕事の有無・内容、年収、学歴)、夫婦の会話量(平日+休日の時間)・夫婦の関係性・夫婦の満足度、家事育児役割、主観的健康感、生活満足感、心と体の状態(「毎日が楽しい」)である。夫婦の満足度は「子育てに対する配偶者の取り組み方[以下、満足 1]」「家事に対する配偶者の取り組み方[満足 2]」「夫婦関係全体[満足 3]」の 3 項目 4 件法、夫婦の関係性は「配偶者は私の心配事や悩み事を聞いてくれる[関係性 1]」「配偶者は私の能力や努力を高く評価してくれる[関係性 2]」「配偶者は私に助言やアドバイスをしてくれる[関係性 3]」の 3 項目 4 件法、夫婦の会話量(平日+休日)、家事育児役割は「食事の用意[家事 1]」「食事の後片付け[家事 2]」「食料品や日用品の買い物[家事 3]」「洗濯[家事 4]」「掃除[家事 5]」「子どもと遊ぶ[育児 1]」「子どもの身の回りの世話[育児 2]」の 7 項目 5 件法である。本分析では QOL 項目として「生活に満足している[生活満足度]」(4 件法)、「(心と体の状態) この 1 週間のうち毎日が楽しいと感じたこと[毎日が楽しい]」(4 件法)、「健康である[健康状態]」(5 件法)の 3 項目を用いた(表 4-1)。

表 4-1 調査項目

	質問項目	回答
夫婦の関係性	【関係性1】心配事や悩みを聞いてくれる 【関係性2】能力や努力を高く評価してくれる 【関係性3】助言やアドバイスをしてくれる	あてはまる～ あてはまらない (4件法)
夫婦の会話量	平日の時間(時間) 休日の時間(時間)	
夫婦満足度	【夫婦満足1】子育てに対するパートナーの取り組み方 【夫婦満足2】家事に対するパートナーの取り組み方 【夫婦満足3】夫婦関係全体について	かなり満足～ かなり不満 (4件法)
家事育児役割	【家事1】食事の準備 【家事2】食事の後片付け 【家事3】食料品、日用品の買い物 【家事4】洗濯 【家事5】掃除 【育児1】子どもと遊ぶ 【育児2】子どもの身の回りの世話	ほぼ毎日～ ほとんど行わない (5件法)
生活満足感		かなり満足～ かなり不満 (4件法)
主観的健康感		たいへん良好～ 大変悪い (4件法)
体と心の状態	毎日が楽しい	全くなかった～ ほとんど毎日 (4件法)

### 3-5 分析方法

生活満足感、夫婦の満足度、関係性、会話量、家事育児役割の項目を用いて、生活満足感とそれぞれの項目との関連について Kendall  $\tau$  検定を行い、確認した。その後、探索的因子分析を行い、「父親および母親の生活満足感は父親の家事育児役割、夫婦の関係性、夫婦の満足度と構造的に似た関連がみられる」と仮説を立て、共分散構造分析を行った。社会経済的要因による差異は、多母集団同時分析を行った。各尺度の信頼性は、cronbach  $\alpha$  係数を用いた。

分析には、SPSSver.19.0、Amos19.0を用いた。

4 結果

4-1 分析対象者の属性

4-1-1 父親の属性

分析対象者の父親の平均年齢は35.6歳（SD4.4）であった。子どもの人数は1人が82人（28.3%）、2人が152人（52.4%）、3人以上が56人（19.3%）であった。最終学歴は中学校・高等学校115人（39.7%）、専門学校58人（20.0%）、大学以上が110人（37.9%）であり、年収は300万円以下が37人（12.8%）、300～600万円以下が162人（55.9%）、600万円以上が87人（30.0%）であった。配偶者の就業がある人は123人（42.4%）、配偶者の就業がない人は162人（55.9%）であった（表4-2）。

表4-2 父親の属性 (n=290)

		人数	%
年齢	平均35.6 (SD4.4)歳 range28-47歳		
子どもの人	1人	82	28.3
	2人	152	52.4
	3人	46	15.9
	4人	10	3.4
	5人	0	0.0
	6人	0	0.0
最終学歴	中学校/高等学校	115	39.7
	専門学校/短大	58	20.0
	大学以上	110	37.9
	無回答	7	2.4
就業の有無	就いている	280	96.6
	休職中	2	0.7
	就いていない	4	1.4
	無回答	4	1.4
就業形態	常時雇用	243	83.8
	臨時雇用	13	4.5
	自営業	29	10.0
	非該当	4	1.4
	無回答	1	0.3
年収	300万円以下	37	12.8
	300～400万円以下	48	16.6
	400～500万円以下	64	22.1
	500～600万円以下	50	17.2
	600～800万円以下	57	19.7
	800万円以上	30	10.3
	無回答	4	1.4
配偶者の有無	配偶者あり	286	98.6
	配偶者なし	4	1.4

4-1-2 母親の属性

母親の平均年齢は34.0歳（SD4.3）であった。子どもの人数は1人が116人（34.9%）、2人が134人（40.4%）、3人が69人（20.8%）、4人が11人（3.3%）、5人が1人（0.3%）、6人が1人（0.3%）であった。最終学歴は中学校・高等学校121人（36.4%）、専門学校・短大147人（44.3%）、大学以上63人（19.0%）であった。就業の有無は、就労ありが150人（45.2%）、休職中が15人（4.5%）、就労なしが166人（50.0%）であった。年収は収入なしが128人（38.6%）、129万円以下が116人（34.9%）、130～200万円以下が22人（6.6%）、200～300万円以下が21人（6.3%）、300～400万円以下が19人（5.7%）、400万円以上が20人（6.0%）であった。配偶者の有無は、配偶者ありが323人（97.3%）、配偶者なしが9人（2.7%）であった。（表4-3）。

表4-3 母親の属性 (n=332)

年齢	平均34.0 (SD4.3)歳	人数 %	
		range23-46歳	
1人		116	34.9
2人		134	40.4
3人		69	20.8
4人		11	3.3
5人		1	0.3
6人		1	0.3
最終学歴	中学校/高等学校	121	36.4
	専門学校/短大	147	44.3
	大学以上	63	19.0
	無回答	1	0.3
就業の有無	就いている	150	45.2
	休職中	15	4.5
	就いていない	166	50.0
	無回答	1	0.3
就業形態	常時雇用	58	17.5
	臨時雇用	90	27.1
	自営業	17	5.1
	非該当	166	50.0
	無回答	1	0.3
年収	収入なし	128	38.6
	129万円以下	116	34.9
	130～200万円以下	22	6.6
	200～300万円以下	21	6.3
	300～400万円以下	19	5.7
	400万円以上	20	6.0
	無回答	6	1.8
配偶者の有無	配偶者あり	323	97.3
	配偶者なし	9	2.7

4-2 夫婦の関係性および満足度について

4-2-1 父親の回答

1) 配偶者との会話時間

配偶者との平日の会話時間は、1時間未満が173人(59.7%)、1～2時間未満が76人(26.2%)、2時間以上が37人(12.8%)であり、休日の会話時間は1時間未満が83人(28.6%)、1～2時間未満が75人(25.9%)、2時間以上が127人(43.8%)であった(表4-4)。

表4-4 配偶者との会話時間(父親)

		人数	(%)
平日	0分	6	(2.1)
	30分未満	91	(31.4)
	31分～1時間未満	76	(26.2)
	1～2時間未満	76	(26.2)
	2時間以上	37	(12.8)
	非該当	4	(1.4)
休日	0分	2	(0.7)
	30分未満	32	(11.0)
	31分～1時間未満	49	(16.9)
	1～2時間未満	75	(25.9)
	2時間以上	127	(43.8)
	非該当	5	(1.7)

2) 夫婦の関係性について

夫婦の関係性については、「配偶者は私の心配事や悩み事を聞いてくれる」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人は 244 人 (84.1%)、「配偶者は私の能力や努力を評価してくれる」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人は 229 人 (78.9%)、「配偶者は私に助言やアドバイスをくれる」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人は 231 人 (79.7%) であった (表 4-5)。

表 4-5 夫婦の関係性 (父親)

		人数	(%)
配偶者は、わたしの心配ごとや悩みごとを聞いてくれる	あてはまる	121	(41.7)
	どちらかといえばあてはまる	123	(42.4)
	どちらかといえばあてはまらない	30	(10.3)
	あてはまらない	12	(4.1)
	非該当/無回答	4	(1.4)
配偶者は、わたしの能力や努力を高く評価してくれる	あてはまる	79	(27.2)
	どちらかといえばあてはまる	150	(51.7)
	どちらかといえばあてはまらない	40	(13.9)
	あてはまらない	17	(5.9)
	非該当/無回答	4	(1.4)
配偶者は、わたしに助言やアドバイスをしてくれる	あてはまる	91	(31.4)
	どちらかといえばあてはまる	140	(48.3)
	どちらかといえばあてはまらない	41	(14.1)
	あてはまらない	14	(4.8)
	非該当/無回答	4	(1.4)

3) 夫婦の満足度について

夫婦の満足度については、「子育てに対する配偶者の取り組み方」について、「かなり満足」「どちらかといえば満足」していると回答した人は270人(93.1%)であった。「家事に対する配偶者の取り組み方」について、「かなり満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は253人(87.3%)であった。「夫婦関係全体」について「かなり満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は258人(88.9%)であった(表4-6)

表4-6 夫婦の満足度(父親)

		人数	(%)
子育てに対する、配偶者の取り組み方について	かなり満足	132	(45.5)
	どちらかといえば満足	138	(47.6)
	どちらかといえば不満	10	(3.4)
	かなり不満	3	(1.0)
	非該当/無回答	7	(2.4)
家事に対する、配偶者の取り組み方について	かなり満足	129	(44.5)
	どちらかといえば満足	124	(42.8)
	どちらかといえば不満	23	(7.9)
	かなり不満	7	(2.4)
	非該当/無回答	7	(2.4)
夫婦関係全体について	かなり満足	101	(34.8)
	どちらかといえば満足	157	(54.1)
	どちらかといえば不満	17	(5.9)
	かなり不満	5	(1.7)
	非該当/無回答	10	(3.4)

4-2-2 母親の回答

1) 配偶者との会話時間

配偶者との平日の会話時間は、1時間未満が243人(75.6%)、1～2時間未満が74人(12.9%)、2時間以上が46人(13.8%)であった。休日の会話時間は1時間未満が143人(29.2%)、1～2時間未満が80人(24.1%)、2時間以上が145人(10.8%)であった(表4-7)。

表 4-7 配偶者との会話時間 (母親)

		人数	(%)
平日	0分	15	(4.5)
	30分未満	102	(30.7)
	31分～1時間未満	86	(40.4)
	1～2時間未満	74	(12.9)
	2時間以上	46	(13.8)
	非該当	9	(2.7)
休日	0分	2	(0.6)
	30分未満	33	(9.9)
	31分～1時間未満	108	(18.7)
	1～2時間未満	80	(24.1)
	2時間以上	145	(10.8)
	非該当	10	(3.0)



2) 夫婦の関係性について

夫婦の関係性については、「配偶者は私の心配事や悩み事を聞いてくれる」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人は 263 人 (79.3%)、「配偶者は私の能力や努力を評価してくれる」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人は 221 人 (66.6%)、「配偶者は私に助言やアドバイスをくれる」に「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した人は 239 人 (72.0%) であった (表 4-8)。

表 4-8 夫婦の関係性 (母親)

		人数	(%)
配偶者は、わたしの心配ごとや悩みごとを聞いてくれる	あてはまる	126	(38.0)
	どちらかといえばあてはまる	137	(41.3)
	どちらかといえばあてはまらない	40	(12.0)
	あてはまらない	20	(6.0)
	非該当/無回答	9	(2.7)
配偶者は、わたしの能力や努力を高く評価してくれる	あてはまる	76	(22.9)
	どちらかといえばあてはまる	145	(43.7)
	どちらかといえばあてはまらない	75	(22.6)
	あてはまらない	26	(7.8)
	非該当/無回答	10	(3.0)
配偶者は、わたしに助言やアドバイスをしてくれる	あてはまる	101	(30.4)
	どちらかといえばあてはまる	138	(41.6)
	どちらかといえばあてはまらない	62	(18.7)
	あてはまらない	21	(6.3)
	非該当/無回答	10	(3.0)

3) 夫婦の満足度について

夫婦の満足度については、「子育てに対する配偶者の取り組み方」について、「かなり満足」「どちらかといえば満足」していると回答した人は230人(69.3%)であった。「家事に対する配偶者の取り組み方」について、「かなり満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は179人(53.9%)であった。「夫婦関係全体」について「かなり満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は248人(74.7%)であった(表4-9)

表4-9 夫婦の満足度(母親)

		人数	(%)
子育てに対する、配偶者の取り組み方について	かなり満足	74	(22.3)
	どちらかといえば満足	156	(47.0)
	どちらかといえば不満	67	(20.2)
	かなり不満	25	(7.5)
	非該当/無回答	10	(3.0)
家事に対する、配偶者の取り組み方について	かなり満足	40	(12.0)
	どちらかといえば満足	139	(41.9)
	どちらかといえば不満	108	(32.5)
	かなり不満	35	(10.5)
	非該当/無回答	10	(3.0)
夫婦関係全体について	かなり満足	66	(19.9)
	どちらかといえば満足	182	(54.8)
	どちらかといえば不満	53	(16.0)
	かなり不満	19	(5.7)
	非該当/無回答	12	(3.6)

### 4-3 QOL3項目について

#### 4-3-1 父親の回答

生活満足感として、「生活に満足しているか」と尋ね、「かなり満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は238人(82.0%)であった。

主観的健康感として「健康であると思うか」と尋ね、「大変良好」「まあ良好」と回答した人は213人(73.4%)、「どちらともいえない」は50人(17.2%)、「やや悪い」「たいへん悪い」は27人(9.3%)であった。

こころとからだの状態として、「この1週間、毎日が楽しいと思ったか」と尋ねた。「ほとんど毎日」「週に3~4日」と回答した人は124人(42.8%)であり、「週に1~2日」は106人(36.6%)、「全くなかった」は60人(20.7%)であった(表4-10)。

表4-10 QOL項目得点分布(父親)

		人数	(%)
生活満足感	かなり満足	50	(17.2)
	どちらかといえば満足	188	(64.8)
	どちらかといえば不満	43	(14.8)
	かなり不満	9	(3.1)
主観的健康感	たいへん良好	54	(18.6)
	まあ良好	159	(54.8)
	どちらともいえない	50	(17.2)
	やや悪い	23	(7.9)
	たいへん悪い	4	(1.4)
体と心の状態	まったくなかった	60	(20.7)
毎日が楽しいと感じたこと	週に1~2回	106	(36.6)
	週に3~4回	80	(27.6)
	ほとんど毎日	44	(15.2)

4-3-2 母親の回答

生活満足感として、「生活に満足しているか」と尋ね、「かなり満足」「どちらかといえば満足」と回答した人は255人(76.8%)であった。

主観的健康感として「健康であると思うか」と尋ね、「大変良好」「まあ良好」と回答した人は256人(77.1%)、「どちらともいえない」は46人(13.9%)、「やや悪い」「たいへん悪い」は30人(9.0%)であった。

こころとからだの状態として、「この1週間、毎日が楽しいと思ったか」と尋ねた。「ほとんど毎日」「週に3~4日」と回答した人は187人(56.3%)であり、「週に1~2日」は92人(27.7%)、「全くなかった」は49人(14.8%)であった(表4-11)。

表4-11 QOL項目得点分布(母親)

		人数	(%)
生活満足感	かなり満足	52	(15.7)
	どちらかといえば満足	203	(61.1)
	どちらかといえば不満	66	(19.9)
	かなり不満	10	(3.0)
	無回答	1	(0.3)
主観的健康感	たいへん良好	55	(16.6)
	まあ良好	201	(60.5)
	どちらともいえない	46	(13.9)
	やや悪い	28	(8.4)
	たいへん悪い	2	(0.6)
体と心の状態 毎日が楽しいと感じたこと	まったくなかった	49	(14.8)
	週に1~2回	92	(27.7)
	週に3~4回	106	(31.9)
	ほとんど毎日	81	(24.4)
	無回答	4	(1.2)

#### 4-4 家事育児役割について

##### 4-4-1 父親の回答

家事役割は、食事の用意や食事の後片付け、洗濯、掃除について「ほとんど行わない」と回答した人がそれぞれ 196 人 (67.6%)、142 人 (49.0%)、202 人 (69.7%)、134 人 (46.2%) と最も多く、家事の中でも、買い物は「週に 1 回くらい行う」と回答した人が 131 人 (45.2%) であり、他の家事項目の中よりは役割を担う回数が多かった。

一方、育児役割で子どもと遊ぶことを「ほぼ毎日」「週に 4~5 回」行うと回答した人は 124 人 (42.7%)、「週に 1 回くらい」「ほとんど行わない」と回答した人は 65 人 (22.4%) であった。子どもの世話をすることを「ほぼ毎日」「週に 4~5 日」行うと回答した人は 84 人 (28.9%) であったが、「週に 1 回くらい」「ほとんど行わない」と回答した人も 114 人 (39.4%) みられた (表 4-12)。

表 4-12 家事育児役割を担う頻度

		人数	(%)			人数	(%)
[家事1] 食事の用意	ほぼ毎日	5	(1.7)	[育児1] 子どもと遊ぶ	ほぼ毎日	81	(27.9)
	1週間に4~5回	9	(3.1)		1週間に4~5回	43	(14.8)
	1週間に2~3回	28	(9.7)		1週間に2~3回	96	(33.1)
	週に1回くらい	42	(14.5)		週に1回くらい	53	(18.3)
	ほとんど行わない	196	(67.6)		ほとんど行わない	12	(4.1)
	非該当/無回答	10	(3.4)		非該当/無回答	5	(1.7)
[家事2] 食事の後片付け	ほぼ毎日	22	(7.6)	[育児2] 子どもの世話	ほぼ毎日	54	(18.6)
	1週間に4~5回	19	(6.6)		1週間に4~5回	30	(10.3)
	1週間に2~3回	38	(13.1)		1週間に2~3回	83	(28.6)
	週に1回くらい	60	(20.7)		週に1回くらい	57	(19.7)
	ほとんど行わない	142	(49.0)		ほとんど行わない	57	(19.7)
	非該当/無回答	9	(3.1)		非該当/無回答	9	(3.1)
[家事3] 買い物	ほぼ毎日	2	(0.7)				
	1週間に4~5回	7	(2.4)				
	1週間に2~3回	43	(14.8)				
	週に1回くらい	131	(45.2)				
	ほとんど行わない	98	(33.8)				
	非該当/無回答	9	(3.1)				
[家事4] 洗濯	ほぼ毎日	19	(6.6)				
	1週間に4~5回	3	(1.0)				
	1週間に2~3回	18	(6.2)				
	週に1回くらい	38	(13.1)				
	ほとんど行わない	202	(69.7)				
	非該当/無回答	10	(3.4)				
[家事5] そうじ	ほぼ毎日	10	(3.4)				
	1週間に4~5回	6	(2.1)				
	1週間に2~3回	34	(11.7)				
	週に1回くらい	95	(32.8)				
	ほとんど行わない	134	(46.2)				
	非該当/無回答	11	(3.8)				

4-4-2 母親からみた父親が家事育児役割を担う頻度

母親からみた父親が家事役割を担う回数は、食事の用意や食事の後片付け、買い物、洗濯、掃除について、「ほとんど行わない」と回答した人がそれぞれ 220 人(66.3%)、187 人(56.3%)、139 人(41.9%)、243 人(73.2%)、174 人(52.4%)と最も多かった。家事の中でも、買い物は「週に 1 回くらい行う」と回答した人が 137 人(41.3%)であり、他の家事項目の中よりは役割を担う回数が多かった。

一方、母親からみて父親が育児役割を担う回数は、子どもと遊ぶことを「ほぼ毎日」「週に 4~5 回」行うと回答した人は 122 人(36.7%)、「週に 1 回くらい」「ほとんど行わない」と回答した人は 86 人(25.9%)であった。子どもの世話をすることを「ほぼ毎日」「週に 4~5 日」行うと回答した人は 100 人(30.1%)であり、「週に 1 回くらい」「ほとんど行わない」と回答した人は 137 人(41.3%)みられた(表 4-13)。

表 4-13 母親からみた父親が家事育児役割を担う頻度

		人数	(%)			人数	(%)
[家事1] 食事の用意	ほぼ毎日	7	(2.1)	[育児1] 子どもと遊ぶ	ほぼ毎日	88	(26.5)
	1週間に4~5回	6	(1.8)		1週間に4~5回	34	(10.2)
	1週間に2~3回	22	(6.6)		1週間に2~3回	106	(31.9)
	週に1回くらい	51	(15.4)		週に1回くらい	71	(21.4)
	ほとんど行わない	220	(66.3)		ほとんど行わない	15	(4.5)
	非該当/無回答	26	(7.8)		非該当/無回答	18	(5.4)
[家事2] 食事の後片付け	ほぼ毎日	17	(5.1)	[育児2] 子どもの世話	ほぼ毎日	66	(19.9)
	1週間に4~5回	14	(4.2)		1週間に4~5回	34	(10.2)
	1週間に2~3回	38	(11.4)		1週間に2~3回	75	(22.6)
	週に1回くらい	54	(16.3)		週に1回くらい	62	(18.7)
	ほとんど行わない	187	(56.3)		ほとんど行わない	75	(22.6)
	非該当/無回答	22	(6.6)		非該当/無回答	20	(6.0)
[家事3] 買い物	ほぼ毎日	1	(0.3)				
	1週間に4~5回	2	(0.6)				
	1週間に2~3回	29	(8.7)				
	週に1回くらい	137	(41.3)				
	ほとんど行わない	139	(41.9)				
	非該当/無回答	24	(7.2)				
[家事4] 洗濯	ほぼ毎日	12	(3.6)				
	1週間に4~5回	4	(1.2)				
	1週間に2~3回	20	(6.0)				
	週に1回くらい	30	(9.0)				
	ほとんど行わない	243	(73.2)				
	非該当/無回答	23	(6.9)				
[家事5] そうじ	ほぼ毎日	10	(3.0)				
	1週間に4~5回	7	(2.1)				
	1週間に2~3回	29	(8.7)				
	週に1回くらい	92	(27.7)				
	ほとんど行わない	174	(52.4)				
	非該当/無回答	20	(6.0)				



#### 4-5 生活満足感と各項目との関連

##### 4-5-1 父親について

生活満足感と夫婦の関係性、会話量、夫婦の満足度、父親の家事育児役割、主観的健康感、心と体の状態（毎日が楽しい）との関連を Kendall  $\tau$  検定で確認した結果、生活満足感と夫婦の関係性、会話量、夫婦の満足度、主観的健康感、（心と体の状態）毎日が楽しいとの間に統計学上有意な関連が示されたが、父親の家事育児役割においては、いずれの項目も生活満足感と統計学上有意な関連がみられなかった。（表 4-14、4-15）。

また、社会経済的要因として、年収と生活満足度の間には統計学上有意な関連がみられたが、学歴、配偶者の就業の有無と生活満足感との間には統計学上有意な関連は示さなかった（表 4-16）。

第IV章 夫婦の関係性、家事育児役割と QOL との関連構造

表 4-14 生活満足感と夫婦の関係性、満足度、会話量との関連 (父親)

		生活満足感				kendall τ 検定					
		かなり不満		どちらかといえ ば不満			どちらかといえ ば満足		かなり満足		
		人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)	
夫婦の 関係性	配偶者は私の心配事や 悩みごとをきいてくれ る	あてはまる	1	(0.8)	15	(12.4)	72	(59.5)	33	(27.3)	***
		どちらかといえ ばあてはまる	3	(2.4)	15	(12.2)	93	(75.6)	12	(9.8)	
		どちらかといえ ばあてはまらない	4	(13.3)	8	(26.7)	17	(56.7)	1	(3.3)	
		あてはまらない	1	(8.3)	3	(25.0)	4	(33.3)	4	(33.3)	
	配偶者は、わたしの能 力や努力を高く評価し てくれる	あてはまる	1	(1.3)	7	(8.9)	41	(51.9)	30	(38.0)	***
		どちらかといえ ばあてはまる	3	(2.0)	22	(14.7)	108	(72.0)	17	(11.3)	
		どちらかといえ ばあてはまらない	1	(2.5)	10	(25.0)	28	(70.0)	1	(2.5)	
		あてはまらない	4	(23.5)	2	(11.8)	9	(52.9)	2	(11.8)	
	配偶者は、わたしの能 力や努力を高く評価し てくれる	あてはまる	2	(2.2)	6	(6.6)	52	(57.1)	31	(34.1)	***
		どちらかといえ ばあてはまる	2	(1.4)	25	(17.9)	99	(70.7)	14	(10.0)	
		どちらかといえ ばあてはまらない	3	(7.3)	7	(17.1)	28	(68.3)	3	(7.3)	
		あてはまらない	2	(14.3)	3	(21.4)	7	(50.0)	2	(14.3)	
会話量	平日	0分	3	(50.0)	0	(0.0)	3	(50.0)	0	(0.0)	***
		30分未満	3	(3.3)	14	(15.4)	62	(68.1)	12	(13.2)	
		30分～1時間未満	1	(1.3)	13	(17.1)	52	(68.4)	10	(13.2)	
		1時間～1時間30分未満	0	(0.0)	8	(16.0)	32	(64.0)	10	(20.0)	
		1時間30分～2時間未満	0	(0.0)	3	(11.5)	17	(65.4)	6	(23.1)	
		2時間～2時間30分未満	1	(6.7)	1	(6.7)	8	(53.3)	5	(33.3)	
		2時間30分～3時間未満	1	(11.1)	1	(11.1)	3	(33.3)	4	(44.4)	
		3時間以上	0	(0.0)	1	(7.7)	9	(69.2)	3	(23.1)	
	休日	0分	0	(0.0)	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	*
		30分未満	4	(12.5)	3	(9.4)	24	(75.0)	1	(3.1)	
		30分～1時間未満	3	(6.1)	7	(14.3)	28	(57.1)	11	(22.4)	
		1時間～1時間30分未満	0	(0.0)	6	(20.7)	20	(69.0)	3	(10.3)	
		1時間30分～2時間未満	0	(0.0)	9	(19.6)	30	(65.2)	7	(15.2)	
		2時間～2時間30分未満	0	(0.0)	4	(15.4)	18	(69.2)	4	(15.4)	
夫婦の 満足度	子育てに対する、配偶 者の取り組み方	かなり満足	4	(3.0)	14	(10.6)	75	(56.8)	39	(29.5)	***
		どちらかといえ ば満足	5	(3.6)	20	(14.5)	103	(74.6)	10	(7.2)	
		どちらかといえ ば不満	0	(0.0)	4	(40.0)	5	(50.0)	1	(10.0)	
		かなり不満	0	(0.0)	2	(66.7)	1	(33.3)	0	(0.0)	
	家事に対する、配偶者 の取り組み方	かなり満足	4	(3.1)	18	(14.0)	69	(53.5)	38	(29.5)	***
		どちらかといえ ば満足	4	(3.2)	13	(10.5)	96	(77.4)	11	(8.9)	
		どちらかといえ ば不満	1	(4.3)	7	(30.4)	14	(60.9)	1	(4.3)	
		かなり不満	0	(0.0)	2	(28.6)	5	(71.4)	0	(0.0)	
	夫婦生活全体	かなり満足	4	(4.0)	9	(8.9)	48	(47.5)	40	(39.6)	***
		どちらかといえ ば満足	3	(1.9)	22	(14.0)	122	(77.7)	10	(6.4)	
どちらかといえ ば不満		1	(5.9)	7	(41.2)	9	(52.9)	0	(0.0)		
かなり不満		1	(20.0)	2	(40.0)	2	(40.0)	0	(0.0)		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n.s.; not significant

表 4-15 生活満足感と家事育児役割、QOLとの関連（父親）

		生活満足感				kendall τ 検定					
		かなり不満		どちらかといえ ば不満			どちらかといえ ば満足		かなり満足		
		人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)	
家事 役割	[家事1] 食事の用意	ほぼ毎日	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(40.0)	3	(60.0)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	3	(33.3)	5	(55.6)	1	(11.1)	
		1週間に2~3回	2	(7.1)	3	(10.7)	16	(57.1)	7	(25.0)	
		週に1回くらい	0	(0.0)	6	(14.3)	31	(73.8)	5	(11.9)	
		ほとんど行わない	6	(3.1)	29	(14.8)	128	(65.3)	33	(16.8)	
	[家事2] 食事の後片付け	ほぼ毎日	2	(9.1)	5	(22.7)	9	(40.9)	6	(27.9)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	3	(15.8)	13	(68.4)	3	(15.8)	
		1週間に2~3回	0	(0.0)	4	(10.5)	25	(65.8)	9	(23.7)	
		週に1回くらい	1	(1.7)	7	(11.7)	40	(66.7)	12	(20.0)	
		ほとんど行わない	5	(3.5)	22	(15.5)	96	(67.6)	19	(13.4)	
	[家事3] 買い物	ほぼ毎日	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(50.0)	1	(50.0)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(71.4)	2	(28.6)	
		1週間に2~3回	2	(4.7)	5	(11.6)	26	(60.5)	10	(23.3)	
		週に1回くらい	3	(2.3)	20	(15.3)	87	(66.4)	21	(16.0)	
		ほとんど行わない	4	(4.1)	15	(15.3)	63	(64.3)	16	(16.3)	
	[家事4] 洗濯	ほぼ毎日	1	(5.3)	2	(10.5)	10	(52.6)	6	(31.6)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	1	(33.3)	1	(33.3)	1	(33.3)	
		1週間に2~3回	0	(0.0)	0	(0.0)	13	(72.2)	5	(27.8)	
		週に1回くらい	2	(5.3)	6	(15.8)	26	(68.4)	4	(10.5)	
		ほとんど行わない	5	(2.5)	31	(15.3)	132	(65.3)	34	(16.8)	
[家事5] そうじ	ほぼ毎日	0	(0.0)	2	(20.0)	6	(60.0)	2	(20.0)	n. s.	
	1週間に4~5回	0	(0.0)	0	(0.0)	5	(83.3)	1	(16.7)		
	1週間に2~3回	3	(8.8)	5	(14.7)	18	(52.9)	8	(23.5)		
	週に1回くらい	0	(0.0)	14	(14.7)	62	(65.3)	19	(20.0)		
	ほとんど行わない	5	(3.7)	20	(14.9)	89	(66.4)	20	(14.9)		
育児 役割	[育児1] 子どもと遊ぶ	ほぼ毎日	3	(3.7)	12	(14.8)	48	(59.3)	18	(22.2)	n. s.
		1週間に4~5回	1	(2.3)	4	(9.3)	31	(72.1)	7	(16.3)	
		1週間に2~3回	4	(4.2)	13	(13.5)	64	(66.7)	15	(15.6)	
		週に1回くらい	1	(1.9)	10	(16.7)	33	(62.3)	9	(17.0)	
		ほとんど行わない	0	(0.0)	2	(16.7)	10	(83.3)	0	(0.0)	
	[育児2] 子どもの世話	ほぼ毎日	2	(3.7)	7	(13.0)	33	(61.1)	12	(22.2)	n. s.
		1週間に4~5回	1	(3.3)	5	(16.7)	18	(60.0)	6	(20.0)	
		1週間に2~3回	3	(3.6)	11	(13.3)	55	(66.3)	14	(16.9)	
		週に1回くらい	0	(0.0)	10	(17.5)	36	(63.2)	11	(19.3)	
		ほとんど行わない	2	(3.5)	8	(14.0)	41	(71.9)	6	(10.5)	
QOL	毎日が楽しい	まったくなかった	2	(33.3)	12	(20.0)	40	(66.7)	6	(10.0)	***
		週に1~2日	3	(28.3)	22	(20.8)	71	(67.0)	10	(9.4)	
		週に3~4日	1	(12.5)	7	(8.8)	56	(70.0)	16	(20.0)	
		ほとんど毎日	3	(68.2)	2	(4.5)	21	(47.7)	18	(40.9)	
	健康状態	たいへん良好	1	(18.5)	6	(11.1)	28	(51.9)	19	(35.2)	***
		まあ良好	2	(12.6)	16	(10.1)	116	(73.0)	25	(15.7)	
		どちらともいえない	2	(40.0)	15	(30.0)	28	(56.0)	5	(10.0)	
	やや悪い	2	(87.0)	5	(21.7)	15	(65.2)	1	(4.3)		
	たいへん悪い	2	(50.0)	1	(25.0)	1	(25.0)	0	(0.0)		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

表 4-16 生活満足感と社会経済的要因との関連（父親）

		生活満足感				kendall τ 検定				
		かなり不満		どちらかといえ ば不満			どちらかといえ ば満足		かなり満足	
		人	(%)	人	(%)		人	(%)	人	(%)
最終学歴	中高専門卒	7	( 4.4)	26	(16.3)	100	(62.5)	27	(16.8)	n. s.
	短大以上卒	2	( 1.6)	16	(13.0)	83	(67.5)	22	(17.9)	
社会経済的 要因	年収									
	499万円以下	9	( 6.0)	29	(19.5)	85	(57.0)	26	(17.4)	*
500万円以上	0	( 0.0)	13	( 9.5)	101	(73.7)	23	(16.8)		
配偶者の就労	あり	3	( 1.8)	23	(13.8)	113	(67.7)	28	(16.8)	n. s.
	なし	6	( 4.9)	20	(16.3)	75	(61.0)	22	(17.9)	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. : not significant

4-5-2 母親について

生活満足感と夫婦の関係性、会話量、夫婦の満足度、主観的健康感、心と体の状態（毎日が楽しい）との関連を Kendall  $\tau$  検定で確認した結果、生活満足感と夫婦の関係性、会話量、夫婦の満足度、主観的健康感、（心と体の状態）毎日が楽しいとの間に統計学上有意な関連が示された。また、生活満足感と父親の家事育児役割との関連について確認した結果、家事役割では「買い物」「掃除」、育児役割は「子どもと遊ぶ」「子どもの世話をする」との間に統計学上有意な関連がみられた（表 4-17、4-18）。

また、社会経済的要因として、学歴と本人年収、世帯収入と生活満足度の間には統計学上有意な関連がみられた（表 4-19）。

第IV章 夫婦の関係性、家事育児役割と QOL との関連構造

表 4-17 生活満足感と夫婦の関係性、満足度、会話量との関連 (母親)

		生活満足感								kendall τ 検定	
		かなり不満		どちらかといえ ば不満		どちらかといえ ば満足		かなり満足			
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
夫婦の 関係性	配偶者は私の心配事や 悩みごとをきいてくれ る	あてはまる	2	(1.6)	17	(13.5)	67	(53.2)	40	(31.7)	***
		どちらかといえ ばあてはまる	2	(1.5)	24	(17.5)	101	(73.7)	10	(7.3)	
		どちらかといえ ばあてはまらない	3	(7.7)	11	(28.2)	24	(61.5)	1	(2.6)	
		あてはまらない	2	(10.0)	11	(55.0)	6	(30.0)	1	(0.5)	
	配偶者は、わたしの能 力や努力を高く評価し てくれる	あてはまる	1	(1.3)	8	(10.5)	40	(52.6)	27	(35.5)	***
		どちらかといえ ばあてはまる	1	(0.7)	22	(15.2)	103	(71.0)	19	(13.1)	
		どちらかといえ ばあてはまらない	4	(5.3)	21	(28.0)	45	(60.0)	5	(6.7)	
		あてはまらない	3	(12.0)	11	(44.0)	10	(40.0)	1	(0.4)	
	配偶者は、わたしの能 力や努力を高く評価し てくれる	あてはまる	2	(2.0)	11	(10.9)	55	(54.5)	33	(32.7)	***
		どちらかといえ ばあてはまる	1	(0.7)	26	(18.8)	96	(69.6)	15	(10.9)	
		どちらかといえ ばあてはまらない	3	(4.9)	17	(27.9)	38	(62.3)	3	(4.9)	
		あてはまらない	3	(14.3)	8	(38.1)	9	(42.9)	1	(4.8)	
会話量	平日	0分	2	(1.3)	7	(46.7)	5	(33.3)	1	(6.7)	***
		30分未満	3	(0.3)	20	(19.6)	70	(68.6)	9	(8.8)	
		30分～1時間未満	2	(0.2)	20	(23.5)	51	(60.0)	12	(14.1)	
		1時間～1時間30分未満	0	(0.0)	8	(16.7)	32	(66.7)	8	(16.7)	
		1時間30分～2時間未満	0	(0.0)	2	(7.7)	20	(76.9)	4	(15.4)	
		2時間～2時間30分未満	0	(0.0)	2	(11.8)	9	(52.9)	6	(35.3)	
		2時間30分～3時間未満	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(33.3)	6	(66.7)	
		3時間以上	2	(0.1)	4	(20.0)	8	(40.0)	6	(30.0)	
	休日	0分	1	(50.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	***
		30分未満	1	(0.3)	13	(39.4)	18	(54.5)	1	(0.3)	
		30分～1時間未満	3	(4.8)	11	(17.7)	44	(71.0)	4	(6.5)	
		1時間～1時間30分未満	0	(0.0)	12	(26.7)	27	(60.0)	6	(13.3)	
1時間30分～2時間未満		1	(2.9)	6	(17.6)	23	(67.6)	4	(11.8)		
2時間～2時間30分未満		0	(0.0)	5	(20.8)	16	(66.7)	3	(12.5)		
2時間30分～3時間未満		0	(0.0)	0	(0.0)	10	(83.3)	2	(16.7)		
3時間以上		2	(1.8)	15	(13.8)	60	(55.0)	32	(29.4)		
夫婦の 満足度	子育てに対する、配偶 者の取り組み方	かなり満足	0	(0.0)	9	(12.2)	40	(54.1)	25	(33.8)	***
		どちらかといえ ば満足	1	(0.6)	18	(11.5)	113	(72.4)	24	(15.4)	
		どちらかといえ ば不満	4	(6.1)	21	(31.8)	39	(59.1)	2	(3.0)	
		かなり不満	4	(16.0)	15	(60.0)	5	(20.0)	1	(4.0)	
	家事に対する、配偶者 の取り組み方	かなり満足	0	(0.0)	5	(12.5)	20	(50.0)	15	(37.5)	***
		どちらかといえ ば満足	1	(0.7)	16	(11.5)	98	(70.5)	24	(17.3)	
		どちらかといえ ば不満	4	(3.7)	25	(23.4)	66	(61.7)	12	(11.2)	
		かなり不満	4	(11.4)	17	(48.6)	13	(37.1)	1	(2.9)	
	夫婦生活全体	かなり満足	0	(0.0)	4	(6.1)	36	(54.5)	26	(39.4)	***
		どちらかといえ ば満足	1	(0.5)	26	(14.3)	129	(70.9)	26	(14.3)	
		どちらかといえ ば不満	3	(5.8)	19	(36.5)	30	(57.7)	0	(0.0)	
		かなり不満	4	(21.1)	13	(68.4)	2	(10.5)	0	(0.0)	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s.; not significant

表 4-18 生活満足感と父親の家事育児役割、QOLとの関連 (母親)

		生活満足感								kendall τ 検定	
		かなり不満		どちらかといえ ば不満		どちらかといえ ば満足		かなり満足			
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
家事 役割	[家事1] 食事の用意	ほぼ毎日	0	(0.0)	2	(28.6)	4	(57.1)	1	(14.3)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	1	(16.7)	3	(50.0)	2	(33.3)	
		1週間に2~3回	1	(4.5)	2	(9.1)	12	(54.5)	7	(31.8)	
		週に1回くらい	2	(4.0)	9	(18.0)	31	(62.0)	8	(16.0)	
		ほとんど行わない	6	(2.7)	46	(20.9)	137	(62.3)	31	(14.1)	
	[家事2] 食事の後片付け	ほぼ毎日	0	(0.0)	3	(17.6)	11	(64.7)	3	(17.6)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	1	(7.1)	9	(64.3)	4	(28.6)	
		1週間に2~3回	0	(0.0)	10	(26.3)	21	(55.3)	7	(18.4)	
		週に1回くらい	3	(5.6)	8	(14.8)	34	(63.0)	9	(16.7)	
		ほとんど行わない	6	(3.2)	38	(20.4)	116	(62.4)	26	(14.0)	
	[家事3] 買い物	ほぼ毎日	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(100.0)	0	(0.0)	**
		1週間に4~5回	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(100.0)	0	(0.0)	
		1週間に2~3回	1	(3.4)	3	(10.3)	15	(51.7)	10	(34.5)	
		週に1回くらい	3	(2.2)	24	(17.5)	86	(62.8)	24	(17.5)	
		ほとんど行わない	5	(3.6)	33	(23.9)	85	(61.6)	15	(10.9)	
	[家事4] 洗濯	ほぼ毎日	0	(0.0)	0	(0.0)	8	(66.7)	4	(33.3)	n. s.
		1週間に4~5回	0	(0.0)	1	(25.0)	3	(75.0)	0	(0.0)	
		1週間に2~3回	1	(5.0)	3	(15.0)	13	(65.0)	3	(15.0)	
		週に1回くらい	2	(6.7)	6	(20.0)	17	(56.7)	5	(16.7)	
		ほとんど行わない	6	(2.5)	51	(21.1)	148	(61.2)	37	(15.3)	
[家事5] そうじ	ほぼ毎日	0	(0.0)	0	(0.0)	9	(90.0)	1	(10.0)	**	
	1週間に4~5回	0	(0.0)	0	(0.0)	3	(42.9)	4	(57.1)		
	1週間に2~3回	3	(10.3)	4	(13.8)	16	(55.2)	6	(20.7)		
	週に1回くらい	1	(1.1)	14	(15.4)	59	(64.8)	17	(18.7)		
	ほとんど行わない	5	(2.9)	43	(244.7)	105	(60.3)	21	(12.1)		
育児 役割	[育児1] 子どもと遊ぶ	ほぼ毎日	1	(1.1)	13	(14.8)	52	(59.1)	22	(25.0)	***
		1週間に4~5回	1	(2.9)	2	(5.9)	27	(79.4)	4	(11.8)	
		1週間に2~3回	3	(2.9)	13	(12.4)	69	(65.7)	20	(19.0)	
		週に1回くらい	3	(4.2)	23	(32.4)	42	(59.2)	3	(4.2)	
		ほとんど行わない	1	(6.7)	9	(60.0)	5	(33.3)	0	(0.0)	
	[育児2] 子どもの世話	ほぼ毎日	1	(1.5)	8	(12.1)	37	(56.1)	20	(30.3)	***
		1週間に4~5回	1	(2.9)	6	(17.6)	25	(73.5)	2	(5.9)	
		1週間に2~3回	1	(1.3)	7	(9.3)	51	(68.0)	16	(21.3)	
		週に1回くらい	3	(4.9)	17	(27.9)	39	(63.9)	2	(3.3)	
		ほとんど行わない	3	(4.0)	22	(29.3)	42	(56.0)	8	(10.7)	
QOL	毎日が楽しい	まったくなかった	5	(10.2)	21	(42.9)	20	(40.8)	3	(6.1)	***
		週に1~2日	3	(3.3)	23	(25.0)	61	(66.3)	5	(5.4)	
		週に3~4日	2	(1.9)	15	(14.3)	72	(68.6)	16	(15.2)	
		ほとんど毎日	0	(0.0)	5	(6.2)	48	(59.3)	28	(34.6)	
	健康状態	たいへん良好	1	(1.8)	2	(3.6)	32	(58.2)	20	(36.4)	***
		まあ良好	2	(1.0)	36	(18.0)	133	(66.5)	29	(14.5)	
		どちらともいえない	3	(6.5)	17	(37.0)	25	(54.3)	1	(2.2)	
		やや悪い	3	(10.7)	11	(39.3)	12	(42.9)	2	(7.1)	
		たいへん悪い	1	(50.0)	0	(0.0)	1	(50.0)	0	(0.0)	

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant

表 4-19 生活満足感と社会経済的要因との関連（母親）

		生活満足感								kendall τ 検定	
		かなり不満		どちらかといえ ば不満		どちらかといえ ば満足		かなり満足			
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)		
学歴	中高専門卒	10	(5.4)	42	(22.3)	105	(56.5)	29	(15.6)	*	
	短大以上卒	0	(0.0)	24	(16.7)	97	(67.4)	23	(16.0)		
就労	あり	4	(2.4)	30	(18.0)	105	(62.8)	28	(16.8)	n. s.	
	なし	6	(3.7)	36	(21.6)	98	(60.0)	24	(14.6)		
社会経済的 要因	本人年収	収入なし	5	(3.9)	21	(16.4)	81	(63.3)	21	(16.4)	*
		129万円以下	4	(3.4)	35	(30.2)	65	(56.0)	12	(10.3)	
		130万円以上	1	(1.2)	10	(12.3)	53	(65.4)	17	(21.0)	
世帯収入	599万円以下	5	(3.3)	40	(26.3)	93	(61.2)	14	(9.2)	p<0.001	
	600万円以上	4	(2.8)	19	(13.5)	89	(63.1)	29	(20.6)		

\*\*\*p<0.001 \*\*p<0.01 \*p<0.05 n. s. ; not significant



4-6 QOL 関連構造モデル

4-6-1 潜在変数の設定

夫婦の関係性 3 項目、会話量、夫婦の満足度 3 項目、父親の家事育児役割 7 項目、主観的健康感 1 項目、生活満足感 1 項目、心と体の状態 1 項目の 17 項目について探索的因子分析を実施した。その結果、表 4-20 に示す通り 4 因子が抽出された。

探索的因子分析の結果を参考に、Kendall  $\tau$  検定の結果から QOL と関連すると考えられる項目を追加し、4 つの潜在変数を設定した。「育児 1」を追加した「父親の家事育児役割 1~7」7 項目からなる『家事育児役割』（「」は観測変数、『』は潜在変数を示す）、「関係性 1~3」の 3 項目と「会話量」1 項目の合計 4 項目からなる『夫婦の関係性』、「夫婦満足感 1~3」の 3 項目からなる『夫婦満足感』、「主観的健康感」「生活満足感」に「毎日が楽しい」を追加した 3 項目からなる『QOL』である。尚、母親のモデルにおいては、『家事育児役割』を『父親の家事育児役割』と命名した。

潜在変数の cronbach  $\alpha$  係数は、『家事育児役割』0.934、『夫婦の関係性』0.510、『夫婦満足感』0.786 と高かったものの、『QOL』は 0.411 と低い値であった。

表 4-20 探索的因子分析結果

	因子			
	1	2	3	4
[家事1] 食事の用意	.934	-.001	.015	-.005
[家事4] 洗濯	.898	-.027	-.012	.025
[家事2] 食事の後片付け	.894	.022	-.004	-.008
[家事5] そうじ	.817	-.006	.002	.014
[育児2] 子どもの世話	.799	.063	-.005	-.014
[家事3] 買い物	.754	-.005	-.010	-.001
[関係性1] 心配事や悩み事を聞いてくれる	.000	.913	-.038	-.067
[関係性3] 助言やアドバイスをくれる	.014	.851	-.023	-.042
[関係性2] 能力や努力を認めてくれる	-.064	.800	-.062	.034
会話量合計	.137	.395	.114	.021
[夫婦満足1] 子育てに対する取り組み	.052	-.007	.891	-.025
[夫婦満足2] 家事に対する取り組み	-.147	.025	.676	-.046
[夫婦満足3] 夫婦関係全体	-.020	.331	.417	.116
生活満足度	-.013	.030	-.020	.910
主観的健康感	.024	-.056	-.024	.413
累積%	33.365	54.021	59.453	62.940
cronbach $\alpha$ 係数	0.737	0.510	0.786	0.503

因子抽出法：最尤法 回転法：kaiserの正規化を伴うプロマックス法

4-6-2 父親のQOL関連要因モデル

4つの潜在変数を用いて、最適モデルを探索した結果、図4-2に示すモデルが得られた。本モデルの適合度はRMSEA=0.052、NFI=0.868、CFI=0.937、TLI=0.920、決定係数は0.58であった。『夫婦の関係性』から『QOL』への標準化直接効果は0.22、『夫婦の満足度』から『QOL』への標準化直接効果は0.58であり、いずれも有意であった。『家事育児役割』から『QOL』への標準化直接効果は0.19であったが、統計学上有意ではなかった。また、『夫婦の満足度』から『家事育児役割』への標準化直接効果は-0.12であり、統計学上有意ではなかったが、標準化直接効果が負の値であったことから、『夫婦の満足度』は『家事育児役割』を抑制する、すなわち役割を担う回数が減少する傾向が示された。『夫婦の関係性』から『夫婦の満足度』を経由した『QOL』への標準化間接効果は0.37であり、『家事育児役割』を経た標準化間接効果は0.03であった。

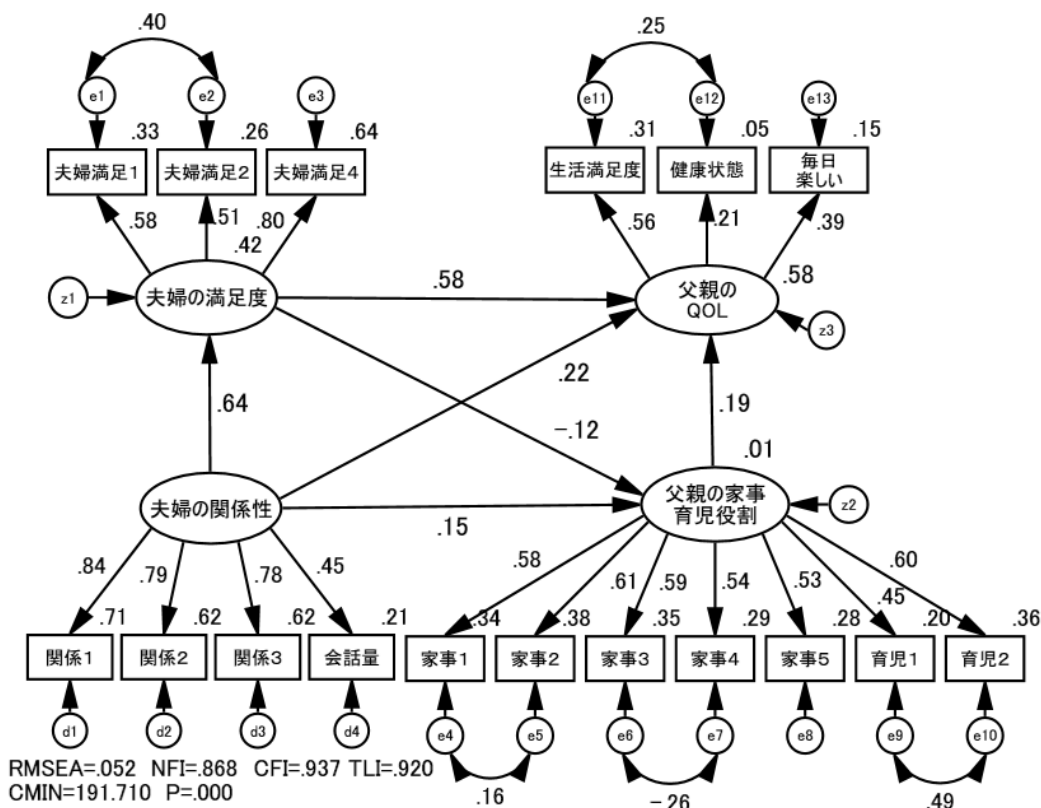


図4-2 父親のQOL関連要因モデル

#### 4-6-3 社会経済的要因別にみた多母集団同時分析の結果

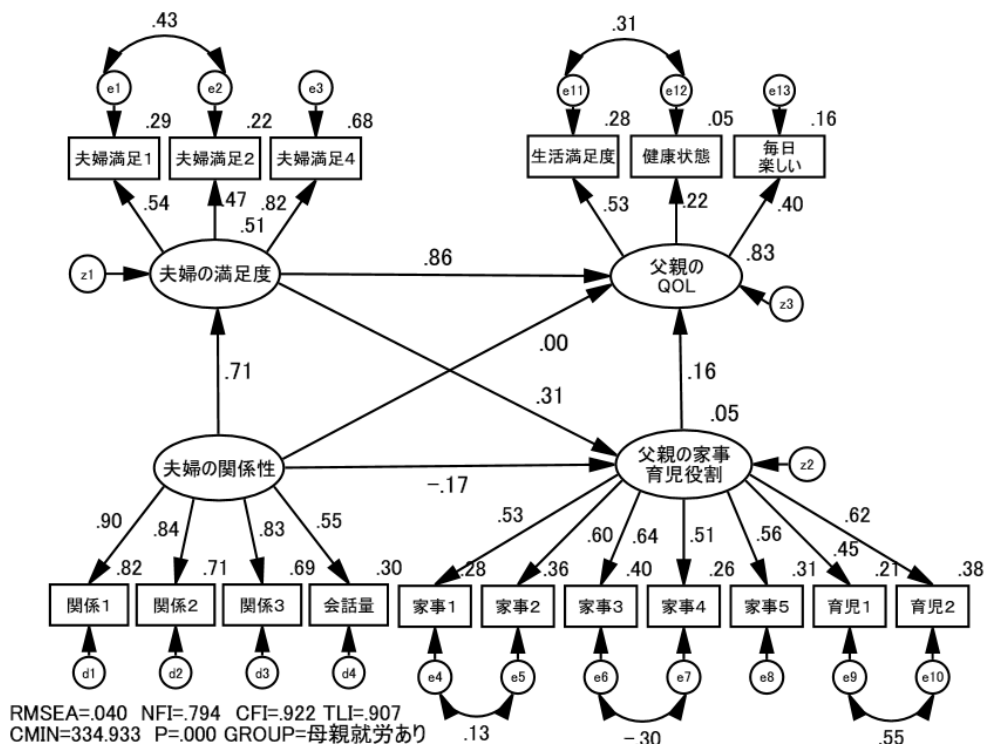
本モデルを用いて、配偶者の就業の有無別、父親の学歴2群（中高専門卒群と大学以上卒群）、収入2群（500万円未満群と500万円以上群）で多母集団同時分析を行った。

##### 1) 配偶者の就業の有無別

配偶者の就業の有無別で多母集団同時分析を行った結果、『夫婦の満足度』から『家事育児役割』への標準化直接効果は就労あり群が0.31、就労なし群は-0.34であり、配偶者の就労あり群が就労なし群よりも統計学上有意に大きな値を示した。このことから母親が就労している場合、『夫婦の満足度』は父親の『家事育児役割』を促進させるが、母親が就労していない場合は、『夫婦の満足度』は父親の『家事育児役割』を抑制する方向に関連することが示された。また、『夫婦の関係性』から『家事育児役割』への標準化直接効果は、就労あり群が-0.175、就労なし群が0.311であり、就労なし群が統計学上有意に大きな値を示した。このことから母親が就労している場合、『夫婦の関係性』が父親の『家事育児役割』を抑制させるが、母親が就労していない場合は『夫婦の関係性』は父親の『家事育児役割』を促進させる方向に関連することが示された。さらに、『夫婦の関係性』から『夫婦の満足度』を経由した『QOL』への標準化間接効果は、就労あり群0.62、就労なし群は0.26であり、就労あり群が大きな値を示した（表4）。

就労あり群、就労なし群のそれぞれの決定係数は、0.83、0.44であった（図4-3、表4-21）。

< 配偶者就労あり群 >



< 配偶者就労なし群 >

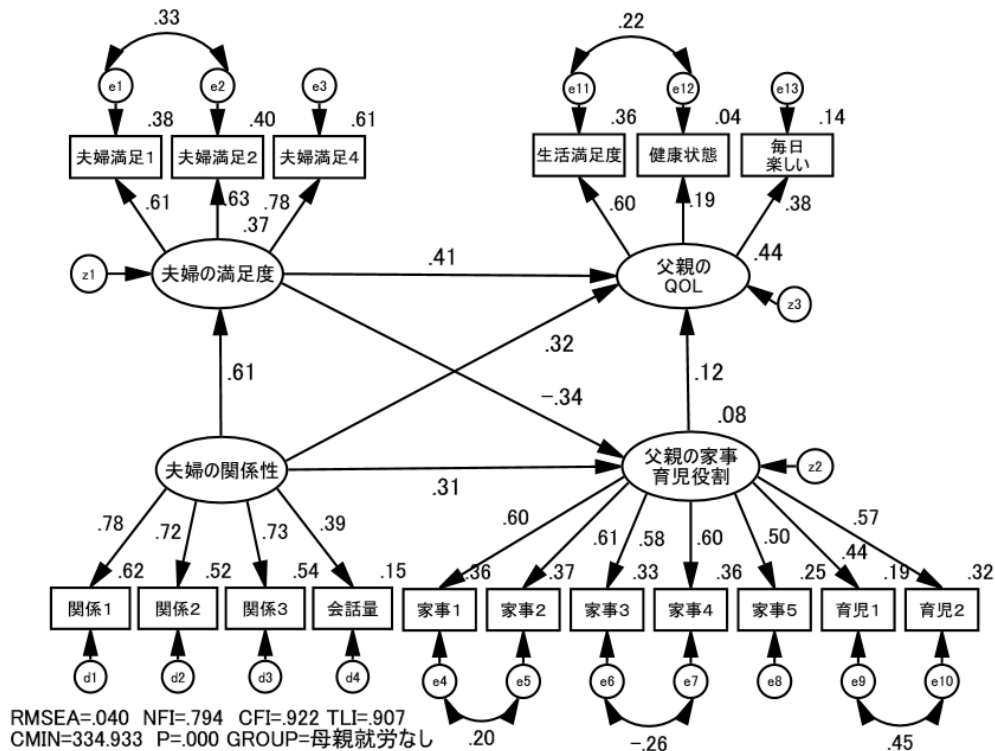


図 4-3 母親の就労の有無別による多母集団同時分析結果  
(上；配偶者就労あり群、下；配偶者就労なし群)

第IV章 夫婦の関係性、家事育児役割とQOLとの関連構造

表 4-21 標準化直接・間接・総合効果（母親就労有無モデル）

				配偶者就労の有無		一対比較		
				就労あり	就労なし			
[標準化直接効果]	夫婦の関係性	→	夫婦の満足度	0.711	0.608	n. s.		
		→	家事育児役割	-0.175	0.311	*		
		→	QOL	0.004	0.321	n. s.		
	夫婦の満足度	→	家事育児役割	0.308	-0.344	*		
		→	QOL	0.863	0.414	n. s.		
	家事育児役割	→	QOL	0.163	0.116	n. s.		
[標準化間接効果]	夫婦の関係性	→	家事育児役割 → QOL	0.219	-0.209			
		→	夫婦の満足度 → QOL	0.621	0.264			
[標準化総合効果]	夫婦の関係性	→	→	→	QOL	0.625	0.585	

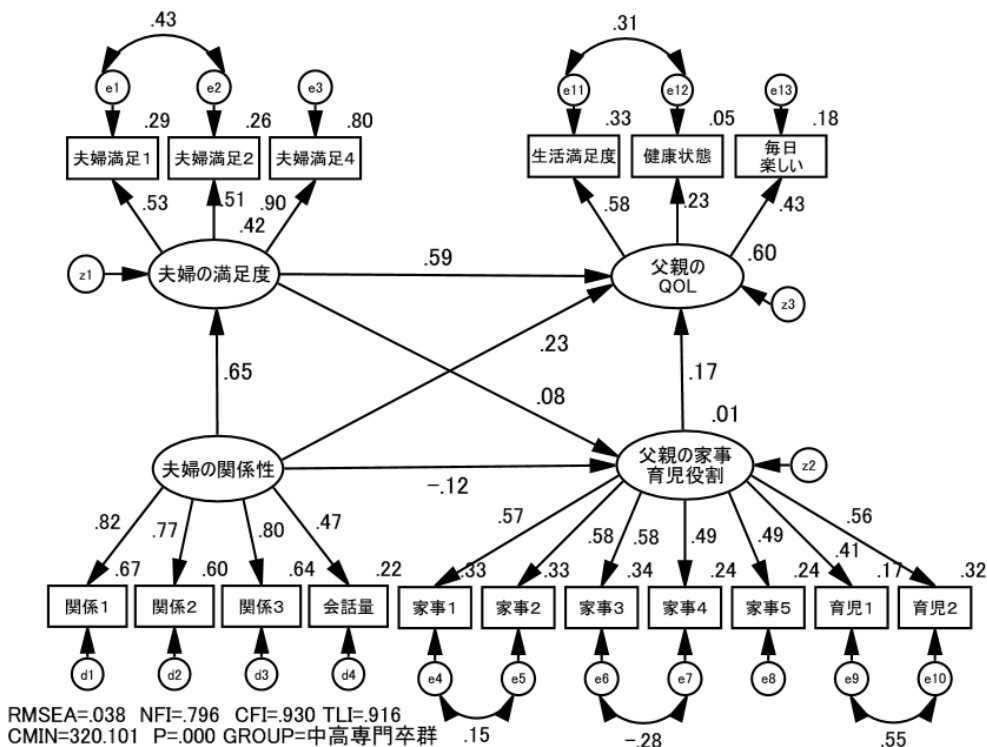
\* : p<0.05

2) 父親の学歴別の多母集団同時分析結果

父親の学歴別（中高専門卒群、大学以上卒群）で多母集団同時分析を行った結果、『夫婦の関係性』から『家事育児役割』への標準化直接効果は中高専門卒群が $-0.120$ 、大学以上卒群は $0.461$ であり、大学以上卒群が中高専門卒群よりも統計学上有意に大きな値を示した。このことから中高専門学校卒業の場合、『夫婦の関係性』は『家事役割』を抑制させるが、大学以上卒業の場合、『夫婦の関係性』は『家事育児役割』を促進させる方向に関連することが示された。

中高専門卒群、大学以上卒群のそれぞれの決定係数は、 $0.60$ 、 $0.49$ であった（図4-4、表4-22）。

< 中高専門卒群 >



< 大学以上卒群 >

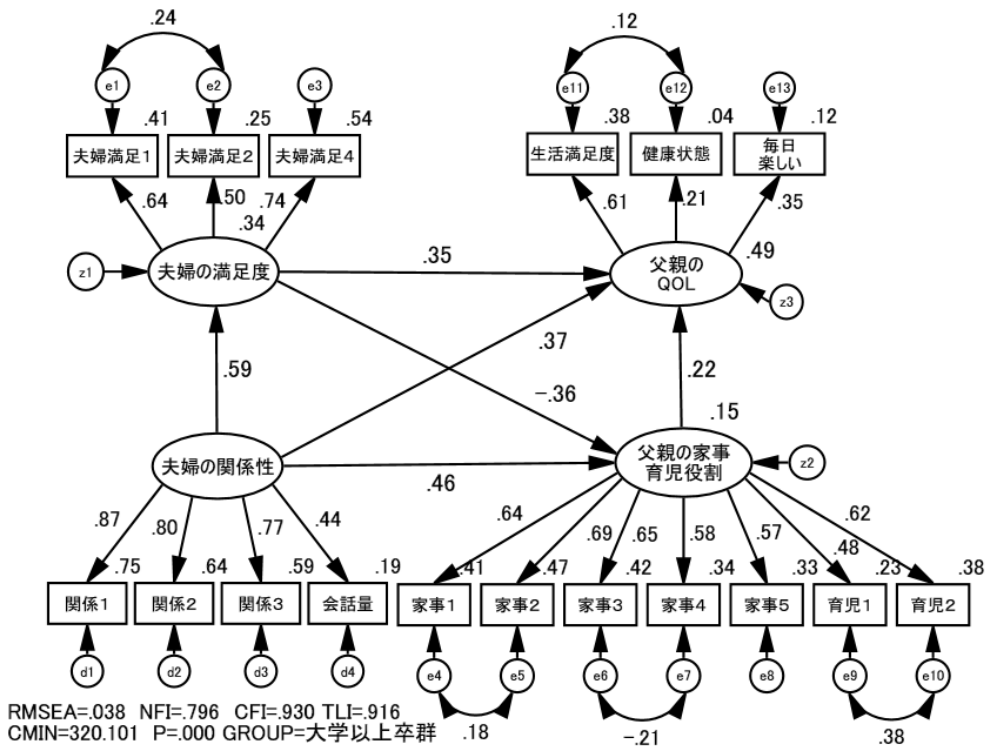


図 4-4 学歴別による多母集団同時分析結果  
(上 ; 中高専門卒群、下 ; 大学以上卒群)

第IV章 夫婦の関係性、家事育児役割とQOLとの関連構造

表 4-22 標準化直接・間接・総合効果（学歴モデル）

			学歴		一対比較
			中高専門卒	大学以上卒	
[標準化直接効果]	夫婦の関係性	→ 夫婦の満足度	0.648	0.585	n. s.
		→ 家事育児役割	-0.120	0.461	*
		→ QOL	0.231	0.371	n. s.
	夫婦の満足度	→ 家事育児役割	0.080	-0.357	n. s.
		→ QOL	0.589	0.352	n. s.
	家事育児役割	→ QOL	0.167	0.221	n. s.
[標準化間接効果]	夫婦の関係性	→ 家事育児役割 → QOL	-0.020	0.102	
		→ 夫婦の満足度 → QOL	0.382	0.206	
[標準化総合効果]	夫婦の関係性	→ → → QOL			

\* : p<0.05

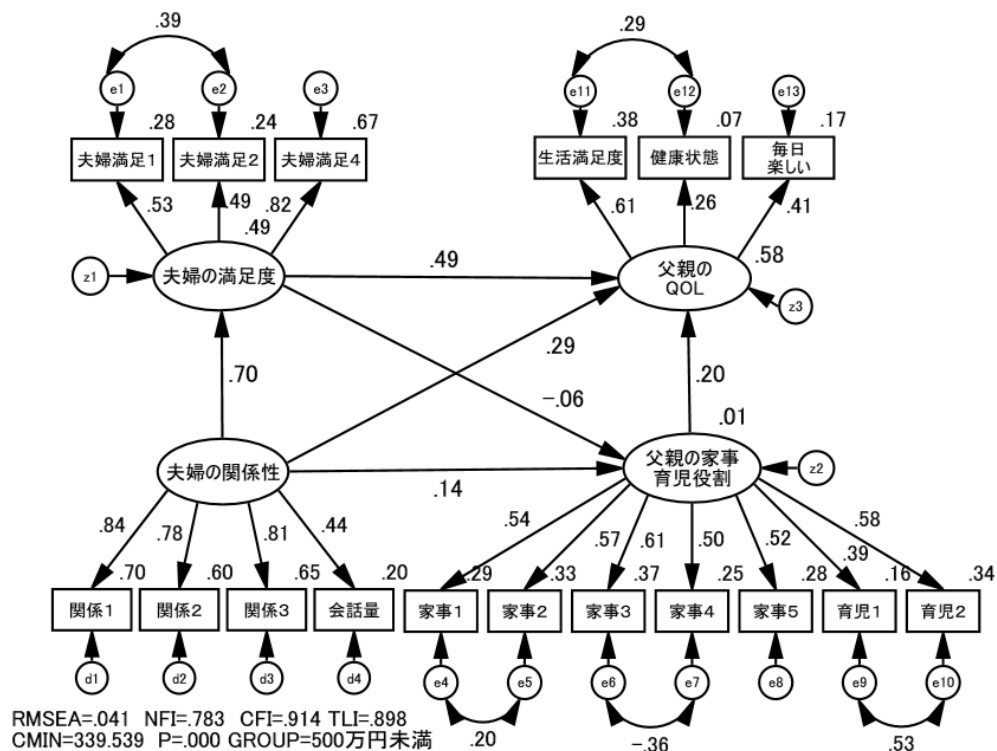


3) 父親の収入別の多母集団同時分析結果

父親の収入別（500万円未満群、500万円以上群）で多母集団同時分析を行った結果、いずれの標準化直接効果も統計学上有意な差は示されなかった。標準化総合効果は、500万円未満群 0.652、500万円以上群 0.382 であり、500万円未満群が500万円以上群よりも大きな値を示した。

500万円未満群、500万円以上群のそれぞれの決定係数は、0.58、0.37であった（図4-5、表4-23）。

< 500 万円未満群 >



< 500 万円以上群 >

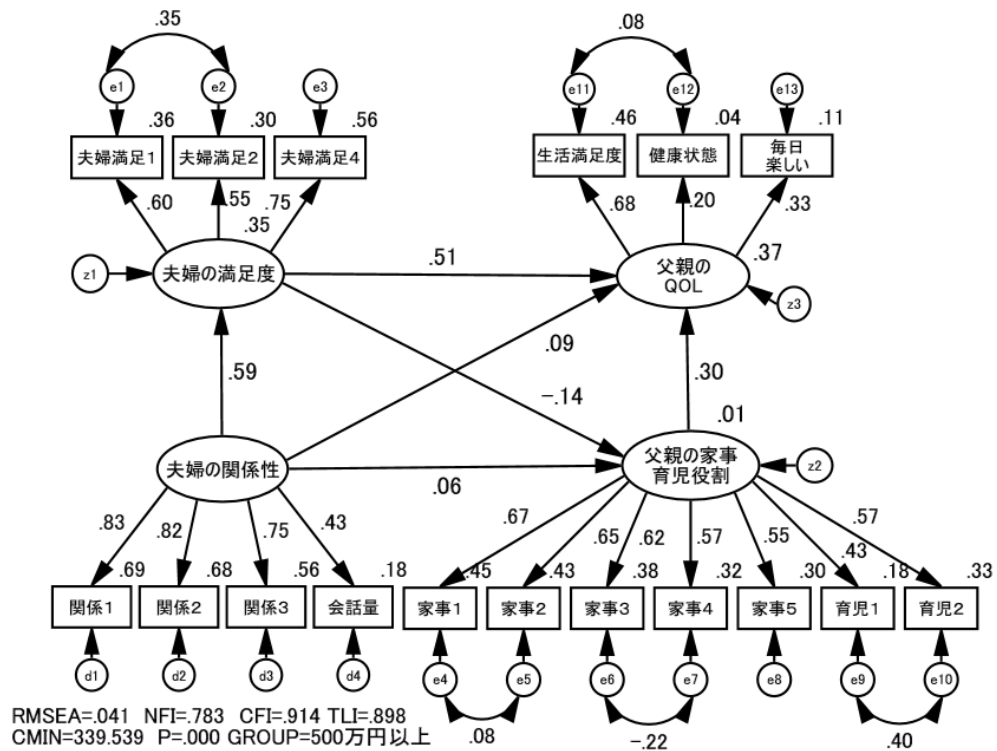


図 4-5 父親の収入別による多母集団同時分析結果 (上 ; 500 万円未満群、下 ; 500 万円以上群)

第IV章 夫婦の関係性、家事育児役割とQOLとの関連構造

表 4-23 標準化直接・間接・総合効果（収入モデル）

			本人収入		一対比較
			500万円未満	500万円以上	
[標準化直接効果]	夫婦の関係性	→ 夫婦の満足度	0.700	0.593	n. s.
		→ 家事育児役割	0.142	0.059	n. s.
		→ QOL	0.291	0.089	n. s.
	夫婦の満足度	→ 家事育児役割	-0.057	-0.138	n. s.
		→ QOL	0.487	0.505	n. s.
	家事育児役割	→ QOL	0.198	0.300	n. s.
[標準化間接効果]	夫婦の関係性	→ 家事育児役割 → QOL	0.028	0.018	
		→ 夫婦の満足度 → QOL	0.341	0.299	
[標準化総合効果]	夫婦の関係性	→ → → QOL	0.652	0.382	

\* : p<0.05

#### 4-6-4 母親のQOL関連モデル

4つの潜在変数を用いて、最適モデルを探索した。その結果、父親のQOL関連構造モデル(図4-2)とは異なり、『父親の家事育児役割』から『夫婦の満足度』へ関連するモデルが最も適合度および決定係数が高いモデルとして得られた(図4-6)。本モデルの適合度はRMSEA=0.066、NFI=0.866、CFI=0.915、TLI=0.893、決定係数は0.52であった。『夫婦の関係性』から『QOL』への標準化直接効果は0.34、『夫婦の満足度』から『QOL』への標準化直接効果は0.56、『夫婦の関係性』から『父親の家事育児役割』への標準化直接効果は0.34、『父親の家事育児役割』から『夫婦の満足度』への標準化直接効果は0.62であり、いずれも有意であった。『父親の家事育児役割』から『QOL』への標準化直接効果は-0.14であったが、有意ではなかった。『夫婦の関係性』から『夫婦の満足度』を経由した『QOL』への標準化間接効果は0.21であり、『家事育児役割』を経た『QOL』への標準化間接効果は-0.05であった。

本モデルを用いた社会経済的要因別(就労の有無、学歴、収入)で比較した多母集団同時分析の結果は収束しなかった。

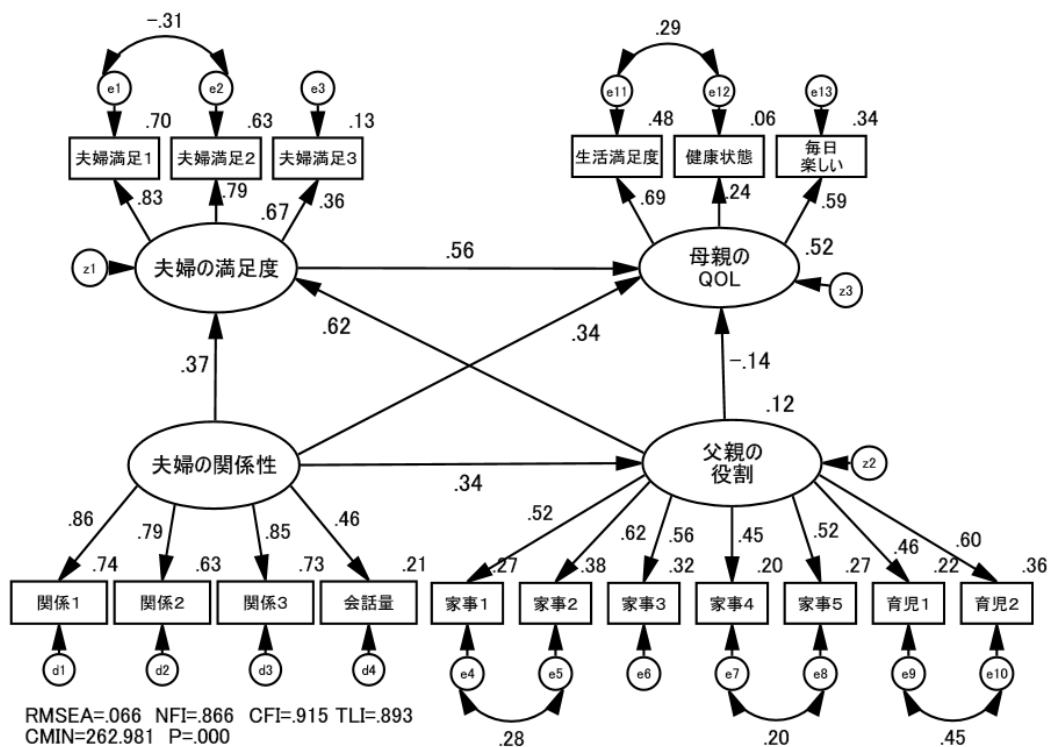


図 4-6 母親の QOL 関連要因モデル

4-7 本研究のまとめ

本研究により以下の点が明らかとなった。

- 1) 父親、母親ともに夫婦の関係性、父親の家事育児役割を含めたQOL関連構造は、夫婦の関係性が基盤となっていることが示された。
- 2) 父親の家事育児役割は、父親、母親ともにQOLと直接関連せず、夫婦の関係性を基盤とし、夫婦の満足度、家事育児役割を経由し間接的にQOLと関連する構造が明らかとなった。
- 3) 母親の就労の有無が、父親のQOL関連構造と関連することが明らかとなった。

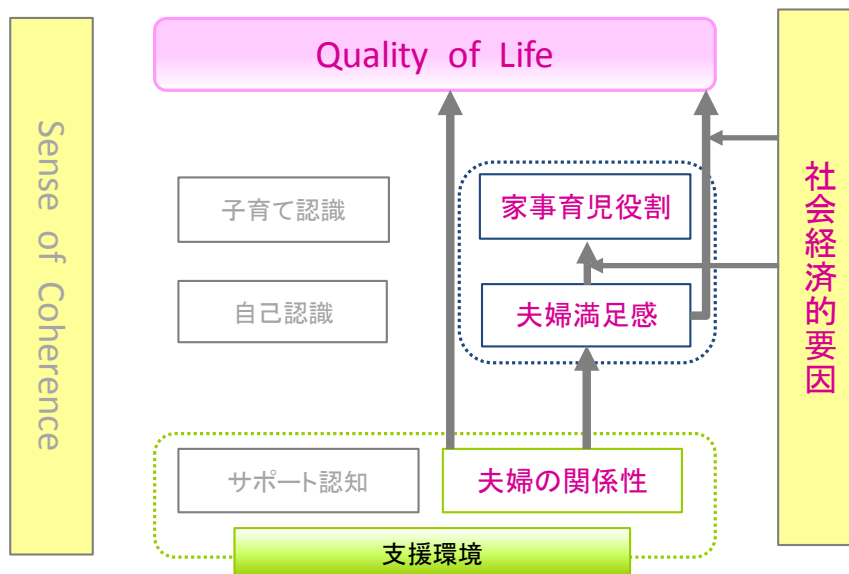


図 4-7 第IV章結果図（父親）

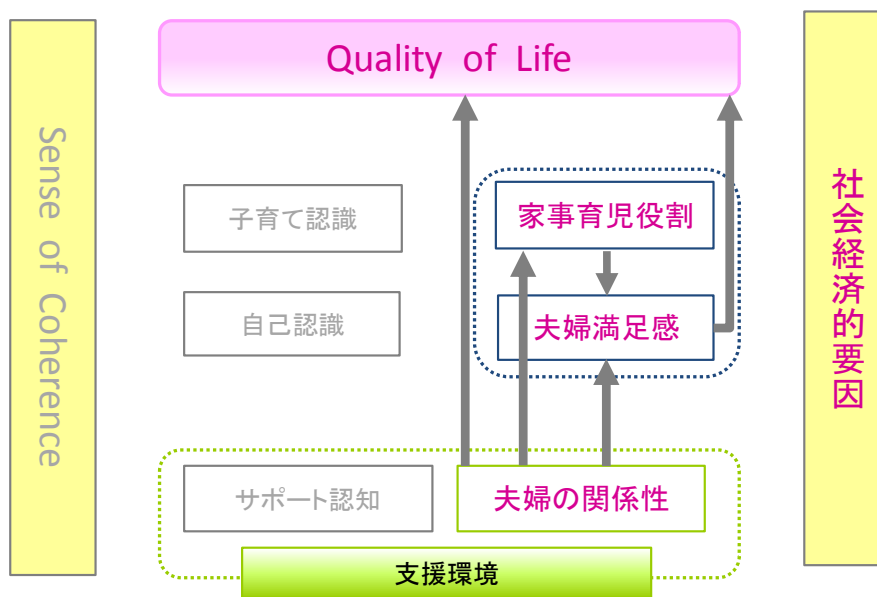


図 4-8 第IV章結果図（母親）

## 5 考察

以上の結果を踏まえて、5-1 親、母親の QOL 関連構造について、5-2 今後の研究課題について考察する。

### 5-1 父親、母親の QOL 関連構造について

本研究結果から、父親が家事育児役割を担うことと父親の QOL は統計学上有意な関連が見られないことが示された。朴ら<sup>22)</sup>は、育児役割のみを取り上げ、育児役割が他者貢献感につながり、健康 QOL を高めることを報告していた。本研究は役割に家事も含めて取り上げた点は異なるが、家事育児役割が QOL と有意に直接関連しないという点は、朴らの先行研究の結果を支持したといえる。また本研究結果では、母親は夫婦の関係性が直接 QOL と関連することが示されたが、父親においては夫婦の関係性が直接 QOL に関連するよりも、夫婦の関係性から夫婦の満足度を經由した間接効果の方が大きいことが明らかとなった。すなわち、夫婦の満足度を高めるような夫婦の関係性が基盤となり、それが QOL を高める可能性があることが示唆された。この点が本研究の新規性である。本研究で扱った夫婦の関係性は、話を聞いてくれる、評価してくれることや会話量など、情緒的サポートともいえる内容である。伊藤ら<sup>23)</sup>は、配偶者からの情緒的なサポートの有無が疎外感などの心理的健康に影響することを報告しているが、本研究からも情緒的サポートが QOL の基盤となることが示唆され、伊藤ら<sup>23)</sup>の先行研究を支持した。さらに母親を対象とした先行研究からは、父親の直接的な家事育児参加よりも情緒的サポートが母親の夫婦満足感と関連することが<sup>24)</sup>報告されているが、父親についても配偶者の情緒的サポートが重要であることが示唆された。

また、父親にとって配偶者（母親）の就労の有無は、家事育児役割を担う回数に影響を与え、それが QOL へも影響する可能性があることが示された。夫婦の満足度が高いことは、配偶者が就労している場合、父親が家事育児役割を担う回数は増えるが、配偶者が就労していない場合は、家事育児役割を担う回数が少なくなることが示唆された。この背景には、性別役割意識の影響もあるのではないかと考えられる。都市部在住の女性を対象にした高らの調査<sup>25)</sup>では、無就労の場合、配偶者のサポートがある方が生活満足感が低くなることが報告されており、この研究結果からは無就労の女性の場合は性別役割意識が強く働き、性別役割意識が男性の家事育児役割を阻



害しているとも考えられる。内閣府が行っている性別役割分担意識の変化の経年的調査<sup>26)</sup>では、平成21年までは減少傾向であったとはいえ、性別役割分担を賛成、どちらかといえば賛成とするものが、女性48.4%、男性55.1%になる。「男性は仕事、女性は家庭」の意識が強いと、特に母親が専業主婦の場合、家事育児は女性が担って当然とする認識が女性、男性ともにあることは否めない。また、杉山ら<sup>27)</sup>の文献研究からは、性別役割意識をもつ父親に対しては、父親の家事育児参加は母親からの積極的な働きかけが必要であることが明らかとなっているが、これは母親自身の性別役割意識が、父親の家事育児役割の促進・阻害要因になるとも言い換えることができる。諸外国では性別役割意識と父親の育児参加の相関は低いという報告<sup>28)</sup>や、日本では性別役割意識は父親の育児参加に影響を与えないとする報告もある<sup>29)</sup>が、再現性が求められる。

男性が家事育児役割を担い、それがQOLの向上につながるには、男性自身への支援だけでなく、女性も含めた、家庭や社会全体の意識の変化を促すようなアプローチが必要になることが推察される。

##### 5-2 今後の研究課題

本調査は横断調査であり、本研究結果は因果関係を明らかにしたものではない。縦断調査により因果関係を明らかにすることが今後の研究課題である。さらに、本研究結果の内的、外的妥当性を高めることも今後の研究課題である。また、今回の分析では、夫婦の関係性と満足度、家事育児役割がQOLとどのように関連するかを明らかにしたのみで、仕事と家庭のバランスに関する項目は含まれていない。しかし、成瀬ら<sup>30)</sup>は父親の育児支援行動と仕事と家庭における役割の関係性との関連を明らかにしており、父親が仕事と家庭の両立をどう捉えているのかはQOLに関連するものと考えられる。仕事と家庭のバランスに関する項目を含めた分析をすすめていくことも今後の課題である。さらに、夫婦関係はその認知のズレが夫婦満足感や母親のストレスに影響を与える<sup>15,17,31)</sup>ことから、父親と母親のマッチング調査を行い、認知のズレも含めた分析をしていくことも今後の研究課題である。

【謝辞】

本研究の分析に用いたデータは、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJ データアーカイブから第3回全国家族調査（NFRJ08）（日本家族社会学会全国家族調査委員会）の個票データの提供を受けました。感謝いたします。

参考文献（第IV章）

- 1) 内閣府男女共同参画局．男女共同参画白書平成 24 年版．2012；79.
- 2) 厚生労働省．今後の仕事と家庭の両立支援に関する研究会報告書．2008；12.
- 3) 内閣府男女共同参画局．男女共同参画白書平成 24 年版．2012；84.
- 4) UFJ 総合研究所．子育て支援等に関する調査研究報告書．2003；.
- 5) 内閣府男女共同参画局．男女共同参画白書平成 24 年版．2012；83.
- 6) 内閣府男女共同参画局 HP.  
[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/society/index.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/society/index.html).  
(2013 年 8 月 13 日アクセス)
- 7) 藤原千恵子，日隈ふみ子，石井京子．父親の育児家事行動に関する横断的研究．小児保研究 1997；56(6)：794-800.
- 8) 川上あずさ，牛尾禮子．父親の育児に対する役割要因に関する要因とその支援方略．小児保健研究 2008；67(3)：496-503.
- 9) 石井クンツ昌子．父親の役割と子育て参加－その現状と規定要因、家族への影響について－．季刊家計経済研究 2009；81：16-23.
- 10) Aldous J., Mulligan G.M. Fathers' Child Care and Children's Behavior Problems. Journal of Family Issues. 2002；23：624-647.
- 11) 加藤邦子，石井クンツ昌子，牧野カツコ，他．父親の育児かわり及び母親の育児不安が 3 歳児の社会性に及ぼす影響－社会的背景の異なる 2 つのコホート比較から－．発達心理学研究 2002；13：30-41.
- 12) 細野久容．乳幼児の母親を支える環境について－ソーシャルサポート、サポート源への母親の評価と育児満足度との関連について－．乳幼児医学・心理学研究 2004；13(1)：41-55.
- 13) 小林佐和子．乳幼児をもつ母親のソーシャルサポートと抑うつ状態との関連．小児保健研究 2008；67(1)：96-101.
- 14) 荒牧美佐子．育児への否定的・肯定的感情とソーシャルサポートとの関連－ひとり親・ふたり親の比較から－．小児保健研究 2005；64(6)：737-744.
- 15) 小池はるか，大谷範子，池畠美和子，他．9 ヶ月児の母親の精

- 神的健康に影響を与える要因の検討．小児保健研究 2009；  
68(4)：439-445.
- 16) 末盛慶, 石原邦雄. 夫の家事遂行と妻の夫婦関係満足感－NSFH  
(National Survey of Families and Households) を用いた日米  
比較－. 人口問題研究 1998；54(3)：39-55.
- 17) 李基平. 夫の家事参加と妻の夫婦関係満足度－妻の夫への家事  
参加期待とその充足度に注目して－. 家族社会学研究 2008；  
20(1)：70-80.
- 18) 中川まり. 夫の家事・育児参加と夫婦関係－乳幼児をもつ共働  
き夫婦に関する研究－. 家庭教育研究所紀要 2008；30：97-109.
- 19) 尾形和男. 父親についての研究（VI）－共働き家庭における母  
親の育児に対する父親の協力と子どもの精神発達－. 国際学院埼  
玉短期大学研究紀要 1993；14：23-32.
- 20) Brook JS., Brook DW., Whiteman M. Maternal correlates of  
toddler insecure and dependent behavior. J Genet Psychol.  
2003;164(1):72-87.
- 21) Chen YC., Chie WC., Chang PJ., et al. Is infant feeding  
pattern associated with father's quality of life? Am J Mens  
Health. 2010;4(4):315-322.
- 22) 朴志先, 金潔, 近藤理恵, 他. 未就学児の父親における育児参  
加と心理的ウェルビーイングとの関係. 日本保健科学会誌  
2011；13(4)：160-169.
- 23) 伊藤裕子, 池田政子, 川浦康至. 既婚者の疎外感に及ぼす夫婦  
関係と社会的活動の影響. 心理学研究 1999；70(1)：17-23.
- 24) 末盛慶. 夫の家事遂行および情緒的サポートと妻の夫婦関係満  
足感－妻の性別役割意識による交互作用－. 家族社会学研究  
1999；11：71-82.
- 25) 高燕, 星旦二, 中村立子. 都市部青壮年女性の就業状態におけ  
る生活満足感の規定要因に関する研究. 社会医学研究 2007；  
25：29-35.
- 26) 内閣府男女共同参画局. 男女共同参画白書平成 25 年版. 2013；  
24.
- 27) 杉山希美, 後閑容子. 父親の役割獲得に関する文献検討. 岐阜  
看護研究会誌 2012；4：59-68.
- 28) Bartkowski JP., Xu X. Distant Patriarchs or Expressive

- Dads? The Discourse and practice of Fathering in Conservative Protestant Families. *Sociological Quarterly*. 2000;41:465-485.
- 29) Ishii-Kuntz M., Makino K., Kato K., et al. Japanese Fathers of preschoolers and Their Involvement in Child Care. *Journal of Marriage and Family*. 2004; 66(3): 779-791.
- 30) 成瀬昂, 有本梓, 渡井いずみ, 他. 父親の育児支援行動に関連する要因の分析. *日本公衆衛生雑誌* 2009 ; 56(6) : 402-410.
- 31) Milkie MA., Bianchi SZ., Mattingly MJ., et al. Gendered Division of Childrearing. Ideals, Realities, and the Relationship to Parental Well-Being. *Sex Roles*. 2002;47: 21-38.

# 第V章 研究総括

---

新しい子育て支援の方向性と展望  
— QOL向上につながる支援 —

1 本論文の構成

本論文は全 5 章より構成されている。

第 I 章では、先行研究のレビューを通して研究の社会的背景および研究背景を整理し、研究概念の枠組みの作成、研究意義、研究目的、研究方法について言及した。

第 II 章では、乳幼児を育てる母親の **Quality of life**（以下、**QOL** とする）とサポート認知、自己及び子育て認識との関連構造について、共分散構造分析を行い明らかにした。その結果、乳幼児を育てる母親においては、サポート認知が基盤となり、自己認識や子育て認識を高め、母親の **QOL** が規定される関連構造が示された。

第 III 章では、**Sense of coherence**（以下、**SOC** とする）とサポート認知および母親の自己認識や子育て認識、**QOL** との因果構造を追跡調査により明らかにした。その結果、**SOC** が基盤となり、1 年後の自己及び子育て認識、サポート認知を経由して、間接的に **QOL** を高める因果構造が示された。

第 IV 章では、夫婦の関係性と父親の家事育児役割が父親自身や母親の **QOL** とどのような関連構造であるかを明らかにした。その結果、父親、母親ともに、夫婦の関係性が基盤となり、夫婦の満足度を経由して間接的に **QOL** を高める関連構造が示され、父親の家事育児役割は父親、母親双方の **QOL** とは直接関連しないことが明らかとなった。

第 V 章では、第 I 章から第 IV 章の研究を踏まえて結論を述べて考察を深め、**QOL** 向上をめざした望ましい子育て支援の方法について、その方向性と展望を提示するとともに、今後の研究課題について述べた。

## 2 本研究における研究目的および結論と考察

ここでは、本研究における研究目的を整理し、研究成果を踏まえて結論および考察を述べる。

### 2-1 研究目的

本論文の目的は、QOLと支援環境、家事育児役割、認識、SOC、社会経済的要因との関連および因果を総合的かつ構造的に明らかにすることである。そのために、第I章において、WHOが示した健康状態を環境との関係で捉える国際生活機能分類（International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF）を研究基盤モデルとした「乳幼児を育てる親のQOL関連構造モデル」(研究概念枠組み；仮説モデル、図1-10)を作成し、第II章以降において仮説モデルを検討した。

第II章の目的は、乳幼児を育てる母親のサポート認知と母親の自己認識及び子育て認識、QOLとの関連構造を明らかにすることである。第III章の目的は、乳幼児を育てる母親のSOCとサポート認知、自己認識及び子育て認識に関する追跡調査を実施し、その因果構造を明らかにすることである。さらに、第IV章において、乳幼児を育てる父親及び母親の夫婦の関係性や夫婦満足感、父親の家事育児役割とQOLとの関連構造を明らかにすることを目的とした。また第II章から第IV章において、得られた関連及び因果構造について、父親や母親の社会経済的要因による差異について明らかにすることを目的にした。第V章では、第I章から第IV章で得られた結果を統合し、乳幼児を育てる親への望ましい支援方法を提案することを目的とした。



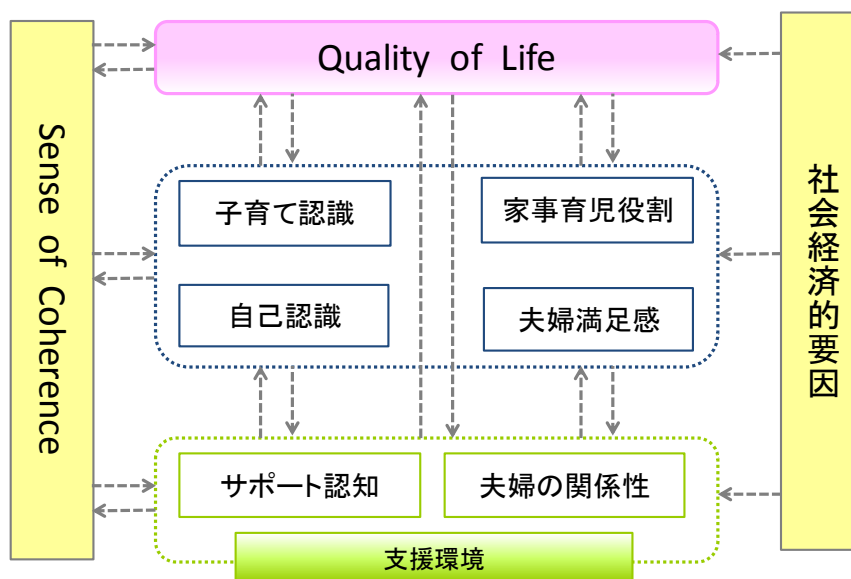


図 1-10 本研究の概念枠組み（仮説モデル）

## 2-2 結論と考察

第II章では、サポート認知が直接 QOL を高めるのではなく、母親の自己認識や子育て認識に関連し、間接的に QOL を関連することが明らかとなった。このことから、母親の QOL を高めるには、まず母親の自己認識や子育て認識を高めるための支援が有効であることが示唆された。また、学歴と世帯の年収といった社会経済的要因がサポート認知と QOL との関連に影響している可能性が示唆された。

第III章では、SOC とサポート認知、自己及び子育て認識、QOL との関連を構造的に分析した結果、SOC が基盤となり、1年後の自己及び子育て認識、サポート認知を経由して、間接的に QOL を高める因果構造が示された。高い SOC は、自己認識や子育て認識をポジティブに捉え、そのようなポジティブな認識がサポートを受けていると認知しやすくなり、QOL を高めることにつながる可能性が示唆された。

第IV章では、父親、母親ともに、夫婦の関係性が基盤となり、夫婦の満足度を経由して間接的に QOL を高める関連構造が示されたが、父親の家事育児役割は父親、母親双方の QOL とは直接関連しないことが示された。また、母親の就労の有無が父親の QOL の関連構造に影響を与えることが明らかとなった。

以上の結果を踏まえて仮説モデルを検証した結果モデルは図 5-1、図 5-2 の通りである。また、得られた結果モデルを統合した乳幼児を育てる親の QOL 関連構造は図 5-3 で示す通りである。

以上の結果から得られた知見は以下の3点である。

まず1点目として、父親、母親の QOL の関連構造が明らかとなったことである。QOL 関連構造は、夫婦関係を含めた支援環境と SOC が基盤となること、社会経済的要因が影響すること、サポート認知が自己認識と夫婦の満足感を経由して QOL を高めること、母親の就労の有無が母親や父親の QOL に影響を与えることが明らかとなった。

2点目として、母親においては、SOC が基盤となり QOL を高める因果構造が明らかとなった。

3点目は、支援環境が基盤となることが明らかとなり、ICF モデルを量的に支持したことである。

QOL を規定する基盤や関連する要因が構造的に明らかになった

ことは、QOL向上につながる支援の内容や支援の優先性の示唆が得られたと考えられる。これらの知見は、父親、母親のQOLの維持向上につながる子育て支援方法を検討する際のエビデンスになると考えられ、望ましい子育て支援につながる知見であると考えられる。

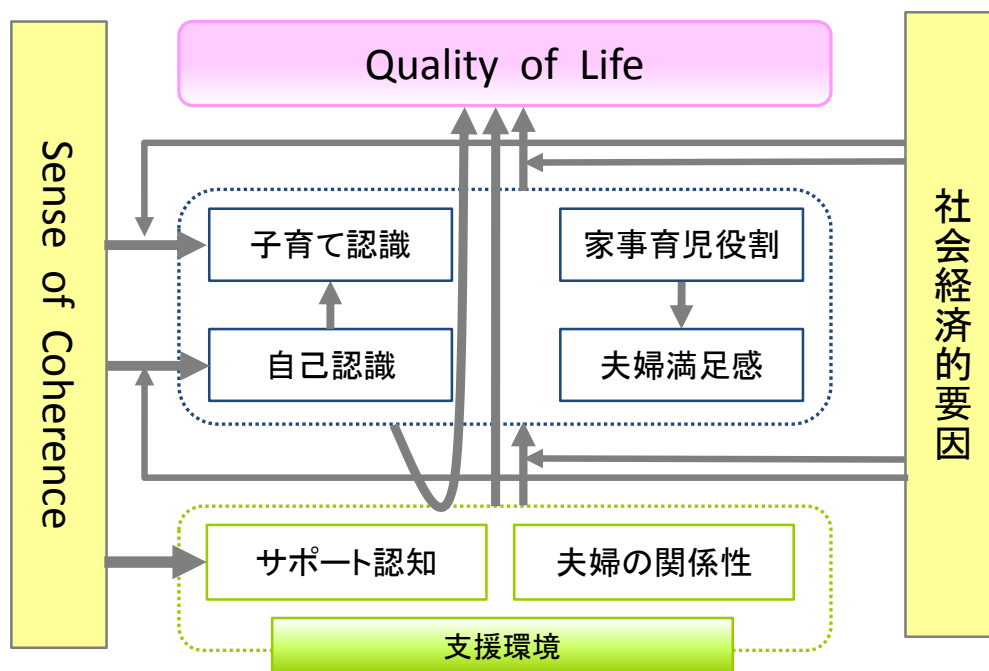


図 5-1 乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル [母親] (結果)

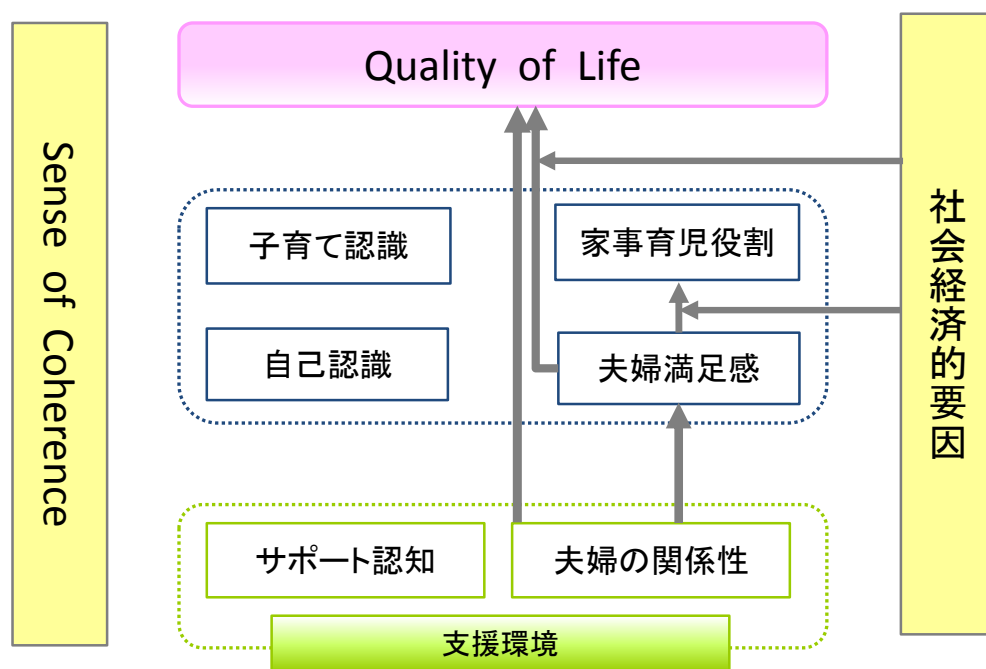


図 5-2 乳幼児を育てる親の QOL 関連構造モデル [父親] (結果)

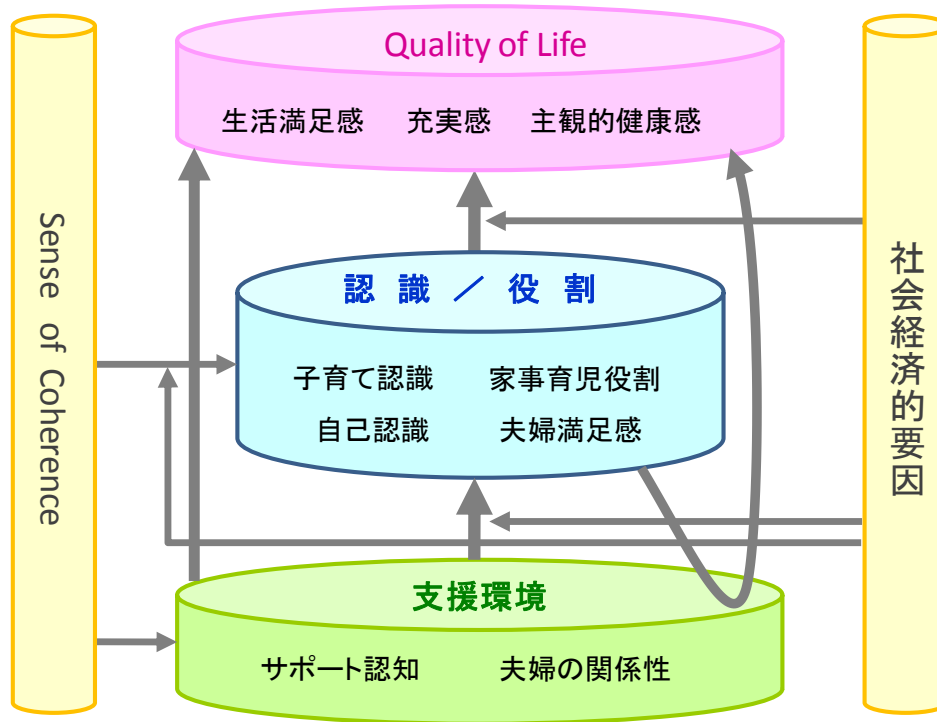


図 5-3 乳幼児を育てる親の QOL 関連構造(2013.Takagi)

### 3 本研究結果に基づく提案

本研究結果を踏まえて新しい子育て支援の方向性と展望について考察した。QOL 向上につながる新しい子育て支援の方向性として、以下の3点が提案できる。

#### 3-1 ポジティブな視点に焦点を当てた支援環境の必要性

まず1点目として、親が自己認識や子育て認識、夫婦関係をポジティブに捉えられるような支援環境が求められていることである。

本研究結果から、乳幼児を育てる親のQOLは、夫婦関係を含めた支援環境が基盤となり、子育て認識や自己認識を経由して関連することが明らかとなった。このことは、ポジティブな子育て認識や自己認識がQOLを高める方向に影響する可能性を示唆しており、子育て認識や自己認識をポジティブに捉えられるような支援環境が求められていると考えられる。

自己認識をポジティブに捉えることは自己肯定感や自己効力感を高めることとも言い換えられ、父親と母親が自信をもって子育てに取り組めるような支援が望ましい支援であると考えられる。これはエンパワメントのプロセスが効果的に進むために支援者が大切にする視点と同様である。

では、自己肯定感や自己効力感を高めるような支援とはどのようなものであるのだろうか。

子どもの出生、その後の成長は、親の生活や価値観の変化を余儀なくするだけでなく、親にとっては育児を行う上での判断力や応用力といった対処力の不足に直面することになる。そしてその対処力の不足はストレスや自信のなさを生じさせ、自己認識をネガティブに捉えがちになることは想像に難くない。しかし育児の対処力は育児をする過程で次第に獲得していくものである。渡辺<sup>1)</sup>はその過程における支援者の役割を、「両親の学習を側面で助ける」と表現しているが、親に寄り添い、対処力獲得により親の自己効力感が高まり、QOL 向上につながるプロセスと一緒に歩む存在であることが支援者に求められている役割といえるだろう。また、エンパワメントのプロセスで最も重要であるとされる「自己決定」が行われることで親の自信は高まっていくと考えられ、「自己決定」の場面や機会をより多く提供できるような環境が、望ましい支援環境であると考えられる。

### 3-2 総合的な視点での支援環境の整備

2点目として、個人、家族、社会環境の3つの視点を総合的に捉えた支援環境を整備することである。

本研究結果から個人の認識、夫婦関係、そしてサポート認知へ働きかけることがQOL向上につながるということが明らかとなった。そして得られた関連構造モデルから、これらは個々にQOLに関連しているのではなく、それぞれが関連しあいながらQOL向上につながっている可能性が示唆された。

渡辺<sup>1)</sup>は、乳児をもつ家族への支援として、個々の家族成員への援助、家族成員間への関係性への援助、家族の社会性への働きかけの3つのレベルを示し、それぞれが独立しているのではなく、個人から家族間の関係性、家族を取り巻く社会へと焦点が広がっていくことを特徴としている。すなわち、個人、家族、社会環境の3つの視点で総合的に支援環境を捉えることの必要性が含まれていると言えよう。さらに、ICFモデルにおいても、環境因子と個人因子は生活機能と相互に関連しあうことが特徴として示されている。

QOL向上には、個人、家族、社会環境の3つの視点で総合的につながりをもって捉えた支援環境の整備が必要であると考えられる。

### 3-3 母親の就労の有無に対応した支援

3点目として母親の就労の有無に対応した支援が求められることである。

本研究結果から、母親の就労の有無や学歴、世帯収入によりQOL関連構造に差異がみられることが明らかとなった。これら社会経済的要因の中でも、母親の就労の有無は、母親自身のQOLに影響があることは多くの先行研究で明らかとなっていたが、本研究結果からは、父親のQOL、家事育児役割に対しても影響を与えていることが構造的に明らかとなった。

ワークライフバランスは、女性の仕事と家庭の両立だけを指すのではなく、年齢や性別を問わずすべての人の働き方を対象とし、仕事と家庭のバランスをどのように配分するかは個人の選択によるということを基本においている。働きたいと思っている母親が就労することで、母親自身のQOLが高まるだけでなく、父親のQOLにもよい影響をもたらすのであれば、働きたい母親が就労できるような

環境を整えることが支援として求められていると考えられる。また、無職の母親は育児不安などネガティブな感情が有職の母親よりも高いことが多いの先行研究で報告されているが、就労を希望しながらできない環境にある母親にとっては、就労したくてもできない葛藤からネガティブな感情が生じていることも予測される。また就労を希望していない母親にとっては、就労のための支援環境を整備することは優先度が低いとも考えられる。無職の母親に対しては、就労に対する希望がかなえられることを前提として、充実した生活を送れるような支援が必要であると考えられる。

就労の有無やどのような就業形態であっても、個人の希望がかなえられ、それぞれが充実した生活を送れるような支援環境が求められていると言える。母親の希望に沿った就業形態に対応した支援は、父親母親の QOL 向上において重要であると考えられる。



## 4 今後の研究課題

本研究結果を踏まえて、今後の研究課題を以下にまとめる。

第II章では、横断調査であるため、因果関係までは明らかにすることができない。追跡調査により因果関係を明らかにすることが今後の課題である。さらに、本研究は、限定された対象を調査対象としたため、今回の結果は子育てをしている母親の全てにあてはまるものではない。無作為抽出により、外的妥当性を高めていくことが今後の研究課題である。

第III章では、追跡率41%と低く、内的妥当性を高めることが研究課題である。さらに本研究はある地方都市1か所の調査結果であり、対象地域を無差別に抽出したものではないことから、調査結果の外的妥当性を高めることも今後の研究課題である。また、多くの先行研究で、SOCがQOLや心身の健康と関連している結果を踏まえ、SOCを高める方策の必要性が言及されている。本研究結果からも、サポート認知を高めるにはSOCを強化することの必要性が示唆されたが、SOCを強化するための有効な介入方法を検討し、その介入効果を実証していくことが今後の課題であると考えられる。さらに本研究で得られた因果構造モデルは、母親の年齢や子どもの順位、学歴、収入などの多母集団同時分析は収束しなかったが、子育て経験を含めた現在や過去のさまざまな経験や社会経済的要因はSOCに影響する可能性があることは報告されている<sup>2~3)</sup>。よって調査対象地区や調査対象者をさらに増やし、社会経済的要因が乳幼児の子どもを育てる母親のSOCに与える影響について追究していくことも今後の研究課題である。また、父親のSOCとQOLの関連構造は明らかにはなっておらず、その関連構造を明らかにすることも今後の研究課題である。

第IV章では、本調査は横断調査であり、本研究結果は因果関係を明らかにしたものではない。縦断調査により因果関係を明らかにすることが今後の研究課題である。さらに、本研究結果の内的、外的妥当性を高めることも今後の研究課題である。また、今回の分析では、夫婦の関係性と満足度、家事育児役割がQOLとどのように関連するかを明らかにしたのみで、仕事と家庭のバランスに関する項目は含まれていない。成瀬ら<sup>4)</sup>の先行研究からは父親の育児支援行動と仕事と家庭における役割の関係性との関連を明らかになっており、父親が仕事と家庭の両立をどう捉えているのかはQOLに関連

するものと考えられる。仕事と家庭のバランスに関する項目を含めた分析をすすめていくことも今後の課題である。さらに、夫婦関係はその認知のズレが夫婦満足感や母親のストレスに影響を与える<sup>5~7)</sup>ことから、父親と母親のマッチング調査を行い、認知のズレも含めた分析をしていくことも今後の研究課題である。

以上をまとめると、本研究で得られた QOL の因果構造は、ある地方都市の母親を対象とした縦断調査研究結果である。他地域においても同様の結果が導き出せるのか、その再現性を明らかにするとともに、父親についても縦断調査を行い、その因果構造を明らかにすることが研究課題である。また、父親と母親のマッチングデータを用いた検証を行い、夫婦の関係性の捉え方のズレを分析に含めることも今後の課題である。さらに、家族構成の多様化の特性を考慮した調査研究も必要であると考えられる。また、支援環境の整備による介入研究を行い、因果効果として QOL 向上の成果を実証することも今後の研究課題である。

参考文献（第IV章）

- 1) 渡辺裕子. 乳児をもつ家族への援助. 家族看護学理論と実践第3. 東京：日本看護協会出版会. 2006；175-192.
- 2) Antonovsky A. Unraveling the mystery of health: How people manage stress and stay well. Jossey-Bass Publishers. 1987. 山崎喜比古監訳. 健康の謎を解く：ストレス対処と健康保持のメカニズム. 東京：有信堂. 2001.
- 3) 山崎喜比古, 戸ヶ里泰典, 坂野純子. ストレス対処能力 SOC. 東京：有信堂. 2008.
- 4) 成瀬昂, 有本梓, 渡井いずみ, 他. 父親の育児支援行動に関連する要因の分析. 日本公衆衛生雑誌 2009；56(6)：402-410.
- 5) 小池はるか, 大谷範子, 池畠美和子, 他. 9ヶ月児の母親の精神的健康に影響を与える要因の検討. 小児保健研究 2009；68(4)：439-445.
- 6) 李基平. 夫の家事参加と妻の夫婦関係満足度－妻の夫への家事参加期待とその充足度に注目して－. 家族社会学研究 2008；20(1)：70-80.
- 7) Milkie MA., Bianchi SZ., Mattingly MJ., et al. Gendered Division of Childrearing. Ideals, Realities, and the Relationship to Parental Well-Being. Sex Roles. 2002；47: 21-38.

# Abstract

---

## **Title**

**Structural relationships among the recognition, role, support environment, and quality of life of parents during child-rearing**

## **Chapter 1**

### **Review of the research background**

Due to changes in the social structure associated with the rapidly declining birthrate and societal aging in Japan, it was pointed out that the parenting ability of families and the community has declined. Therefore, a variety of parenting-support measures have been adopted. The philosophy of health promotion is included in such parenting-support measures. This philosophy emphasizes the improvement of an individual's abilities and the importance of the support environment, and the goal is to improve the QOL of both parents and children.

There are a number of reports on mothers' child-rearing-related anxiety and stress. In contrast, regarding studies on fathers, reports both in Japan and internationally are limited, and factors associated with fathers' QOL have barely been reported. Recently, it was clarified that mothers' QOL is related to social support and their socioeconomic status. However, the structural relationship between the support environment and QOL for the parents is not clear.

If the association between the support environment and QOL can be clarified, it is expected that it will lead to the accumulation of scientific evidence to develop desirable parenting-support measures, and contribute to health-support activities that are considered to improve priority areas.

The purpose of this thesis was to clarify the causal structure and related factors of parents' QOL.

## **Chapter 2**

**The relationship between the quality of life, support recognition, and self-recognition of the mother during the infant care period**

The purpose of this study was to clarify the relationship between the QOL, support

recognition, and self-recognition of the mother during the infant care period.

The subjects were 349 mothers raising children aged from six months to 5 years old. Four factors: “QOL”, “support recognition”, “self-recognition”, and “parenting recognition”, were set as latent variables. Covariance structure analysis was performed. The model was constructed using SPSS19.0J and Amos19.0J for Windows.

Based on the covariance structure analysis, this model showed that "support recognition" was a fundamental factor, but “QOL” was not significantly correlated with “support recognition”. The model showed that “support recognition” was correlated with “QOL” through “self-recognition” and “parenting recognition”. The “QOL” was indirectly affected by “support recognition” through “self-recognition” and “parenting recognition”, with standardized estimates of 0.39 and 0.25, respectively. This model shows different outcomes depending on the annual income and mother’s educational background. The standardized estimate for “support recognition” and “parenting recognition” yielded higher scores for higher-level compared to lower-level education. The standardized estimate for “self-recognition” and “QOL” showed higher scores for a lower compared to higher annual income. Goodness-of-fit values with this model were: RMSEA=0.045, NFI=0.947, CFI=0.977, and TLI=0.967, and the coefficient of determination of the “QOL” was 75%.

It was suggested that a positive self-recognition and parenting recognition enhanced the QOL, and mothers’ socioeconomic factors may have an influence.

Future research is needed to construct a model with both a higher internal and external validity.

### **Chapter 3**

#### **Causal relationship between the Sense of Coherence and support recognition, QOL for the mother during the infant care period**

The purpose of this study was to clarify the causal relationship between the Sense of Coherence (SOC) and support recognition for the mother during the infant care period.

The subjects were 269 mothers who attended the 6-7-month child health consultation at A City health center from April to June 2010. The follow-up survey involved the same questionnaire for the same subjects one year later.

“2010SOC”, “2010support”, “2011SOC”, and “2011support” were set as latent variables. Using Cross-Lagged Model and Synchronous Effect Model, the causal relationship was analyzed. Then it analyzed the structure of the related QOL, the support, SOC, self recognition, parenting recognition.

One hundred and twelve subjects were analyzed (follow-up rate: 41.7%).

Cross-Lagged and Synchronous Effect Models showed high-level validity. The two models showed that "2011SOC" and "2011support" are significantly affected by the same latent variable, and showed that predictive validity one year later was high.

The Cross-Lagged Effect Models showed that “2010SOC” had a significant influence on “2011support” ( $\beta = 0.326$ ,  $p < 0.05$ ). The Synchronous Effect Models showed that “2011SOC” significantly influenced “2011support” ( $\beta = 0.419$ ,  $p < 0.05$ ).

Then the model the structure of the related QOL showed that "SOC" was a fundamental factor. This model showed that “SOC” was related to “QOL” through “self recognition”, “parenting recognition” and “the support”.

Cross-Lagged Model and Synchronous Effect Model, the two models showed that SOC had a significant influence on the support. The structure of the related QOL was suggested that a high SOC enhanced self recognition, parenting recognition and support, and then enhanced QOL.

Future research is needed to make a model that has higher both internal and external validity of these results.

## **Chapter 4**

### **Structural analysis of the parents' Quality of life during child-rearing**

The purpose of this study was to clarify the structure of factors affecting the parents' quality of life (QOL).

The subjects were 290 fathers and 332 mothers who had taken care of 0- to 5-year-old children.

Four factors: “marital relationship”, “marital satisfaction”, “QOL” and “housework and child-rearing role”, were set as latent variables. It was hypothesized that the

QOL was associated with housework, the child-rearing role, marital relationship, and marital satisfaction. This was examined using covariance structure analysis employing SPSS19.0J and Amos 19.0J for Windows.

The model showed that "marital relationship" was a fundamental factor.

The "QOL" was directly affected by the "marital relationship", with a standardized estimate of 0.22 for fathers, 0.34 for mothers. The "QOL" was directly affected by the "fathers' housework and child-rearing role", with a standardized estimate of 0.19 for fathers, -0.14 for mothers. The "QOL" was indirectly affected by "marital relationship" through "marital satisfaction", with a standardized estimate of 0.37 for fathers, 0.21 for mothers. This model showed differences depending on whether or not the mothers worked. The standardized estimate for "marital relationship" and "housework and child-rearing role" showed higher scores for working than non-working mothers.

Goodness-of-fit scores with the model were: RMSEA=0.052, NFI=0.868, CFI=0.937, and TLI=0.920, and the coefficient of determination for the "QOL" was 58% for fathers, 52% for mothers.

It was suggested that a favorable marital relationship improved parents' QOL through marital satisfaction, and mothers' employment status may also have an influence.

Future research is needed to make a model that has higher both internal and external validity of these results.

## **Chapter 5**

### **Conclusion and Proposal**

Chapter 5 summarizes the most important findings and conclusions based on each study. I also considered the prospects of desirable child-rearing support.

In chapter 1, the purpose of this study is stated as clarifying the causal structure and factors associated with parents' QOL using covariance structural analysis.

Based on chapter 2, support for mothers, such as maintaining positive self-recognition and parenting recognition, is important.

Based on chapter 3, the structure of the related QOL suggested that a high SOC enhanced self-recognition, parenting recognition, and support, and subsequently enhanced the QOL.



Based on chapter 4, a favorable marital relationship improved parents' QOL through marital satisfaction. Furthermore, mothers' employment status may also have an influence on parents' QOL.

Regarding the directionality of desirable child-rearing support to promote QOL improvement, I suggest the following three requirements:

- 1) A supportive environment system is required which nurtures parents' positive self-recognition, parenting recognition, and a favorable marital relationship.
- 2) A support environment that includes the three viewpoints of individuals, families, and society is required.
- 3) Health supports which depend on the working style of mothers are required.

Future research is needed to verify the external validity of these results, and to clarify the effect of support through an intervention-based study.

## 謝辞

博士論文を完成できたことに、今、感謝と安堵の気持ちでいっぱいです。環境に恵まれ、数えきれないたくさんの方々を支えていただき、博士論文の完成までたどり着くことができました。ここに、感謝の意を伝えられることをうれしく思います。

学部を卒業後、行政の現場で保健師として活動し、尊敬できる上司、素敵な先輩、後輩に恵まれ、私の保健師としての日々はとても充実していました。そしてその保健師活動の中で、さまざまな家族と出会いました。どんな家族であっても健康課題を乗り越える力が秘められていること、そして支援者はその力を信じ、その力が最大限引き出されるよう環境を整え、家族に寄り添い続けることが大切であることを、出会った家族が教えてくれました。そんな家族を取り巻く環境の中で、家族を応援する応援団をつくること、その応援団の一員に自分になるという思いをもって日々活動してきました。そしてそんな活動を形にしたい、それが私の研究の始まりでした。

本研究を進めるにあたり、子育て中のお母さま方にはご多忙にも関わらず、快く研究にご協力いただきました。また、焼津市保健センター母子保健担当保健師の皆さまからもたくさんのご協力をいただきました。保健師の皆さまには、継続調査に最大限のご支援をいただいただけでなく、この5年間、報告会や勉強会を通し、貴重なご助言をいただき、研究の方向性を確認することにつながりました。ご協力いただきましたお母さま方、保健師の皆さまに心から感謝いたします。

指導教授の星旦二先生には、言葉で表現できないくらい、感謝の気持ちでいっぱいです。自分の考えがまとまるまでに多くの時間を要し、納得しなければ先に進めない私は、時に考えることを投げ出したくなることもしばしばありました。しかし、星先生はそんな私に根気よくお付き合いいただき、叱咤激励をくださいました。本当にありがとうございました。

都市システム科学域の先生方からは講義や都市システム科学セミナーを通し、学際的視点で捉えることの意味を学ばせていただきました。特に副査の玉川英則先生、伊藤史子先生には、修士論文から副査としてご支援いただきました。お二人の先生方には、

私が気付くことのなかった視点をご教示いただき、先生方からの的確なコメント、貴重なご示唆により論文を深めることができました。お二人の先生方の温かいご支援に深謝いたします。

また東京慈恵会医科大学の櫻井尚子先生にも副査としてご支援いただきました。保健師としての視点でいただいたコメントは、論文が深められただけでなく、論文を完成させるにあたり、背中を後押ししていただけるものでした。また、櫻井先生は星研究室の先輩として、保健師の先輩として、そして教育者の先輩として、多くのことを私にご示唆くださいました。心より感謝いたします。

職場の上司である杏林大学の太田幸子先生には、仕事と両立しながら博士課程に在籍することに多くのご配慮とご支援をいただきました。また、星研究室の先輩、保健師の先輩として、たくさんのご教示をいただくとともに、常に温かく見守っていただきました。心から感謝いたします。

そして星研究室の皆さまには、星研ゼミなどで常に刺激をいただきました。貴重なご意見やディスカッションの時間は論文完成になくはないものであったと思います。感謝いたします。

最後に。

私を看護の道に導き、看護の面白さや奥深さを今も考え続けさせてくれる看護職の先輩でもあり、一人の人としても尊敬する2人の姉 秀圭と美圭。見守り続けてくれる兄 健。いつも安らぎと笑顔を与えてくれる愛犬 さんた。そして人と人が支え合う地域づくりに携わりたいという、私が保健師を選択するきっかけをくれた母 比左子。母は私の幼少時より「住民が互いに支え合う」ことの意味をその行動力をもって示してくれました。そんな家族は常に私の良き理解者であり、私のあるがままを受け止め、応援し続けてくれました。家族の存在が論文執筆の過程でくじけそうになった私の力となったことは言うまでもありません。大切な家族への感謝の意をここに記したいと思います。

皆さまのご支援にあらためて心より感謝申し上げます。これからは現場で出会った家族が教えてくれた大切なことを伝えるべく、また家族を支援する援助職の応援団になれるよう、ますます精進してまいりたいと思います。

平成 26 年 1 月

高城 智圭

# 資料

---

◆ 第Ⅱ章・第Ⅲ章 調査票

## アンケート調査ご協力をお願い —子育てに関する意識調査—

陽春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび子育てに関する意識調査を実施することになりました。

子育ての方法に正解はありません。たいへんなことや楽しいことなどいろいろなことがある中で、お母さん一人ひとりが『あなたなりの子育て』をすることが大切なことであり、そんな『あなたなりの子育て』を応援することができればと考えています。

この調査の目的は、『あなたなりの子育て』につながる支援を検討する基礎資料とすることにあります。

子育て中のお母さん方の日常の思いについて、率直なご回答をよろしく願います。

調査は無記名であり、結果については、個人が特定されたり、不利益が生じることがないように統計処理を行います。

記入後は、回答漏れがないかを確認し、返信用封筒に入れて 4月30日までにご郵送ください。

ご不明な点等ありましたら、下記までご連絡いただけましたら幸いです。

調査票への回答は、自由意思によるものです。どうぞご協力のほどよろしく願います。

### 【連絡先】

〒192-0397

東京都八王子市南大沢 1-1

首都大学東京 都市環境科学研究科

都市システム科学域 博士前期課程

星研究室

高城 智圭 (たかぎ ちか)

E-mail ; takagi-c@umin.ac.jp

以下の問いについて、( ) 内には当てはまる数字や文字をご記入ください。  
また、[ ]は当てはまるものに○をつけてください。

### 1 お子さんについてお尋ねします

- 1) 性別 [ 男児 / 女児 ]
- 2) 兄弟姉妹の数 ( ) 人 その中で、本児は ( ) 番目
- 3) 生年月日 平成 ( ) 年 ( ) 月 ( ) 日生まれ
- 4) ニックネーム ( )

このアンケート  
を受け取られた  
お子さんについ  
てお答えくださ  
い。

### 2 お母さんについてお尋ねします

- 1) 年齢 ( ) 歳
- 2) 仕事の有無 [ 有 / 無 ]
  - 有りの場合、現在の状況は [ 働いている / 育児休業中 / その他(具体的に: ) ]
  - 平均的な勤務時間 ( ) 時間×週 ( ) 日
  - 無しの場合、[ できれば就労したい / 専業主婦を希望 ]
- 3) パートナーと合わせた年間収入  
[ 250万円以下 / 250~400万円未満 / 400~600万円未満 / 600万円以上 / 答えたくない ]
- 4) 最終学歴 [ 中学校 / 高等学校 / 専門学校 / 大学 / 大学院 / 答えたくない ]
- 5) 利用したことのあるサービスについて○をしてください(いくつでも可)
  - 保健師の家庭訪問 / 福祉保健センターの電話相談 / 福祉保健センターの育児教室
  - 保育園・幼稚園の園庭解放 / つどいの広場 / インターネットの子育て関連サイト
  - 育児サークル / ファミリーサポート / その他(具体的に: )

### 3 お父さんについてお尋ねします

- 1) 年齢 ( ) 歳
- 2) 仕事の有無 [ 有 / 無 ]
  - 有りの場合、①平日の平均的な通勤時間 (片道 ) 時間
  - ②平日の平均的な帰宅時間 ( ) 時ごろ
  - ③勤務は[ 規則的 / 不規則 ]、夜勤の有無 [ 有 / 無 ]
  - ④ひと月当たりの休日 [ 月8回 / 月6回 / 月4回 / 不定期 / 休みなし ]

### 4 同居されているご家族とお住まいについてお尋ねします

- 1) 同居されている方に○をつけてください(続柄は「お子さんからみた」場合)
  - 父 / 母 / 父方祖父 / 父方祖母 / 母方祖父 / 母方祖母
  - 姉 / 兄 / 弟 / 妹 / その他(具体的に: )
- 2) 居住地区 ( ) 小学校区
- 3) 現住所の居住年数 ( ) 年
- 4) 居住形態 [ 一戸建て / 集合住宅 ( ) 階建ての ( ) 階部分に居住 ]

次のページもお答えください。

以下の問いについて、( ) 内には当てはまる数字や文字をご記入ください。  
また、[ ]は当てはまるものに○をつけてください。

### 1 お子さんについてお尋ねします

- 1) 性別 [ 男児 / 女児 ]
- 2) 兄弟姉妹の数 ( ) 人 その中で、本児は ( ) 番目
- 3) 生年月日 平成 ( ) 年 ( ) 月 ( ) 日生まれ
- 4) ニックネーム ( )

### 2 お母さんについてお尋ねします

- 1) 年齢 ( ) 歳
- 2) 仕事の有無 [ 有 / 無 ]  
 有りの場合、現在の状況は [働いている / 育児休業中 / その他(具体的に: ) ]  
 → 平均的な勤務時間 ( ) 時間×週 ( ) 日  
 無しの場合、[ できれば就労したい / 専業主婦を希望 ]

- 3) パートナーと合わせた年間収入  
 [ 250万円以下 / 250～400万円未満 / 400～600万円未満 / 600万円以上 / 答えたくない ]
- 4) 最終学歴 [ 中学校 / 高等学校 / 専門学校 / 短期大学 / 大学 / 大学院 / 答えたくない ]
- 5) 利用したことのあるサービスについて○をしてください(いくつでも可)

[ 保健師の訪問 / 保健センターの電話相談 / 保健センターの育児教室 / つどいの広場  
 保育園・幼稚園の園庭解放 / ファミリーサポート / 育児サークル / 子育てサポートルーム  
 子育て支援センター[なかよし / さくら / みなみ / 1・2・3 / たかくさ / とまとびあ]  
 インターネットの子育てサイト / その他(具体的に: ) ]

- 6) お母さんが自由に使える車の有無 [ 有 / 無 ]

### 3 配偶者(パートナー)についてお尋ねします

- 1) 年齢 ( ) 歳
- 2) 仕事の有無 [ 有 / 無 ]  
 有りの場合、①平日の平均的な勤務時間 ( ) 時間/日 ②帰宅時刻 ( ) 時頃  
 ③平日の平均的な通勤時間(片道) ( ) 時間  
 ④勤務は、[ 規則的 / 不規則 ] ⑤夜勤は、[ 有 / 無 ]  
 ⑥ひと月当たりの休日 [月8回 / 月6回 / 月4回 / 不定期 / 休みなし]

### 4 同居されているご家族とお住まいについてお尋ねします

- 1) 同居されている方に○をつけてください(続柄は「お子さんからみた」場合)  
 [ 父 / 母 / 父方祖父 / 父方祖母 / 母方祖父 / 母方祖母  
 姉 / 兄 / 弟 / 妹 / その他(具体的に: ) ]
- 2) 居住地区 [ 焼津 / 小川 / 和田 / 豊田 / 東益津 / 大富 / 港 / 大村 / 大井川 ]
- 3) 現住所の居住年数 ( ) 年
- 4) 居住形態 [ 一戸建て / 集合住宅 ( ) 階建ての ( ) 階部分に居住 ]

### 5 子育てについて保健師に相談したいことがあればご自由にお書きください

[ ]

次のページもお答えください。

5 お母さんとお母さんの周囲の人との関係についてお尋ねします。

最も当てはまるところに○をつけてください。

(配偶者以外の親族は[ ]内の当てはまるものに○をつけてください)

		配偶者 (パートナー)				配偶者以外の親族 [実母・義母・その他]				友人・近隣の人			
		とても そう思う	あまり そう思わない	思わない		とても そう思う	あまり そう思わない	思わない		とても そう思う	あまり そう思わない	思わない	
		4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
1	経済的に困っている時、頼りになる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
2	あなたが病気で寝込んでいる時、身の回りの世話をしてくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
3	引っ越しをしなければならぬ時、手伝ってくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
4	わからないことがあればよく教えてくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
5	家事をやってくれたり、手伝ってくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
6	会うと心が落ち着き安心できる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
7	気持ちが通じ合う	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
8	常日頃、あなたの気持ちを敏感に察してくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
9	あなたを日頃認め、評価してくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
10	あなたを信じて、あなたの思うようにさせてくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
11	あなたの喜びをわがことのようによここんでくれる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
12	個人的な気持ちや秘密を打ち明けることができる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
13	お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1



## 6 お母さん自身のことや育児についての思いについてお尋ねします。

最も当てはまるところに○をつけてください。

		とても そう思う	そう 思う	あまり そう 思わない	思 わ な い
		4	3	2	1
1	だいたいにおいて自分に満足している	4	3	2	1
2	自分には良いところがたくさんあると思う	4	3	2	1
3	時々、全く自分が役立たずだと感じる	4	3	2	1
4	少なくとも人と同じくらいの価値はある人間だと思う	4	3	2	1
5	もう少し自分を尊敬できたらいいと思う	4	3	2	1
6	だいたい自分は何をやってもうまくいかない人間のように思える	4	3	2	1
7	すべてを良い方に考えようとする方である	4	3	2	1
8	育児に自信が持てない	4	3	2	1
9	子どもをうまく育てている	4	3	2	1
10	子どもを育てることが負担に感じられる	4	3	2	1
11	自分の子どもは育てやすいと思う	4	3	2	1
12	子育てがなければどんなに自由だろう	4	3	2	1
13	子育てによって人生は充実している	4	3	2	1
14	子どもの成長とともに自分も成長する	4	3	2	1
15	子育ては楽しい	4	3	2	1
16	日々の生活の中で生きる喜びや充実感を味わっている	4	3	2	1
17	日々の生活の中に打ち込めるものがある	4	3	2	1
18	日頃、張りのある生活を送っている	4	3	2	1
19	今の生活に満足している	4	3	2	1
20	健康である	4	3	2	1

裏面もお答えください。

## 7 お母さんにお尋ねします。

以下の質問について、1～7までのうち、あなたの感じ方を最もよく表している番号に○をつけてください。

1	あなたは、自分の周りで起こっていることがどうでもいいという気持ちになることがありますか まったくない 1 2 3 4 5 6 7 とてもよくある
2	あなたは、これまでによく知っていると思っていた人の思わぬ行動に驚かされたことがありますか まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7 いつもそうだった
3	あなたは、あてにしていた人がっかりさせられたことがありますか まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7 いつもそうだった
4	今までのあなたの人生は 明確な目標や目的は 1 2 3 4 5 6 7 とても明確な目標や 全くなかった 目的があった
5	あなたは、不当な扱いをうけているという気持ちになることがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7 まったくない
6	あなたは、不慣れな状況の中にいると感じたり、どうすればいいのかわからないと感じることがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7 まったくない
7	あなたは毎日していることは 喜びと満足を与えて 1 2 3 4 5 6 7 つらく退屈である くれる
8	あなたは、気持ちや考えが非常に混乱することがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7 まったくない
9	あなたは、本当なら感じたくないような感情をいってしまうことがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7 まったくない
10	あなたは、これまで「自分はダメな人間だ」と感じたことがありますか まったくなかった 1 2 3 4 5 6 7 よくあった
11	何かが起こった時、普段あなたは、 そのことを過大や 1 2 3 4 5 6 7 適切な見方をして 過少に評価してきた きた
12	あなたは、日々の生活で行っていることにほとんど意味がない、と感じることがありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7 まったくない
13	あなたは、自制心を保つ自信がなくなるがよくありますか とてもよくある 1 2 3 4 5 6 7 まったくない

ご協力ありがとうございました。